新潟県埋蔵文化財調査報告書　第213集

日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XXXIV

堂の前遺跡

２０１０

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XXXIV

堂（どう）の前（まえ）遺跡

２０１０

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

日本海沿岸東北自動車道は新潟市を起点に、日本海側を北上し青森県に至る高規格幹線道路です。新潟県内では平成21年に村上市の荒川胎内インターチェンジまでが開通しました。

高速自動車道建設を取り巻く状況は厳しいものがあります。平成15年末の国土開発幹線自動車道建設会議において、日本海沿岸東北自動車道の中条－朝日間は日本道路公団が有料道路として建設することとなりました。その後、公団の民営化により、平成17年10月に設立された東日本高速道路株式会社に引き継がれましたが、平成18年2月の国土開発幹線自動車道建設会議において、荒川－朝日間については国土交通省が新直轄道路として建設することになりました。

日本海沿岸東北自動車道は地域内外の経済的な交流・連携を促すだけでなく、救急患者の搬送・災害時の緊急輸送等「命の高速道」としての役割を期待されており、早期の開通が望まれています。

本書は、この日本海沿岸東北自動車道建設に先立って発掘調査を実施した「堂の前遺跡」の調査報告書です。調査によって弥生時代中期後半から後期前半の遺構・遺物が見つかりました。新潟県北部の平野部では当該期の調査事例が少なく、当時の人々の暮らしぶりはよく分かっていません。堂の前遺跡では竪穴住居や掘立柱建物が見つかり、当時の河川岸には小規模な柵や護岸施設などを想起させる遺構が検出されました。遺物は東北地方の影響が色濃い弥生土器、石器のほかガラス小玉や金属製品が出土しました。特にガラス小玉や金属製品の出土は珍しく、西日本の文化流入の一端を示す資料として貴重です。

今回の発掘調査成果が、考古学研究者はもとより、地域の歴史を知り、学ぼうとする多くの方々に活用されることを願っています。

最後に地元の方々や区長並びに村上市教育委員会には、多大なご協力とご援助をいただきました。また、国土交通省北陸地方整備局羽越河川国道事務所、東日本高速道路株式会社新潟管理局村上工事事務所、三面川沿岸土地改良区には調査に際して格別のご配慮をいただきました。ここに厚く御礼を申し上げます。

平成22年3月

新潟県教育委員会

教育長　武　藤　克　己

例　　言

1　本書は新潟県村上市下新保字高田 2351-2 に所在する堂の前遺跡の発掘調査記録である。

2　本発掘調査は、日本海沿岸東北自動車道（以下、「日沿道」とする）建設に伴い、新潟県教育委員会（以下、「県教委」とする）が国土交通省から受託したものである。調査は県教委が主体となり、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、「埋文事業団」とする）に委託し、埋文事業団の指導・監督のもと株式会社シン技術コンサルが平成 20 年度に行った。

3　整理及び報告書作成に係る作業は、平成 20 年度に埋文事業団の指導のもと、株式会社シン技術コンサルがこれに当たった。本書は、本文、遺構・遺物観察表、遺構・遺物実測図版・写真図版からなる。図版の縮尺はそれぞれの図版に記した。また遺物写真については原則として実測図と縮尺を合わせた。

4　出土遺物及び記録類は、県教委が新潟県埋蔵文化財センターにおいて保管している。

5　平成 17 年度以前に刊行した報告書には、法定路線名の「日本海沿岸東北自動車道」と東日本高速道路株式会社の営業路線名である「日本海東北自動車道」が、事業者の意向により使用され、両路線名称が一冊の報告書に混在していた。しかし、平成 17 年度末に高速自動車国道法第 6 条により荒川胎内インターチェンジの北側については、新直轄方式を導入し国土交通省の建設区画となったため、この区間の路線名称は日本海沿岸東北自動車道に統一することとした。

6　遺物の註記は、堂の前遺跡の省略記号「ドウノ」として、出土地点･遺構名･出土層位･遺物 No. を続けて記した。

7　本書で表記している国家座標は、測量法改正（平成 14 年）以前の日本測地系の数値を使用している。また標高については東京湾平均海水面（T-P）を使用している。

8　発掘調査及び整理作業並びに報告書作成は、鈴木俊成（埋文事業団調査課課長代理）と木村雄司（同主任調査員）の指導・監督のもとに行った。

9　本書で示す方位はすべて真北である。また本文で述べる軸方位は真北に対する東西方向の傾きである。

10　本文中の註は脚注とし、引用･参考文献は筆者及び発行年（西暦）を文中に［　］で示し、巻末に一括掲載した。

11　航空写真撮影は、日本特殊撮影株式会社に委託した。

12　石器の実測・トレースは株式会社アルカに委託した。

13　自然科学分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。

14　遺構・遺物の各種図版作成・編集に関しては以下のとおりである。遺構写真はリバーサルフィルムで撮影したものをスキャニングし、遺物写真はデジタルカメラで撮影した。遺構図版は Adobe 社 Illustrator を用いて作成し、Adobe 社 InDesing を用いて編集した。

15　本書の執筆は鈴木俊成（埋文事業団）、石川博行･北村和穂･吉田好孝（株式会社シン技術コンサル）、高橋　敦･伊藤永良（パリノ・サーヴェイ株式会社）がこれに当たり、編集は鈴木の指導のもと石川が行った。執筆分担は以下のとおりである。

第Ⅰ章 1（鈴木）
第Ⅰ章 2・3、Ⅳ章 3D・F・G、第Ⅴ章 2A 1）、第Ⅶ章 1A（北村）
第Ⅱ章、第Ⅳ章 1・2・3A・C、第Ⅴ章 1・2A 2）・2B、第Ⅶ章 1B・2（石川）
第Ⅲ章、第Ⅳ章 3B・E、第Ⅴ章 2A 3）・4）、第Ⅶ章 1C・D（吉田）
第Ⅵ章　（高橋・伊藤）

16　発掘調査から本書の作成に至るまで、以下の方々から多くのご教示とご協力をいただいた。ここに記し、厚く御礼を申し上げる。（敬称略、五十音順）

阿部　泰之	猪狩　忠雄	石川日出志	伊藤　雅文	岡村　道雄	押切　智紀	鬼塚　知典
金子　拓男	坂井　秀弥	塩原　知人	渋谷　孝雄	関　雅之	田中　耕作	立木　宏明
野田　豊文	林　大智	平田　貴正	増子　正三	水澤　幸一	水村　直人	守屋　豊人
吉井　雅勇	渡邊　朋和					

目　　次

第Ⅰ章　序　　章 …… 1
1　調査に至る経緯 …… 1
2　調 査 経 過 …… 2
A　試 掘 調 査 …… 2
B　本発掘調査 …… 3
3　調査・整理体制 …… 4

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 5
1　地理的・歴史的環境 …… 5
2　周辺の遺跡 …… 5

第Ⅲ章　調査の概要 …… 9
1　グリッドの設定 …… 9
2　基 本 層 序 …… 9

第Ⅳ章　遺　　構 …… 12
1　遺構の概要 …… 12
2　記述の方法 …… 12
3　遺 構 各 説 …… 13
A　竪 穴 住 居 …… 13
B　性格不明遺構 …… 13
C　掘立柱建物 …… 15
D　溝 状 遺 構 …… 15
E　溝 …… 17
F　土　　坑 …… 18
G　自 然 流 路 …… 21

第Ⅴ章　遺　　物 …… 22
1　遺物の概要 …… 22
2　遺 物 各 説 …… 22
A　弥 生 時 代 …… 22
B　そのほかの時代 …… 29

第Ⅵ章　自然科学分析 …… 30
1　試　　料 …… 30
2　分 析 方 法 …… 31
3　結　　果 …… 32

4　考　　察 …… 35

第Ⅶ章　ま　と　め …… 37

1　遺　　物 …… 37

A　弥生土器 …… 37

B　石　　器 …… 39

C　金属製品 …… 40

D　ガラス小玉 …… 41

2　遺構と遺跡 …… 41

≪要　　約≫ …… 43

≪引用・参考文献≫ …… 44

≪遺構観察表≫ …… 47

≪遺物観察表≫ …… 49

挿図目次

第 1 図　試掘調査位置及び本発掘調査範囲図 …… 2

第 2 図　追加トレンチ位置及び最終本発掘調査範囲図 …… 3

第 3 図　地形概念図 …… 5

第 4 図　堂の前遺跡と周辺の弥生時代遺跡 …… 7

第 5 図　調査区位置図 …… 8

第 6 図　グリッド設定図 …… 9

第 7 図　基本層序 …… 10

第 8 図　主要珪藻化石群集の層位分布 …… 34

第 9 図　珪藻化石 …… 36

第 10 図　炭化材 …… 36

第 11 図　石器出土分布 …… 39

第 12 図　青谷上寺地遺跡の護岸遺構 …… 42

表目次

第 1 表　放射性炭素年代測定結果 …… 32

第 2 表　暦年較正結果 …… 32

第 3 表　珪藻分析結果 …… 33

第 4 表　樹種同定結果 …… 34

第 5 表　本遺跡の時期区分と併行関係 …… 39

第 6 表　器種と石質の集計 …… 40

第 7 表　遺跡別主な石器出土数 …… 40

図 版 目 次

［図　版］

図版 1　遺構全体図
図版 2　遺構分割図（1）
図版 3　遺構分割図（2）
図版 4　遺構分割図（3）
図版 5　遺構分割図（4）
図版 6　遺構分割図（5）
図版 7　遺構分割図（6）
図版 8　遺構分割図（7）
図版 9　遺構分割図（8）
図版 10　遺構分割図（9）
図版 11　遺構分割図（10）
図版 12　遺構分割図（11）
図版 13　遺構個別図（1）SI318
図版 14　遺構個別図（2）SX51・52
図版 15　遺構個別図（3）SX53・254
図版 16　遺構個別図（4）SX277・314、SB1・2
図版 17　遺構個別図（5）SB3、SD、P
図版 18　遺構個別図（6）SK3・13・18・19・20・50・54・56・131・256
図版 19　遺構個別図（7）SK278・295・299・300・301・321・324
図版 20　遺構個別図（8）SK326・327・333・335・336・337
図版 21　遺構個別図（9）SK338・340・341・342・343・346・350・351
図版 22　遺構個別図（10）SR1
図版 23　遺構個別図（11）SR1・2
図版 24　遺物実測図（1）SI318、SX52・53、SD7、SK3・13・20・327・350、SR1
図版 25　遺物実測図（2）SR1、包含層、試掘トレンチ
図版 26　遺物実測図（3）石器 1
図版 27　遺物実測図（4）石器 2
図版 28　遺物実測図（5）石器 3
図版 29　遺物実測図（6）石器 4、金属製品、ガラス小玉、そのほかの遺物

［写　真］

図版 30　遠景写真
図版 31　全景・基本層序
図版 32　遺構写真（1）北区遺構集中部・南区全景
図版 33　遺構写真（2）SI318
図版 34　遺構写真（3）SX51
図版 35　遺構写真（4）SX52
図版 36　遺構写真（5）SX53
図版 37　遺構写真（6）SX254
図版 38　遺構写真（7）SX277・314
図版 39　遺構写真（8）SB1
図版 40　遺構写真（9）SB2
図版 41　遺構写真（10）SB3
図版 42　遺構写真（11）SD316・317
図版 43　遺構写真（12）05C 区遺構、3 ～ 7 区遺構、SD6・27
図版 44　遺構写真（13）SD6・27・16・149・252・320・334、SK340
図版 45　遺構写真（14）SK3・13・19・20・50・54・131
図版 46　遺構写真（15）SK131・256・278・295・299・300・301
図版 47　遺構写真（16）SK321・324・326・327・333・335
図版 48　遺構写真（17）SK336・337・338・340・341・342・343・346
図版 49　遺構写真（18）SK350・351、SR1・2
図版 50　遺物写真（1）土器 1
図版 51　遺物写真（2）土器 2、石器 1
図版 52　遺物写真（3）石器 2
図版 53　遺物写真（4）石器 3
図版 54　遺物写真（5）石器 4、金属製品、ガラス小玉、そのほかの遺物

第Ⅰ章　序　　章

1　調査に至る経緯

日本海沿岸東北自動車道（以下、「日沿道」とする）は、新潟市の新潟空港インターチェンジ（以下、「IC」とする）から、日本海に沿って北上し、山形県・秋田県を経て青森市に至る高規格幹線道路である。新潟県内では村上市の荒川胎内ICまでが平成21年に完成している。新潟－朝日IC間は、平成元年及び平成3年に基本計画が決定され、中条－朝日IC間の第13次区間は平成10年に施工命令が出された。これを受けて、日本道路公団（以下、「道路公団」とする）と新潟県教育委員会（以下、「県教委」とする）との間で、道路法線内の埋蔵文化財の取扱いに関する協議が本格化した。

中条－朝日IC間の分布調査は、県教委から委託を受けた財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、「埋文事業団」とする）が平成11年度に実施した。その結果、旧神林村以北では道路法線上に5か所の遺跡（新発見も含む）と15か所の遺跡推定地が存在し、これらについて試掘・確認調査が必要であることを県教委に報告した。

平成15年10月1日の道路公団・県教委及び埋文事業団の協議において、道路公団が示した平成16年度の調査要望は膨大なものであった。しかし、この要望も「民営化」や「事業の見直し」などの諸問題を抱える道路公団にあっては、確定的なものではなかった。同年10月8日、県教委と埋文事業団は平成16年度の受託事業について協議した。そして、日沿道建設が決定し、道路公団が10月1日に要望した調査量が提示された場合、それに対応できるだけの調査体制を持っていないことから、日沿道の調査に限り埋文事業団の直轄指導・監督のもと、民間調査組織に全部委託するという方針を決定した。その後、日沿道の事業は、道路公団の分割民営化に伴い東日本高速道路株式会社（以下、「東日本高速道路」とする）に引き継がれ、荒川胎内IC以南は東日本高速道路が「有料道路方式」で、それより北は国土交通省（以下、「国交省」とする）が「新直轄方式」で整備することとなった。

堂の前遺跡が含まれる遺跡推定地12の試掘調査は、平成19年に31,890m^{2}を対象に実施した。試掘調査によって、3か所で遺構・遺物を検出し、新発見の遺跡（下新保高田遺跡・堂の前遺跡・桂木田遺跡）として登録した。堂の前遺跡では弥生時代後期の土器と石器が出土し、竪穴住居状の落ち込み・ピットなどを検出し、4,600m^{2}について本発掘調査が必要であると判断した。本発掘調査は、国交省・県教委・埋文事業団の協議で平成20年度に実施することとなった。本発掘調査面積については高速自動車道早期供用のため、当面、調査範囲を暫定二車線部分に限定した平成14年の協議（以下、「限定協議」とする）に準じ2,570m^{2}とし、調査体制は平成16年度から実施している埋文事業団職員の指導・監督のもと、民間調査機関に全部委託するという方式をとった。

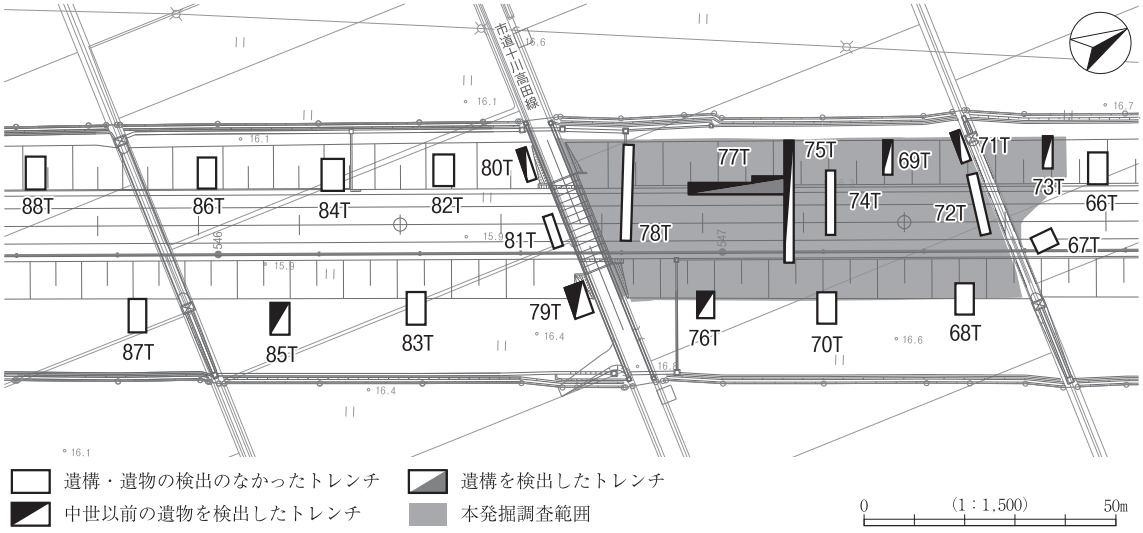
2 調査経過

A 試掘調査

堂の前遺跡に関わる遺跡推定地12の試掘調査は、県教委から委託を受けた埋文事業団が平成19年7月2日から7月26日に実施した。調査対象面積31,890m^{2}のうち、1,370m^{2}を調査した。遺跡推定地12は三面川左岸の谷底平野[新潟県1987]、標高15～18mに位置する。調査は遺跡推定地内に試掘トレンチ(以下、「T」とする）を任意に設定し、重機（バックホー）及び人力で掘削し、遺構・遺物の有無を確認した。その後、土層の堆積状況、遺構・遺物の検出状況等を図面・写真等に記録した。調査の結果、3か所で遺構・遺物のまとまりが認められ、38～59T付近を「下新保高田遺跡」とし、69～78T付近を「堂の前遺跡」、97・106・107T付近を「桂木田遺跡」とした。以下、堂の前遺跡について記す。

基本土層は、Ⅰ～Ⅴ層に大別し、更に各層を細分した。Ⅰ層は表土、Ⅰ'層は旧表土、Ⅱ層は中世の遺物包含層で灰色～灰白色砂質シルト、Ⅱb層は弥生時代の遺物包含層で黄灰色シルト、Ⅲa層は黄灰色砂質シルト～黄灰色シルト、Ⅲb層は黄灰色～灰白色粘質シルト、Ⅲc層は褐灰色シルト、Ⅲd層は褐灰色砂質シルト～細砂、Ⅲe層は灰色砂質シルト、Ⅳ層は灰色～黄灰色細砂、Ⅴ層は黄灰色砂礫である。69～78T付近では、西側で流路跡を検出した。流路内の土層は7層に分層した。流路の①層は灰白色砂質シルトで基本土層のⅡ層に対応する可能性があり、②層は灰色砂質シルトで弥生時代の遺物を多量に含む。③層は灰色シルトで弥生時代の遺物を含み、④層は黄灰色シルト、⑤層は暗褐色ガツボ混じりシルト、⑥層は黄灰色粘質シルトで弥生時代の遺物を多量に含む。⑦層は灰色砂質シルトである。

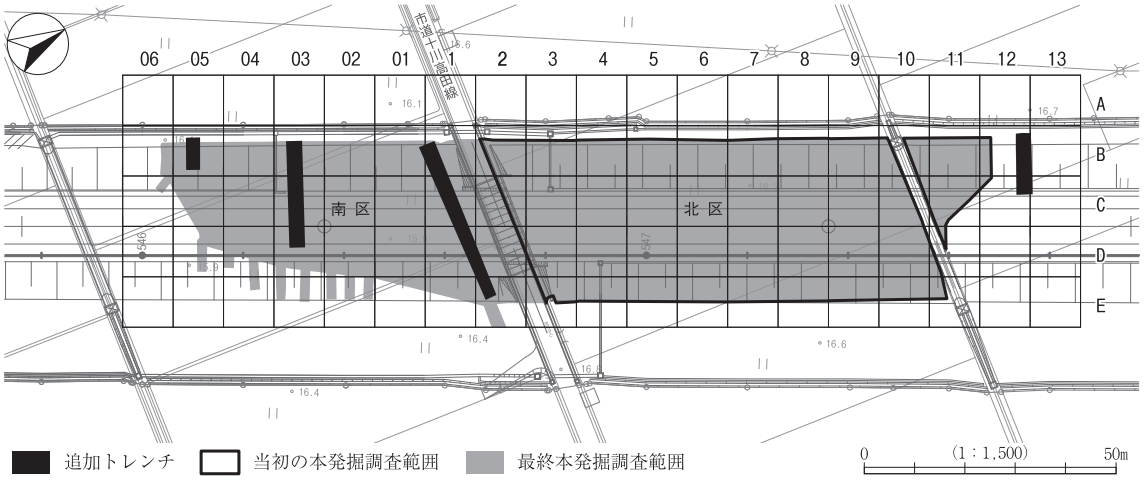
弥生土器は69・71・75・80Tから出土し、特に69・75Tから多量に出土した。遺構は、77Tにおいて竪穴住居状の落ち込みを検出し、その北東側では遺物が多量に出土した。出土した弥生土器は、その特徴から後期の東北系（天王山系）と推定した。このほか、中世の遺物が73・75・77Tに点在したが、その分布にまとまりは認められない。以上のことから、69～78T付近（堂の前遺跡）の4,600m^{2}について本発掘調査が必要であると判断した。本発掘調査面積は限定協議から暫定二車線部分の2,570m^{2}となった(第1図)。



第1図　試掘調査位置及び本発掘調査範囲図

B　本発掘調査

本発掘調査は平成20年4月15日から、2,570m^{2}を対象に開始した。15日に調査区北側から表土掘削を開始し、5月9日に終了した。15日には調査区内にグリッドを設定した。調査は調査区北側から開始し、調査区壁際や調査ベルトでの土層観察の後、遺構検出面までの掘削を行った。6月18日に土層の確認及び流路（SR1）の範囲がほぼ確定し、遺構検出作業を開始した。SR1の発掘は19日から、検出遺構の発掘は7月10日から、それぞれ開始した。15日にはSR1の底面まで掘削が進んだ。また、SR1の東岸にはこれに沿うように溝状のプランが確認でき、覆土を除去したところ、底面から小ピットを検出した。そして、このSR1及びこれに沿う溝状遺構（溝・溝状遺構の分類基準については12頁参照）が調査区外に伸びていくことも判明した。調査区外に伸びる遺構の取り扱いについて7月25日に県教委と協議し、調査区隣接地をトレンチ調査し、遺構の伸びについて確認することとした。トレンチは調査区外に4か所設定し（第2図）、30日に掘削を行った。その結果、市道十川高田線以南に自然流路とそれに沿う溝状遺構の存在を確認した。このトレンチ調査の結果を受け、県教委は国交省の了解を得て、埋文事業団に市道以南の調査も実施するよう指示した。市道十川高田線以南の調査面積は1,930m^{2}である。調査区の呼称は、当初の調査区を北区、市道以南の調査区を南区とした。その間、8月27日に北区の空中写真撮影を行い、30日に現地説明会を実施した。北区の調査は9月4日に終了した。南区の調査は、9月9日から開始し、9月12日に市道を除く部分の表土掘削が終了し、遺構検出作業を開始した。10月2日には、遺構検出がほぼ終了し、順次遺構の発掘を開始した。また、北区同様に流路内の遺物の有無を確認するため、02・04ラインのベルト際にトレンチを設定し、掘削を開始した。また、02D区で竪穴住居を検出し、東側の調査区外に遺跡の広がりが想定されたため、18日以降、02E～06C区にかけてトレンチ調査を実施した。その結果、調査区の東側は削平を受け、遺構が残っている可能性は低いと判断できたことから、県教委はこれ以上の調査拡張は必要ないとした。10月21日には、市道部分の表土掘削を開始した。23日には表土掘削が終了し、遺構の検出・発掘を開始した。11月9日、下新保高田遺跡の現地説明会に併せて、堂の前遺跡も現地公開した。10日には市道部分の調査が終了し、12日に南区の空中写真撮影を行った。その後、SR1内に2か所、SR1東岸に6か所のトレンチを設け、重機で掘削し、下層に遺構･遺物がないことを確認した。14日に県教委による調査終了確認を得て、18日には現地調査の全工程を終了した。27日には国交省へ現地を引き渡した。調査面積は4,500m^{2}になった。



第２図　追加トレンチ位置及び最終本発掘調査範囲図

3　調査・整理体制

堂の前遺跡の試掘調査と平成20年度の本発掘調査及び整理作業は、以下の期日と体制で行った。

【試掘調査】

調査期間　平成19年7月2日～26日

調査主体　新潟県教育委員会（教育長　武藤　克己）

調　　査　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

管　　理　木村　正昭　（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　専務理事・事務局長）

斎藤　　栄　（　同　総務課課長）

藤巻　正信　（　同　調査課課長）

庶　　務　長谷川　靖　（　同　総務課主任）

調査指導　田海　義正　（　同　調査課課長代理）

調査担当　加藤　　学　（　同　調査課主任調査員）

調 査 員　齊藤　　準　（　同　調査課嘱託員）

【本発掘調査・整理作業】

本発掘調査　平成20年4月15日～11月18日

整 理 作 業　平成20年11月19日～平成21年3月31日

調 査 主 体　新潟県教育委員会（教育長　武藤　克己）

調　　査　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

管　　理　木村　正昭　（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　専務理事・事務局長）

斎藤　　栄　（　同　総務課課長）

藤巻　正信　（　同　調査課課長）

監　　督　鈴木　俊成　（　同　調査課課長代理）

木村　雄司　（　同　調査課主任調査員）

庶　　務　長谷川　靖　（　同　総務課主任）

調査組織　株式会社シン技術コンサル

現場代理人　坂井　義章　（株式会社シン技術コンサル　文化財調査部　主任技師）

調 査 担 当　石川　博行　（　同　主任調査員）

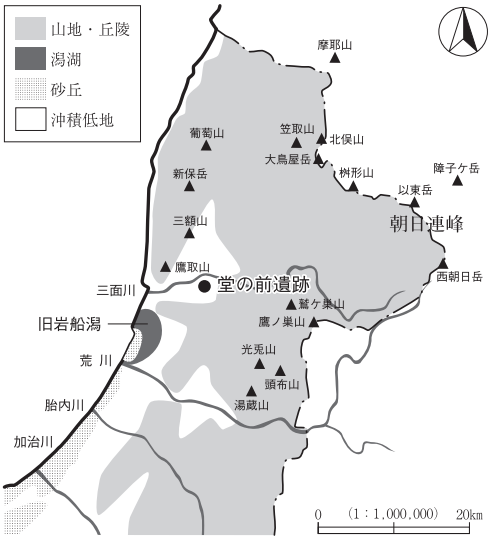
調　査　員　北村　和穂　（　同　調査員）

吉田　好孝　（　同　調査員）

第 II 章　遺跡の位置と環境

1　地理的・歴史的環境

堂の前遺跡は村上市下新保字高田 2351 - 2 に所在する（第 5 図）。現在の村上市は、平成 20 年 4 月 1 日に荒川町・神林村・村上市・朝日村・山北町の 5 市町村が合併したことによって新しく誕生した。合併後における村上市の面積は 1,174.24km^2 で、人口は約 7 万人である。



第 3 図　地形概念図

村上市の地形は大きく見て、北・東・西側の山間部と南側の平野部に大別できる。北側は山形県の摩耶山（1,019m）から連なる北俣山（979m）・桝形山（1,331m）・大鳥屋岳（989m）・笠取山（742m）、また朝日連峰を形成する西朝日岳（1,814m）・以東岳（1,771m）などの標高 1,000m を超える険しい山岳地帯である。東側も同様に山間部は山形県と接しており、鷲ヶ巣山（1,093m）・光兎山（966m）・頭布山（1,017m）・湯蔵山（726m）などの山々が連なる。西側は葡萄山地を形成する鷹取山（419m）・三額山（587m）・新保岳（852m）・葡萄山（795m）など標高 400 ～ 800m の山々が連なる。葡萄山地は元々、朝日連峰と同列であったが、断層運動によって分断され地塊山地となった［村上市 1999］。平野部によって占められる南側は、大部分が荒川や三面川などの大河川によって形成された扇状地形を呈する。荒川の北側には、岩船丘陵・浦田山丘陵や新潟砂丘などに囲まれた旧岩船潟が広がる。

堂の前遺跡が所在する地域は旧朝日村の館腰地区にある。館腰地区は旧村内では平野部に位置し、古渡路・小川・下新保・十川などの集落で形成され、険しい朝日連峰を背景にのどかな水田風景が広がる。この地区は、古くから水害に遭遇している［朝日村教育委員会 1980］。また言い伝えでは、十川はその名が示すとおり、昔は三面川が幾つも川筋を変えてこの地区を流れていたと言われる。

2　周辺の遺跡

村上市内では、近年の開発に伴って多くの遺跡で発掘調査が行われてきた。ここでは弥生時代の遺跡について概観する。

三面川下流域には、滝ノ前遺跡（4）・桂木田遺跡（2）・大館跡（3）が所在する。滝ノ前遺跡は三面川右岸の河口付近の段丘上に立地する。竪穴住居 3 軒が検出され、そのうち 1 軒の床面から後期後半の東北系と北陸系土器が出土した。そのほか、アメリカ式石鏃や環状石斧などの石器が出土した［関 1972］。桂木田遺跡は三面川左岸の平野部に立地し、本遺跡から南へ約 300m の地点に位置する。中期の土器が 89 点と剝片石器 1 点が出土した［平田ほか 2009］。大館跡は三面川左岸に位置し、丘陵上から中～後期の東北系

と北陸系土器が出土した［青木ほか2008］。

村上市南部に広がる旧岩船潟周辺には六百地遺跡（7）・金曲遺跡（8）・高田遺跡（10）、潟北辺の丘陵上には山元遺跡（6）・八幡山遺跡（5）、潟の南側に伸びる砂丘上には長松遺跡（16）・砂山遺跡（12）・大野地遺跡（11）・在ヶ付Ⅲ遺跡（13）が所在する。六百地遺跡・金曲遺跡・高田遺跡では中～後期の東北系土器が出土した［鈴木ほか1990、田辺ほか2002・2003a・b］。山元遺跡は後期後半の県内最北端に位置する高地性環濠集落である。試掘・確認調査によって、環濠のほか掘立柱建物1棟・土坑墓7基などが検出され、1基の土坑墓からはガラス小玉68点が出土した。そのほか、東北系に混ざって少量の北陸系土器や北海道の続縄文土器、石鏃や環状石斧をはじめとする石器･石製品が出土した［滝沢ほか2009］。八幡山遺跡は、山元遺跡から東へ約800mの地点に位置する［田辺1994］。長松遺跡では中～後期の東北系土器や注口土器、アメリカ式石鏃などが出土し［田辺1991］、砂山遺跡では中期末～後期の土器や石器などが出土した［石丸ほか2003］。

荒川流域には衣田遺跡（14）･中部北遺跡（15）･中曽根遺跡（17）･道端遺跡（18）･坂町宮ノ腰D遺跡（19）が所在する。衣田遺跡・中部北遺跡は荒川右岸の平野部に立地する。衣田遺跡では後期の高杯片や甕などが出土し［田辺ほか2001］、中部北遺跡では中期の土器1個体が出土した［石川2003］。中曽根遺跡は荒川左岸の平野部に立地する後期の集落で、住居2軒と土坑1基が検出され、東北系土器や磨製石斧などの石器が出土した［青木ほか2006］。道端遺跡は荒川左岸の平野部に立地する中期の集落で、平地式建物7棟、竪穴建物3軒などの遺構が検出された。また、北陸系・東北系などの土器、磨製石包丁など稲作に関係する遺物が出土した［前川ほか2006］。坂町宮ノ腰D遺跡は荒川左岸の平野部に立地し、後期の東北系土器や中期末のアメリカ式石鏃などが出土した［吉井2006］。

このほか、市内東部の山間部には二又遺跡［大滝ほか1997］、長者岩陰洞窟遺跡［小野ほか1993］、市内北部の海岸部には間ノ内遺跡［山北町史編さん委員会1988］などが所在する。

このように市内に分布する当該期の遺跡は､大多数が丘陵上や平野部に立地している。遺構は竪穴住居、竪穴建物、平地式建物などが確認されており、遺物は土器、石器、石製品、ガラス小玉などが出土している。土器は東北系と北陸系が出土しているが、東北系が優勢である。石器は、道端遺跡から出土した石包丁や滝ノ前遺跡･長松遺跡･宮ノ腰D遺跡のアメリカ式石鏃を除くと、おおむね縄文時代的な様相が強い。

No.	遺　跡　名	No.	遺　跡　名	No.	遺　跡　名	No.	遺　跡　名	No.	遺　跡　名	No.	遺　跡　名	No.	遺　跡　名
1	堂の前	4	滝ノ前	7	六百地	10	高田	13	在ヶ付Ⅲ	16	長松	19	坂町宮ノ腰 D
2	桂木田	5	八幡山	8	金曲	11	大野地	14	衣田	17	中曽根		
3	大館跡	6	山元	9	大聖寺	12	砂山	15	中部北	18	道端		

第４図　堂の前遺跡と周辺の弥生時代遺跡（国土地理院 1/50,000「村上」「中条」2002 を縮小、加筆）

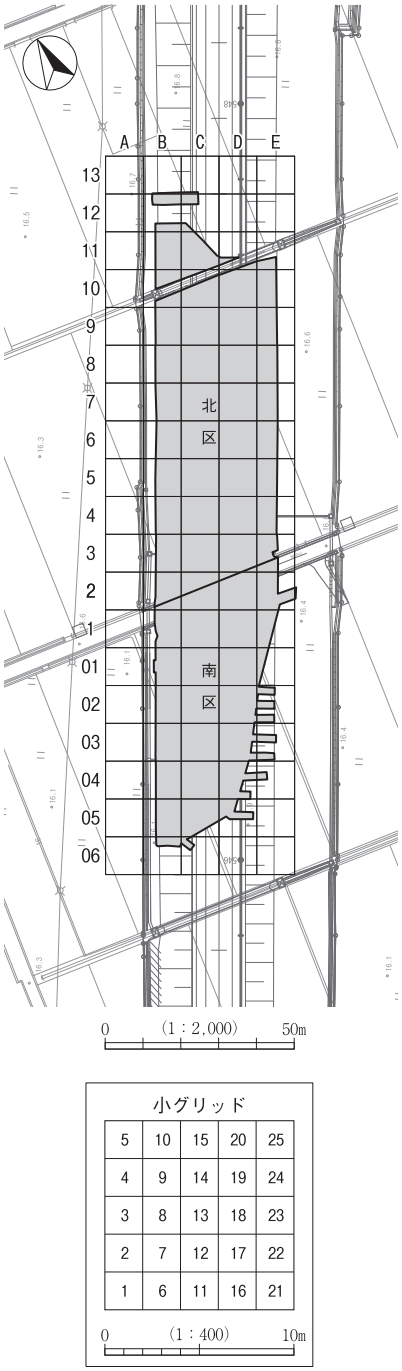
第５図　調査区位置図　（アジア航測株式会社『朝日村現況図』1984 に加筆）

第Ⅲ章　調査の概要

1　グリッドの設定

グリッドの設定は、高速道路のセンター杭を基準に行った。センター杭STA285（X=249687.688、Y=89307.580）とSTA290（X=249775.406、Y=89355.597）を結んだラインを基準線とし、10m四方の方眼を設定して大グリッドとした。このため、グリッドの方位は真北から28°　41′　47″東偏している。また、大グリッドを更に2m四方に25分割し、これを小グリッドとした。

大グリッドは南北方向をアラビア数字の06～01･1～13で表し、東西方向はアルファベットA～Eを用い両者を組み合わせて「2D区」のように呼称した。また、小グリッドは1～25のアラビア数字で表し、大グリッドの南西隅を1、北東隅を25として「2D25区」のように大グリッド名の後ろに付して呼称した。座標値は、1AでX=249719.637、Y=89290.637である。また、調査区北側の12AはX=249816.127、Y=89343.687である。



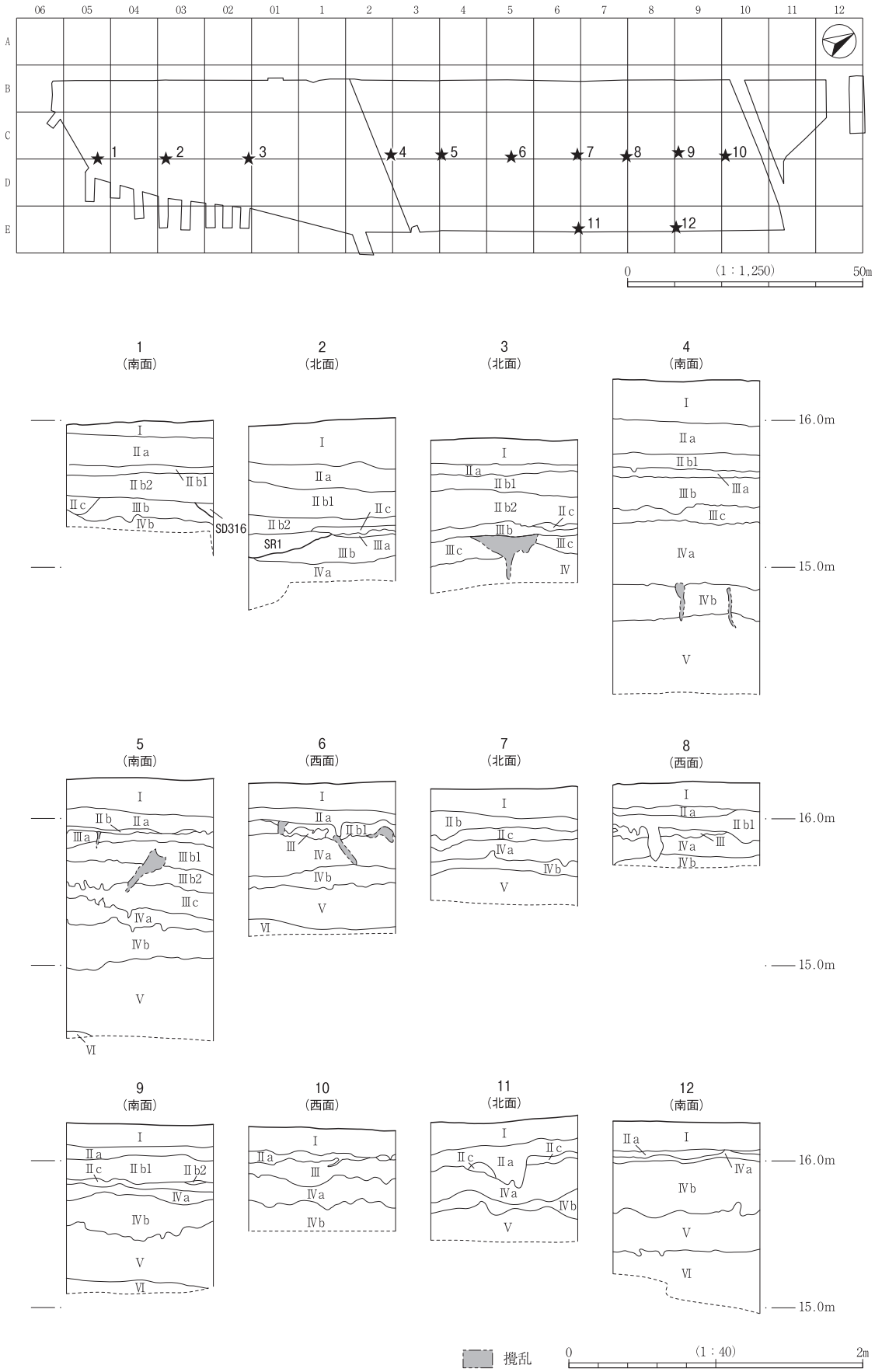
第６図　グリッド設定図

2　基本層序

本遺跡の基本層序は、自然流路の影響により地点ごとに層厚が異なる。また、調査区はほ場整備などで削平を受けており、特に周囲よりも標高が高い7～10D・E区は削平が著しい。

Ⅰ層は、現代の水田耕作土である。Ⅱ層はシルト層であり、色調などから3層（a～c）に分けた。Ⅱa層は暗青灰色を呈し、近・現代の遺物が出土した。Ⅱb層は西側では層厚40～60cm、東側では5～20cmを測り、7～10D・E区ではほ場整備による削平のためほとんど確認できなかった。Ⅱb層は更に2層(1･2)に分けた。Ⅱb1層は青みの強い青灰色を呈し、この層からは中・近世の陶磁器片などが出土した。Ⅱb2層は黄褐色土ブロックを少量含む。弥生時代～古代の遺物が出土しており、層厚20～40cmを測る。Ⅱc層は青灰色を呈し、明黄褐色土を多量に含む。弥生時代の遺物が出土した。

Ⅲ層は、黄褐色を主体としたシルト・細砂層で、色調・土質から3層（a～c）に分けた。調査区全域に堆積していたが、6区ライン以北では細分できなかった。Ⅲa層は明黄褐色を呈するシルト層で、4C・D区では層厚約10cmを測る。Ⅲb層は灰白色を呈する細砂層で、


06 05 04 03 02 01 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
A B C D E
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
0 (1：1,250) 50m
1 (南面)
2 (北面)
3 (北面)
4 (南面)
5 (南面)
6 (西面)
7 (北面)
8 (西面)
9 (南面)
10 (西面)
11 (北面)
12 (南面)
SD316
SR1
16.0m
15.0m
撹乱
0 (1：40) 2m

第７図　基本層序

層厚 10 ～ 30cm を測る。Ⅲ c 層は灰白色を呈するシルト層で、3・4B ～ D 区では層厚 5 ～ 20cm を測る。

Ⅳ層は、土質から 2 層（a･b）に分けた。Ⅳ a 層は粘質土で鉄分の酸化が著しい。層厚 10 ～ 40cm を測る。Ⅳ b 層は砂と粘質土の混合土である。層厚 15 ～ 30cm を測る。調査区北側の 7 ～ 10D・E 区は総じて厚く堆積する。Ⅴ層は砂層で、層厚 20 ～ 30cm を測る。Ⅵ層は砂礫層で、全体に鉄分の酸化が進み、褐色を呈する。

以下、基本層序を記していく。

Ⅰ層　暗褐色土(10YR3/3)。しまりやや強く、粘性普通。表土、水田耕作土。試掘調査のⅠ層に相当する。

Ⅱ a 層　暗青灰色土(5PB4/1)。しまりやや強く、粘性普通。旧水田耕作土。試掘調査のⅠ'層に相当する。

Ⅱ b1 層　青灰色シルト（5B5/1)。しまり強く、粘性普通。酸化鉄を少量、炭化物（3mm 以下）を微量含む。中・近世の遺物包含層。試掘調査の流路堆積物①層に相当する。

Ⅱ b2 層　青灰色シルト（5B6/1)。しまり強く、粘性普通。酸化鉄を中量、炭化物（3mm 以下）を微量含む。弥生時代～古代の遺物包含層。試掘調査の流路堆積物②層に相当する。

Ⅱ c 層　青灰色シルト(5B6/1)。しまり強く、粘性普通。明黄褐色土を多量、灰黄色砂･酸化鉄を中量含む。弥生時代の遺物包含層。

Ⅲ a 層　明黄褐色土（10YR6/6)。しまりやや強く、粘性普通。暗青灰色・青灰色シルトを中量、酸化鉄を少量含む。弥生時代の遺物包含層。試掘調査のⅢ a 層に相当する。

Ⅲ b 層　灰白色細砂（10YR8/1)。しまり普通、粘性やや弱い。弥生時代の遺構検出面。

Ⅲ c 層　灰白色シルト（10YR8/2)。しまり普通、粘性やや弱い。灰白色砂を少量含む。

Ⅳ a 層　青灰色粘質土（5B5/1)。しまりやや強く、粘性弱い。酸化鉄を少量含む。試掘調査のⅢ b 層に相当する。

Ⅳ b 層　青灰色土(5B5/1)。しまりやや強く、粘性弱い。砂と粘質土ブロックの混合土。酸化鉄を少量含む。

Ⅴ層　青灰色砂（5B6/1)。しまりやや強く、粘性弱い。試掘調査のⅤ層に相当する。

Ⅵ層　褐色砂礫（7.5YR4/3)。鉄分の酸化が進行した硬い砂礫層。試掘調査のⅤ層に相当する。

第Ⅳ章　遺　　構

1　遺構の概要

本遺跡での遺構の種別及び認定要素を以下に示す。竪穴住居の認定要素は、①遺物が出土すること、②円形ないし隅丸方形に溝が巡ること、③溝の内側にピットが検出できること、④炉を有すること、である。性格不明遺構は、上記①～③の要素を複数備えているものとした。掘立柱建物は、柱穴が規則的に配置し、柱穴間の距離が一定していること、各柱穴の覆土に共通性があることを認定要素とした。溝状遺構･溝は、溝底面や周囲に多数の小ピットを伴うものを溝状遺構、伴わないものを溝とした。土坑・ピットは、長径（軸）が 0.60m 以上（推定値含む）のものを土坑とし、それ以外はピットとした。ただし、長径（軸）0.60m に満たなくても覆土に共通性が認められるなどの状況によって土坑としたものがある。

検出した遺構は、竪穴住居 1 軒、性格不明遺構 6 基、掘立柱建物 3 棟、溝状遺構 10 条、溝 11 条、土坑 31 基、ピット 435 基、道路 1 条で、そのほかに自然流路 2 条がある。これらの遺構の大半は出土遺物から、弥生時代に帰属するが、道路については、覆土がⅡ b1 層のため中・近世以降と考えられる。

遺構の分布は、調査区の西側（B・C 区ライン）に弥生時代の自然流路（SR1）、また東側（E 区ライン）にも同様に自然流路（SR2）があり、それに沿うような形で溝状遺構が走り、2 条の自然流路に挟まれた微高地上に竪穴住居・掘立柱建物・性格不明遺構・土坑・ピットなどが位置する。遺構の検出面は、5 区ライン以南についてはⅢ a 層及びⅢ b 層で、Ⅲ層が不明瞭となる 6 区ライン以北はⅣ層である。SR1 付近の緩斜面地（2 ～ 11C、01 ～ 04・1D 区）などは若干標高が低くなるため、水田耕作の影響が少なく、遺構の残存状況が良好であった。なお、遺構覆土と検出面の土壌の識別が難しいことから、遺構の検出作業では、平面観察のほか、トレンチを多く設定し、断面観察にも重点をおいて慎重に調査を行った。また、遺構の判断は遺物が出土した遺構覆土の特徴と比較・検証することによって最終的な確認を行った。遺構の覆土は、青灰色シルトと明黄褐色を呈する粘質を帯びる砂に大別できる。前者は基本層序のⅡ c 層に由来し、主に小ピットを伴う溝状遺構の覆土になっている。また、後者は基本層序のⅢ a 層に由来し、主に竪穴住居や性格不明遺構の覆土である。遺構の大半はⅢ b 層上面で検出したが、一部の溝状遺構や溝などはⅢ a 層上面で検出できた。

2　記述の方法

遺構種別の略号は、竪穴住居「SI」、炉「FP」、性格不明遺構「SX」、掘立柱建物「SB」、溝状遺構・溝「SD」、土坑「SK」、ピット「P」とし、自然流路は「SR」とした。遺構番号は種別に関係なくすべて通し番号とした。竪穴住居・性格不明遺構・掘立柱建物などに関係するピットは P1・P2 のように遺構ごとに番号を付与した。ただし、SX277・314、SB1・2 のように重複した遺構については、所属を明らかにするため SX277P1、SB1P2 のようにした。調査の結果、遺構ではないと判断したものについては欠番とした。検出した遺構は極力個別図で報告することとしたが、単独のピットや道路については分割図段階での報告とした。またピットは、分割図に番号のあるものは単独のピット、ないものは溝状遺構に付属するものと

した。

性格不明遺構は、周溝外縁の形状を平面形として表記し、規模を計測した。溝状遺構・溝の規模（全長）は、復元値で示した。

3　遺構各説

A　竪穴住居

SI318（図版4・13・33）　02D区に位置する。遺構の検出はⅢa層上面で行った。SK326・327・350、P345・602と重複し、すべてに切られる。遺構の東側は壁が残っていたが、西側はSR1によって壊されており、周溝・ピットのみが残存していた。平面形は楕円形を呈する。規模は長径5.45m、短径4.53m、検出面からの深さは壁の立ち上がりが残る東側で0.10mを測る。床面積は17.64m^{2}である。長軸方向はN22°Eを指す。覆土は4層に分けた。1層は明黄褐色細砂で炭化物を微量に含む。2層は浅黄色砂で粗砂を微量に含む。3・4層は周溝の覆土で、青灰色土がブロック状に混入する。床面は不明瞭であったが、覆土の断面観察から炉の掘り込み面を床面と想定した（Ⅲb層上面）。貼床や硬化面は確認できなかった。ピットは住居内から計8基検出した。柱痕は確認できず、深さ0.04～0.23mを測る。このうち主柱穴は配置などからP11･17･18を推定した。他遺跡の例から考えて4本を想定したが、残り1本はSK327によって壊された可能性が高い。炉は地床炉である。炉の掘形は断面形がⅢ状を呈し、底面に白色粘土が貼られ、その上を火床としている。規模は長径0.55m（残存値）、短径0.56mを測る。周溝は楕円形に巡る。北西隅は2条となり、東側の周溝は一部途切れる。周溝の規模は幅0.07～0.32m、深さ0.08～0.16mを測る。

出土した遺物は弥生土器片1点、ミニチュア土器1点（1）、砥石1点（169）、剝片1点、金属製品1点（195）である。土器・金属製品は炉周辺から、砥石・剝片は南東側から出土した。遺構の時期は、出土した遺物から弥生時代後期と考えられる。

B　性格不明遺構

SX51（図版7・14・34）　3C区に位置する。遺構の検出はⅢb層上面で行った。平面形は円形を呈し、北側に幅1.25m、長さ0.72mの隅丸台形状の張り出し部を持つ。規模は長径4.29m、短径3.96mを測る。床面積は10.45m^{2}である。長軸方向はN9°Eを指す。ピットは計26基検出した。柱痕は確認できなかった。このうち主柱穴は、深さや配置などからP5・14・22・28の4本を推定した。覆土はいずれも灰黄色のやや粘性を帯びた砂質土である。なお張り出し部からピットは検出できなかった。周溝と考えられる溝は、張り出し部を含め全周し、幅0.08～0.15m、深さ0.10～0.12mを測る。断面形は半円形状で、部分的にV字状を呈する。底面には深さ0.05mほどの小ピットを多数検出した。覆土は2層に分け、灰黄色砂質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SX52（図版7・14・35）　4C区に位置する。遺構の検出はⅢa層上面で行った。SD7と重複し、SD7を切っている。遺構の覆土が地山と極めて類似しており、範囲や壁の立ち上がりなどを明確に確認できなかった。また、遺構の中央は試掘坑77Tにより壊されている。平面形は円形を呈し、規模は長径4.13m、短径3.95mを測る。床面積は11.20m^{2}である。長軸方向はN27°Eを指す。覆土は5層に分けた。1層は明黄褐色土で、砂･炭化物を少量含む。2～5層は周溝と考えられる溝の覆土で、黄色のシルトを主体とする。ピットは計20基検出した。柱痕は確認できず、深さは0.07～0.35mを測る。このうち主柱穴は、配置な

どからP6・8・14・15を推定した。ピットの覆土は灰黄褐色シルトを主体とする。周溝と考えられる溝は、試掘坑77Tを除き検出できたため、本来は全周していたと考えたい。幅0.07～0.25m、深さ0.10～0.15mを測り、断面形はおおむね逆台形状で、部分的にV字状を呈する。

出土した遺物は、2を含む弥生土器片5点、石核1点（181）、剝片2点である。遺物は主に遺構の南側から出土した。遺構の時期は、出土した遺物から弥生時代後期と考えられる。

SX53（図版10･15･36）　5C区に位置する。遺構の検出はⅢb層上面で行った。SD7と重複し、SD7を切っている。遺構の中央は試掘坑77Tにより壊されている。平面形は隅丸方形を呈し、北側が狭くなる。規模は長径3.84m、短径3.72mを測る。床面積は11.87m^{2}である。長軸方向はN28°Eを指す。覆土は2層に分けた。1層は黄灰色粘質シルト、2層は周溝の覆土で灰黄色砂質シルトを主体とする。ピットは計20基検出した。柱痕は確認できず、深さは一定しない。このうち主柱穴は、配置などからP1・2・9・15を推定した。これらの覆土は砂を含む灰黄色砂質シルトを主体とする。周溝と考えられる溝は、幅0.05～0.16m、深さ0.08～0.11mを測り、断面形はおおむねU字状を呈する。

出土した遺物は、3～5を含む弥生土器片8点、石鏃1点（121）である。遺物は主に遺構の中央付近から出土した。遺構の時期は、出土した遺物から弥生時代後期と考えられる。

SX254（図版8・9・15・37）　3D区に位置する。遺構の検出はⅢb層上面で行った。SX314・SD252・SK299と重複し、SX314・SK299を切り、SD252に切られる。平面形は隅丸長方形を呈し、長径4.66m、短径3.50mを測る。床面積は11.88m^{2}である。長軸方向はN17°Eを指す。ピットは計8基検出した。柱痕は確認できなかった。このうち主柱穴は、深さや配置などからP1～4を推定した。ピットの径は0.17～0.37mで、覆土は灰黄色シルト・砂を主体とする。周溝と考えられる溝は、南隅で離れるがおおむね全周する。幅0.15m、深さ0.15～0.22mを測り、断面形はおおむねU字状で、部分的に逆台形状を呈する。覆土は4層に分けた。1・2層は白色シルト・砂、3・4層は黄灰色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SX277（図版8・9・16・38）　3・4D・E区に位置する。遺構の検出はⅢb層上面で行った。SX314、SD149･252、SK295と重複し、SX314を切り、SD149･252、SK295に切られる。平面形は楕円形と推定され、長径2.98m（残存値）、短径2.36mを測る。床面積は4.91m^2（残存値）である。長軸方向はN21°Eを指す。ピットは計8基検出した。規模などに共通性がなく主柱穴は不明である。覆土は灰黄色シルトを主体とする。周溝と考えられる溝は、西側では2条検出できた。幅0.15m、深さ0.06～0.08mを測り、断面形は半円形状を呈する。覆土は、内側の溝が浅黄色砂、外側の溝が粘質を帯びる暗褐色土を主体とする。遺物は出土していない。

SX314（図版8・9・16・38）　3D・E区に位置する。遺構の検出はⅢb層上面で行った。SX254・277、SD149、SR2と重複し、すべてに切られる。遺構の南側はトレンチによって壊されている。平面形は隅丸長方形と推定され、長径2.88m（残存値）、短径4.65mを測る。床面積は10.06m^2（残存値）である。長軸方向はN19°Eを指す。ピットは計11基検出した。このうち主柱穴は、配置などからP1・2を推定した。覆土は粘性を帯びる浅黄色・灰白色シルト・砂を主体とする。周溝と考えられる溝は、幅0.20～0.30m、深さ0.10mを測り、断面形は逆台形状を呈する。覆土は2層に分け、浅黄色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

C　掘立柱建物

SB1（図版 7・16・39）　3C 区に位置する。遺構の検出はⅢb 層上面で行った。SB2、SD16・27 と重複し、SD16･27 を切り、SB2 との新旧関係は不明である。桁行 2 間、梁間 2 間の側柱建物で、東西棟である。床面積は 6.76m^2 である。長軸方向は N73°　W を指す。柱穴は計 7 基検出した。規模は径 0.17 ～ 0.34m、深さ 0.15 ～ 0.22m を測り､断面形はおおむねＵ字状を呈する。各柱穴の覆土は黄灰色粘質土を主体とする。柱痕跡は確認できなかった。周辺及び柱穴内から遺物は出土していない。

SB2（図版 7・16・40）　3B・C 区に位置する。遺構の検出はⅢｂ層上面で行った。SB1、SD16・27 と重複し、SD16・27 を切り、SB1 との新旧関係は不明である。桁行 2 間、梁間 2 間の側柱建物で、東西棟である。西側に棟持柱状の突出した柱(P2)がある。床面積は 5.20m^2 である。長軸方向は N68°　W を指す。柱穴は計 9 基検出した。規模は径 0.11 ～ 0.33m、深さ 0.13 ～ 0.25m を測り、断面形はおおむねＵ字状を呈する。各柱穴の覆土は黄色のシルト～細砂を主体とする。柱痕跡は確認できなかった。周辺及び柱穴内から遺物は出土していない。

SB3（図版 7・17・41）　4B 区に位置する。遺構の検出はⅢｂ層上面で行った。桁行 1 間、梁間 1 間の側柱建物で、東西棟である。床面積は 5.10m^2 である。長軸方向は N57°　W を指す。柱穴は計 4 基検出した。規模は径 0.20 ～ 0.34m、深さ 0.11 ～ 0.19m を測り、断面形はＵ字～弧状を呈する。各柱穴の覆土は灰黄色シルトと灰色粘質土を主体とする。柱痕跡は確認できなかった。周辺及び柱穴内から遺物は出土していない。

D　溝 状 遺 構

SD6（図版 7・10 ～ 12・17・43・44）　4・5・10・11B、5 ～ 10C 区に位置する。遺構の検出はⅢｂ～Ⅳａ層中で行った。SD27 と重複し、SD27 を切っている。SR1 に沿って南北方向に伸びる。検出できない部分もあったが、おおむね弧状に走る。断面形は弧状を呈する。調査区内での規模は全長 67.0m、幅 0.12 ～ 0.35m、深さ 0.08m を測る。底面や周囲には小ピットが多数検出でき、覆土が類似することから付属施設と考えられる。小ピットは径が 0.05 ～ 0.15m のものが多数を占め、断面形はＶ字状を呈する。底面で検出した小ピットは、南側の溝では両端から、北側では中央付近から多く検出できた。周囲の小ピットの配置には規則性が確認できなかった。覆土は青灰色シルトを主体とし、小ピットは地山（Ⅲｂ層）の砂をやや多く含む。遺物は 1 層（7C10 区）から弥生土器片 1 点が出土した。

SD27（図版 5・7・10・11・17・43・44）　4 ～ 6B、1 ～ 4・6・8・9C 区に位置する。遺構の検出はⅢｂ～Ⅳａ層中で行った。SB1・2、SD6・7・16、SK50・54・56 と重複し、SD7・16 を切り、SB1・2、SD6、SK50・54・56 に切られる。北側は SR1 に沿って南北方向に伸び、南側は SR1 から離れて直線的に伸びる。北側では検出できない部分もあったが、おおむね弧状に走る。断面形は弧状を呈する。規模は全長 76.0m､幅 0.15 ～ 0.56m､深さ 0.13m を測る。SD6 と同様に底面や周囲に小ピットが多数検出できた。小ピットは径が 0.05 ～ 0.15m のものが多く、断面形がＶ字状を呈する。底面で検出した小ピットは、部分的に左右交互に配置した様子が看取できる。周囲の小ピットの配置には規則性が確認できなかった。覆土は青灰色シルトを主体とし､小ピットは地山（Ⅲｂ層）の砂をやや多く含む。遺物は剝片 2 点が小ピット内（5B23 区）から出土した。

SD126（図版 11・17）　8C 区に位置する。遺構の検出はⅣａ層上面で行った。SR1 に沿って南北方向

に伸びる。断面形は弧状を呈する。規模は全長 4.0m、幅 0.11 ～ 0.35m、深さ 0.07m を測る。周囲には小ピットが不規則に検出できた。小ピットは径が 0.05 ～ 0.15m で、断面形が V 字状を呈する。覆土が類似するため、小ピットがどの溝状遺構に属するか確認できなかった。溝の底面から小ピットは検出できなかった。覆土は青灰色シルトを主体とし、周囲の小ピットは地山（Ⅲ b 層）の砂をやや多く含む。連続する溝が周辺で検出できなかったことから、部分的に構築された可能性がある。遺物は出土していない。

SD128（図版 11・17）　8C 区に位置する。遺構の検出はⅣ a 層上面で行った。SR1 に沿って南北方向に伸びる。断面形は不整形を呈する。規模は全長 1.0m、幅 0.17 ～ 0.32m、深さ 0.12m を測る。周囲には小ピットが不規則に検出できた。溝の底面には小ピットは存在しなかった。小ピットは径が 0.05 ～ 0.15m で、断面形が V 字状を呈する。覆土は青灰色シルトを主体とし、周囲の小ピットは地山（Ⅲ b 層）の砂をやや多く含む。SD126 と同様に連続する溝が周辺で検出できないことから、部分的に構築された可能性がある。遺物は出土していない。

SD149（図版 8・9・17・44）　2 ～ 5E 区に位置する。遺構の検出はⅢ b 層上面で行った。SX277・314、SD16・252・253・320、SR2 と重複し、SX277・314 を切り、SD16・252・253・320、SR2 に切られる。SK340 との新旧関係は不明である。SR2 に沿って南北方向に伸びる。断面形は弧状を呈する。調査区内での規模は全長 27.9m、幅 0.12 ～ 0.25m、深さ 0.20m を測る。溝の底面や周囲には小ピットが不規則に検出できた。小ピットの断面形は V 字状を呈する。覆土はにぶい黄色シルトを主体とし、小ピットは地山（Ⅲ b 層）の砂をやや多く含む。遺物は出土していない。

SD316（図版 2 ～ 4・6・8・17・42）　05B・C、05 ～ 03・1・2D、1・2E 区に位置する。遺構の検出はⅢ b 層上面で行った。SD320 と重複し、SD320 に切られる。SR1 の東岸に沿って伸びる。遺構の残存状況は、並走する SD317 に比して不良である。断面形は弧状を呈する。規模は全長 81.1m、幅 0.22 ～ 0.50m、深さ 0.30m を測る。溝の底面には小ピットが検出できた。小ピットの径は 0.05 ～ 0.15m を測り、北区の溝状遺構の小ピットと同規模である。小ピットの配置に規則性は確認できなかった。覆土は青灰色シルトを主体とし、小ピットは地山（Ⅲ b 層）の砂をやや多く含む。遺物は弥生土器片が 1 点出土した（04D8 区）。

SD317（図版 2 ～ 4・6・8・17・42）　05B・C、05 ～ 2D 区に位置する。遺構の検出はⅢ b 層上面で行った。SD320、SK335 ～ 338・343 と重複し、SK335 ～ 338・343 を切り、SD320 に切られる。SR1 の東岸に沿って伸びる。04D 区では、蛇行する SR1 に沿って、ほぼ直角に屈曲する。断面形は弧状を呈する。調査区内での規模は全長 82.2m、幅 0.40 ～ 0.72m、深さ 0.16m を測る。溝の底面に小ピットが検出でき、01・1D 区では周囲からも検出した。小ピットは径 0.05 ～ 0.15m を測り、北区の溝状遺構の小ピットと同規模である。小ピットの配置に規則性は確認できなかった。覆土はにぶい黄色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SD328（図版 2 ～ 4・6・17）　05B、05 ～ 03C、05 ～ 1D 区に位置する。遺構の検出はⅢ b 層上面で行った。SR1 の東岸に沿って伸びる。SD317 同様に、04D 区でほぼ直角に屈曲する。断面形は弧状を呈する。規模は全長 58.2m、幅 0.18 ～ 0.95m、深さ 0.08m を測る。溝の底面及び周囲から小ピットが部分的に検出できた。小ピットは径 0.05 ～ 0.15m で、配置に規則性は確認できなかった。覆土は灰白色シルトを主体とし、溝・小ピットともに粘性が強い。遺物は出土していない。

SD347（図版 3・17）　04C 区に位置する。遺構の検出はⅢ b 層上面で行った。SR1 の東岸に沿って伸びる。断面形は不整形を呈し、凹凸が著しい。規模は全長 15.2m、幅 0.13 ～ 0.54m、深さ 0.12m を測る。溝の底面から数基の小ピットを検出した。覆土は青灰色シルトを主体とし、溝・小ピットともに粘性が強い。遺

物は出土していない。

SD349（図版 12・17）　11・12B 区に位置する。遺構の検出はⅣ a 層上面で行った。SR1 の東岸に沿って南北方向に伸びる。断面形は弧状を呈する。規模は全長 18.0m、幅 0.21 ～ 0.30m、深さ 0.05m を測る。当初 SD6 に続く溝状遺構と想定していたが、連続しないことから別遺構とした。溝の底面や周囲には小ピットが検出できた。小ピットは径 0.05 ～ 0.15m を測る。溝の底面の小ピットは中央に位置しており、これは SD6 の北側で確認した傾向と一致する。周囲の小ピットの配置には規則性は確認できなかった。小ピットは断面形が V 字状を呈する。覆土は青灰色シルトを主体とし、小ピットは地山（Ⅲ b 層）の砂をやや多く含む。遺物は出土していない。

E　溝

SD7（図版 7・10・17）　3・4B、4 ～ 7C、6・7D 区に位置する。遺構の検出はⅢ b ～Ⅳ a 層中で行った。SX52･53、SD27、SK56 と重複し、SK56 を切り、SX52･53、SD27 に切られる。北側は 7C 区で途切れている。南側は攪乱によって壊されていた。南側では SR1 から離れる。断面形は逆台形状を呈する。規模は全長 36.7m、幅 0.60 ～ 1.10m、深さ 0.30m を測る。覆土は 5 層に分けた。灰黄褐色シルトを主体とする。遺物は南側（4B18 区）の覆土 1 層から弥生土器片 1 点（6）が出土した。

SD16（図版 7 ～ 9･17･44）　2B、2･3C、3･4D、4E 区に位置する。遺構の検出はⅢ b 層上面で行った。SB1・2、SD27・149・253、SR2 と重複し、SD149 を切り、SB1・2、SD27・253、SR2 に切られる。北東から南西方向に伸びる溝で、SR1 と SR2 の間を直行するが、東側では南に、西側では北に若干振れている。西側では SR1 方向に伸び、徐々に浅くなり途切れている。断面形はおおむね半円形状を呈する。規模は全長 30.5m、幅 0.52 ～ 0.97m、深さ 0.30 ～ 0.38m を測る。覆土は 6 層に分けた。灰黄褐色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SD17（図版 8・9・17）　4・5D 区に位置する。遺構の検出はⅢ b 層上面で行った。北東から南西方向の溝である。断面形は逆台形状を呈する。規模は全長 1.6m、幅 0.36m、深さ 0.10m を測る。覆土は単層で、浅黄色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SD252（図版 8・9・17・44）　3・4D、2 ～ 4E 区に位置する。遺構の検出はⅢ b 層上面で行った。SX254・277、SD149・253・320、SK295・299・340 と重複し、SX254・277、SD149、SK295・299 を切り、SD253・320、SK340 に切られる。南東側は調査区外へ伸びる。「コ」の字状に走る溝で、SR2 との新旧関係は明瞭ではない。断面形はおおむね逆台形状で、南側では部分的に弧状を呈する。調査区内での規模は全長 23.1m、幅 0.56 ～ 1.60m、深さ 0.25 ～ 0.34m を測る。覆土は 3 層に分けた。上層は浅黄褐色シルト、下層は黄灰色シルトで、北側では中位に白色砂を含む。遺物は出土していない。

SD253（図版 8・9・17）　4D・E 区に位置する。遺構の検出はⅢb 層上面である。SD16・149・252、SR2 と重複し、SD16・149・252 を切り、SR2 に切られる。北東から南西方向に伸びる。SD16 との新旧関係は 4D 区の土層断面で確認できたが、これ以上の伸びは検出できないことから、SD16 との接点付近で終息するものと考えられる。断面形は半円形状を呈する。規模は全長 8.5m、幅 0.80 ～ 1.45m、深さ 0.37m を測る。覆土は 3 層に分けた。上部は灰白色土を主体し、部分的に白色細砂を含む。下部は灰黄色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SD320（図版 4・6・8・9・17・44）　03 ～ 01C、01 ～ 2D、2・3E 区に位置する。遺構の検出はⅢ b 層上面で行った。SD316・317・252、SK340、SR1・2 と重複し、すべてを切っている。北東から南西方向

に伸びる。断面形は南側では逆台形状、北側では半円形状を呈する。底面はおおむね平坦であるが 2E3 区で 0.10m ほどの段があり、南側が低くなっている。調査区内での規模は全長 53.1m、幅 0.40 ～ 0.57m、深さ 0.20 ～ 0.45m を測る。覆土は単層で、北側では明黄褐色シルト、南側では青灰色シルトを主体とする。遺物は北側（1D18 区）の覆土 1 層から弥生土器片 1 点、須恵器片 2 点（198）が出土した。

SD329（図版 2・17）　05B・C 区に位置する。遺構の検出はⅢb 層上面で行った。東西方向の溝で端部は徐々に浅くなる。断面形は弧状を呈し、底面は平坦である。規模は全長 7.4m、幅 0.20 ～ 0.40m、深さ 0.05 ～ 0.10m を測る。覆土は 2 層に分けた。灰黄色シルトを主体とし、部分的に粗砂を含む。遺物は出土していない。

SD330（図版 2・3・17）　04・05D 区に位置する。遺構の検出はⅢb 層上面で行った。南北方向に伸びる溝で北側は徐々に浅くなり、南側は調査区外へと続く。断面形は逆台形状を呈し、底面は平坦である。調査区内での規模は全長 10m、幅 0.10 ～ 0.40m、深さ 0.20m を測る。覆土は 3 層に分けた。灰黄色シルト主体で、部分的に上層に粗砂、下層に灰色砂を微量含む。遺物は出土していない。

SD334（図版 3・17・44）　03・04D 区に位置する。遺構の検出はⅢb 層上面で行った。東西方向に伸びる。断面形は逆台形状を呈し、底面は平坦である。規模は全長 3.6m、幅 0.30 ～ 0.40m、深さ 0.25m を測る。覆土は 3 層に分けた。黄灰色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SD339（図版 2・17）　05C・D 区に位置する。遺構の検出はⅢb 層上面で行った。SK324 と重複し、SK324 を切っている。東西方向の溝で両端部は徐々に浅くなる。断面形は弧状を呈し、底面は平坦である。規模は全長 7.3m、幅 0.14 ～ 0.40m、深さ 0.05 ～ 0.10m を測る。覆土は単層で灰黄色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SD348（図版 3・17）　04C 区に位置する。遺構の検出はⅢb 層上面で行った。南北方向の溝で両端部は SR1 と重複し、新旧関係は不明である。断面形は半円形状である。規模は全長 3.3m、幅 0.25 ～ 0.40m、深さ 0.32m を測る。覆土は 2 層に分けた。灰黄色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

F　土　　坑

SK3（図版 18・45）　6D 区に位置する。遺構の検出はⅣa 層上面で行った。平面形は楕円形、断面形は弧状を呈する。覆土は単層で、青灰色シルトを主体とする。遺物は覆土から弥生土器片 26 点（7）が出土した。

SK13（図版 7・18・45）　4B 区に位置する。遺構の検出はⅢb 層上面で行った。平面形は円形、断面形は逆台形状を呈する。覆土は 2 層に分けた。黄灰色粘質シルトを主体とする。遺物は 1 層から弥生土器片 6 点（8）が出土した。

SK18（図版 10・18）　6C 区に位置する。遺構の検出はⅣa 層上面で行った。遺構の大部分は試掘坑 75・77T に壊されており、平・断面形は不明である。覆土は単層で、灰黄色シルトを主体とし、SK19・20 の覆土と類似する。遺物は 1 層から不定形石器 1 点（168）が出土した。

SK19（図版 10・18・45）　6C 区に位置する。遺構の検出はⅣa 層上面で行った。SK20 と重複し、SK20 を切っている。平面形は楕円形、断面形は逆台形状を呈する。覆土は単層で、灰黄色シルトを主体とする。遺物は覆土から弥生土器片 1 点、不定形石器 1 点、剝片 1 点が出土した。

SK20（図版 10・18・45）　6C 区に位置する。遺構の検出はⅣa 層上面で行った。SK19 と重複し、SK19 に切られる。平面形は長楕円形、断面形は逆台形状を呈する。覆土は単層で、灰黄色シルトを主体

とする。遺物は覆土から弥生土器片１点（9）、剝片１点が出土した。

SK50（図版 10・18・45）　5B 区に位置する。遺構の検出はⅣａ層上面で行った。SD27、SR1 と重複し、SD27 を切り、SR1 に切られる。残存部の形状から、平面形は円形と推定される。断面形は逆台形状を呈する。覆土は４層に分けた。灰色シルト～砂を主体とする。遺物は１層から弥生土器片３点が出土した。

SK54（図版 10・18・45）　5B 区に位置する。遺構の検出はⅣａ層上面で行った。SD27 と重複し、SD27 を切っている。平面形は円形、断面形は弧状を呈する。覆土は単層で、灰色砂を主体とする。遺物は覆土から弥生土器片１点、剝片１点が出土した。

SK56（図版 7・18）　4B 区に位置する。遺構の検出はⅢｂ層上面で行った。SD7・27 と重複し、SD27 を切り、SD7 に切られる。残存部の形状から、平面形は楕円形と推定される。断面形は不明である。覆土は４層に分けた。１層は青灰色シルト、２～４層は灰黄褐色の粘質土や砂質土を主体とする。遺物は出土していない。

SK131（図版 9・18・45・46）　5D 区に位置する。遺構の検出はⅢｂ層上面で行った。平面形は楕円形、断面形は逆台形状を呈する。覆土は２層に分けた。１層は青灰色シルト、２層は青灰色粘質土を主体とし、炭化物がブロック状に混入する。遺物は出土していない。

SK256（図版 18・46）　7E 区に位置する。遺構の検出はⅣｂ層上面で行った。遺構の北側は試掘坑 70T に壊されている。残存部の形状から、平面形は楕円形と推定される。断面形は弧状を呈する。上部は削平されている。覆土は単層で、青灰色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SK278（図版 19・46）　7E 区に位置する。遺構の検出はⅣｂ層上面で行った。遺構の南側は試掘坑 70T に、東側は調査区際排水溝に壊されており、平面形は不明である。残存部の形状から、断面形は半円形状と推定される。SK256 と同様に上部は削平されている。覆土は２層に分けた。１層は明青灰色シルト、２層は灰オリーブ色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SK295（図版 8・9・19・46）　3D 区に位置する。遺構の検出はⅢｂ層上面で行った。SX277、SD252 と重複し、SX277 を切り、SD252 に切られる。残存部の形状から、平面形は楕円形と推定される。断面形は弧状を呈する。覆土は４層に分けた。灰黄色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SK299（図版 8・9・19・46）　3D 区に位置する。遺構の検出はⅢｂ層上面で行った。SX254P3、SD252 と重複し、SX254P3、SD252 に切られる。残存部の形状から、平面形は楕円形、断面形は弧状と推定される。覆土は４層に分けた。灰黄色砂を主体とする。遺物は出土していない。

SK300（図版 7・19・46）　3B 区に位置する。遺構の検出はⅢｂ層上面で行った。平面形は楕円形、断面形は弧状を呈する。覆土は単層で、灰黄色シルトを主体とする。遺物は覆土から剝片１点が出土した。

SK301（図版 7・19・46）　4・5C・D 区に位置する。遺構の検出はⅢｂ層上面で行った。トレンチにより、中央を壊されている。平面形は長楕円形、断面形は箱状を呈する。覆土は６層に分けた。それぞれ灰黄色のシルトや砂質土を主体とする。遺物は４層から石鏃１点（125）が出土した。

SK321（図版 5・19・47）　01B 区に位置する。遺構の検出はⅢｂ層上面で行った。残存部の形状から、平面形は不整楕円形と推定される。断面形は階段状を呈する。覆土は４層に分けた。１層は青灰色シルト、２～４層は粘質土を主体とする。遺物は出土していない。

SK324（図版 2・19・47）　05C 区に位置する。遺構の検出はⅢｂ層上面で行った。SD339 と重複し、SD339 に切られる。残存部の形状から、平面形は不整楕円形と推定される。断面形は逆台形状を呈する。底面は平坦である。覆土は６層に分けた。灰黄色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SK326（図版4・20・47）　02D区に位置する。遺構の検出はⅢb層上面で行った。SI318P18と重複し、SI318P18を切っている。平面形は不整形、断面形は弧状を呈する。覆土は単層で、青灰色粘質土を主体とする。遺物は出土していない。

SK327（図版4・20・47）　02D区に位置する。遺構の検出はSI318の床面で行った。SI318と重複し、SI318を切っている。平面形は円形、断面形は弧状を呈する。覆土は7層に分けた。1・2層は暗灰黄色シルトを主体とし、3～7層にはSI318の炉の覆土の1部が流れ込んでいた。遺物は1～4層から10～13を含む弥生土器片203点が出土した。

SK333（図版3・20・47）　04D区に位置する。遺構の検出はⅢb層上面で行った。平面形は長楕円形、断面形は弧状を呈する。覆土は2層に分けた。灰黄色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SK335（図版6・20・47）　1D・E区に位置する。遺構の検出はⅢb層上面で行った。SD317と重複し、SD317に切られる。残存部の形状から、平面形は楕円形、断面形は弧状と推定される。覆土は2層に分けた。青灰色粘質土を主体とし、SK336・351の覆土と類似する。遺物は出土していない。

SK336（図版6・20・48）　01D区に位置する。遺構の検出はⅢb層上面で行った。SD317と重複し、SD317に切られる。残存部の形状から、平面形は楕円形と推定される。断面形は弧状を呈する。覆土は2層に分けた。青灰色粘質土を主体とし、SK335・351の覆土と類似する。遺物は出土していない。

SK337（図版3・20・48）　04D区に位置する。遺構の検出はⅢb層上面で行った。SD317と重複し、SD317に切られる。平面形は楕円形、断面形は弧状を呈する。覆土は4層に分けた。灰青色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SK338（図版3・21・48）　04D区に位置する。遺構の検出はⅢb層上面で行った。SD317と重複し、SD317に切られる。平面形は長楕円形を呈する。残存部の形状から、断面形は逆台形状と推定される。覆土は2層に分けた。黄灰色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SK340（図版8・21・48）　2・3E区に位置する。遺構の検出はⅢb層上面で行った。SD149・252・320と重複し、SD252を切り、SD320に切られ、SD149との新旧関係は不明である。平面形は長楕円形、断面形は逆台形状を呈する。覆土は3層に分けた。黄色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SK341（図版8・21・48）　2C・D区に位置する。遺構の検出はⅢb層上面で行った。平・断面形は不整形を呈する。覆土は単層で、青灰色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SK342（図版4・21・48）　03D区に位置する。遺構の検出はⅢb層上面で行った。平面形は長楕円形、断面形は弧状を呈する。覆土は単層で、青灰色粘質土を主体とする。遺物は出土していない。

SK343（図版8・21・48）　2D区に位置する。遺構の検出はⅢb層上面で行った。SD317と重複し、SD317に切られる。残存部の形状から、平面形は楕円形と推定される。断面形は半円形状を呈する。覆土は2層に分けた。青灰色の粘質土や砂質土を主体とする。遺物は出土していない。

SK346（図版4·7·21·48）　01·02D区に位置する。遺構の検出はⅢb層上面で行った。トレンチにより、南側を壊されている。残存部の形状から、平面形は長楕円形と推定される。断面は弧状を呈する。覆土は2層に分けた。1層は青灰色粘質土と砂の互層で、2層は砂を主体とする。遺物は出土していない。

SK350（図版4・21・49）　02D区に位置する。遺構の検出はⅢb層上面で行った。トレンチによって北側は壊されている。SI318と重複し、SI318を切っている。平面形は不整形である。断面は弧状を呈する。覆土は単層で、明黄褐色粘質土を主体とする。遺物は覆土から14～16を含む弥生土器片16点が出土した。

SK351（図版6・21・49）　1E区に位置する。遺構の検出はⅢb層上面で行った。平面形は楕円形、断

面形は半円形状を呈する。覆土は２層に分けた。青灰色粘質土を主体とし、SK335･336 の覆土と類似する。遺物は出土していない。

G　自 然 流 路

SR1（図版 49）　北区では西側を、南区では中央を南北方向に縦断している。蛇行しているため、3・4B 区で一旦調査区外へと逸れるが、2B 区から再び現れる。断面形は全体をとおしてほぼ逆台形状を呈する。調査区内での全長は約 127m を測る。幅は、北区では西岸が調査区外であるため確認できないが現況で約 10m を測り、南区では約 22m である。遺物の出土は土層断面Ｂ（6B・C 区）付近が最も多く、それ以外では希薄である。層位別では８・９層から最も多く出土した。遺物のほとんどは弥生土器片である。SR1 は３か所の土層断面で堆積状況を確認した。

土層断面Ａ（図版 22･49）　9B･C 区南側の土層断面である。幅 6.7m、深さ 1.2m、底面標高 14.4m を測る。上部はⅡ b2 層がおおむね水平に堆積しており、平面プランの検出はⅣ a 層上面で行った。覆土は８層に分けた。1・2・4 ～ 6・8 層はレンズ状に堆積している。1 ～ 6 層間に混入する灰黄色シルトブロックはⅡ c 層に由来すると推測される。5 層は暗紫灰色粘質土で炭化物を多く含み、SR1 のすべての土層断面で比較的明瞭に確認できたため、流路内堆積土の鍵層とした。8 層は東岸からの流れ込みである。遺物は剝片や、摩耗・風化が著しい弥生土器片が各層から少量出土した。

土層断面Ｂ（図版 22･49）　6B･C 区北側の土層断面である。幅 7m、深さ 1.4m、底面標高 14.6m を測る。上部はⅡ b2 層がおおむね水平に堆積しており、平面プランの検出はⅣ層上面で行った。覆土は９層に分けた。2・5・6 層はレンズ状に堆積している。4・6・8 層は東岸からの流れ込みである。3・7・9・10 層は西岸からの流れ込みである。覆土中に混入する灰黄色シルトブロックはⅡ c 層に由来すると推測される。Ⅱ c 層は８層の上部に流れ込むことを確認した。5 層に含まれる炭化物は土層断面Ａほど顕著ではないが、ほかの層と比べるとやや多い。遺物は弥生土器片が各層から出土し、特に 8･9 層から多量に出土した。9･10 層は宇津ノ台式土器が多い傾向にあり、そのほかは天王山式土器を主体とする。6B17 区では９層から、1 個体分の土器片がまとまって出土した（24）。

土層断面Ｃ（図版 23･49）　02B ～ E 区北側の土層断面である。幅 9.7m、深さ 0.6m、底面標高 14.6m を測る。南区では西岸が確認でき、SR1 が平均して 10m 前後の幅を持つことが判明した。北区に比べ浅い。上部はⅡ b2 層がおおむね水平に堆積し、平面プランの検出はⅢ b 層上面で行った。覆土は７層に分けた。1・2・5・6 層はレンズ状に堆積している。8 層は東岸からの流れ込みである。7・9 層は西岸からの流れ込みである。5 層は、暗紫灰色土を中量含むが主体は青灰色シルトで、炭化物は土層断面Ｂより少ない。遺物は弥生土器片と剝片が９層からやや多く出土した。出土土器は天王山式土器を主体とする。

SR2（図版 23・49）　3 ～ 5E 区において、SR2 の西岸を検出した。調査区内での全長は 27m、幅 3m、深さ 0.5m、底面標高 15.3m を測る。上部はⅡ b2' 層がおおむね水平に堆積し、平面プランの検出はⅢ b 層上面で行った。覆土は９層に分けた。1・4・5 層は西岸からの流れ込みである。SR1 の覆土との対応は不明であるが、2 層は炭化物を多量含むことから、SR1 の 5 層に相当する可能性がある。全体的に粘質土を主体とし、底面も粘質土である。遺物は７・９層から摩耗・風化が著しい弥生土器片が数点出土したのみである。

第Ⅴ章　遺　　物

1　遺物の概要

遺物は収納箱（59 × 38.5 × 15cm）7 箱分が出土した。遺物のほとんどが弥生時代中期後半～後期前半に帰属するものである。種別は土器約 2,000 点、石器 211 点、金属製品 1 点、ガラス小玉 1 点である。そのほか、縄文土器、須恵器、鉄滓、中・近世陶磁器などが出土した。

弥生土器は大半が小破片で、器形や文様帯を把握できるものは少ない。時期は後期の天王山式が多く、中期の宇津ノ台式がそれに続く。また東北系の土器を主体とする。器種は甕・壺・ミニチュア土器があり、甕が多数を占める。石器は剝片石器が多数を占め、石鏃 5 点、石鏃未成品 2 点、石錐 1 点、石匙 3 点、箆状石器 3 点、箆状石器未成品 4 点、両極石器 5 点、不定形石器 46 点、石核 7 点、砥石 3 点、凹石 1 点、敲石 1 点、器種不明（破損品）2 点、剝片・砕片 128 点が出土した。石質は頁岩を主体とする。頁岩については［秦 2001］に従い、頁岩 1（いわゆる「半透明の頁岩」）と頁岩 2（そのほかの頁岩）に分類した。

遺物はグリッド別には北区の 4 ～ 7B ～ D 区、南区の 03D・04B・06C 区、層位的にはⅡ b2 層から多く出土した。自然流路内は 05・02・2・6・7B、05・04C 区付近の 6・8 層からまとまって出土した。また、6・7B 区の流路 9・10 層からも多くの弥生土器片が出土した。なお、遺構内から出土した遺物は少量であった。

2　遺 物 各 説

A　弥 生 時 代

1）弥 生 土 器

本遺跡出土土器の器種は甕が圧倒的に多く、壺・ミニチュア土器が少量混ざる。分類は器種に関わらず一括して行う。型式・文様ごとに分類し、両者の組み合わせによりその傾向を分析したい。型式の分類に関しては、砂山遺跡［野田 2003］を参考に行った。破片資料が多いため、器形分類は行わない。

分　　類

（型　　式）

Ⅰ群　砂山 1・2 群［野田 前掲］に相当する土器群

Ⅱ群　砂山 3・4 群［野田 前掲］に相当する土器群

Ⅲ群　型式不明の土器群

（文　　様）

1 類　重菱形文を持つもの。

2 類　平行沈線文と鋸歯状文を組み合わせた文様を持つもの。

3 類　平行沈線文と連弧文を組み合わせた文様を持つもの。

4 類　区画文としての交互刺突文を持つもの。

5 類　縄文と弧線文を組み合わせた文様、あるいはそれに横位の沈線が加わるもの。

６類　沈線のみ、あるいはそれに刺突[1)]・縄文が加わるもの。

７類　縄文のみ施されるもの。

８類　ナデやハケ調整のみで無文のもの。

各　　説

SI318FP1（図版 24・50 － 1）　ミニチュア土器の胴～底部である。1 層から出土した。胎土が粗く、焼成が不良であり、状態は良くない。ナデにより調整される。断面に輪積が見られないことから、手づくねによって製作されたと推測される。Ⅲ群８類に属する。

SX52・P201（図版 24・50 － 2）　甕の口縁部である。SX52 の 1 層と P201（4B19 区）の 1 層から出土した破片が接合した。口縁部は頸部から外反する。内・外面はハケにより調整され、外面には篦描き沈線による文様が描かれる。また、篦状工具によると推測される横長の刺突が横位に巡っている。Ⅰ群６類に属する。

SX53（図版 24・50 － 3 ～ 5）　3 は甕の口縁部、4・5 は甕の胴部である。1 層から出土した。3 の口唇部はハケ調整により面取りされる。外面には斜位の刻みと交互刺突が施される。Ⅱ群４類に属する。4 は内・外面がハケにより調整される。5 は外面に縄文 RL が横位に施される。内面は摩滅し、土器の中に埋没した植物質のものが炭化し、それが圧痕となって確認できる。4 はⅢ群８類、5 はⅢ群７類に属する。

SD7（図版 24・50 － 6）　甕の胴部である。1 層から出土した。外面には縄文 L が横位に施され、内面はハケにより調整される。Ⅲ群７類に属する。

SK3（図版 24・50 － 7）　甕の胴～底部である。1 層から出土した。外面は縄文 LR が横位に施され、底部はハケにより調整される。Ⅲ群７類に属する。

SK13（図版 24・50 － 8）　甕の底部である。2 層から出土した。外面はハケにより調整される。Ⅲ群７類に属する。

SK20（図版 24・50 － 9）　甕の胴部である。1 層から出土した。内・外面はハケにより調整される。外面には沈線が見られる。Ⅲ群８類に属する。

SK327（図版 24･50 － 10 ～ 13）　10･11 は甕の口縁部、12 は甕の胴部、13 は胴～底部である。10 は 1･2 層、11 は 2 層、12 はⅡｃ層と 1・2 層、13 は 1 ～ 4 層から出土した。4 点は胎土などから同一個体と考えられる。胴部が張り出し頸部ですぼまり口縁部が外反する器形である。口唇部には縄文 LR が横位に施される。外面は頸部が無文帯になるほか、口縁部付近は縄文 LR が縦位、胴～底部は横位に施される。内面はハケにより調整される。また、胴部には補修孔が穿たれている。Ⅱ群７類に属する。

SK350（図版 24・50 － 14 ～ 16）　14 は甕の頸部、15・16 は甕の胴部である。1 層から出土した。3 点は胎土などから同一個体と考えられる。14 は断面が緩やかに屈曲しており、口縁部が外反する器形である。15・16 は外面に縄文 RL が斜位に施される。14 ～ 16 はⅢ群７類に属する。

SR1 ２層（図版 24・50 － 17 ～ 22）　17 は甕の口縁部、18 ～ 20 は甕の胴部、21 は壺の肩部、22 は壺の底部である。17 は口唇部に縄文 RL が施される。内･外面はハケにより調整され、内面のハケメの方が深い。Ⅲ群８類に属する。18 は外面に 3 条同時施文の沈線が横位に 2 列描かれ、その間を 3 条同時施文の沈線が鋸歯状に描かれる。Ⅰ群２類に属する。19 は外面に 1 条の沈線が横位に描かれる。Ⅲ群６類に属する。

1)「刺突」は断面形が U 字状でやや深く、「押圧」は断面形が皿状で滑らかに施されたものとした。現時点でそれが型式学的な差なのか解明されていないが、本報告では両者を使い分けている。

20は外面に縄文RLが横位に施され、また外面に籾痕が確認できる（図版50）。Ⅲ群７類に属する。21は外面に地文として縄文LRが横位に施され、横位の沈線と弧状の沈線が巡り、その下に上開きの連弧文が描かれる。Ⅱ群３類に属する。22は立ち上がりが緩やかであることから、胴部の張る壺と推定される。外面は底面付近まで縄文RLが横位に施される。Ⅱ群７類に属する。

SR1 ４層（図版24・50－23）　甕の口縁部である。口縁部に隆帯を貼り付け、頂部に刻みが施される。平行する２条の沈線が描かれる。内・外面はハケにより調整され、内面のハケメの方が深い。Ⅰ群６類に属する。

SR1 ７層（図版24・50－24～26）　24は口縁～底部、25・26は甕の口縁～胴部である。24は底部から胴部が大きく張り出し、頸部でややすぼまり、口縁部が外反する。口唇部は縄文LRが横位に施される。外面は頸部が無文帯となるほか、縄文LRが横位に施され、内面は口縁部に縄文LRの圧痕が帯状に施される。Ⅱ群７類に属する。25は頸部が「く」の字状に屈曲し、口縁部が外反する。内・外面はハケにより調整される。26は頸部が緩やかに屈曲し、口縁部が外反する。口唇部はハケ調整により面取りされる。内・外面はハケにより調整される。25・26はⅢ群８類に属する。

SR1 ８層（図版24・50－27～45）　27～31・41は甕の口縁部、32～40・42・43は甕の胴部、44・45は甕の底部である。

27・28・32～34は胎土などから同一個体と考えられる。頸部はすぼまり、口縁部は外反する。内・外面には深いハケメが見られる。ハケ調整の後、２条同時施文の沈線が描かれる。口唇部には、縄文Ｌの圧痕が蛇行状に施される。34では下位に沈線で区画された無文帯が見られる。35は外面上位に深いハケメが見られ、２条同時施文の沈線が鋸歯状に描かれ、沈線の下位は無文帯となる。36・37は胎土などから同一個体と考えられる。内・外面はハケにより調整され、２条同時施文の沈線が横位に描かれる。38は外面に深いハケメが見られ、２条同時施文の沈線が斜位に描かれる。27・28・32～38はⅠ群２類に属する。29・30・39は胎土などから同一個体と考えられる。口縁部は外反する。内・外面には深いハケメが見られる。ハケ調整の後、２条同時施文の沈線が描かれる。口唇部には、縄文Ｌの圧痕が蛇行状に施される。31は口縁部が緩やかに外反する。口唇部には斜位の刻みが施される。内・外面はハケにより調整され、外面に横位の沈線が描かれる。40は内・外面にハケ調整が見られ、外面に２条同時施文の沈線が横位に描かれる。29～31・39・40はⅠ群６類に属する。

41は外面下部にわずかに沈線が確認できる。Ⅲ群８類に属する。42は地文に縄文RLを斜位に施しており、下開きの弧線文が描かれる。Ⅱ群５類に属する。43は縄文RLが斜位に施される。Ⅲ群７類に属する。44は断面にススが付着していることから、破損した後に被熱している。45は44の底面が平らであるのに対し、やや丸みを持つ。44・45はⅢ群８類に属する。

SR1 ９層（図版24・25・50・51－46～71）　46は小型土器の胴～底部、47～50・57～62は甕の口縁部、51～56・63～69は甕の胴部、70・71は甕の底部である。

46は立ち上がりが急であることから、筒形になる可能性がある。内・外面はハケにより調整され、３条の平行する沈線が巡り、上開きの弧線文が描かれる。Ⅲ群６類に属する。

47は口縁部が短く外反し、口唇部には斜位の刻みが施される。内・外面はハケ調整され、内面に深いハケメが見られる。48は口唇部に連続した押圧が施され、外面は２条同時施文の沈線によって区画し、口縁部を無文帯としている。内面は口縁部に横位の沈線が１条巡る。54は外面に密に沈線が描かれる。一部沈線間に縄文が確認できるが、撚りは不明である。47・48・54はⅠ群６類に属する。50～52は胎土

などから同一個体と考えられる。52は4層から出土した破片と接合した。器形は胴部がやや張り、頸部で緩やかにすぼまり、口縁部は「く」の字状に外反する。外面は口縁部に刻みが施され、横位の沈線によって文様帯が区画される。文様は沈線による重菱形文が描かれ、菱形の鋭角の頂点には縦長の刺突が施される。胴部下位には連続する横長の刺突が横位に巡る。50～52はⅠ群1類に属する。49は口縁部が短く外反し、端部は折り返し気味に反っている。3条同時施文の沈線が横位・鋸歯状に描かれる。53には2条同時施文の沈線が横位・鋸歯状に描かれる。49・53はⅠ群2類に属する。55・56は胎土などから同一個体と考えられる。外面は深いハケメにより調整され、その後、縄文LRが横位に施され、平行する沈線が4条描かれる。Ⅰ群7類に属する。

57は口縁部に連続した縦長の刺突が施され、2条同時施文の沈線により区画される。沈線の下位には縄文LRが横位に施され、下開きの連弧文が描かれる。内面は外面の刺突から半単位ずらした位置に縦長の押圧が連続して施される。58は口縁部が外反し、端部がやや内湾気味になる。口唇部には縦位の刻みがわずかに確認できる。外面には指頭圧痕のような押圧が連続し、押圧と押圧の間が瘤状の突起となっている。突起の中央には縦に刻みが施される。その下位には縄文RLが横位に施され、2条同時施文の沈線と下開きの連弧文が描かれる。67は外面に平行する3条の沈線と弧線が描かれる。57・58・67はⅡ群3類に属する。59は外面の口縁部に連続した縦長の刺突が施され、2条同時施文の沈線により区画される。内面の口縁部は外面の刺突から半単位ずらした位置に縦長の押圧が連続して施される。63・64は胎土などから同一個体と考えられる。外面は縄文LRが横位に施され、沈線が横・斜位に描かれる。65・66は胎土などから同一個体と考えられる。胴部には縄文LRが横位に施され、沈線が2条平行し、その下位に上開きの弧線文が描かれる。68は外面に横位・弧状の沈線によって半円形状の区画が作られ、区画内には縄文LRが横位に充填されている。69は外面に弧状の沈線が描かれ、撚糸文が施される。59・63～66・68・69はⅡ群5類に属する。60はやや外反する口縁部で、端部が肥厚している。口唇部には沈線が横位に巡る。外面は肥厚した部位に連続する斜位の押圧が施され、その下に横位の沈線が描かれる。地文は縄文LRが横位に施され、上開きの弧線文が描かれる。内面の肥厚した部位には縄文LRの圧痕が縦位に施される。61は口縁部が受け皿状に開く器形である。外面には縄文RLが横位に施され、内面には深いハケメが見られる。60･61はⅡ群7類に属する。62は口縁部が外反する。内･外面はハケにより調整される。Ⅱ群8類に属する。70は反り返るように立ち上がるので、底面と胴部の境界が明瞭である。内・外面はハケにより調整される。71は緩やかに立ち上がる器形で、内面中央が盛り上がる。内・外面はハケにより調整される。70・71はⅢ群8類に属する。

SR1 10層（図版25・51－72～88）　72・73・78・79は甕の口縁部、74～77・80～84は甕の胴部、85～88は甕の底部である。

72は9層から出土した破片と接合した。口縁部は外反し、口唇部には縄文RLが横位に施される。外面は口縁部が無文帯となり、頸部以下に4条同時施文の沈線が横位・鋸歯状に描かれる。73～77は胎土などから同一個体と考えられる。胴部が張り、頸部がややすぼまり、口縁部が外反する器形である。口唇部には縦位の押圧が連続して施される。外面の口縁部は無文帯となり、胴部は2条または3条同時施文の沈線が、横位・鋸歯状に描かれる。胴部下半にはやや深いハケメが見られる（77）。72～77はⅠ群2類に属する。

78は内・外面の口縁部に内面と外面で半単位ずらして縦位の押圧が連続して施される。外面は押圧の下位に交互刺突文が描かれ、頸部が無文帯となる。80は外面に交互刺突文が描かれ、その下位に3条同

時施文の沈線が斜位に描かれる。78・80はⅡ群４類に属する。79は口縁部が外反する。外面は無文帯となり、頸部に横位の沈線が１条見られる。Ⅲ群６類に属する。81は縄文LRが横位に施され、横位の沈線と下開きの連弧文が描かれる。Ⅱ群３類に属する。82には縄文RLが斜位に施され、２条の平行沈線が描かれる。Ⅱ群６類に属する。83にはやや深いハケメが横･縦位に見られ、沈線が横位･弧状に描かれる。Ⅱ群５類に属する。84は胴部が張り出し、頸部ですぼまる器形である。内･外面はハケにより調整される。86は９層から出土した破片と接合した。内・外面はハケにより調整される。87は立ち上がりの角度が緩やかである。大きく胴部の張る器形となるため、壺の可能性もある。また、断面にススが付着していることから、破損後に被熱している。88は内・外面にやや深いハケメが見られる。底面の一部が窪んでいる。84・86～88はⅢ群８類に属する。85は外面に縄文RLが横位に施される。Ⅲ群７類に属する。

包含層 Ⅱb2層（図版25・51－89～104）　93～96は甕の口縁部、89～92・97～103は甕の胴部、100は壺の胴部、104は甕の底部である。

89は外面に２条同時施文の沈線が横位に、沈線１条が斜位に描かれる。90は外面に横位と鋸歯状の沈線が描かれる。89・90はⅠ群２類に属する。91は外面に平行する横位の沈線が２条描かれる。92は外面に２条同時施文の沈線が横位に描かれる。91・92はⅠ群６類に属する。93は内湾する波状口縁となり、口縁部内･外面に縦位の連続する押圧が施される。外面には、横位の沈線の直下に波状の沈線が描かれる。95は口縁部に隆帯が貼り付けられる。隆帯の中央部には弧状の沈線が描かれる。96は95と同様に口縁部に隆帯が貼り付けられる。97には斜位の強めのハケメが確認でき、横位の沈線が描かれる。98には横・斜位の沈線が描かれる。93・95～98はⅡ群６類に属する。94は口唇部に縄文LRが横位に施される。口縁部には、指頭圧痕のような皿状の押圧が連続して施される。Ⅱ群８類に属する。99は波状の隆帯間に刺突が施され、交互刺突文となっている。Ⅱ群４類に属する。100には縄文RLが横位に施され、横位と弧状の沈線が描かれる。101には２重の沈線によって縦長の不整楕円形が描かれ、その中は縄文RLが横位に充填される。100･101はⅡ群５類に属する。102は横位と弧状の沈線が描かれる。Ⅲ群６類に属する。103は内・外面がハケにより調整され、内面に強めのハケメが確認できる。104は内・外面がハケにより調整される。103・104はⅢ群８類に属する。

包含層 Ⅲa層（図版25・51－105～114）　105～113は甕の胴部、114は甕の底部である。105・106には縄文RLが横位に施され、２条の沈線が描かれる。107には縄文RLが横位に施され、弧状の沈線が描かれる。108には縄文RLが斜位に施され、横位の沈線が描かれる。105～108はⅡ群５類に属する。109の外面は横位の沈線によって区画され､上位に弧線､下位に斜位の沈線が施される。Ⅱ群６類に属する。110は外面に横位の沈線が描かれる。Ⅲ群６類に属する。111は外面に縄文LRが縦位に、112は縄文RLが斜位に､113は縄文RLが横位に施される。111～113はⅢ群７類に属する。114の外面上位は斜位のハケ、下位は横位のハケで調整される。Ⅲ群８類に属する。

試掘トレンチ（図版25･51－115～120）　115～118は甕の口縁部､119は甕の胴部､120は甕の底部である。115は口縁部が短く外反する。口唇部には縄文RLが横位に施され､外面には横位の沈線が複数条描かれる。内面の口縁部には２条同時施文の沈線が巡る。Ⅰ群６類に属する。116は口唇部に縄文RLが横位に施される。外面には平行する沈線が３条描かれ、内面は口縁部に沈線が１条巡る。Ⅱ群６類に属する。117は口縁部が外反する。口唇部には縄文RLが横位に施され、頸部付近は無文帯となる。Ⅱ群７類に属する。118はやや厚みを持つ口縁部で、無文である。120は胎土などから118と同一個体の可能性がある。内・外面はハケにより調整される。118・120はⅢ群８類に属する。119には縄文LRが横位に施され、弧状・

横位の沈線が描かれる。Ⅱ群５類に属する。

2）石　　器

石　鏃（図版 26・51 － 121 ～ 127）　すべて有茎鏃で、尖頭部が三角形のもの（121 ～ 124）と、菱形のもの（125・126）がある。

121（SX53、1 層）の尖頭部は短く、側縁は左右非対称である。123（6B17 区、Ⅱ b2 層）の尖頭部は膨らみを持ち、左側縁は鋸歯状に加工している。121・122・124 の正・裏面には素材の剝離面が残り、122（7B18 区、Ⅱ b2 層）の素材打点は基部側に、124（5B17 区、Ⅱ b2 層）は側縁側に位置する。125（SK301、4 層）は基部が長く、短い尖頭部を持つタイプである。基部には黒色の付着物が見られる。126（5C1 区、Ⅲ a 層）・127（7B11 区、Ⅱ b2 層）は未成品としたもので、側縁のみに二次加工が見られる。石質はすべて頁岩で、121・123・125・127 は頁岩 1 である。

石　錐（図版 26・51 － 128）　128（75T、②層）は棒状の石錐で先端部を欠損している。断面形はおおむね菱形で、基部の一部に自然面が残っている。石質は流紋岩である。

石　匙（図版 26・51 － 129 ～ 131）　129（6D 区、Ⅱ b1 層）の左側縁は両面から二次加工が施され、側縁中央が屈曲する。右側縁はほぼ直線で、片面からの二次加工である。130（SR1、1 層）の刃部は尖頭状で、両面からの二次加工によって側縁に刃部を作り出している。尖頭器の可能性もあるが、二次加工が側縁のみであることと、尖頭器とした場合の基部への加工が粗く不十分であることから、ここでは石匙とした。131（4D 区、Ⅱ a 層）は刃部・つまみ部とも最小限の二次加工が施されている。石質はすべて頁岩 2 である。

箆状石器（図版 26・51 － 132 ～ 137）　132（77T、②層）・134（5B25 区、Ⅱ b2 層）は基部が細身となる撥形で、裏面には大きく素材の剝離面が残る。素材の打点は基部側に位置する。正面側の剝離は急角度であるのに対し裏面側は平坦で、刃部は片刃・円刃である。133（2B25 区、Ⅱ b2 層）は側縁中央に若干膨らみを持つ短冊形である。正・裏面に大きく素材の剝離面を残す周縁加工で、素材バルブの高まりを入念に除去している。刃部は片刃で緩い円刃である。135（77T、①層）・136（7B22 区、Ⅱ b2 層）・137（5B15 区、Ⅱ b2 層）は箆状石器の未成品と考えたものである。厚手の剝片の裏面側に大まかな平坦剝離が施されている。特に素材のバルブ位置は入念に剝離されている。石質はすべて頁岩 2 である。

両極石器（図版 26・52 － 138 ～ 142）　139（8B22 区、Ⅱ b2 層）・140（6C4 区、Ⅱ b2 層）は上下一対、138（8C4 区、Ⅱ b2 層）は上下・左右二対の剝離痕が残り、141（5B19 区、Ⅱ b2 層）・142（SR1、10 層）は三辺に両極による平坦剝離が付く。140 ～ 142 は自然面や風化部分を残すことから小型礫を素材としていることが分かる。石質はすべて頁岩で、139・140・142 は頁岩 1 である。

不定形石器（図版 26・27・52 － 143 ～ 168）　出土した不定形石器は、抉入状の刃部を有するいわゆる「抉入石器」（143 ～ 146）、素材の周縁に二次加工により弧状・直線状の刃部を作り出すいわゆる「スクレイパー」（147 ～ 157）、使用の結果と考えられる微細剝離が見られるもの（163 ～ 168）がある。全 46 点の不定形石器のうち抉入石器が 4 点と目立つ。

143（5C9 区、Ⅱ b2 層）・144（77T、②層）・146（77T、②層）は素材の形状を活かし抉入部を作り出す。145（4C23 区、Ⅱ b2 層）の両側縁には小型の剝離が連続し、右側縁には大まかな剝離により抉入部が作り出される。また左側縁の一部は鋸歯状となる。石質はすべて頁岩 2 である。

147 ～ 152 は素材の周縁に二次加工が施される。147（7D 区、Ⅱ b2 層）・148（77T、Ⅰ' 層）は不連続な中型の急角度剝離が石器周縁の多くに施される。149（6C21 区、Ⅱ b2 層）・150（5B25 区、Ⅱ b2 層）・151（6E 区、

Ⅱb2層）・152（5B14区、Ⅱb2層）・160（SR1、6層）・162（5C3区、Ⅱb2層）は小～中型の急角度剥離が縁辺や下端の一部に比較的連続して付く。153（4C5区、Ⅱb2層）・155（7B区、Ⅱb1層）・157（2B14区、Ⅱb2層）は側縁の一部に小型の急角度剥離が連続する。また、157の下端には抉入部がある。154（5B18区、Ⅱb2層）は側縁に中型の剥離が浅く施される。156（6B21区、Ⅱb2層）は小礫から剥片を作り出し、鋭利な縁辺に小型で浅い剥離を施している。158（5B13区、Ⅱb2層）・161（8B11区、Ⅱb2層）は縁辺の一部に二次加工が付く。159（5B25区、Ⅱb2層）は厚手の剥片を利用し、下辺に剥離を施し、右側縁の急角度剥離面の接点を先鋭にしている。錐の可能性がある。石質は152が流紋岩、156が頁岩1、161が凝灰岩で、ほかは頁岩2である。

163～168は側縁部や下辺部に微細剥離が見られる。163（4B24区、Ⅱb2層）は右側縁と左側縁の上半に、164（4C5区、Ⅱb2層）・165（75T、②層）・166（6B22区、Ⅱb2層）は右側縁に、167（4C14区、Ⅲa層）・168（SK18、1層）は左側縁にそれぞれ微細剥離が見られる。石質は166が頁岩1、ほかは頁岩2である。

砥　石（図版27・52－169～171）　正・裏・側面などに砥面や擦痕が見られるものを砥石とした（169～171）。169（SI318、1層）の右側縁部には、溝状の磨痕が4条見られる。170（04D8区、Ⅱc層）は正面の砥面に細かい多数の擦痕が見られる。また裏面の中央部に溝状の磨痕が1条見られる。171（2E区、撹乱）は正面の中央部に数条の擦痕が見られる。石質は169が凝灰岩、170が安山岩、171は砂岩である。

凹　石（図版27・52－172）　172（75T、①層）は正・裏面の中央に横長の窪みが見られる。上部は欠損している。石質は安山岩である。

敲　石（図版27・52－173）　173（5C19区、Ⅱb2層）は正面に磨痕、上・下端部と右側面に敲打痕が見られる。石質は砂岩である。

石　核（図版27・28・53－174～178）　剥片剥離作業中の核、または剥片剥離後の残核などを石核とした。出土した石核は板状のものが目立つ。

174（2E区、撹乱）は上・下端部が衝撃により潰れていることから、両極打法により剥離作業が行われている。175（5C12区、Ⅲa層）は自然面側の周縁を剥離し、これを打面として正面側を剥離したもので、亀甲状を呈する。176（5B25区、Ⅱb2層）・177（6C17区、Ⅱb2層）は大型の剥離痕が全面を覆うが、前者は左側面の剥離痕が、後者は裏面下辺からの剥離痕が最終段階の作業痕跡と考えられる。178（7B24区、Ⅱb2層）は厚手の剥片を素材とし、正面の上・下辺から剥離作業が行われている。石質は174が石英で、ほかはすべて頁岩2である。

接合資料（図版28・29・53・54－179～194）　接合関係は5点の資料で確認できた。179は方形に荒割りした後、上面を打面として剥離作業が行われた資料で、接合した剥片（180）はこの作業に伴って剥離された剥片である。180（77T、②層）の下辺部や側縁部に微細剥離が観察できることから、石核から剥離された後、利器として使用されたと考えられる。181（SX52、1層）は180が剥離された後も、上面を打面として剥離作業が行われている。182は石核と剥片2点が接合し、185（5B25区、Ⅱb2層）から183（77T、②層）、184（5B17区、Ⅱb2層）の順に剥離された資料である。185はその後も打面転位を繰り返しながら剥離作業が行われている。186は剥片同士が接合し、石核から187（77T、②層）、188（5B14区、Ⅱb2層）の順に剥離された資料である。その後、188は右側縁に二次加工が施される。箆状石器の未成品の可能性がある。189は剥片同士が接合し、石核から190（4B14区、Ⅱb1層）、191（77T、①層）の順で剥離された資料である。190を剥離した後、180°打面転位し、191を剥離している。191は上辺部や側縁部に二次加工が施されることから、利器として使用されたものと考えられる。192は剥片同士が接合し、上辺を打面

とし連続した剝離作業で得られた資料である。石質はすべて頁岩２である。

3）金 属 製 品（図版 29・54 － 195）

195 は SI318 の１層から出土した。長さ 13.5cm、基部の幅 1.8cm、厚さ 0.9cm、先端部の幅 0.9cm、厚さ 0.4cm を測り、先端部に向かい徐々に細くなっている。腐食が進んでおり、本来は全体に数 mm ほど大きかったと考えられる。断面は長方形を呈する。基部の上面は平坦になっている。X 線写真（図版 54）を見ると、基部の断面は２回ほど折り返しているようであるが、断定はできなかった。形状から鑿（のみ）ないし鏨（たがね）と推定される。

4）ガラス小玉（図版 29・54 － 196）

196 は 9B11 区のⅡ b1 層から出土した。径 4.35 ～ 4.55mm、厚さ 2.50 ～ 2.70mm、孔径は 2.0 ～ 2.1mm を測る。透明感のある紺色を呈する。孔の周囲に平坦面があり、正面はこの面がわずかに窪んでいる。平面はわずかに歪んだ円形、断面は歪んだ楕円形を呈する。内部の気泡は孔と平行に列状に確認できる。

B　そのほかの時代（図版 29・54 － 197 ～ 201）

197 は SR1 の８層から出土した。縄文晩期の深鉢胴部片で、工字文が描かれる。198 は SD320 の１層から出土した。須恵器の甕胴部片である。外面は斜位に平行タタキが、内面は同心円あて具痕が見られる。199 は 9C 区のⅡ b1 層から出土した。珠洲焼の甕肩部片である。外面には斜位から横位の平行タタキが施される。200・201 は唐津焼の椀で、口縁部を欠く。200 は 3B21 区のⅡ a 層から出土した。内・外面に灰釉がかけられ、見込みには砂目痕が残る。201 は調査区内のⅠ層から出土した。外面の体部下位は削られ、器面には灰釉がかけられる。

第Ⅵ章　自然科学分析

新潟県村上市下新保字高田 2351-2 に所在する堂の前遺跡は、三面川左岸の沖積地に立地している。発掘調査によって、調査区の東西から自然流路を検出し、これらの流路に挟まれた区域、及び自然流路から弥生時代中期後半～後期前半の遺構・遺物が見つかっている。

本章では、弥生時代中期後半～後期前半とされる土器の年代や本遺跡内を流れる流路の堆積（水域）環境、弥生時代の燃料材の検討を目的として実施した自然科学分析調査の結果を記す。

1　試　　料

試料は、弥生土器の器面に付着した炭化物、自然流路（SR1）覆土から採取された土壌、竪穴住居（SI318）の炉（FP1）内埋積物の水洗選別によって抽出された炭化物である。以下に、各試料の概要を記す。

A　弥生土器付着炭化物

試料は、SR1 覆土中から出土した弥生土器 2 点（土器 No.24・49）であり、これらは弥生時代中期後半及び弥生時代後期前半の土器とされている。土器 No.24 から採取した試料は、甕形土器内面の胴部下半～底部付近にスス状に付着した炭化物である。炭化物は、部分的に塊状に付着する状況が観察されたが、全体的に遺存状況は不良であった。一方、土器 No.49 は、土器口縁部外面の沈線などの窪みに炭化物が多く確認され、土器 No.24 に比べ遺存状況は良好であった。

B　土 壌 試 料

試料は、SR1 を埋積する堆積物から採取された土壌である。土壌試料は、SR1 の 4 ～ 7 層に相当する堆積物から柱状に採取した塊状試料であり、プラスチック容器に保管された状態にあった。弥生時代ころの堆積環境の検討が目的とされたことから、本試料の観察及び調査担当者からの提供資料を参考とし、SR1 の 6 層とその上・下位の 5・7 層からの土壌を分析対象とした。

SR1 は、発掘調査所見によれば、砂礫を基底とし、その上位の覆土は 1 ～ 10 層に区分されている。このうち、SR1 の 5 ～ 7 層は、SR1 覆土中～下部に相当し、5 層は暗紫灰色粘質土、6 層は青灰色粘質土、7 層は青灰色砂とされている。

C　炭化物試料

試料は、SI318 FP1 の床面に相当する粘土層（図版 13、東側 ; 試料 No.5、西側 ; 試料 No.4）、粘土上位に堆積した焼土（図版 13、東側 ; 試料 No.3、西側 ; 試料 No.2）、焼土上位の覆土（図版 13、試料 No.1）の水洗選別によって抽出された炭化物である。各試料から抽出された炭化物の観察では、炭化種実などは確認されず、細～微細片の炭化材が多数確認されたのみである。分析対象とした試料は、大きさなどを考慮し抽出した炭化材 6 点（試料 No.1；2 点、試料 No.2 ～ 5；各 1 点）である。

上記した試料のうち、土器 No.24・49 の付着炭化物を対象に放射性炭素年代測定、SR1 の 5 ～ 7 層を対

象に珪藻分析、SI318 FP1 の炭化材を対象に樹種同定を行う。

2　分析方法

A　放射性炭素年代測定

炭化物などに目的物と異なる年代を持つものが付着・混入している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後、HCl による炭酸塩など酸可溶成分の除去、NaOH による腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HCl によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸･アルカリ･酸処理）。試料をバイコール管に入れ、1g の酸化銅（II）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じ切り、500℃（30 分）、850℃（2 時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにて CO_2 を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製した CO_2 と鉄･水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを 650℃で 10 時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径 1mm の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV 小型タンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に $^{13}C/^{12}C$ の測定も行うため、この値を用いて δ 13C を算出する。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1,950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma ; 68%）に相当する年代である。放射性炭素年代は、δ ^{13}C の値を用いて同位体効果の補正を行った値（補正値）と、補正前の値を併記する。

補正年代を用いて、暦年較正を行う。暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}C の半減期 5,730 ± 40 年）を較正することである。暦年較正には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02（Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer）を用いる。その際、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。暦年較正に関しては、本来 10 年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1 年単位で表す。暦年較正結果は、測定誤差 σ、2 σ（σ は統計的に真の値が 68% の確率で存在する範囲、2 σ は真の値が 95% の確率で存在する範囲）の値を示す。表中の相対比（確率分布）は、σ、2 σ の範囲をそれぞれ 1 とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

B　珪藻分析

試料を湿重で 7g 前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法（4 時間放置）の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸 600 倍あるいは 1000 倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に 200 個体以上同定・計数する（化石の少ない試料はこの限りではない）。種の同定は、［原口ほか 1998、Krammer 1992、Krammer & Lange-Bertalot 1986・1988・1991a・1991b、渡辺ほか

2005、小林ほか2006］などを参照し、分類基準は、［Roundほか1990］に従う。なお、壊れた珪藻殻の計数基準は、［柳沢2000］に従う。

同定結果は、中心類（Centric diatoms; 広義のコアミケイソウ綱 Coscinodiscophyceae）と羽状類（Pennate diatoms）に分け、羽状類は無縦溝羽状珪藻類（Araphid pennate diatoms: 広義のオビケイソウ綱 Fragilariophyceae）と有縦溝羽状珪藻類（Raphid pennate diatoms; 広義のクサリケイソウ綱 Bacillariophyceae）に分ける。また、有縦溝類は、単縦溝類、双縦溝類、管縦溝類、翼管縦溝類、短縦溝類に細分する。

各分類群の生態性については、［Vos & de Wolf 1993］を参考とするほか、塩分濃度に対する区分は［Lowe 1974］に従い、真塩性種（海水生種）、中塩性種（汽水生種）、貧塩性種（淡水生種）に類別する。また、貧塩性種については更に細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応能についても示す。産出個体数100個体以上の試料については、産出率2.0％以上の主要な種類について、主要珪藻化石群集の層位分布図を作成する。また、産出化石が現地性か異地性かを判断する目安として、完形殻の出現率を求める。堆積環境の解析にあたり、淡水生種（貧塩性種）については［安藤1990］、陸生珪藻については［伊藤・堀内1991］、汚濁耐性については［渡辺ほか2005］の環境指標種を参考とする。なお、珪藻化石の生態性区分や環境指標種群については、［Hustedt 1937-1939］や［小杉1988］も参考にする。

C　樹種同定

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡及び走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本及び独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

木材組織の名称は特徴については、［島地・伊東1982］や［Wheelerほか1998］を、日本産木材の組織配列については、［林1991］や［伊東1995・1996・1997・1998・1999］を参考にする。

3　結　　果

A　放射性炭素年代測定

土器付着炭化物の同位体効果の補正を行った測定結果（補正年代）は、土器No.24付着炭化物は2,290 ± 30yrBP、土器No.49付着炭化物は2,200 ± 30yrBPを示す（第1表）。暦年較正結果（σ）は、土器No.24

試料名	位　置	性　状	補正年代（yrBP）	δ 13C（‰）	測定年代（yrBP）	測定機関 code.
土器No24	内面胴下部～底部付近	炭化物	2,290 ± 30	− 22.88 ± 0.59	2,250 ± 30	IAAA-82443
土器No.49	口縁部外面	炭化物	2,200 ± 30	− 24.38 ± 0.75	2,190 ± 30	IAAA-82444

1）年代値の算出には、Libbyの半減期5,568年を使用。　2）BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3）付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68％が入る範囲）を年代値に換算した値。

第1表　放射性炭素年代測定結果

試料名	補正年代（yrBP）	暦年較正年代（cal）														相対比	測定機関 Code.
土器No.24 内面胴下部～底部 炭化物	2,287 ± 31	σ	cal	BC	399	−	cal	BC	360	cal	BP	2,349	−	2,310	0.840	IAAA-82443
			cal	BC	274	−	cal	BC	260	cal	BP	2,224	−	2,210	0.160	
		2σ	cal	BC	403	−	cal	BC	352	cal	BP	2,353	−	2,302	0.644	
			cal	BC	294	−	cal	BC	229	cal	BP	2,244	−	2,179	0.341	
			cal	BC	220	−	cal	BC	211	cal	BP	2,170	−	2,161	0.015	
土器No.49 口縁部外面 炭化物	2,195 ± 33	σ	cal	BC	357	−	cal	BC	284	cal	BP	2,307	−	2,234	0.648	IAAA-82444
			cal	BC	255	−	cal	BC	248	cal	BP	2,205	−	2,198	0.049	
			cal	BC	234	−	cal	BC	201	cal	BP	2,184	−	2,151	0.303	
		2σ	cal	BC	371	−	cal	BC	178	cal	BP	2,321	−	2,128	1.000	

1）計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02（Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer）を使用。
2）計算には表に示した丸める前の値を使用している。3）暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
4）統計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95%である。5）相対比は、σ、2σのそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

第2表　暦年較正結果

分　類　群	生態性			環　境	SR1		
	H.R.	pH	C.R.	指標種	5 層	6 層	7 層
Bacillariophyta（珪藻植物門）							
Araphid Pennate Diatoms（無縦溝羽状珪藻類）							
Araphidineae（無縦溝類）							
Fragilaria capucina var. gracilis（Oestr.）Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	−	3	−
Fragilaria vaucheriae（Kuetz.）Petersen	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	−	1	−
Meridion circulare（Greville）Agardh	Ogh-ind	al-il	r-bi	K,T	−	3	−
Meridion constrictum Ralfs	Ogh-ind	al-il	r-bi	K,T	−	11	−
Ulnaria ulna（Nitzsch）Compere	Ogh-ind	al-il	ind	U	−	2	1
Raphid Pennate Diatoms（有縦溝羽状珪藻類）							
Biraphid Pennate Diatoms（双縦溝羽状珪藻類）							
Amphora copulata（Kuetz.）Schoeman et R.E.M.Archibald	Ogh-ind	al-il	ind	U	−	11	1
Cymbella amphioxys（Kuetz.）Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-ph		−	5	−
Cymbella aspera（Ehr.）Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	O	−	5	1
Encyonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T	−	7	−
Encyonema mesianum（Kholnoky）D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	T	−	1	−
Encyonema silesiacum（Bleisch）D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	T	−	17	1
Gomphoneis rhombica（Fricke）Merino et al.	Ogh-ind	ind	r-bi	J	−	−	1
Gomphonema acuminatum Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,U	−	2	−
Gomphonema angustatum（Kuetz.）Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	U	−	3	−
Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,U	−	5	−
Gomphonema olivaceum var. *minutissimum* Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	U	−	1	−
Gomphonema parvulum（Kuetz.）Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	−	20	−
Gomphonema pumilum var. *rigidum* E.Reichardt et Lange-B.	Ogh-ind	al-il	ind	U	−	4	−
Gomphonema spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	2	−
Navicula viridula（Kuetz.）Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	−	1	−
Navicula spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	1	−
Craticula ambigua（Ehr.）D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	S	−	1	−
Craticula spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	1	−
Stauroneis acuta W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph		−	−	2
Stauroneis phoenicenteron（Nitz.）Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O,U	−	9	−
Stauroneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	1	−
Frustulia rhomboides var. *saxonica*（Rabh.）De Toni	Ogh-hob	ac-il	l-ph	P,O	−	1	−
Frustulia spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	1	−
Luticola mutica（Kuetz.）D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	−	3	−
Neidium ampliatum（Ehr.）Krammer	Ogh-ind	ac-il	l-ph		−	1	−
Neidium iridis（Ehr.）Cleve	Ogh-hob	ac-il	ind	O,U	−	1	−
Neidium spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	−	1
Caloneis truncatula（Grunow）	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	−	−
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA,U	1	−	−
Pinnularia borealis var. *linearis* M.Per.	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	−	−
Pinnularia gibba Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O,U	−	7	−
Pinnularia gibba var. *linearis* Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind		−	2	−
Pinnularia mesolepta（Ehr.）W.Smith	Ogh-ind	ac-il	ind	S	−	1	−
Pinnularia schoenfelderi Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RB	−	1	1
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB,S	−	2	−
Pinnularia viridis（Nitz.）Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O,U	−	4	−
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	3	5
管縦溝類							
Hantzschia amphioxys（Ehr.）Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RA,U	−	1	−
Nitzschia brevissima Grunow	Ogh-Meh	al-il	ind	RB,U	−	1	−
Nitzschia palea（Kuetz.）W.Smith	Ogh-Meh	ind	ind	S	−	8	−
Nitzschia parvuloides Cholnoky	Ogh-ind	ind	ind	U	1	4	−
Nitzschia sigmoidea（Ehr.）W.Smith	Ogh-ind	al-bi	ind	T	−	1	−
Rhopalodia gibberula（Ehr.）O.Muller	Ogh-Meh	al-il	ind	U	−	5	−
短縦溝類							
Eunotia bilunaris（Ehr.）Mills	Ogh-hob	ac-bi	ind	U	−	2	−
Eunotia biseriatoides H.Kobayasi,K.Ando & T.Nagumo	Ogh-ind	ind	ind	T	−	−	1
Eunotia minor（Kuetz.）Grunow	Ogh-hob	ind	ind	O,T	−	28	2
Eunotia pectinalis（Kuetz.）Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O,T	−	1	−
Eunotia praerupta Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB,O,T	1	1	3
Eunotia praerupta var. *bidens*（Ehren.）Grunow	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB,O,T	−	8	2
海水生種					0	0	0
海水～汽水生種					0	0	0
汽水生種					0	0	0
淡水～汽水生種					0	14	0
淡水生種					6	190	22
珪藻化石総数					6	204	22

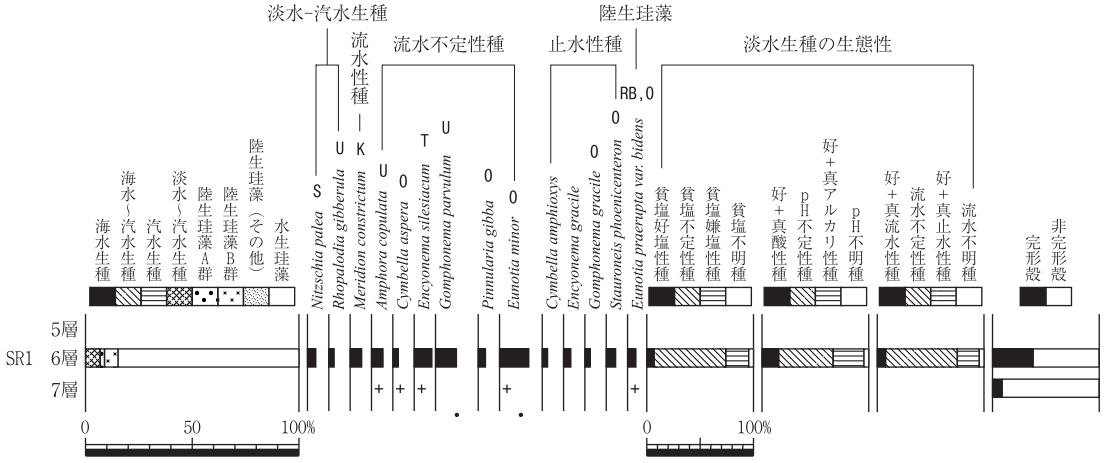
凡　例

H.R.: 塩分濃度に対する適応性	pH: 水素イオン濃度に対する適応性	C.R.: 流水に対する適応性
Euh：海水生種	al-bi：真アルカリ性種	l-bi：真止水性種
Meh：汽水生種	al-il：好アルカリ性種	l-ph：好止水性種
Ogh-hil：貧塩好塩性種	ind：pH 不定性種	ind：流水不定性種
Ogh-ind：貧塩不定性種	ac-il：好酸性種	r-ph：好流水性種
Ogh-hob：貧塩嫌塩性種	ac-bi：真酸性種	r-bi：真流水性種
Oh-unk：貧塩不明種	unk：pH 不明種	unk：流水不明種

環境指標種群

A: 外洋指標種 ,B: 内湾指標種 ,E1: 海水泥質干潟指標種［小杉 1988］、K: 中～下流性河川指標種 ,M: 湖沼浮遊性種 ,O: 沼沢湿地付着生種［安藤 1990］、S: 好汚濁性種 ,U: 広域適応性種 ,T: 好清水性種［Asai&Watanabe 1995］、R: 陸生珪藻（RA:A 群 ,RB:B 群 ,RI: 未区分）［伊藤・堀内 1991］

第 3 表　珪藻分析結果



海水－汽水－淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。
いずれも100個体以上検出された試料について示す。●は2%未満、＋は100個体未満の試料について検出した種類を示す。
<環境指標種>　K:中～下流性河川指標種　O:沼沢湿地付着生種　S:好汚濁性種　U:広域適応性種　T:好清水性種　RB:陸生珪藻B群

第８図　主要珪藻化石群集の層位分布

は calBC399-calBC260、土器 No.49 は calBC357-calBC201 である（第２表）。

B　珪藻分析

結果を第３表、第８図に示す。SR1 の６層では珪藻化石が 204 個体と産出数は比較的多かったが、５層は６個体、７層は 22 個体と少ない。６層は、完形殻の出現率は約 40％、産出分類群数は合計で 20 属 47 分類群である。以下に、珪藻化石群集の特徴を記す。

６層は、淡水域に生育する珪藻類が全体の約 80％を占める。これに付随して、淡水～汽水生種が約 10％、陸上のコケや土壌表面など多少の湿り気を保持した好気的環境に耐性のある陸生珪藻が約 10％産出する。淡水性種の生態性（塩分濃度、水素イオン濃度、流水に対する適応能）の特徴は、貧塩不定性種、pH 不定性種と真＋好アルカリ性種、流水不定性種と真＋好止水性種が優占あるいは多産する。特に多い分類群は認められず、流水不定性で沼沢湿地付着性種の *Eunotia minor*（約 15%）、流水不定性で付着性の *Gomphonema parvulum*（約 10%）、*Encyonema silesiacum*（約 10%）が比較的目立つ。また、流水性で中～下流性河川指標種の *Meridion constrictum*、流水不定性で付着性の *Amphora copulata*、沼沢湿地付着生種の *Cymbella aspera*、*Pinnularia gibba*、*Gomphonema gracile*、*Stauroneis phoenicenteron*、陸生珪藻Ｂ群で沼沢湿地付着生種の *Eunotia praerupta* var. *bidens* なども産出する。

化石の産出が少なかった５層は、*Caloneis truncatula* などの流水不定性種や *Pinnularia borealis* などの陸生珪藻、７層は好止水性の *Stauroneis acuta*、沼沢湿地付着性種の *Eunotia minor*、陸生珪藻Ｂ群で沼沢湿地付着生種の *Eunotia praerupta* やその変種の *Eunotia praerupta* var. *bidens* が産出する。

C　樹種同定

結果を第４表に示す。SI318 FP1 の炭化材のうち、４点は広葉樹のクスノキ科に同定された。なお、SI318 FP1 粘土の炭化材２点は、道管が認められたことから広葉樹と判断されたが、保存状態が悪く道管配列が観察できず、種類は不明としている。以下に、クスノキ科の解剖学的特徴などを記す。

遺構名	層　位	地　点	試料 No.	樹　種
SI318 FP1	覆土		1	クスノキ科
				クスノキ科
	焼土	西側	2	クスノキ科
		東側	3	クスノキ科
	粘土層	西側	4	広葉樹
		東側	5	広葉樹

第４表　樹種同定結果

クスノキ科　*Lauraceae*

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独または 2 ～ 3 個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1 ～ 2 細胞幅、1 ～ 20 細胞高。柔組織は周囲状及び散在状。

4　考　　察

A　弥生土器の年代観

SR1 から出土した弥生土器 2 点の放射性炭素年代測定結果に基づく暦年較正結果では、土器 No.24 は紀元前 4 世紀末～紀元前 3 世紀中ころ、土器 No.49 は紀元前 4 世紀中ころ～紀元前 3 世紀前半を示した。また、土器 No.24・49 の暦年較正結果のうち、確率分布が高い割合を示す年代においても、土器 No.24 は紀元前 4 世紀末～紀元前 4 世紀中ころ、土器 No.49 は紀元前 4 世紀中ころ～紀元前 3 世紀後半と、土器 No.24 が古い値を示す傾向にある。

なお、今回の分析対象とした土器は、考古学的な所見から弥生時代中期後半～後期前半とされている。近年行われている弥生時代の実年代の研究成果を参考とすると、北陸（石川）～東北（福島）における弥生時代中期前半は紀元前 4 ～ 2 世紀ころと考えられている［小林 2007］ことから、今回得られた暦年代はやや古い値を示している可能性がある。そのため、今回の分析結果については、各土器型式や出土状況に基づく層位的な新旧関係による検討とともに、同時期の分析事例を蓄積し、改めて評価することが望まれる。

B　堆 積 環 境

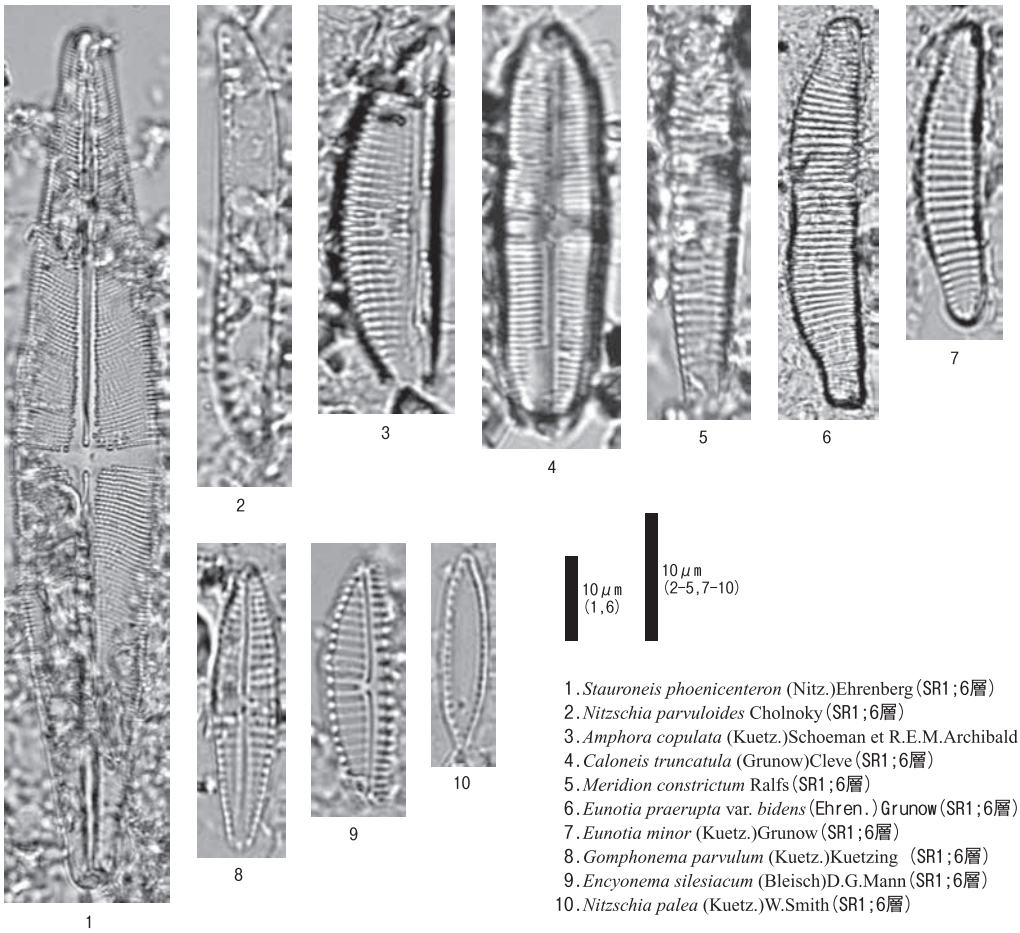
SR1 覆土下～中部の 5 ～ 7 層の珪藻分析の結果、5・7 層は珪藻化石の産出が少なく、珪藻群集による堆積環境の推定は困難であった。一方、珪藻化石が多く産出した 6 層は、淡水域に生育する珪藻類が約 8 割を占め、生態性に着目すると、沼沢湿地付着生種群を含む流水不定生種を中心に、止水性種、流水性種、陸生珪藻 B 群、淡水～汽水性種が混在するが、際立って多く検出される分類群は認められないという特徴を示した。このような様々な生態性を示す分類群が混在する群集は、混合群集とされており、低地の堆積物のほとんどの堆積物に認められることや、河川の氾濫堆積物あるいはその影響を受けて形成されたことが指摘されている［堀内ほか 1996］。

以上の珪藻群集の特徴や堆積物の観察所見から、SR1 の 6 層は河川等の氾濫などに伴う増水やあふれる流水によって形成された堆積物と推定され、確認された珪藻群集は集水域の様々な環境に生育していた珪藻類を反映していると考えられる。

C　木 材 利 用

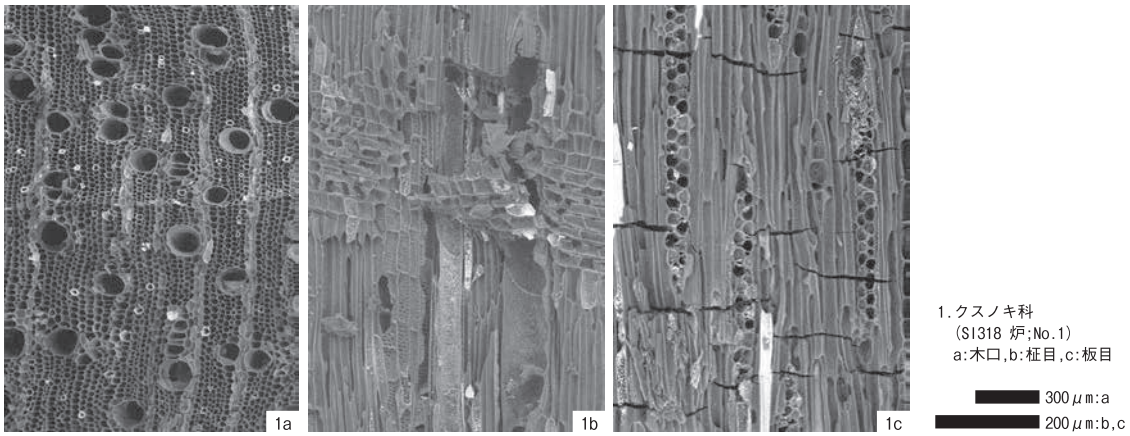
SI318 FP1 の炭化材からは、広葉樹のクスノキ科（4 点）と種類不明の広葉樹（2 点）が確認された。クスノキ科には、暖温帯常緑広葉樹林を構成するタブノキ属やニッケイ属、落葉広葉樹林中にも生育するシロダモ属やクロモジ属など、7 属 24 種がある。本地域でも常緑のタブノキ属（タブノキ属）、落葉のアブラチャン（クロモジ属）、シロダモ（シロダモ属）などが沿海地を中心に分布することから、こうした種類を燃料材などに利用した可能性がある。

本遺跡が立地する三面川流域では、現段階では弥生時代ころの古植生や木材利用に関する資料が少なく、詳細な検討は困難であるが、同じ沖積地に立地する谷地遺跡の縄文時代前期の川跡からクスノキ科の種実が検出されている（未公表資料）ほか、高柳Ａ遺跡（旧荒川町）の縄文時代の自然木（タブノキ属）や道端遺跡（旧荒川町）の縄文時代の自然木などにクスノキ科が確認されている［株式会社古環境研究所 1996、三村 2003、植田 2005］。これらの結果から、弥生時代ころにもタブノキ属を含むクスノキ科の生育が推定されるが、生育状況や木材利用状況については、今後の課題である。



1.*Stauroneis phoenicenteron* (Nitz.)Ehrenberg（SR1;6層）
2.*Nitzschia parvuloides* Cholnoky（SR1;6層）
3.*Amphora copulata* (Kuetz.)Schoeman et R.E.M.Archibald（SR1;6層）
4.*Caloneis truncatula* (Grunow)Cleve（SR1;6層）
5.*Meridion constrictum* Ralfs（SR1;6層）
6.*Eunotia praerupta* var. *bidens*（Ehren.）Grunow（SR1;6層）
7.*Eunotia minor* (Kuetz.)Grunow（SR1;6層）
8.*Gomphonema parvulum* (Kuetz.)Kuetzing（SR1;6層）
9.*Encyonema silesiacum* (Bleisch)D.G.Mann（SR1;6層）
10.*Nitzschia palea* (Kuetz.)W.Smith（SR1;6層）

第９図　珪藻化石



第10図　炭化材

第Ⅶ章　ま　と　め

1　遺　　物

A　弥 生 土 器

本遺跡から出土した土器は約 2,000 点を数え、収納箱（59 × 38.5 × 15cm）にして 5 箱分に相当する。東北地方の影響を強く受けた土器が主体となり、時期は弥生時代中期後半から後期前半である。土器の残存率は悪く、遺構からの一括性も見られない。この時期の土器は総じて残存率が悪く、遺構からの一括性が見られない傾向があり、本遺跡の主体となる天王山式が「中期説」・「後期説」に意見が分かれる所以である。「後期説」は石川氏ら［中村 1976、石川 2004］により天王山式の型式学的整理がなされ、積極的に支持する意見が出されている。本書はこれらの意見に立脚して報告するものである。

天王山式は、北は北海道から南は石川県南部まで広範囲に分布する土器であるが、近年の発掘調査により、その地方色が見いだされている。新潟県下越地方では村上市砂山遺跡で当該期の土器がまとまって出土した。石川氏はこれを砂山式とし、秋田県大曲市宇津ノ台遺跡を標識とする宇津ノ台式の系統を強く引くとする［石川 2004］。本遺跡でも天王山式に次いで宇津ノ台式が多く出土している。まずは宇津ノ台式の特徴を確認したい。県内では、新発田市山草荷遺跡で天王山式を伴わずに宇津ノ台式が出土している。滝沢・野田両氏のまとめによると、器形は口縁部が外反し、口頸部界から「く」の字に折れ、頸胴部界が不明瞭であり、胴部中央に最大径を持つ。文様帯は頸部と頸部直下に認められ、頸部には重菱形文・連続山形文、頸部直下には連続山形文のみが用いられる。また、口縁部を文様帯として、平行沈線・連続山形文を施すものもある。文様施文は比較的細いが、深く線が引かれる。内面施文が顕著であり、北陸系の小松式と折衷現象を起こすものがあるという［滝沢・野田 2002］。次に天王山式の一地方型式である砂山式の特徴を確認したい。石川氏によると、a. 頸部文様帯が発達し、そこに重菱形文を盛用する。b. 口縁部の内湾と伸びが明瞭である。c. 口縁部内面に幅狭い文様帯を設ける。d. 口縁部上端の幅狭な帯に短斜線を充たし、等間隔に斜線の向きを変える。e. 縄文 RL 原体を条が縦走するよう斜め回転施文する、という点を挙げ、砂山式 1 期は台形刺突列[1] を持つものとしている［石川前掲］。このほかにも砂山遺跡から出土した天王山式の特徴として、斜めに突き刺す交互刺突文や一般的な交互刺突文が最も残りやすい口頸部界に用いられず、頸胴部界・胴部を区画するのに用いられることなどが挙げられる［滝沢・野田 2002］。

天王山式に後続する土器群として、石川氏は福島県会津若松市屋敷遺跡の屋敷段階・福島県白河市明戸遺跡の明戸段階を挙げている。天王山式との相違点として、器形は口縁部の内湾や肥厚が目立ち、口頸部間の段や屈曲が弱くなり、口縁部の幅が広くなる。文様は口縁部の幅が広くなるのに連動して、弧線が横方向に間延びする点と、交互刺突文の退化が看取できる点が指摘される。交互刺突文の退化とは、1 条の刺突列・押圧列・縄文側面圧痕が明瞭になることや、断面円形の施文具を斜めに突き刺して D 字形の刺突文を連ねること、磨消縄文内に小刻みにジグザグ線を引くことなどが挙げられる。また、縄文のみの比

1）2 溝間に棒状工具を斜めに刺突し、刺突したまま横に移動させると、三角または台形の刺突列となり［滝沢・野田 2002］、これを台形刺突列としている。

率が高くなるのも天王山式との相違点である［石川 2000］。下越地方では、砂山５群土器や村上市滝ノ前遺跡の滝ノ前２・３群土器が屋敷・明戸段階とそれより新しい段階を含む一群である。これらを屋敷・明戸段階と比較すると、福島県いわき市周辺で確認される八幡台式の特徴である凹点文［鈴木 2002］は確認できないが、そのほかの特徴とはほぼ合致するという［滝沢・野田 2002］。

次に編年についても確認しておきたい。石川氏は天王山式の系譜について、３～４つの系譜の中で形成過程がうかがえるとしながら、その骨格を岩手県域に分布する仮称和井内式土器に据え、日本海側に関しては宇津ノ台式の影響が強いとする。また、日本海側に顕著な一定間隔で走行を変える口唇部の刻線は、北海道函館市恵山遺跡の恵山Ｃ式と共通する手法であるとする。下越地方の宇津ノ台式に関しては、秋田県域の基準資料と差異を認めながら、宇津ノ台式の地方型式とし、これを山草荷式として砂山式との峻別を図っている。天王山式については和泉段階を天王山 1a 期、能登段階を天王山 1b 期、天王山段階を天王山２期とし、その前半を砂山式１期、後半を砂山式２期として日本海側と対応させている。天王山式に屋敷･明戸段階が後続することは既述のとおりである［石川 2000］。砂山遺跡の遺物を整理した野田氏は、砂山１群を宇津ノ台式、砂山２群を山草荷式に相当させている。砂山３群土器は口縁部が肥厚しない器形で、区画文としての交互刺突文を持たない一群であり、岩手県新里村和井内東遺跡出土土器段階と能登段階を含む一群としている。砂山４群・滝ノ前１群は天王山段階である。砂山５群・滝ノ前２・３群が屋敷・明戸段階に相当することは既述のとおりである［滝沢・野田 2002］。

以上の特徴・編年を踏まえて、本遺跡出土土器を見てみたい。Ⅰ群としたものは、砂山１・２群に相当する土器群である。口縁部は外反し、口頸部が「く」の字状に屈曲するもの（32・50）が確認できる。頸胴部界が不明瞭となるもの（32・50）は確認できるが、胴部中央が最大径となるかは不明である。文様は１類とした重菱形文を描くもの（50 など）と、２類とした平行沈線と鋸歯文（連続山形文）を組み合わせたもの（18・33・49・72・73 など）が多くを占める。２類は沈線が２～４条同時に施文される。また、深いハケメが付き（27～30 など）、文様として意識しているかのようであった。Ⅰ群の中には３・４類が確認できなかった。文様施文は比較的深めの沈線による。内面に沈線が横位に巡るもの（48）もある。口縁部が微波状を呈するもの（115）は、小松式との折衷と考えられる。本遺跡のⅠ群土器は山草荷遺跡の宇津ノ台式と同様の傾向がうかがえる。Ⅱ群としたものは、砂山３・４群に相当する一群である。本遺跡では台形刺突列を持つものが１例も確認できなかったため、石川氏の砂山式１期と２期を包括している。Ⅱ群の中で古い様相を呈するものは、口縁部が短く外反し、頸部が筒状となるもの（61）だけである。そのほかは新しい様相を示す。口縁部の肥厚（60・95・96）や、内湾するもの（24・78・117 など）があり、口径が最大径となる（10・24）。文様は３類とした下開きの連弧文が目立ち（57・58・81・95）、４類とした交互刺突文はほとんどが水平に刺突されるもので、区画文として口縁端部直下に位置する（3・78・80）。口唇部には縄文の圧痕・回転施文などが施される（10・24・60・117）。また、口縁部上端に内・外面から交互に刻みや刺突を施す手法が見られた（57・59・60・78）。これは交互刺突文の手法を別の部位で表現しているとも受け取れ、交互刺突文と併用するもの（78）もある。地文は縄文 RL による条を縦走させるもの（133・135・92・15 など）が多い。Ⅱ群の中で、より新しい様相を示すものには、口縁部の幅が広くなるのに連動して、弧線が間延びしているもの（69）があり、縄文 RL 原体の回転施文から脱却し、撚糸文になっている。Ⅱ群に関しては３・４類を主体とするが、中には１類の要素を含むもの（80）なども存在する。また、砂山式の特徴を見いだせるが、北陸地方との繋がりは薄く、東北地方の狭義の天王山式に近い様相が看取できた。Ⅲ群としたものは、型式不明の土器の一群である。型式不明の土器の中には、ミニチュア土器や

小型土器（1・46）が含まれる。東北では天王山式と共伴する例があり、能登遺跡からは注口土器・高杯・蓋・筒形土器の小型のものが出土している［大越ほか1990］。県内での類例は、山元遺跡から筒形土器の小型のものが出土している［滝沢ほか2009］。

時期区分	堂の前遺跡	野　田（2003）		石　川（2004）	
	分　類	砂山・滝ノ前遺跡	東　北	日本海側	東　北
中期後半	Ⅰ群	砂山1・2群	宇津ノ台式・山草荷式	山草荷式	（仮称）和井内式
後期前半	Ⅱ群（古）	砂山3群	和井内東遺跡出土土器群 能登段階	砂山式1期	天王山1a期（和泉段階） 天王山1b期（能登段階）
	Ⅱ群（新）	砂山4群・滝ノ前1群	天王山段階	砂山式2期	天王山2期（天王山段階）
後期後半		砂山5群・滝ノ前2・3群	屋敷・明戸段階	屋敷・明戸段階	

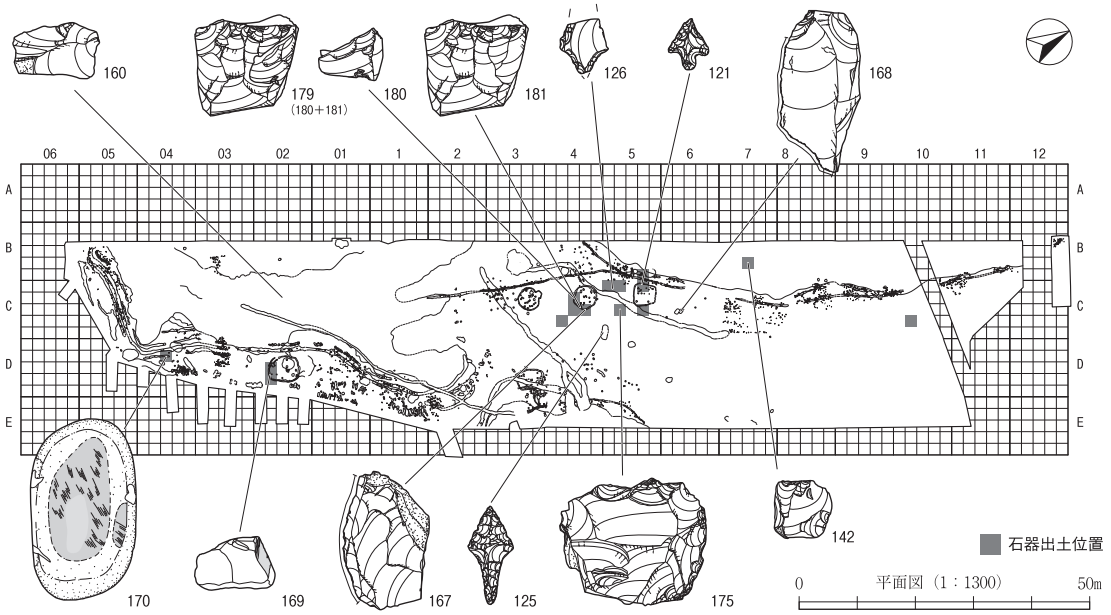
第5表　本遺跡の時期区分と併行関係

本遺跡出土土器の編年に関しては、石川氏の編年［石川2004］に対比すると、堂の前Ⅰ群が山草荷式に、堂の前Ⅱ群の古い様相のものが砂山式1期に、新しい様相のものが砂山式2期に相当すると考えられる。野田氏の編年［野田2003］を含めて、三者の対比を第5表に示した。時期区分はⅠ群が中期後半、Ⅱ群が後期前半と考えられる。しかし問題点として、堂の前Ⅱ群は天王山段階を主体とするが、日本海側でその前段階の分類要素が抽出しきれていないことが挙げられる。堂の前Ⅱ群土器の細分に関しては今後の課題とし、日本海側の類例の増加を待ちたい。

B　石　　器

石器の時期は、出土した土器などから弥生時代中期後半～後期前半の所産と考えられる。ここでは遺構内やSR1の6～10層、またⅡc層・Ⅲa層から出土した石器の分布状況、石質の選択性や石器組成について整理する。

石器の分布を第11図に示した。遺構内からは、SI318で砥石（169）・剥片、SX52で石核（181）・剥片、SX53・SK301で石鏃（121・125）、SK18で不定形石器（168）、図化はできなかったがSD27やSK19・20・300で不定形石器・剥片が出土している。自然流路や包含層からは、SR1（03C20区）の6層で不定形石器（160）、SR1（7B13区）の10層で両極石器（142）、04D8区Ⅱc層で砥石（170）、5C1・4C14・5C12区Ⅲa層で石鏃（126）、不定形石器（167）、石核（175）、図化はできなかったがSR1（6B17・24、8B24区）の8層で剥片・砕片、4C8・10C17区Ⅲa（Ⅲ）層で不定形石器、4C13・14、5B24、5C1・2・14区Ⅲa層で剥片が出土



第11図　石器出土分布

している。以上のように、石器の分布は遺構が集中する地区におおむね収まることが分かる。

石質は頁岩が主体を占め、そのほかは砂岩・安山岩・鉄石英・石英・凝灰岩・流紋岩・泥岩・玉髄が確認できる（第6表）。頁岩では、いわゆる頁岩1「半透明の頁岩」［秦 2001］が石鏃や両極石器など小型の石器に使用されている。これは頁岩1の母岩の大きさに起因し、周辺の当該期遺跡［石丸ほか 2003、前川ほか 2006、青木ほか 2006、滝沢ほか 2009］においても同様な傾向である。また加工具（石錐・石匙・箆状石器・両極石器・不定形石器）に採用される石材には、様々な石質が認められながらも頁岩2が卓越する。

	頁岩1	頁岩2	砂岩	安山岩	鉄石英	石英	凝灰岩	流紋岩	泥岩	玉髄	合計
石　鏃（※）	4	3									7
石　錐								1			1
石　匙		3									3
箆状石器（※）		7									7
両極石器	3	2									5
不定形石器	2	41					1	2			46
石　核		6				1					7
砥　石			1	1			1				3
凹　石				1							1
敲　石			1								1
器種不明								2			2
剥片・砕片	5	100		2	4	4		10	2	1	128
合　計	14	162	2	4	4	5	2	15	2	1	211

（※）未成品を含む

第6表　器種と石質の集計

本遺跡で出土した石器の総数は83点（剥片・砕片を除く）である（第7表）。機能別［石川 1997、禰宜田 2002］に見ると、石鏃などの狩猟具7%、石匙や不定形石器などの加工具74%、磨石類などの調理具5%（未成品・器種不明を除く）で、加工具が卓越し、箆状石器（132～137・188）や、石匙（129～131）の出土率が高い。同じ沖積地に立地する道端遺跡（中期）［前川ほか 2006］や中曽根遺跡（中～後期）［青木ほか 2006］と比べると磨石類などが少ない点で共通する。加工具の出土量は、上記の遺跡よりも多く、これは高地性環濠集落である新潟市古津八幡山遺跡や村上市山元遺跡と共通する。また、本遺跡では、頁岩1・2の剥片・砕片のほか石核（残核）が出土し一部接合することから、小規模ながら石器製作を行っていたことが分かる。

	尖頭器	石　鏃		石錐	石匙	箆状石器		両極石器	不定形石器	石核	磨製石斧	磨石類	砥石	石錘	礫器	小型特殊	石包丁	石製品
		成品	未成品			成品	未成品											
堂の前		5	2	1	3	3	4	5	46	7		2	3					
滝ノ前		10	4	1	1			8	30	1								
砂　山		42	19	10	1			62	26	4		2	1	1				2
山　元		29		5				3	172	1		15	5	1		5		3
長　松		29	4	2				1	24	5		3						3
中曽根		5		2				2	1		1							
道　端		30		3	1			2	3	2	1	9	7				2	2
古津八幡山	1	64	13	7				22	180	25	4	70	34	1	6		1	14

第7表　遺跡別主な石器出土数

C　金属製品

弥生時代後期前半の竪穴住居SI318の1層から、ほぼ完形の金属製品1点（195）が出土した。X線写真では鋳巣（空洞）が確認できないことから、鍛造品と考えられる。基部の上面がやや平坦になることや、先端に向かって刃部に相当する部位の幅が細くなること、また側面が若干反り返るなどの特徴があり、鑿、または鏨など間接的な打撃によって機能するような工具が想定される。弥生時代の鉄器をまとめた川越哲志氏［川越 1993］の分類によると、こうした形状を呈する器種は、鉄鑿B（袋部のないもの）、あるいは鏨B（刃部幅が身部幅より小さいもの）に類似する。新潟県内では現時点において類似品は見いだせない。しかし、近県の石川県白山市中奥町長竹遺跡で出土した金属製品に似ているものがある［松任市教育委員会 2000］。金属製品は、基部と刃部を欠くが鑿と推定されており［林 2001］、基部から刃部にかけて細くなる形状は、195と類似する。

D　ガラス小玉

9B11 区のⅡ b1 層からガラス小玉 1 点（196）が出土した。色調は透明感のある紺色を呈し、内部には気泡が多数確認できる。気泡は、孔と平行に列状を呈して分布するほか、やや大粒なものが孔の周辺に比較的多く、周縁部に至るほど散漫に分布する。詳細な整形技法は判然としないが、小口面は孔付近に平坦面を有するものの、明確な擦痕などが認められず、研磨整形は施されていない。こうしたガラス小玉の製作技術については、小口面の整形方法による形態分類［富樫・徳澤 1995］や、気泡の観察による素材管からの裁断後の処理方法に関する分析が試みられている［富樫・徳澤 1993］。これらの研究を参考にすると、196 は管切法により製作され、加熱による小口の表面張力整形、または押圧整形が想定される。本遺跡から出土した土器などの時期幅を考慮すると、弥生時代に帰属する遺物と考えられる。

2　遺構と遺跡

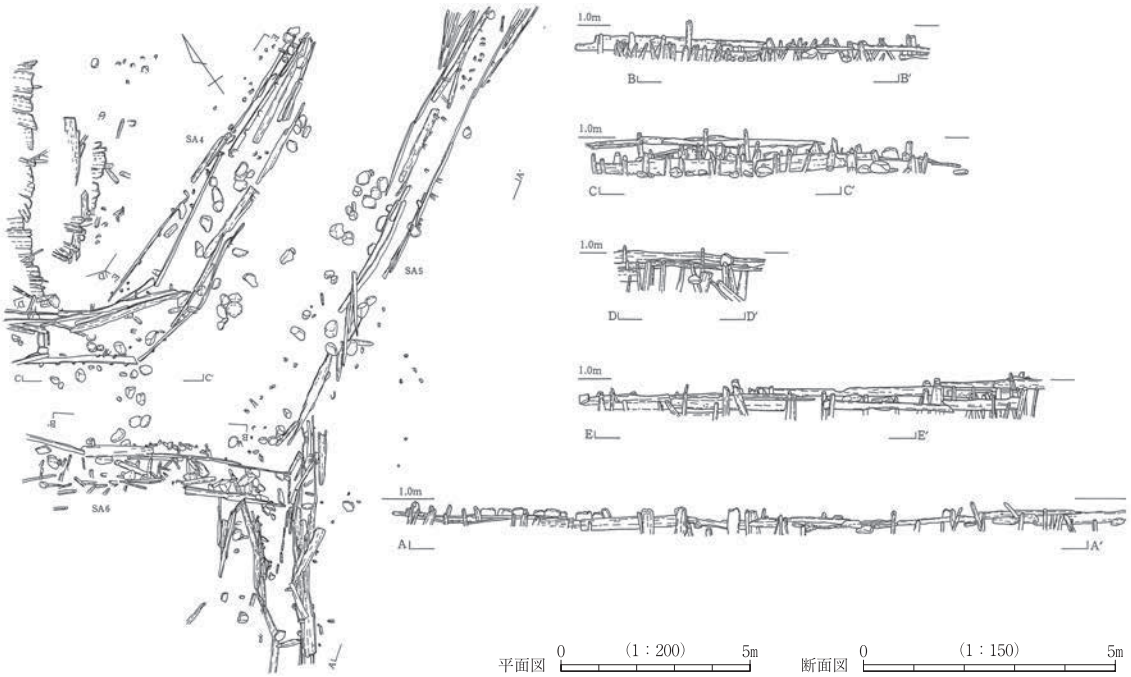
本遺跡は検出遺構や出土遺物から弥生時代中期後半～後期前半の集落と考えられるが、その規模等は不明である。本節では検出遺構のうち特徴的なものについて整理し、遺跡の性格について考えてみたい。

性格不明遺構（SX51 ～ 53・254・277・314）としたものは、現地調査初期段階で、覆土と検出面上の土壌の差が明瞭でなく、人為的な遺構であるか否か判断できなかった。その後、炉を持つ SI318 が検出されるに至り、これら性格不明遺構についても住居の可能性を検討する必要が生じた。性格不明遺構は竪穴住居（SI318）の周溝（壁溝）と同様の規模を呈する溝が巡る。また、その範囲内にピットを検出したほか、遺物が出土したことなどから、炉が検出できなかったものの竪穴住居との共通点が確認できる。

本遺跡の竪穴住居・性格不明遺構の平面形は、SX53 の隅丸方形、SX51・52 の円形（SX51 は方形の張り出しを持つ）、そして SI318、SX254・277・314 の楕円形ないし隅丸長方形と複数の形状が存在する。東北地方の天王山式期の住居は円形の竪穴が一般的で［青木ほか 2006］、遺跡に近い村上市滝ノ前遺跡［関 1972］でも径 5m 強の円形の竪穴住居が複数検出されている。しかし、類例は少ないが、山形県庚壇遺跡［押切ほか 2007］や福島県舘の内遺跡［東日本埋蔵文化財研究会福島実行委員会 2000］では隅丸方形の平面形を持つ天王山式期の住居が、村上市中曽根遺跡［青木ほか 2006］では掘り込みは確認できなかったが炉を持ち平面形が隅丸長方形と推測される炭化物の分布が確認されている。これらは円形以外の平面形を持つ住居の存在を示すものである。本遺跡における性格不明遺構についても楕円や隅丸方形とするものが多く、炉が検出できず掘り込みを確認できなかったものが多いが、周溝・ピットの存在や遺物も絡むことから、住居の可能性も考慮しなければならないであろう。

溝状遺構が構築された時期は、溝状遺構を覆う堆積土（Ⅱ c 層）が自然流路 SR1 の 6･7 層間、または 7･8 層間に位置すると想定されることから（図版 22）、SR1 の 7 層以前の遺構で、SR1 の出土遺物から弥生時代の遺構と考えられる。溝状遺構の小ピットは、径が小さく柱痕が確認できないことに加えピット先端が尖るものがあることから、打ち込み式の杭と推定される。深さは 20cm 以下と浅く、傾くものも少なくなく、分布に粗密があり、浅いものは検出しきれていない可能性もある。

溝状遺構の配置は、南区の SR1 東岸で 3 ないし 4 列、北区では SR2 西岸が 1 列、SR1 東岸は 1 ないし 2 列確認できるが、7・8C 区の小ピット群などは部分的に複数列の存在を考えさせる列状の分布である。また、SD27 のように途中、流路から離れ SD6 と新旧関係にあることから、すべてが同時に存在したとす



第 12 図　青谷上寺地遺跡の護岸遺構　（出展：［湯村ほか 2000］一部加筆・修正）

る想定に考慮の余地を残すが、仮に同時存在したとした場合、流路が深く急峻な岸を持った北区と浅く緩い岸を持った南区とでは状況が異なっている。北区の溝状遺構は幅が狭く 1 ないし 2 列であるのに対し、南区のそれは幅が広く 3 ないし 4 列と多い。また、遺構検出面の標高も北区 15.5 ～ 15.7m、南区 15.2 ～ 15.4m と南区に向かい低くなり、弥生時代の流路の底は北・南区とも 14.4m 前後とほぼ一定であることから、標高が高く流路底との比高差が大きい所ほど簡易的で、逆に標高が低く流路底との比高差が小さい地区を入念に施工していると言える。珪藻分析において、SR1 の 6 層前後は、河川の氾濫などに伴う増水時に周辺の土壌を引き込んで堆積した可能性が示されており、河川増水の影響を受けやすい環境下であったことが推測されている。溝状遺構もこのような環境下で護岸としての役割を果たした施設と考えられないだろうか。鳥取県の沖積地に立地する青谷上寺地遺跡（弥生時代中期～古墳時代前期）［湯村ほか 2000］では、多量の杭状の部材が出土している。杭を打ち込み、そこに横板を這わせて礫などで補強するもので（第 12 図）、杭が密集するか所などは護岸の強度に関係するようである。本遺跡では盛土や補強材の痕跡は検出できなかったが、杭を打ち込むことや杭跡が密集する地点が認められる点など共通する。なお、護岸施設以外には土地の境界・区画の設定や防御のための柵などが考えられるが、対岸（調査区外西側）を含め遺跡の全体像が把握できていないことからこれ以上の言及は避けたい。いずれにしても、溝状遺構の性格解明には、他遺跡での類例の増加や、調査区周辺の調査が必要となろう。

県北に位置する村上市域では、中曽根遺跡などの発掘調査によって当該期の平野部での生活ぶりの一端が明らかになってきた［青木ほか 2006］。平野部の遺跡は、住居などの遺構群が川辺に点在して小規模な集落を形成する傾向がある［前川ほか 2006、青木ほか前掲］。本遺跡でも竪穴住居をはじめ溝状遺構など多くの遺構を確認し、それら遺構群が川辺に分布して集落が営まれる様子がうかがえる。特に溝状遺構は流路との関わりが強く、当時の人たちが流路に対し積極的に働きかけた施設とすることができよう。

要　　約

1　堂の前遺跡は村上市下新保字高田 2351-2 に所在する。

2　遺跡は三面川左岸に広がる沖積微高地上に立地し、標高は 15.4 ～ 16.0m である。

3　発掘調査は、日本海沿岸東北自動車道の建設に伴い、平成 20 年度に実施した。発掘調査面積は 4,500m^2 である。

4　調査によって弥生時代の竪穴住居 1 軒、性格不明遺構 6 基、掘立柱建物 3 棟、溝状遺構 10 条、溝 11 条、土坑 31 基、ピット 435 基と当時存在した自然流路 2 条を検出した。

5　遺物は弥生土器、石器、金属製品、ガラス小玉が出土した。弥生土器は後期前半の東北系が主体を占める。そのほか、縄文時代晩期の土器、古代の須恵器、中・近世の陶磁器、鉄滓などが少数出土した。

6　金属製品は、出土状況から弥生時代後期前半のものと考えられる。器種は不明だが、形態的な特徴から鑿や鏨などの工具類である可能性が高い。

7　本遺跡は川辺に営まれた弥生時代中期後半～後期前半の集落であるが、集落の性格や規模は不明である。自然流路に沿った小ピットを伴う溝状遺構は、その構築位置や小ピットの配置状況などから護岸施設や簡易的な柵と考えておきたい。

引用・参考文献

青木　学ほか 2006　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 168 集　中曽根遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

青木　学ほか 2008　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 180 集　松蔭東遺跡・中曽根遺跡Ⅱ・大館跡Ⅰ』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

朝日村教育委員会　1980　『朝日村史』新潟県朝日村教育委員会

アジア航測株式会社　1984　『朝日村現況図』

石川智紀　2003　「周知 1（西部遺跡・中部北遺跡）確認調査」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』平成 14 年度（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

石川日出志　1990　「天王山式土器編年研究の問題点」『北越考古学』第 3 号　北越考古学研究会

石川日出志　1997　「新潟県の石器組成の変遷」『国立歴史民俗博物館資料調査報告書 7　農耕開始期の石器組成 4』国立歴史民俗博物館

石川日出志　2000　「天王山式土器弥生中期説への反論」『新潟考古』第 11 号　新潟県考古学会

石川日出志　2003　「関東・東北地方の土器」『考古資料大観』第 1 巻第 5 章　小学館

石川日出志　2004　「弥生後期天王山式土器成立期における地域間関係」『駿台史学』第 120 号　駿台史学会

石田守之ほか 2006　「村上市滝ノ前遺跡出土の石器と土製品について」『三面川流域の考古学』第 5 号　奥三面を考える会

石丸和正ほか 2003　「新潟県岩船郡域における弥生時代中期～後期にかけての様相―村上市砂山遺跡・滝ノ前遺跡を中心に―」『三面川流域の考古学』第 2 号　奥三面を考える会

大越道正ほか 1990　『福島県文化財調査報告書第 242 号　東北横断自動車道遺跡調査報告 10　能登遺跡･南原 B 遺跡･村西遺跡・大村古墳群』福島県教育委員会・財団法人福島県文化センター・日本道路公団

大滝良夫ほか 1997　「二又遺跡」『朝日村文化財報告書第 12 集　二又遺跡・堅岩遺跡・ガラハギ遺跡』新潟県朝日村教育委員会

押切智紀ほか 2007　『山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 161 集　庚壇遺跡発掘調査報告書』（財）山形県埋蔵文化財センター

小野　昭ほか 1993　『朝日村文化財報告書第 9 集　長者岩屋岩陰（第 1 次・第 2 次調査報告）』新潟県朝日村教育委員会

加藤　学　2008　「村上 I.C. ～朝日 I.C. 間　遺跡推定地 12　試掘調査」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』平成 19 年度　（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

川越哲志　1993　『弥生時代の鉄器文化』　雄山閣

山北町史編さん委員会　1988　『山北町史　通史編』

鈴木俊成ほか 1990　『神林村埋蔵文化財調査報告第 2　高田遺跡　発掘調査概報』新潟県神林村教育委員会

鈴木正博　2002　「「十王台式」と「明戸式」－茨城県遺蹟から見た「十王台 1 式」に並行する所謂「天王山式系」土器型式の実態－」『婆良岐考古』24　婆良岐考古同人会

関　雅之　1972　『滝ノ前遺跡　新潟県村上市滝ノ前遺跡緊急調査概報』新潟県村上市教育委員会

滝沢規朗ほか 2009　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 199 集　山元遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

滝沢規朗・野田豊文　2002　「新潟県北部地域の弥生時代中期後半から後期の土器について」『新潟考古学談話会会報』第 26 号　新潟考古学談話会

滝沢規朗・野田豊文ほか 2003　「新潟県岩船郡域における弥生時代中期～後期にかけての様相－村上市砂山遺跡・滝ノ前遺跡を中心に－」『三面川流域の考古学』第 2 号　奥三面を考える会

田辺早苗　1991　『神林村埋蔵文化財報告第 3　長松遺跡発掘調査報告書』新潟県神林村教育委員会

田辺早苗　1994　『神林村埋蔵文化財報告第 5　八幡山遺跡発掘調査報告書』新潟県神林村教育委員会

田辺早苗ほか 2001 『神林村埋蔵文化財調査報告書第 9 衣田遺跡・道上遺跡』新潟県神林村教育委員会
田辺早苗ほか 2002 『神林村埋蔵文化財調査報告書第 14 金曲遺跡』新潟県神林村教育委員会
田辺早苗ほか 2003a 『神林村埋蔵文化財調査報告書第 13 六百地遺跡』新潟県神林村教育委員会
田辺早苗ほか 2003b 『神林村埋蔵文化財調査報告書第 17 高田遺跡』新潟県神林村教育委員会
富樫雅彦・徳澤啓一 1993 「第 4 節 北新宿三丁目遺跡出土のガラス小玉の観察」『東京都新宿区北新宿三丁目遺跡－（仮称）新宿区立北新宿特別養護老人ホーム建設事業に伴う緊急発掘調査報告書－』新宿区福祉部遺跡調査会
富樫雅彦・徳澤啓一 1995 「ⅱ．ガラス小玉の分析」『東京都新宿区上落合二丁目遺跡－スーベニアコーポ落合Ⅰ・Ⅱ建設事業に伴う緊急発掘調査報告書－』青木電器工業株式会社・新宿区上落合二丁目遺跡調査団
中村五郎 1976 「東北地方南部の弥生式土器編年」『東北考古学の諸問題』東出版寧楽社
新潟県 1987 『土地分類基本調査 村上 5 万分の 1 国土調査』新潟県農地部農村総合整備課
禰宜田佳男 2002 「遺物組成からみた高地性集落の諸類型」『古代文化』第 54 巻第 4 号 （財）古代学協会
野田豊文 2005 「三面川流域における弥生時代の終わり－天王山式土器から見た新潟県内弥生後期の様相－」『三面川流域の考古学』第 4 号 奥三面を考える会
野田豊文 2006 「新潟県における「天王山式土器」について」『新潟考古学談話会会報』第 31 号 新潟考古学談話会
秦 昭繁 2001 「新潟県新潟県北部地域の石器石材環境 (2) ―関川村獅子舞岩の珪質頁岩分析と石材流通構造―」『北越考古学』第 12 号 北越考古学研究会
林 大智 2001 「第 5 章 農耕具 第 4 節 工具 2 鉄製工具」『石川県考古資料調査・集成事業報告 補遺編』石川県考古学研究会
東日本埋蔵文化財研究会福島実行委員会 2000 『東日本弥生時代後期の土器編年』
平田貴正ほか 2009 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 195 集 桂木田遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
前川雅夫ほか 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 162 集 道端遺跡Ⅴ』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
松任市教育委員会 2000 『松任市中奥・長竹遺跡』石川県松任市教育委員会・松任市
村上市 1999 『村上市史』通史編 1 原始・古代・中世
湯村 功ほか 2000 「鳥取県教育文化財団調査報告書 67 青谷上寺地遺跡 1」（財）鳥取県教育文化財団 鳥取県埋蔵文化財センター
吉井雅勇 2006 『荒川町埋蔵文化財発掘調査報告第 13 集 坂町宮ノ腰 D 遺跡Ⅱ』新潟県荒川町教育委員会

自然科学分析引用文献

Asai, K. & Watanabe, T. 1995 Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. *Diatom* 10 35-47.
安藤一男 1990 「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『東北地理』42 東北地理学会 73-88.
原口和夫・三友清史・小林 弘 1998 「埼玉の藻類 珪藻類」『埼玉県植物誌』埼玉県教育委員会 527-600.
林 昭三 1991 「日本産木材」『顕微鏡写真集』京都大学木質科学研究所
堀内誠示・高橋 敦・橋本真紀夫 1996 「珪藻化石群集による低地堆積物の古環境推定について－混合群集の認定と堆積環境の解釈－」『日本文化財科学会第 13 回大会研究発表要旨集』日本文化財科学会 62-63.
Hustedt, F. 1937-1939 *Systematische und okologische Untersuchungen uber die Diatomeen-Flora von Java,, Bali und Sumatra*,Archiv fur Hydrobiology, Supplement,15:131-177,15:187-295,15:393-506,15:638-790,16:1-155, 16:274-394.

伊東隆夫　1995　「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究　資料』31　京都大学木質科学研究所 81-181.
伊東隆夫　1996　「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究　資料』32　京都大学木質科学研究所 66-176.
伊東隆夫　1997　「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究　資料』33　京都大学木質科学研究所 83-201.
伊東隆夫　1998　「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究　資料』34　京都大学木質科学研究所 30-166.
伊東隆夫　1999　「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究　資料』35　京都大学木質科学研究所 47-216.
伊藤良永・堀内誠示　1991　「陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用」『珪藻学会誌』6　珪藻学会 23-45.
株式会社古環境研究所　1996　「高柳Ａ・Ｂ遺跡出土木材の樹種同定」『高柳Ａ遺跡・高柳Ｂ遺跡・名割遺跡県営圃場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』新潟県荒川町教育委員会　83-85.
小林　弘・出井雅彦・真山茂樹・南雲　保・長田啓五　2006　『小林　弘珪藻図鑑』第１巻　（株）内田老鶴圃 531p.
小林謙一　2007　「関東における弥生時代の開始年代－縄文時代から弥生時代へ－」『新弥生時代のはじまり』第２巻　雄山閣　52-65.
小杉正人　1988　「珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用」『第四紀研究』27　1-20.
Krammer, K.　1992　*PINNULARIA.eine Monographie der europaischen Taxa.BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND26.* J.CRAMER　353p.
Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.　1986　*Bacillariophyceae.1.Teil: Naviculaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/1.* Gustav Fischer Verlag　876p.
Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.　1988　*Bacillariophyceae.2.Teil: Epithemiaceae,Bacillariaceae,Surirellaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/2.* Gustav Fischer Verlag　536p.
Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.　1991a　*Bacillariophyceae.3.Teil: Centrales,Fragilariaceae,Eunotiaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/3.* Gustav Fischer Verlag　230p.
Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.　1991b　*Bacillariophyceae.4.Teil: Achnanthaceae,Kritsche Ergaenzungen zu Navicula(Lineolatae) und Gomphonema. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/4.* Gustav Fischer Verlag　248p.
三村昌史　2003　「樹種同定」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 127 集　道端遺跡Ⅱ』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団　36-40.
Lowe, R. L.　1974　*Environmental Requirements and pollution Tolerance of Fresh-water Diatoms,*334p. In Environmental Monitoring Ser.EPA Report 670/4-74-005. Nat. Environmental Res. Center Office of Res. Develop., U.S. Environ. Protect. Agency, Cincinati.
Round, F. E.., Crawford, R. M. & Mann, D. G.　1990　*The diatoms. Biology & morphology of the genera.* 747p. Cambridge University Press, Cambridge.
島地　謙・伊東隆夫　1982　『図説木材組織』地球社　176p.
植田弥生　2005　「SK001 出土炭化材の樹種同定」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 145 集　道端遺跡Ⅳ』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団　24-25.
Vos, P.C. & H. de Wolf　1993　Diatoms as a tool for reconstructing sedimentary environments in coastal wetlands; methodological aspects.*Hydrobiologica*　269/270,285-296.
渡辺仁治・浅井一視・大塚泰介・辻　彰洋・伯耆　晶子　2005　『淡水珪藻生態図鑑』内田老鶴圃　666p.
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）　1998　『広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト　伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修）』海青社　122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（1989）*IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*］.
柳沢幸夫　2000　「計数・同定」『化石の研究法　－採集から最新の解析法まで－』化石研究会（編）・共立出版株式会社　49-50.

竪穴住居

＜　＞推定、（　）残存値

遺構名	位置 調査区	位置 グリッド	検出面	時期	平面形	規模（m） 長径	規模（m） 短径	周溝規模（m） 断面形	周溝規模（m） 幅	周溝規模（m） 深さ	床面積（m²）	長軸方向	覆土	遺物
SI318	南	02D	Ⅲa	弥生後期	楕円形	5.45	4.53	U字状	0.07 ～ 0.32	0.08 ～ 0.16	17.64	N22°　E	4	弥生土器・石器・金属製品

竪穴住居ピット

＜　＞推定、（　）残存値　※主柱穴

遺構名	ピットNo.	平面形	断面形	規模（m） 長径	規模（m） 短径	規模（m） 深さ	底面標高	覆土
SI318	FP1	不整楕円形	皿状	(0.55)	0.56	0.23	15.32	3
	P11 ※	円形	箱状	0.18	0.15	0.14	15.28	2
	P13	楕円形	箱状	(0.35)	0.19	0.12	15.31	1
	P14	円形	箱状	0.22	0.20	0.15	15.28	1
	P15	円形	弧状	0.18	0.15	0.04	15.31	1
	P16	円形	弧状	0.47	0.41	0.14	15.26	1
	P17 ※	円形	U字状	0.15	0.14	0.21	15.20	1
	P18 ※	楕円形	U字状	0.20	0.16	0.22	15.01	1

性格不明遺構

＜　＞推定、（　）残存値

遺構名	位置 調査区	位置 グリッド	検出面	時期	平面形	規模（m） 長径(軸)	規模（m） 短径(軸)	周溝規模（m） 断面形	周溝規模（m） 幅	周溝規模（m） 深さ	床面積（m²）	長軸方向	覆土	遺物	備考
SX51	北	3C	Ⅲb		円形	4.29	3.96	半円形状 V字状	0.08 ～ 0.15	0.10 ～ 0.12	10.45	N9°　E	2		北側に張り出し有り
SX52	北	4C	Ⅲa	弥生後期	円形	4.13	3.95	逆台形状 V字状	0.07 ～ 0.25	0.10 ～ 0.15	11.20	N27°　E	5	弥生土器・石器	
SX53	北	5C	Ⅲb	弥生後期	隅丸方形	3.84	3.72	U字状	0.05 ～ 0.16	0.08 ～ 0.11	11.87	N28°　E	2	弥生土器・石器	
SX254	北	3D	Ⅲb		隅丸長方形	4.66	3.50	U字状 逆台形状	0.15	0.15 ～ 0.22	11.88	N17°　E	4		
SX277	北	3･4D･E	Ⅲb		＜楕円形＞	(2.98)	2.36	半円形状	0.15	0.06 ～ 0.08	(4.91)	N21°　E	2		
SX314	北	3D・E	Ⅲb		＜隅丸長方形＞	(2.88)	4.65	逆台形状	0.20 ～ 0.30	0.10	(10.06)	N19°　E	2		

性格不明遺構ピット

＜　＞推定、（　）残存値　※主柱穴

遺構名	ピットNo.	平面形	断面形	規模（m） 長径	規模（m） 短径	規模（m） 深さ	底面標高	覆土
SX51	P1	円形	U字状	0.16	0.15	0.12	15.62	1
	P2	円形	U字状	0.20	0.18	0.14	15.59	1
	P3	円形	U字状	0.24	0.21	0.11	15.64	1
	P4	円形	半円形状	0.62	0.53	0.21	15.51	4
	P5 ※	楕円形	U字状	0.22	0.18	0.12	15.63	1
	P6	楕円形	U字状	0.26	0.15	0.13	15.62	1
	P7	円形	U字状	0.10	0.09	0.06	15.66	1
	P8	楕円形	半円形状	0.16	0.13	0.12	15.62	1
	P9	円形	逆台形状	0.25	0.24	0.15	15.60	1
	P10	円形	U字状	0.20	0.18	0.06	15.71	1
	P11	円形	U字状	0.21	0.20	0.11	15.65	1
	P12	円形	半円形状	0.29	0.25	0.07	15.68	1
	P13	楕円形	半円形状	0.26	0.20	0.05	15.70	1
	P14 ※	楕円形	U字状	0.28	0.21	0.10	15.65	1
	P15	円形	U字状	0.29	0.25	0.11	15.64	1
	P16	円形	逆台形状	0.31	0.27	0.12	15.63	1
	P17	円形	U字状	0.23	0.21	0.11	15.64	1
	P18	楕円形	U字状	0.22	0.18	0.06	15.69	1
	P22 ※	楕円形	U字状	0.25	0.21	0.19	15.55	1
	P23	楕円形	U字状	0.24	0.15	0.16	15.59	1
	P24	円形	U字状	0.32	0.29	0.16	15.59	1
	P25	円形	U字状	0.36	0.33	0.19	15.56	1
	P26	楕円形	U字状	0.38	0.31	0.25	15.49	1
	P27	溝状	V字状	0.40	0.09	0.07	15.67	1
	P28 ※	円形	半円形状	0.21	0.21	0.13	15.61	1
	P29	円形	U字状	0.26	0.22	0.06	15.69	1
SX52	P1	楕円形	逆台形状	0.22	0.17	0.14	15.61	1
	P2	不整円形	U字状	0.19	0.16	0.14	15.64	1
	P3	円形	U字状	0.12	0.12	0.13	15.62	1
	P4	円形	逆台形状	0.18	0.15	0.12	15.63	1
	P5	円形	半円形状	0.18	0.15	0.07	15.68	1
	P6 ※	不整円形	半円形状	0.25	0.22	0.21	15.54	1
	P7	楕円形	U字状	0.25	0.19	0.27	15.48	1
	P8 ※	楕円形	半円形状	0.24	0.18	0.08	15.56	1
	P9	円形	半円形状	0.24	0.21	0.09	15.55	1
	P10	円形	半円形状	0.17	0.15	0.09	15.50	1
	P11	円形	半円形状	0.19	0.18	0.10	15.53	1
	P12	円形	半円形状	0.21	0.18	0.12	15.50	1
	P13	円形	半円形状	0.17	0.17	0.12	15.50	1
	P14 ※	楕円形	U字状	0.49	0.27	0.14	15.59	1
	P15 ※	楕円形	U字状	0.43	0.27	0.23	15.50	1
	P16	楕円形	U字状	0.39	0.26	0.35	15.41	1
	P17	不整円形	U字状	0.29	0.29	0.20	15.54	1
	P18	楕円形	U字状	0.08	0.06	0.12	15.62	1
	P20	楕円形	U字状	0.29	0.25	0.21	15.43	1
SX53	P1 ※	不整形	半円形状	0.24	0.23	0.12	15.60	1
SX53	P2 ※	三角形	逆台形状	0.30	0.30	0.19	15.54	1
	P3	楕円形	半円形状	0.26	0.20	0.12	15.58	1
	P4	不整円形	半円形状	0.23	0.22	0.10	15.60	1
	P5	三角形	半円形状	0.14	0.14	0.09	15.53	1
	P6	楕円形	U字状	0.09	0.07	0.08	15.62	1
	P7	楕円形	U字状	0.14	0.12	0.08	15.54	1
	P8	楕円形	半円形状	0.21	0.17	0.14	15.52	1
	P9 ※	円形	半円形状	0.13	0.12	0.09	15.57	2
	P10	楕円形	U字状	0.17	0.14	0.09	15.57	1
	P11	楕円形	半円形状	0.16	0.15	0.16	15.54	1
	P12	不整円形	逆台形状	0.16	0.16	0.03	15.65	1
	P13	方形	半円形状	0.21	0.18	0.03	15.64	1
	P14	楕円形	U字状	0.08	0.06	0.05	15.63	1
	P15 ※	円形	半円形状	0.17	0.13	0.15	15.51	1
	P16	楕円形	半円形状	0.12	0.11	0.03	15.64	1
	P17	円形	半円形状	0.09	0.08	0.02	15.64	1
	P18	楕円形	U字状	0.40	0.34	0.13	15.53	1
	P19	楕円形	U字状	0.24	0.18	0.29	15.42	1
	P20	楕円形	U字状	0.17	0.13	0.08	15.58	1
SX254	P1 ※	円形	U字状	0.20	0.18	0.22	15.48	1
	P2 ※	円形	U字状	0.28	0.27	0.26	15.48	1
	P3 ※	楕円形	U字状	0.37	0.28	0.23	15.47	3
	P4 ※	円形	U字状	0.32	0.25	0.15	15.56	1
	P5	円形	U字状	0.22	0.20	0.04	15.65	1
	P6	楕円形	半円形状	0.17	0.14	0.10	15.50	1
	P7	円形	U字状	0.19	0.17	0.19	15.55	1
	P8	円形	半円形状	0.18	0.17	0.10	15.64	1
SX277	P1	楕円形	半円形状	0.18	0.14	0.07	15.67	1
	P2	円形	皿状	0.32	0.28	0.08	15.66	1
	P3	楕円形	半円形状	0.47	0.38	0.24	15.52	3
	P4	円形	U字状	0.21	0.21	0.37	15.38	1
	P5	不整形	階段状	0.73	0.54	0.36	15.34	1
	P6	円形	半円形状	0.25	0.23	0.21	15.48	1
	P7	楕円形	半円形状	0.23	0.17	0.08	15.61	1
	P8	円形	半円形状	0.22	0.20	0.10	15.60	1
SX314	P1 ※	楕円形	U字状	0.33	0.27	0.19	15.54	1
	P2 ※	円形	U字状	0.25	0.23	0.27	15.45	1
	P3	円形	U字状	0.25	0.23	0.25	15.47	1
	P4	円形	半円形状	0.17	0.17	0.09	15.65	1
	P5	円形	半円形状	0.24	0.23	0.14	15.61	1
	P6	楕円形	半円形状	0.17	0.13	0.12	15.60	1
	P7	楕円形	U字状	0.21	0.16	0.23	15.51	1
	P8	円形	半円形状	0.20	0.19	0.13	15.62	1
	P9	円形	皿状	0.46	0.45	0.10	15.64	1
	P10	円形	半円形状	0.14	0.14	0.08	15.66	1
	P11	円形	U字状	0.20	0.20	0.12	15.57	1

掘立柱建物

遺構名	位置 調査区	位置 グリッド	検出面	平面形態	構造	桁行（m） 北	桁行（m） 南	梁間（m） 東	梁間（m） 西	床面積（m²）	長軸方向	備考
SB1	北	3C	Ⅲb	長方形	2間×1間、側柱	3.22	3.16	2.26	1.97	6.76	N73°　W	
SB2	北	3B・C	Ⅲb	長方形	2間×2間、側柱	2.40	2.44	2.03	2.26	5.20	N68°　W	棟持柱
SB3	北	4B	Ⅲb	長方形	1間×1間、側柱	2.49	2.66	1.99	1.98	5.10	N57°　W	

掘立柱建物ピット

遺構名	ピット No.	平面形態	断面形状	規模（m）			底面標高	覆土
				長径	短径	深さ		
SB1	P1	円形	V 字状	0.22	0.22	0.15	15.37	2
	P2	円形	U 字状	0.17	0.17	0.22	15.42	1
	P3	円形	U 字状	0.22	0.20	0.19	15.43	1
	P4	楕円形	U 字状	0.32	0.29	0.21	15.36	1
	P5	楕円形	U 字状	0.29	0.22	0.20	15.48	1
	P6	楕円形	V 字状	0.24	0.19	0.18	15.43	1
	P7	楕円形	U 字状	0.34	0.27	0.20	15.44	1
SB2	P1	円形	U 字状	0.21	0.19	0.17	15.41	2
	P2	円形	U 字状	0.21	0.20	0.16	15.44	2
	P3	楕円形	U 字状	0.19	0.11	0.19	15.46	1

遺構名	ピット No.	平面形態	断面形状	規模（m）			底面標高	覆土
				長径	短径	深さ		
SB2	P4	楕円形	U 字状	0.33	0.25	0.18	15.42	1
	P6	楕円形	テラス状	0.22	0.19	0.25	15.47	3
	P7	楕円形	弧状	0.20	0.17	0.13	15.40	1
	P8	円形	U 字状	0.20	0.18	0.16	15.45	2
	P9	円形	箱状	0.17	0.16	0.13	15.50	1
SB3	P1	円形	U 字状	0.25	0.24	0.13	15.51	2
	P2	円形	U 字状	0.23	0.20	0.19	15.58	1
	P3	円形	弧状	0.26	0.26	0.11	15.52	1
	P4	不整円形	弧状	0.34	0.33	0.11	15.36	1

溝 状 遺 構

＜　＞推定、（　）残存値

遺構名	位置		検出面	時期	断面形	規模（m）			傾斜方向（高→底）	長軸方向	覆土	遺　物
	調査区	グリッド				長　さ	幅	深　さ				
SD6	北	4・5・10・11B、5 ～ 10C	Ⅲ b ～Ⅳ a	弥生	弧状	(67.0)	0.12 ～ 0.35	0.08	北→南	北 N8° E 南 N70° E	1	弥生土器
SD27	北・南	4 ～ 6B、1 ～ 4・6・8・9C	Ⅲ b ～Ⅳ a		弧状	76.0	0.15 ～ 0.56	0.13	南→北	N30° E	1	石器
SD126	北	8C	Ⅳ a		弧状	4.0	0.11 ～ 0.35	0.07	平坦	北 N21° E 南 N3° E	1	
SD128	北	8C	Ⅳ a		不整形	1.0	0.17 ～ 0.32	0.12	平坦	北 N44° E 南 N13° E	1	
SD149	北・南	2 ～ 5E	Ⅲ b		弧状	(27.9)	0.12 ～ 0.25	0.20	平坦	北 N13° W 中央 N25° E 南 N46° W	1	
SD316	南	05B･C、05 ～ 03･1･2D、1･2E	Ⅲ b	弥生	弧状	81.1	0.22 ～ 0.50	0.30	北→南	北 N16° W 中央 N38° E 南 N89° W	2	弥生土器
SD317	南	05B・C、05 ～ 2D	Ⅲ b		弧状	(82.2)	0.40 ～ 0.72	0.16	平坦	北 N32° W 中央 N38° E 南 N89° W	1	
SD328	南	05B、05 ～ 03C、05 ～ 1D	Ⅲ b		弧状	58.2	0.18 ～ 0.95	0.08	北→南	北 N38° E 南 N89° W	1	
SD347	南	04C	Ⅲ b		不整形	15.2	0.13 ～ 0.54	0.12	平坦	北 N21° E 南 N78° W	1	
SD349	北	11・12B	Ⅳ a		弧状	18.0	0.21 ～ 0.30	0.05	北→南	N5° E	1	

溝

＜　＞推定、（　）残存値

遺構名	位置		検出面	時期	断面形	規模（m）			傾斜方向（高→底）	長軸方向	覆土	遺　物
	調査区	グリッド				長　さ	幅	深　さ				
SD7	北	3・4B、4 ～ 7C、6・7D	Ⅲ b ～Ⅳ a	弥生	逆台形状	(36.7)	0.60 ～ 1.10	0.30	北→南	N49° E 南 N18° E	5	弥生土器
SD16	北	2B、2・3C、3・4D、4E	Ⅲ b		半円形状	30.5	0.52 ～ 0.97	0.30 ～ 0.38	西←中→東	N90° E	6	
SD17	北	4・5D	Ⅲ b		逆台形状	1.6	0.36	0.10	南西→北東	N78° E	1	
SD252	北・南	3・4D、2 ～ 4E	Ⅲ b		逆台形状 弧状	北 (4.2) 西 10.5 南 (8.4)	北 1.60 西 0.56 ～ 1.18 南 0.56 ～ 0.75	北 0.34 西 0.25 南 0.15	南東→北西	N43° E	3	
SD253	北	4D・E	Ⅲ b		半円形	(8.5)	0.80 ～ 1.45	0.37	西→東	N95° E	3	
SD320	南	03 ～ 01C、01 ～ 2D、2・3E	Ⅲ b、SR1・2 覆土	古代	逆台形状 半円形状	(53.1)	0.40 ～ 0.57	0.20 ～ 0.45	北→南	N52° E	1	弥生土器 須恵器
SD329	南	05B・C	Ⅲ b		弧状	7.4	0.20 ～ 0.40	0.05 ～ 0.10	南東→北西	N103° E	2	
SD330	南	04・05D	Ⅲ b		逆台形状	(10.0)	0.10 ～ 0.40	0.20	北→南	N38° E	3	
SD334	南	03・04D	Ⅲ b		逆台形状	3.6	0.30 ～ 0.40	0.25	南東→北西	N93° E	3	
SD339	南	05C・D	Ⅲ b		弧状	7.3	0.14 ～ 0.40	0.05 ～ 0.10	南東→北西	N94° E	1	
SD348	南	04C	Ⅲ b		半円形状	(3.3)	0.25 ～ 0.40	0.32	北→南	N44° E	2	

土　　坑

＜　＞推定、（　）残存値

遺構名	位置		検出面	時期	形状		規模（m）			底面標高（m）	長軸方向	覆土	遺　物
	調査区	グリッド			平面形	断面形	長　径	短　径	深　さ				
SK3	北	6D	Ⅳ a	弥生	楕円形	弧状	1.10	0.86	0.07	15.77	N10° E	1	弥生土器
SK13	北	4B	Ⅲ b	弥生	円形	逆台形状	1.30	1.24	0.13	15.65	－	2	弥生土器
SK18	北	6C	Ⅳ a	弥生	不明	不明	(0.32)	(0.18)	－	(15.74)	－	1	石器
SK19	北	6C	Ⅳ a	弥生	楕円形	逆台形状	0.76	0.55	0.08	15.74	N26° W	1	弥生土器・石器
SK20	北	6C	Ⅳ a	弥生	長楕円形	逆台形状	0.94	0.60	0.07	15.66	N26° W	1	弥生土器・石器
SK50	北	5B	Ⅳ a	弥生	＜円形＞	逆台形状	1.71	(1.18)	0.31	15.12	－	4	弥生土器
SK54	北	5B	Ⅳ a		円形	弧状	0.77	0.70	0.10	15.37	－	1	弥生土器・石器
SK56	北	4B	Ⅲ b		＜楕円形＞	不明	(0.57)	(0.67)	0.31	15.48	－	4	
SK131	北	5D	Ⅲ b		楕円形	逆台形状	1.20	0.96	0.38	15.47	N23° E	2	
SK256	北	7E	Ⅳ b		＜楕円形＞	弧状	(0.62)	(0.65)	0.10	15.80	－	1	
SK278	北	7E	Ⅳ b		不明	＜半円形状＞	(0.98)	(0.41)	0.30	(15.62)	－	2	
SK295	北	3D	Ⅲ b		＜楕円形＞	弧状	(0.64)	0.68	0.18	15.51	－	4	
SK299	北	3D	Ⅲ b		＜楕円形＞	＜弧状＞	(1.05)	(0.65)	0.25	15.62	－	4	
SK300	北	3B	Ⅲ b	弥生	楕円形	弧状	(0.46)	(0.2)	－	(15.55)	－	1	石器
SK301	北	4・5C・D	Ⅲ b	弥生	長楕円形	箱状	2.50	(1.06)	0.58	(15.29)	N56° W	6	石器
SK321	南	01B	Ⅲ b		＜不整楕円形＞	階段状	(2.12)	1.50	0.63	14.63	－	4	
SK324	南	05C	Ⅲ b		不整楕円形	逆台形状	2.30	1.40	0.20	15.30	N7° E	6	
SK326	南	02D	Ⅲ b		不整形	弧状	0.69	0.41	0.11	15.19	－	1	
SK327	南	02D	SI318 床面	弥生	円形	弧状	2.09	1.79	0.51	14.84	－	7	弥生土器
SK333	南	04D	Ⅲ b		長楕円形	弧状	(0.77)	0.60	0.16	15.28	－	2	
SK335	南	1D・E	Ⅲ b		＜楕円形＞	＜弧状＞	(1.44)	1.26	0.21	15.18	－	2	
SK336	南	01D	Ⅲ b		＜楕円形＞	弧状	(1.39)	(1.31)	0.27	15.17	－	2	
SK337	南	04D	Ⅲ b		楕円形	弧状	2.18	1.48	0.37	(15.04)	N57° E	4	
SK338	南	04D	Ⅲ b		＜長楕円形＞	＜逆台形状＞	0.90	(0.41)	0.10	(15.21)	N75° W	2	
SK340	南	2・3E	Ⅲ b		長楕円形	逆台形状	2.94	0.45	0.40	15.32	N53° E	3	
SK341	南	2C・D	Ⅲ b		不整形	不整形	1.54	0.57	0.08	15.42	－	1	
SK342	南	03D	Ⅲ b		長楕円形	弧状	1.27	0.70	0.21	15.19	N77° W	1	
SK343	南	2D	Ⅲ b		＜楕円形＞	半円形状	(0.82)	0.60	0.32	15.29	－	2	
SK346	南	01・02D	Ⅲ b		＜長楕円形＞	弧状	(3.41)	(1.4)	0.36	15.16	－	2	
SK350	南	02D	Ⅲ b	弥生	＜不整形＞	弧状	1.82	1.02	0.08	15.44	N4° E	1	弥生土器
SK351	南	1E	Ⅲ b		楕円形	半円形状	0.72	0.54	0.24	15.24	N50° W	2	

弥生土器(1)

（　）は残存値、〈　〉は復元値

報告No.	出土位置 出土層位	器種	時期	分類	残存部位	法量(cm) 口径	底径	高さ	胎土	色調 外面	内面	焼成	文様・調整など 外面	内面	スス 外面	内面	備考
1	SI318FP1 1層	ミニチュア土器		Ⅲ群8類	胴～底部	－	2.4	(2.3)	粗。砂粒を少量含む。	にぶい橙色	明黄褐色	不良	ナデ。	ナデ。			
2	SX52・P201 1層	甕	中期後半	Ⅰ群6類	口縁部	－	－	(4.4)	やや密。砂粒を少量、長石を微量含む。	にぶい褐色	にぶい黄橙色	良	ハケ（横位）。沈線（篦描き）。刺突。	ハケ（横位・斜位）。	○		SX52とP201出土土器が接合。ともに1層出土。
3	SX53 1層	甕	後期前半	Ⅱ群4類	口縁部	－	－	(1.1)	やや密。砂粒を少量含む。	にぶい黄橙色	にぶい橙色	良	口唇部にハケ（横位）。刻み（斜位）。交互刺突。	ナデ。	○		
4	SX53 1層	甕		Ⅲ群8類	胴部	－	－	(2.7)	やや粗。砂粒を少量、長石・雲母を微量含む。	にぶい黄橙色	灰黄色	良	ハケ（横位）。	ハケ（横位・縦位）。			
5	SX53 1層	甕		Ⅲ群7類	胴部	－	－	(1.5)	やや密。砂粒を少量、雲母を微量含む。	にぶい黄橙色	灰黄褐色	良	ハケ（横位）。縄文RL（横位）。	ナデ。	○		炭化したものが混入。
6	SD7 1層	甕		Ⅲ群7類	胴部	－	－	(4.3)	やや密。石英・長石・砂粒を微量含む。	褐灰色	にぶい黄橙色	良	縄文L（横位）。	ハケ（横位）。	○		
7	SK3 1層	甕		Ⅲ群7類	胴～底部	－	11.1	(9.8)	やや粗。砂粒を中量、長石を少量、石英を微量含む。	浅黄橙色	褐灰色	良	ハケ（横位）。縄文LR（横位）。	ハケ（横位）。ナデ。	○	○	
8	SK13 2層	甕		Ⅲ群7類	底部	－	5.3	(3.2)	やや粗。砂粒を少量、長石・小礫を微量含む。	橙色	にぶい黄橙色	良	ハケ（横位）。縄文？	ナデ。			
9	SK20 1層	甕		Ⅲ群8類	胴部	－	－	(2.7)	やや密。長石・砂粒を微量含む。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	ハケ（横位）。沈線。	ハケ（斜位）。			
10	SK327 1・2層	甕	後期前半	Ⅱ群7類	口縁部	－	－	(3.6)	やや密。砂粒を少量、長石・雲母・小礫を微量含む。	褐灰色	灰黄色	良	口唇部に縄文LR（横位）。縄文LR（縦位）。	ハケ（横位）。	○		No.11～13と同一個体。
11	SK327 2層	甕	後期前半	Ⅱ群7類	口縁部	－	－	(4.5)	やや密。砂粒を少量、長石・雲母・小礫を微量含む。	にぶい黄橙色	浅黄色	良	口唇部に縄文LR（横位）。縄文LR（縦位）。	ハケ（横位）。	○		No.10・12・13と同一個体。
12	Ⅱc層・SK327 1・2層	甕	後期前半	Ⅱ群7類	胴部	－	－	(22.5)	やや密。砂粒を少量、長石・雲母・小礫を微量含む。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	縄文LR（横位）。	ハケ（縦位）。	○		補修孔あり。No.10・11・13と同一個体。
13	SK327 1・2・3・4層	甕	後期前半	Ⅱ群7類	胴～底部	－	6.5	(7.9)	やや密。砂粒を少量、長石・雲母・小礫を微量含む。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	ナデ。縄文LR（横位）。	ハケ（横位）。ナデ。		○	No.10～12と同一個体。
14	SK350 1層	甕		Ⅲ群7類	頸部	－	－	(2.6)	やや粗。砂粒を少量、石英・長石を微量含む。	にぶい黄橙色	褐灰色	良	ハケ（横位）。	ナデ。	○		No.15・16と同一個体。
15	SK350 1層	甕		Ⅲ群7類	胴部	－	－	(4.4)	やや粗。砂粒を少量、石英・長石を微量含む。	にぶい黄橙色	黄灰色	良	縄文RL（斜位）。	ナデ。			No.14・16と同一個体。
16	SK350 1層	甕		Ⅲ群7類	胴部	－	－	(4.2)	やや粗。砂粒を少量、石英・長石を微量含む。	褐灰色	にぶい黄橙色	良	縄文RL（斜位）。	ナデ。	○		No.14・15と同一個体。
17	SR1 7B20 2層	甕		Ⅲ群8類	口縁部	－	－	(2.2)	やや粗。砂粒を少量、石英・長石を微量含む。	褐灰色	褐灰色	良	ハケ（横位）。口唇部に縄文RL。	ハケ（横位・斜位）。	○	○	
18	SR1 7B15 2層	甕	中期後半	Ⅰ群2類	胴部	－	－	(4.0)	やや密。砂粒を少量、石英・長石を微量含む。	にぶい黄橙色	灰白色	良	ハケ（横位・斜位）。3条単位の沈線（平行・鋸歯状）。	ナデ。	○		
19	SR1 7B13 2層	甕		Ⅲ群6類	胴部	－	－	(1.6)	粗。砂粒を中量、長石を少量含む。	灰黄褐色	灰黄褐色	良	ハケ（横位）。沈線（横位）。	ハケ（横位）。	○		
20	SR1 7C1 2層	甕		Ⅲ群7類	胴部	－	－	(3.2)	やや粗。砂粒を少量、石英・長石・雲母を微量含む。	にぶい橙色	灰白色	良	ハケ（横位）。縄文RL（横位）。	ナデ。			籾痕あり。長さ7mm×幅2mm。
21	SR1 7B13 2層	壺	後期前半	Ⅱ群3類	肩部	－	－	(4.2)	やや密。石英・長石・雲母・砂粒を微量含む。	灰褐色	にぶい橙色	良	ハケ（横位）。縄文LR（横位）。沈線（弧状）。連弧文。	ナデ。			
22	SR1 7B15 2層	壺	後期前半	Ⅱ群7類	底部	－	<13.4>	(1.8)	やや粗。長石を少量、石英・雲母・砂粒を微量含む。	灰白色	不明	良	縄文RL（横位）。	不明。			
23	SR1 7B15 4層	甕	中期後半	Ⅰ群6類	口縁部	－	－	(2.8)	やや粗。砂粒を少量、石英・長石を微量含む。	褐灰色	褐灰色	良	口唇部ハケ（横位）。ハケ（横位）。平行沈線（横位）。口縁部に隆帯（横位）頂部に刻み。	ハケ（横位）。	○		
24	SR1 6B17 7層	甕	後期前半	Ⅱ群7類	口縁～底部	29.0	8.0	35.5	やや密。砂粒を少量、長石・小礫を微量含む。	浅黄橙色	灰白色	良	縄文LR（横位）。ハケ（横位）。	口縁部に縄文LR圧痕。ハケ（横位）。指頭圧痕。	○	○	炭化物（スス）サンプル採取遺物。
25	SR1 6B17 7層	甕		Ⅲ群8類	口縁～胴部	<12.8>	－	(6.0)	やや密。長石・雲母・砂粒を微量含む。	灰白色	灰黄色	良	ハケ（横位）。	ハケ（横位）。			

弥生土器(2)

（　）は残存値、〈　〉は復元値

報告No.	出土位置 出土層位	器種	時期	分類	残存部位	法量(cm) 口径	底径	高さ	胎土	色調 外面	内面	焼成	文様・調整など 外面	内面	スス 外面	内面	備考
26	SR1 6B17 7層	甕		Ⅲ群8類	口縁～胴部	－	－	(5.5)	やや粗。砂粒を少量、石英・長石・小礫を微量含む。	にぶい黄橙色	浅黄橙色	良	ハケ（横位）。	ハケ（横位）。	○		
27	SR1 05B24 8層	甕	中期後半	Ⅰ群2類	口縁部	－	－	(3.0)	やや密。砂粒を少量、石英・長石・雲母を微量含む。	褐灰色	褐灰色	良	口唇部縄文L圧痕。ハケ（斜位）。平行沈線。	ハケ（横位）。		○	No.28･32～34と同一個体。
28	SR1 04B14 8層	甕	中期後半	Ⅰ群2類	口縁部	－	－	(3.0)	やや密。砂粒を少量、石英・長石・雲母を微量含む。	にぶい褐色	明褐灰色	良	口唇部縄文L圧痕。ハケ(横位･斜位)。沈線（横位）。	ハケ（横位）。	○	○	No.27･32～34と同一個体。
29	SR1 05C5 8層	甕	中期後半	Ⅰ群6類	口縁部	－	－	(2.3)	やや粗。砂粒を少量、石英・長石を微量含む。	灰褐色	にぶい黄橙色	良	口唇部縄文L圧痕。ハケ(横位･斜位)。沈線（横位）。	ハケ（横位）。	○	○	No.30・39と同一個体。
30	SR1 05C10 8層	甕	中期後半	Ⅰ群6類	口縁部	－	－	(3.1)	やや密。砂粒を少量、石英・長石を微量含む。	褐灰色	灰褐色	良	口唇部縄文L圧痕。ハケ（横位）。平行沈線。	ハケ（横位）。	○		No.29・39と同一個体。
31	SR1 7C2 8層	甕	中期後半	Ⅰ群6類	口縁部	－	－	(3.3)	やや密。砂粒を少量、石英・長石を微量含む。	褐灰色	褐灰色	良	口唇部刻み（斜位）。ハケ（横位）。沈線（横位）。	ハケ（横位）。	○		
32	SR1 04C6 8層	甕	中期後半	Ⅰ群2類	胴部	－	－	(4.0)	やや密。砂粒を少量、石英・長石・雲母を微量含む。	にぶい褐色	にぶい黄橙色	良	ハケ（斜位）。平行沈線。	ハケ（横位）。	○		No.27・28・33・34と同一個体。
33	SR1 05C5 8層	甕	中期後半	Ⅰ群2類	胴部	－	－	(3.7)	やや密。砂粒を少量、石英・長石・雲母を微量含む。	にぶい褐色	にぶい橙色	良	ハケ（斜位）。平行沈線。	ハケ（横位）。	○		No.27・28・32・34と同一個体。
34	SR1 05B25 8層	甕	中期後半	Ⅰ群2類	胴部	－	－	(3.2)	やや密。砂粒を少量、石英・長石・雲母を微量含む。	にぶい褐色	にぶい黄橙色	良	ハケ（斜位）。沈線（横位）。	ハケ（横位）。	○		No.27・28・32・33と同一個体。
35	05C5 8層	甕	中期後半	Ⅰ群2類	胴部	－	－	(3.4)	やや密。砂粒を少量、長石・石英を微量含む。	褐灰色	にぶい橙色	良	ハケ（斜位）。平行沈線（鋸歯状）。	ハケ（横位）。	○		
36	05C10 8層	甕	中期後半	Ⅰ群2類	胴部	－	－	(3.3)	やや密。長石・砂粒を少量、雲母を微量含む。	にぶい褐色	にぶい黄橙色	良	ハケ（斜位）。平行沈線（横位･斜位）。	ハケ（横位）。			No.37と同一個体。
37	SR1 05C5 8層	甕	中期後半	Ⅰ群2類	胴部	－	－	(3.8)	やや密。長石・砂粒を少量、雲母を微量含む。	にぶい黄橙色	にぶい褐色	良	ハケ（横位・斜位）。沈線。	ハケ（横位）。			No.36と同一個体。
38	SR1 05C10 8層	甕	中期後半	Ⅰ群2類	胴部	－	－	(4.1)	やや密。砂粒を少量、石英・長石を微量含む。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	ハケ（横位･斜位）。平行沈線（斜位）。	ハケ（横位）。	○		
39	SR1 04C1 8層	甕	中期後半	Ⅰ群6類	胴部	－	－	(1.8)	やや密。砂粒を少量、石英・長石を微量含む。	褐灰色	灰黄褐色	良	ハケ（斜位）。沈線（横位）。	ハケ（横位）。	○		No.29・30と同一個体。
40	SR1 05C10 8層	甕	中期後半	Ⅰ群6類	胴部	－	－	(3.2)	やや密。砂粒を少量、石英・長石・雲母を微量含む。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	ハケ（横位）。平行沈線。	ハケ（横位）。	○		
41	SR1 5B14 8層	甕		Ⅲ群8類	口縁部	－	－	(2.4)	やや密。長石・砂粒を微量含む。	灰褐色	にぶい黄橙色	良	ハケ（横位）。沈線（横位）。	ハケ（横位）。	○	○	
42	SR1 6B17 8層	甕	後期前半	Ⅱ群5類	胴部	－	－	(3.1)	やや粗。砂粒を少量、石英・長石を微量含む。	にぶい黄橙色	灰黄色	良	縄文RL（斜位）。沈線（弧状）。	ハケ（横位）。	○		
43	SR1 7C2 8層	甕		Ⅲ群7類	胴部	－	－	(3.9)	やや密。砂粒を少量、長石を微量含む。	褐灰色	褐灰色	良	縄文RL（斜位）。	ハケ（横位）。	○		
44	SR1 8C2 8層	甕		Ⅲ群8類	底部	－	<8.6>	(1.4)	やや粗。長石・砂粒を少量、石英を微量含む。	にぶい黄橙色	灰黄色	良	ハケ（横位）。	ハケ（横位）。			断面にスス付着。
45	SR1 7C2 8層	甕		Ⅲ群8類	底部	－	<5.8>	(1.2)	やや粗。砂粒を少量、石英・長石・雲母を微量含む。	にぶい黄橙色	にぶい橙色	良	ハケ（横位）。	ハケ（横位）。			
46	SR1 02B21 9層	小型土器		Ⅲ群6類	胴～底部	－	<3.4>	(5.7)	やや粗。砂粒を中量、長石・雲母を微量含む。	橙色	橙色	良	ハケ（横位）。平行沈線（横位･斜位）。弧線文。	ハケ（横位）。	○		
47	SR1 7B14 9層	甕	中期後半	Ⅰ群6類	口縁部	－	－	(3.0)	やや密。石英・長石・砂粒を微量含む。	褐灰色	褐灰色	良	口唇部刻み（斜位）。ハケ（横位）。沈線（横位）。	ハケ（横位・斜位）。	○		
48	SR1 7B19 9層	甕	中期後半	Ⅰ群6類	口縁部	－	－	(2.8)	やや粗。砂粒を少量、石英・長石・雲母を微量含む。	灰赤色	にぶい橙色	良	口唇部に連続した押圧。ハケ（横位）。平行沈線。	沈線(横位)。ハケ(横位)。	○	○	
49	SR1 7B 9層	甕	中期後半	Ⅰ群2類	口縁部	－	－	(4.1)	やや密。砂粒を少量、石英・長石を微量含む。	灰褐色	浅黄橙色	良	ハケ（横位）。3列並行の沈線（横位・鋸歯状）。	ハケ（横位）。	○	○	炭化物（ススサンプル採取遺物。
50	SR1 7B15 9層	甕	中期後半	Ⅰ群1類	口縁～胴部	－	－	(8.2)	やや密。砂粒を少量、石英・長石を微量含む。	浅黄橙色	灰色	良	口縁部刻み（縦位）。ハケ（横位・斜位）。沈線（横位）。横位に連続する横長の刺突。	ハケ（横位・斜位）。	○		No.51・52と同一個体。

弥生土器(3)

（　）は残存値、〈　〉は復元値

報告No.	出土位置 出土層位	器種	時期	分類	残存部位	法量(cm) 口径	底径	高さ	胎土	色調 外面	内面	焼成	文様・調整など 外面	内面	スス 外面	内面	備考
51	SR1 7B15 9層	甕	中期後半	Ⅰ群1類	胴部	－	－	(6.2)	やや密。砂粒を少量、石英・長石を微量含む。	灰白色	褐灰色	良	ハケ（横位）。沈線。横位に連続する横長の刺突。	ハケ（横位・斜位）。			No.50・52と同一個体。
52	SR1 7B15 4・9層	甕	中期後半	Ⅰ群1類	胴部	－	－	(7.5)	やや密。砂粒を少量、石英・長石を微量含む。	にぶい褐色	褐灰色	良	ハケ（横位）。沈線。横位に連続する横長の刺突。	ハケ（横位・斜位）。	○		No.50・51と同一個体。
53	SR1 7B13 9層	甕	中期後半	Ⅰ群2類	胴部	－	－	(3.6)	やや密。石英・長石・雲母・砂粒を微量含む。	黄灰色	にぶい黄橙色	良	ハケ（横位）。沈線（横位・鋸歯状）。	ナデ。	○		
54	SR1 7B14 9層	甕	中期後半	Ⅰ群6類	胴部	－	－	(2.5)	やや密。石英・長石・雲母・砂粒を微量含む。	にぶい黄橙色	褐灰色	良	ハケ（横位）。沈線（横位）。縄文。	ハケ（横位）。	○		
55	SR1 7B14 9層	甕		Ⅰ群7類	胴部	－	－	(3.5)	やや密。長石・砂粒を少量、石英を微量含む。	橙色	褐灰色	良	縄文LR（横位）。平行沈線（斜位）。	ナデ。	○		断面にスス付着。No.56と同一個体。
56	SR1 7B15 9層	甕		Ⅰ群7類	胴部	－	－	(3.6)	やや密。長石・砂粒を少量、石英を微量含む。	橙色	褐灰色	良	ハケ（斜位）。縄文LR（横位）。平行沈線（横位）。	ハケ（横位）。	○		No.55と同一個体。
57	SR1 7B12 9層	甕	後期前半	Ⅱ群3類	口縁部	－	－	(4.0)	やや密。砂粒を少量、石英・長石を微量含む。	浅黄橙色	にぶい黄橙色	良	口縁部に連続した縦長の刺突。平行沈線。縄文LR（横位）。連弧文。	口縁部に連続した押圧（縦位）。ハケ（横位）。			
58	SR1 7B12 9層	甕	後期前半	Ⅱ群3類	口縁～胴部	－	－	(5.1)	やや密。長石・砂粒を少量、石英を微量含む。	にぶい黄橙色	浅黄橙色	良	口唇部に刻み。口縁部に連続する瘤状の突起（中央に刻みが施される）。縄文RL（横位）。	ハケ（横位）。	○		
59	SR1 7B11 9層	甕	後期前半	Ⅱ群5類	口縁部	－	－	(2.6)	やや粗。砂粒を少量、長石を微量含む。	褐灰色	灰黄褐色	良	口縁部に連続した縦長の刺突。平行沈線。	口縁部に連続した押圧（縦位）。ハケ（横位）。			
60	SR1 6B16 9層	甕	後期前半	Ⅱ群7類	口縁部	－	－	(4.6)	やや粗。砂粒を中量、長石を微量含む。	灰褐色	灰白色	良	口縁部に連続した押圧。沈線（横位）。縄文LR（横位）。弧線文。	口縁部に連続した縄文LR圧痕（縦位）。ハケ（横位）。	○		
61	SR1 7B15 9層	甕	後期前半	Ⅱ群7類	口縁～胴部	－	－	(8.2)	やや密。長石・小礫を少量、石英を微量含む。	灰赤色	灰色	良	ハケ（横位）。縄文RL（横位）。	ハケ（横位）。	○	○	
62	SR1 7B15 9層	甕	後期前半	Ⅱ群8類	口縁部	－	－	(2.5)	やや密。砂粒を少量、石英・長石を微量含む。	にぶい黄橙色	褐灰色	良	ハケ（横位・斜位）。口唇部ハケ（横位）。	ハケ（横位）。	○		
63	SR1 7B11 9層	甕	後期前半	Ⅱ群5類	胴部	－	－	(4.2)	やや密。砂粒を少量、長石・雲母を微量含む。	灰褐色	橙色	良	縄文LR（横位）。沈線（横位・斜位）。磨消文。	ハケ（横位）。	○		No.64と同一個体。
64	SR1 7B11 9層	甕	後期前半	Ⅱ群5類	胴部	－	－	(4.1)	やや密。砂粒を少量、長石・雲母を微量含む。	灰黄褐色	橙色	良	縄文LR（横位・斜位）。沈線（横位・斜位）。磨消文。	ハケ（横位）。	○		No.63と同一個体。
65	SR1 7B11 9層	甕	後期前半	Ⅱ群5類	胴部	－	－	(2.6)	やや粗。砂粒を少量、長石を微量含む。	褐灰色	にぶい黄橙色	良	沈線（横位）。縄文LR（横位）。弧線文。	ハケ（横位）。	○		No.66と同一個体。
66	SR1 7B11 9層	甕	後期前半	Ⅱ群5類	胴部	－	－	(2.8)	やや粗。砂粒を少量、長石を微量含む。	褐灰色	灰黄褐色	良	縄文LR（横位）。沈線（横位・斜位）。弧線文。	ナデ。	○		No.65と同一個体。
67	SR1 7B11 9層	甕	後期前半	Ⅱ群3類	胴部	－	－	(4.7)	やや粗。石英・長石・雲母・砂粒を微量含む。	橙色	橙色	良	沈線（横位・斜位）。磨消文。	ハケ（横位）。	○	○	
68	SR1 7B12 9層	甕	後期前半	Ⅱ群5類	胴部	－	－	(4.4)	やや密。長石を少量、石英・雲母・砂粒を微量含む。	橙色	橙色	良	沈線（横位・弧状）。縄文LR（横位）。	ナデ。	○		
69	SR1 7B12 9層	甕	後期後半	Ⅱ群5類	胴部	－	－	(3.8)	やや密。石英・長石・砂粒を微量含む。	灰白色	灰黄褐色	良	ハケ（横位）。撚糸文。沈線（弧状）。	ハケ（横位）。			
70	SR1 02B21 9層	甕		Ⅲ群8類	底部	－	<6.8>	(2.4)	やや密。砂粒を少量、石英・長石・雲母を微量含む。	淡黄色	浅黄色	良	ハケ（横位）。	ハケ（横位）。			
71	SR1 7B14 9層	甕		Ⅲ群8類	底部	－	<7.2>	(1.5)	やや粗。長石・砂粒を少量、石英・雲母を微量含む。	にぶい黄橙色	灰白色	良	ハケ（横位）。	ハケ（横位）。	○		
72	SR1 7B 9・10層	甕	中期後半	Ⅰ群2類	口縁部	－	－	(3.4)	やや密。砂粒を少量、長石を微量含む。	にぶい黄橙色	黄灰色	良	口唇部に縄文RL（横位）。ハケ（横位）。4列並行の沈線（横位・鋸歯状）。	ハケ（横位）。	○	○	
73	SR1 7B14 10層	甕	中期後半	Ⅰ群2類	口縁部	－	－	(3.7)	やや密。石英・長石・雲母・砂粒を微量含む。	褐灰色	にぶい黄橙色	良	ハケ（横位・斜位）。2列並行の沈線。口唇部に連続押圧。	ナデ。	○		No.74～77と同一個体。
74	SR1 7B14 10層	甕	中期後半	Ⅰ群2類	胴部	－	－	(4.2)	やや密。石英・長石・雲母・砂粒を微量含む。	褐灰色	にぶい黄橙色	良	ハケ（横位・斜位）。3列並行の沈線（横位・鋸歯状）。	ハケ（横位）。	○		No.73・75～77と同一個体。
75	SR1 7B14 10層	甕	中期後半	Ⅰ群2類	胴部	－	－	(3.6)	やや密。石英・長石・雲母・砂粒を微量含む。	褐灰色	にぶい黄橙色	良	ハケ（横位）。3列並行の沈線（横位・鋸歯状）。	ハケ（横位）。	○		No.73・74・76・77と同一個体。

弥生土器(4)

（　）は残存値、〈　〉は復元値

報告No.	出土位置 出土層位	器種	時期	分類	残存部位	法量(cm) 口径	底径	高さ	胎土	色調 外面	内面	焼成	文様・調整など 外面	内面	スス 外面	内面	備考
76	SR1 7B13 10層	甕	中期後半	Ⅰ群2類	胴部	－	－	(5.1)	やや密。石英・長石・雲母・砂粒を微量含む。	にぶい橙色	にぶい黄橙色	良	ハケ（横位）。3列並行の沈線（横位・鋸歯状）。	ハケ（横位）。	○		No.73～75･77と同一個体。
77	SR1 7B14 10層	甕	中期後半	Ⅰ群2類	胴部	－	－	(3.3)	やや密。石英・長石・雲母・砂粒を微量含む。	灰黄褐色	にぶい黄橙色	良	ハケ（横位･斜位）。2列並行の沈線（横位・鋸歯状）。	ハケ（横位）。	○		No.73～76と同一個体。
78	SR1 7B11 10層	甕	後期前半	Ⅱ群4類	口縁部	－	－	(3.2)	密。石英・長石・雲母・砂粒を微量含む。	橙色	黒褐色	良	口唇部に刻み。交互刺突文。沈線。	ハケ（横位）。			
79	SR1 7B14 10層	甕		Ⅲ群6類	口縁部	－	－	(2.2)	やや密。砂粒を少量、石英・長石を微量含む。	褐灰色	にぶい黄橙色	良	ハケ（横位）。沈線。	ハケ（横位）。	○	○	
80	SR1 7B13 10層	甕	後期前半	Ⅱ群4類	胴部	－	－	(5.0)	やや密。石英・長石・砂粒を微量含む。	褐灰色	褐灰色	良	沈線（横位・斜位）。交互刺突文。	ハケ（横位）。	○	○	
81	SR1 7B11 10層	甕	後期前半	Ⅱ群3類	胴部	－	－	(4.3)	やや密。石英・長石・雲母・砂粒を微量含む。	褐灰色	橙色	良	縄文LR（横位）。沈線（横位･連弧文）。	ナデ。	○		
82	SR1 7B13 10層	甕	後期前半	Ⅱ群6類	胴部	－	－	(7.9)	やや密。長石・砂粒を少量、石英・小礫を微量含む。	橙色	橙色	普通	ハケ（横位）。縄文RL（斜位）。平行沈線。	ハケ（横位）。	○		
83	SR1 7B13 10層	甕	後期後半	Ⅱ群5類	胴部	－	－	(5.6)	やや密。長石・砂粒を少量、石英を微量含む。	にぶい赤褐色	にぶい黄橙色	良	ハケ（横位･縦位）。沈線（横位･弧状）。	ナデ。	○		
84	SR1 6B18 10層	甕		Ⅲ群8類	胴部	－	－	(3.4)	やや密。石英・長石・雲母・砂粒を微量含む。	にぶい黄橙色	灰白色	良	ハケ（横位・斜位）。	ハケ（横位）。	○		
85	SR1 7B 10層	甕		Ⅲ群7類	胴～底部	－	<7.7>	(7.9)	やや粗。長石・砂粒を少量、石英を微量含む。	にぶい橙色	浅黄橙色	良	ハケ（横位・斜位）。縄文RL（横位）。ナデ。	ハケ（縦位）。	○	○	
86	SR1 7B12 9・10層	甕		Ⅲ群8類	胴～底部	－	7.9	(9.7)	やや密。長石・砂粒を少量、石英を微量含む。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	ハケ（横位）。	ハケ（横位・斜位）。	○	○	
87	SR1 7B13 10層	甕		Ⅲ群8類	底部	－	<8.0>	(2.3)	やや密。砂粒を少量、石英・長石を微量含む。	にぶい黄橙色	浅黄橙色	良	ハケ（横位）。	ハケ（横位）。	○		断面にもスス付着。壺の可能性あり。
88	SR1 7B13 10層	甕		Ⅲ群8類	胴～底部	－	<8.8>	(4.1)	やや密。砂粒を少量、石英・長石・雲母を微量含む。	黄灰色	黄灰色	良	ハケ（横位・斜位）。	ハケ（横位）。	○		
89	5B17 Ⅱb2層	甕	中期後半	Ⅰ群2類	胴部	－	－	(2.1)	やや密。砂粒を少量、石英・長石を微量含む。	にぶい黄橙色	灰白色	良	平行沈線（横位・斜位）。	ナデ。			
90	5B21 Ⅱb2層	甕	中期後半	Ⅰ群2類	胴部	－	－	(2.1)	やや密。長石を少量、雲母・砂粒を微量含む。	にぶい黄橙色	浅黄橙色	良	ハケ（横位）。平行沈線。沈線（横位･鋸歯状）。	ナデ。	○		
91	4B19 Ⅱb2層	甕	中期後半	Ⅰ群6類	胴部	－	－	(1.7)	やや粗。砂粒を少量、長石を微量含む。	にぶい赤褐色	褐灰色	良	ハケ（縦位）。平行沈線。	ハケ（横位）。	○		
92	8B22 Ⅱb2層	甕	中期後半	Ⅰ群6類	胴部	－	－	(1.7)	やや密。砂粒を少量、石英・長石を微量含む。	褐灰色	灰黄褐色	良	ハケ（横位）。沈線（横位）。	ハケ（横位）。			
93	6B17 Ⅱb2層	甕	後期後半	Ⅱ群6類	口縁部	－	－	(2.3)	やや密。石英・長石・砂粒を微量含む。	褐灰色	にぶい黄橙色	良	口縁部に連続する縦位の押圧。沈線（横位・波状）。	口縁部に連続する縦位の押圧。ナデ。	○	○	
94	5C2 Ⅱb2層	甕	後期前半	Ⅱ群8類	口縁部	－	－	(2.6)	やや密。砂粒を少量、長石を微量含む。	にぶい黄橙色	灰黄褐色	良	口唇部縄文LR（横位）。口縁部に連続する皿状の押圧。ハケ（横位）。	ハケ（横位）。	○		
95	5C22 Ⅱb2層	甕	後期前半	Ⅱ群6類	口縁部	－	－	(3.9)	やや粗。長石・砂粒を少量、石英・雲母を微量含む。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	隆帯（横位）。沈線（隆帯の中央に弧状）。縄文RL（横位）。	ナデ。	○		
96	7B13 Ⅱb2層	甕	後期前半	Ⅱ群6類	口縁部	－	－	(3.0)	やや粗。砂粒を少量、石英・長石を微量含む。	橙色	褐灰色	良	隆帯（横位）。沈線（斜位）。	ナデ。	○		
97	5B12 Ⅱb2層	甕	後期前半	Ⅱ群6類	胴部	－	－	(1.8)	やや密。砂粒を少量、長石・雲母を微量含む。	にぶい橙色	浅黄色	良	ハケ（斜位）。沈線（横位）。縄文RL（横位）。	ナデ。	○		
98	5C5 Ⅱb2層	甕	後期前半	Ⅱ群6類	胴部	－	－	(1.5)	やや密。砂粒を少量、長石を微量含む。	灰黄褐色	浅黄橙色	良	ハケ（横位）。沈線（横位・斜位）。	ハケ（横位）。	○		
99	6C9 Ⅱb2層	甕	後期前半	Ⅱ群4類	胴部	－	－	(2.2)	やや密。砂粒を少量、長石を微量含む。	灰褐色	にぶい橙色	良	ハケ（横位）。交互刺突文。沈線（横位）。	ハケ（横位）。	○		
100	5C18 Ⅱb2層	壺？	後期前半	Ⅱ群5類	胴部	－	－	(2.6)	やや粗。長石を少量、雲母・砂粒を微量含む。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	縄文RL（横位）。沈線（横位・弧状）。	ナデ。			

弥生土器(5)

（　）は残存値、〈　〉は復元値

報告No.	出土位置 出土層位	器種	時期	分類	残存部位	法量(cm) 口径	底径	高さ	胎土	色調 外面	内面	焼成	文様・調整など 外面	内面	スス 外面	内面	備考
101	6C9 Ⅱb2層	甕	後期前半	Ⅱ群5類	胴部	－	－	(2.8)	やや粗。砂粒を少量、石英・長石・雲母を微量含む。	灰色	にぶい黄橙色	良	縄文RL（横位）。沈線。	ハケ（横位）。			
102	6C14 Ⅱb2層	甕		Ⅲ群6類	胴部	－	－	(2.5)	やや密。長石・雲母・砂粒を微量含む。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	沈線（横位・弧状）。	ナデ。	○		
103	5B25 Ⅱb2層	甕		Ⅲ群8類	胴部	－	－	(2.6)	やや密。砂粒を少量、石英・長石を微量含む。	にぶい橙色	灰白色	良	ハケ（横位）。	ハケ（横位）。	○		
104	7B24 Ⅱb2層	甕		Ⅲ群8類	底部	－	<10.3>	(2.7)	やや密。砂粒を少量、石英・長石・小礫を微量含む。	浅黄橙色	褐灰色	良	ハケ（横位）。	ハケ（横位）。			
105	5B24 Ⅲa層	甕	後期前半	Ⅱ群5類	胴部	－	－	(2.2)	やや密。長石・雲母・砂粒を微量含む。	にぶい黄橙色	灰黄色	良	縄文RL（横位）。沈線。	ナデ。	○		No.106と同一個体。
106	5B23 Ⅲa層	甕	後期前半	Ⅱ群5類	胴部	－	－	(2.1)	やや密。長石・雲母・砂粒を微量含む。	灰黄色	灰黄色	良	縄文RL（横位）。沈線（弧状？）。	ナデ。	○		No.105と同一個体。
107	5B25 Ⅲa層	甕	後期前半	Ⅱ群5類	胴部	－	－	(3.1)	やや粗。砂粒を少量、長石・雲母を微量含む。	にぶい赤褐色	にぶい黄橙色	良	縄文RL（横位）。沈線（弧状）。	ナデ。	○		
108	4C17 Ⅲa層	甕	後期前半	Ⅱ群5類	胴部	－	－	(2.1)	やや密。砂粒を少量、石英を微量含む。	灰褐色	浅黄橙色	良	平行沈線。縄文RL(斜位)。沈線(横位)。	ハケ（横位）。	○		
109	5C3 Ⅲa層	甕		Ⅱ群6類	胴部	－	－	(2.2)	やや密。砂粒を少量、長石を微量含む。	褐灰色	にぶい橙色	良	沈線（横位・斜位）。	ハケ（横位）。	○		
110	5B22 Ⅲa層	甕		Ⅲ群6類	胴部	－	－	(1.7)	やや密。長石・砂粒を微量含む。	にぶい橙色	にぶい橙色	良	ハケ（横位）。沈線（横位）。	ナデ。	○	○	
111	5C14 Ⅲa層	甕		Ⅲ群7類	胴部	－	－	(3.1)	やや密。長石・砂粒を少量、雲母を微量含む。	褐灰色	にぶい黄橙色	良	縄文LR（縦位）。	ナデ。			
112	4C11 Ⅲa層	甕		Ⅲ群7類	胴部	－	－	(2.9)	やや密。砂粒を少量、長石を微量含む。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	縄文RL（斜位）。	ナデ。	○		
113	6C2 Ⅲa層	甕		Ⅲ群7類	胴部	－	－	(2.8)	やや密。石英・長石・砂粒を微量含む。	灰褐色	にぶい黄橙色	良	縄文RL（横位）。	ナデ。	○		
114	5B16 Ⅲa層	甕		Ⅲ群8類	底部	－	－	(3.3)	やや粗。砂粒を少量、石英・長石・雲母を微量含む。	灰黄褐色	褐灰色	良	ハケ（横位・斜位）。	ナデ。			
115	75T ⑥層	甕	中期後半	Ⅰ群6類	口縁部	－	－	(2.6)	やや密。石英・長石・雲母・砂粒を微量含む。	褐灰色	にぶい黄橙色	良	口唇部縄文RL（横位）。沈線（横位）。	沈線。ハケ（横位）。		○	
116	69T ③層	甕	後期前半	Ⅱ群6類	口縁部	－	－	(3.1)	やや密。長石・雲母・砂粒・小礫を微量含む。	にぶい黄橙色	褐灰色	良	口唇部縄文RL（横位）。平行沈線。	沈線(横位)。ハケ(横位)。		○	
117	75T ⑥層	甕	後期前半	Ⅱ群7類	口縁部	－	－	(5.5)	やや密。長石・雲母・砂粒・小礫を微量含む。	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	口唇部縄文RL(横位)。縄文RL(横位)。ハケ（横位）。	ハケ（横位）。	○		
118	69T ③層	甕		Ⅲ群8類	口縁部	－	－	(3.6)	やや粗。砂粒・長石を少量含む。	灰白色	灰白色	良	口唇部ハケ（横位）。ハケ（斜位）。	ハケ（横位）。			
119	77T ③層	甕	後期前半	Ⅱ群5類	胴部	－	－	(3.8)	やや粗。砂粒を少量、長石を微量含む。	褐灰色	灰黄褐色	良	縄文LR（横位）。沈線（横位・弧状）。	ナデ。		○	
120	76T 灰色細砂層	甕		Ⅲ群8類	底部	－	<13.6>	(3.6)	粗。砂粒を中量、長石を少量含む。	淡黄色	淡黄色	良	ハケ（横位）。	ハケ（横位）。	○		

出土位置のTは試掘坑、○層は試掘調査の層名

石　　器 (1)

（　）残存値

報告 No.	器　種	石　質	出土位置			法　量 (mm・g)				接合関係	備　　考
			グリッド・T	遺　構	層　位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ		
121	石鏃	頁岩 1	5C9	SX53	1	17.8	14.0	4.3	0.7		
122	石鏃	頁岩 2	7B18		Ⅱ b2	33.7	14.7	3.6	1.1		
123	石鏃	頁岩 1	6B17		Ⅱ b2	26.3	13.9	3.5	1.0		
124	石鏃	頁岩 2	5B17		Ⅱ b2	(24.7)	16.0	4.3	1.2		
125	石鏃	頁岩 1	4C25	SK301	4	34.0	15.7	6.2	1.8		
126	石鏃	頁岩 2	5C1		Ⅲ a	(19.0)	16.8	3.3	1.0		未成品
127	石鏃	頁岩 1	7B11		Ⅱ b2	29.5	22.4	7.0	3.2		未成品
128	石錐	流紋岩	75T		②	(21.1)	6.2	5.4	0.7		
129	石匙	頁岩 2	6D		Ⅱ b1	72.1	31.2	14.3	23.9		
130	石匙	頁岩 2	2B24	SR1	1	77.5	40.5	10.3	21.9		
131	石匙	頁岩 2	4D		Ⅱ a	41.9	64.5	8.6	15.1		
132	箆状石器	頁岩 2	77T		②	45.3	21.0	7.7	6.1		
133	箆状石器	頁岩 2	2B25		Ⅱ b2	32.1	21.1	7.8	4.9		
134	箆状石器	頁岩 2	5B25		Ⅱ b2	(22.6)	17.0	5.2	1.9		
135	箆状石器	頁岩 2	77T		①	54.1	36.3	20.6	34.8		未成品
136	箆状石器	頁岩 2	7B22		Ⅱ b2	46.8	35.4	12.6	13.2		未成品
137	箆状石器	頁岩 2	5B15		Ⅱ b2	25.8	57.5	15.7	19.5		未成品
138	両極石器	頁岩 2	8C4		Ⅱ b2	29.5	28.1	8.1	6.0		
139	両極石器	頁岩 1	8B22		Ⅱ b2	28.5	17.8	9.8	3.7		
140	両極石器	頁岩 1	6C4		Ⅱ b2	31.1	31.4	11.6	11.5		
141	両極石器	頁岩 2	5B19		Ⅱ b2	14.7	19.2	7.2	1.9		
142	両極石器	頁岩 1	7B13	SR1	10	26.7	26.6	10.2	6.7		
143	不定形石器	頁岩 2	5C9		Ⅱ b2	52.9	43.4	18.1	15.7		抉入部あり
144	不定形石器	頁岩 2	77T		②	55.1	27.3	16.4	7.4		抉入部あり
145	不定形石器	頁岩 2	4C23		Ⅱ b2	63.4	23.5	8.1	9.9		抉入部あり
146	不定形石器	頁岩 2	77T		②	33.2	16.0	4.0	1.6		抉入部あり
147	不定形石器	頁岩 2	7D		Ⅱ b2	49.1	34.0	11.5	11.0		
148	不定形石器	頁岩 2	77T		Ⅰ'	49.2	40.1	12.1	19.5		
149	不定形石器	頁岩 2	6C21		Ⅱ b2	38.5	39.0	11.2	11.6		
150	不定形石器	頁岩 2	5B25		Ⅱ b2	49.7	48.5	17.1	32.8		
151	不定形石器	頁岩 2	6E		Ⅱ b2	30.1	40.4	11.3	11.2		
152	不定形石器	流紋岩	5B14		Ⅱ b2	54.0	39.6	13.6	16.5		
153	不定形石器	頁岩 2	4C5		Ⅱ b2	50.6	27.0	11.9	11.6		
154	不定形石器	頁岩 2	5B18		Ⅱ b2	(36.4)	19.7	9.6	8.2		
155	不定形石器	頁岩 2	7B		Ⅱ b1	54.5	29.8	11.8	14.9		
156	不定形石器	頁岩 1	6B21		Ⅱ b2	25.0	21.3	7.2	3.3		
157	不定形石器	頁岩 2	2B14		Ⅱ b2	32.7	14.0	5.2	2.2		
158	不定形石器	頁岩 2	5B13		Ⅱ b2	18.4	31.6	7.5	2.6		
159	不定形石器	頁岩 2	5B25		Ⅱ b2	37.2	30.4	17.7	10.0		
160	不定形石器	頁岩 2	03C20	SR1	6	(25.9)	39.8	8.2	6.7		
161	不定形石器	凝灰岩	8B11		Ⅱ b2	48.8	34.9	11.5	14.9		
162	不定形石器	頁岩 2	5C3		Ⅱ b2	53.6	34.8	10.6	15.8		
163	不定形石器	頁岩 2	4B24		Ⅱ b2	(42.4)	34.3	8.3	10.6		
164	不定形石器	頁岩 2	4C5		Ⅱ b2	41.0	27.2	9.7	7.8		
165	不定形石器	頁岩 2	75T		②	47.7	29.5	8.5	11.5		
166	不定形石器	頁岩 1	6B22		Ⅱ b2	19.9	19.2	4.2	1.5		
167	不定形石器	頁岩 2	4C14		Ⅲ a	63.5	39.8	13.4	22.6		
168	不定形石器	頁岩 2	6C12	SK18	1	74.4	36.9	15.7	35.5		
169	砥石	凝灰岩	02D17	SI318	1	37.0	55.4	20.9	33.5		
170	砥石	安山岩	04D8		Ⅱ c	125.0	73.2	31.9	452.9		
171	砥石	砂岩	2E		撹乱	(47.1)	54.5	10.5	41.0		
172	凹石	安山岩	75T		①	(57.5)	52.2	27.3	109.0		
173	敲石	砂岩	5C19		Ⅱ b2	131.7	70.8	56.2	842.7		
174	石核	石英	2E		撹乱	70.0	52.2	35.4	136.9		
175	石核	頁岩 2	5C12		Ⅲ a	58.6	67.3	29.8	144.8		
176	石核	頁岩 2	5B25		Ⅱ b2	61.5	37.7	20.8	43.6		
177	石核	頁岩 2	6C17		Ⅱ b2	40.9	49.1	29.0	56.2		
178	石核	頁岩 2	7B24		Ⅱ b2	38.7	51.5	20.0	36.8		
179	接合資料	頁岩 2	−		−	46.4	47.5	56.2	119.3	180・181	
180	不定形石器	頁岩 2	77T		②	24.2	29.7	6.0	3.6	181	
181	石核	頁岩 2	4C4	SX52	1	46.3	47.4	46.2	115.7	180	
182	接合資料	頁岩 2	−		−	61.5	52.1	46.8	99.3	183 ～ 185	
183	剝片	頁岩 2	77T		②	27.7	35.1	7.6	4.6	184・185	
184	剝片	頁岩 2	5B17		Ⅱ b2	48.9	23.8	13.1	7.8	183・185	
185	石核	頁岩 2	5B25		Ⅱ b2	50.9	43.5	38.0	86.9	183・184	

出土位置の T は試掘坑、○層は試掘調査の層名

石　　器 (2)

（　）残存値

報告 No.	器　種	石　質	出土位置			法　量 (mm・g)				接合関係	備　考
			グリッド・T	遺　構	層　位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ		
186	接合資料	頁岩 2	−		−	79.4	34.0	18.9	30.6	187・188	
187	剥片	頁岩 2	77T		②	35.5	29.6	7.3	6.0	188	
188	箆状石器	頁岩 2	5B14		Ⅱ b2	61.7	33.8	18.8	24.6	187	未成品
189	接合資料	頁岩 2	−		−	50.6	(49.5)	19.2	28.6	190・191	
190	剥片	頁岩 2	4B14		Ⅱ b1	30.0	19.7	9.9	3.7	191	
191	不定形石器	頁岩 2	77T		①	49.2	(41.4)	13.0	24.9	190	
192	接合資料	頁岩 2	−		−	51.9	63.0	17.8	60.6	193・194	
193	剥片	頁岩 2	5B16		Ⅱ b2	50.3	54.5	17.8	27.2	194	
194	剥片	頁岩 2	6B13		Ⅱ b2	49.4	48.5	17.6	33.4	193	

出土位置の T は試掘坑、○層は試掘調査の層名

金属製品観察表

報告 No.	種　別	材　質	出土位置			法　量 (cm・g)				備　考
			グリッド	遺　構	層　位	長　さ	最大幅	最大厚	重　量	
195	不明	鉄	02D14	SI318	1	13.5	1.8	0.9	19.4	完形、基部は平坦

ガラス小玉観察表

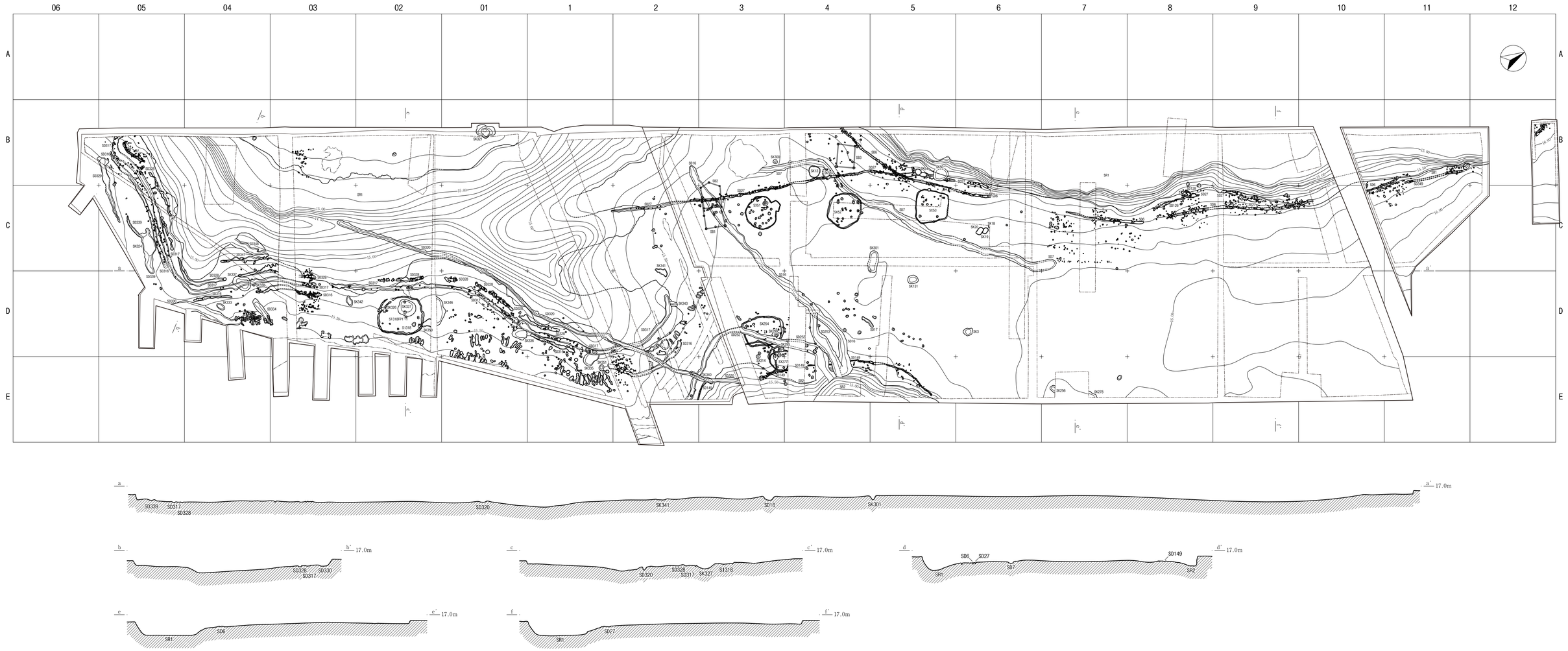
報告 No.	種　別	出土位置		法　量 (mm・g)					色　調	備　考
		グリッド	層　位	外　径	上面径	孔　径	厚　さ	重　さ		
196	ガラス小玉	9B11	Ⅱ b1	4.35 ～ 4.55	3.30	2.00 ～ 2.10	2.50 ～ 2.70	0.07	紺色	

そのほかの遺物観察表

（　）は残存値、〈　〉は復元値

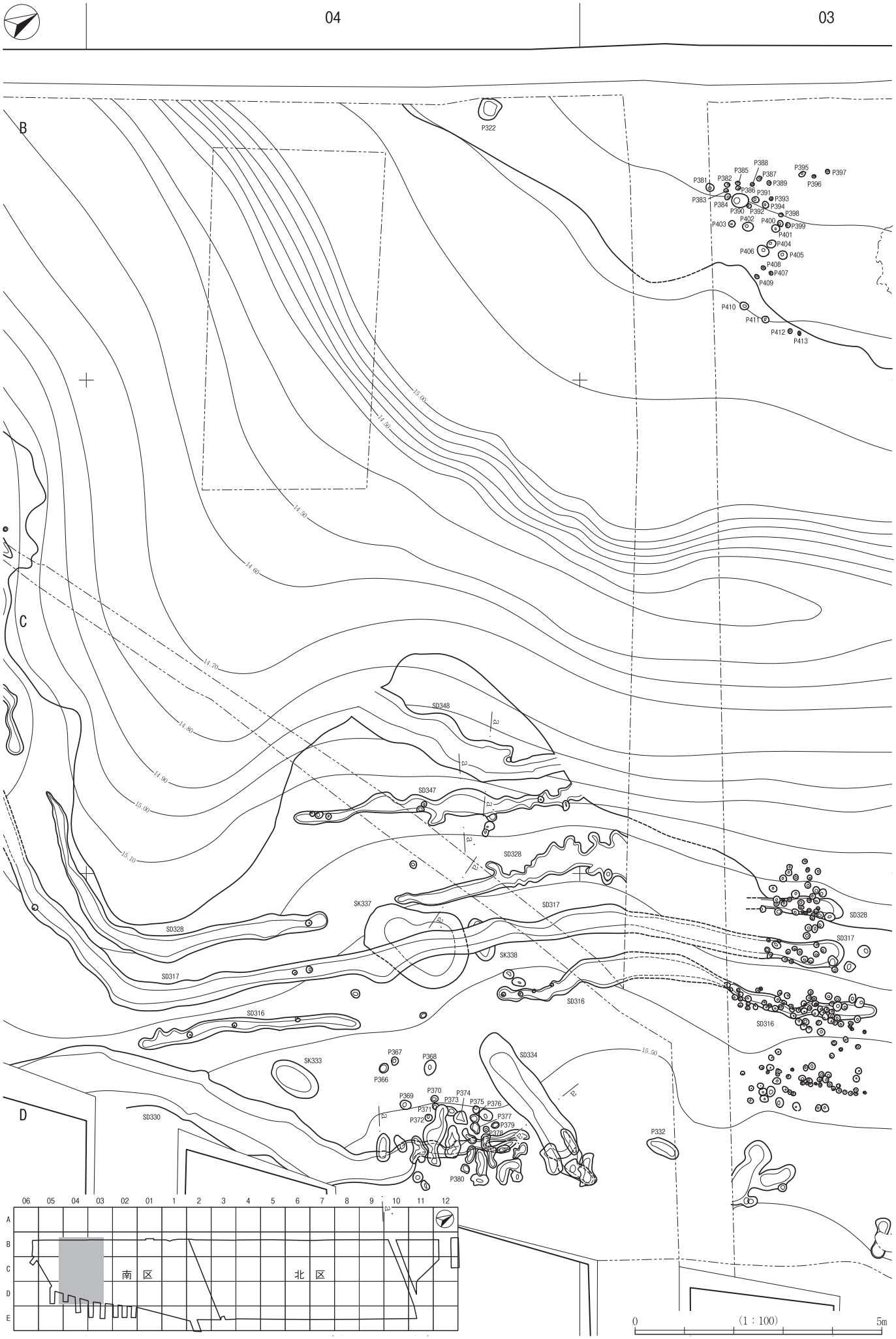
報告 No.	出土位置	層位	種別	器種	残存部位	法　量 (cm)			胎　土	断面色調	施文・色調	釉調	焼成	時　期	備　考
						口径	底径	器高							
197	7B12 SR1	8	縄文 土器	深鉢	胴部	−	−	−	砂少量、石英・雲母微量	灰色	工字文	−	良	縄文時代 晩期後葉	大洞 A 式
198	1D18 SD320	1	須恵器	甕	胴部	−	−	−	石英・砂 微量	灰白色	外面：灰色 内面：灰白色	−	良	古代	
199	9C	Ⅱ b1	珠洲焼	甕	肩部	−	−	−	砂少量	−	外面：灰色 内面：灰黄褐色	−	良	中世	
200	3B21	Ⅱ a	陶器	椀	体部～底部	−	4.6	(2.9)	−	灰白色	外面：にぶい赤褐色	灰釉	良	17C 前半	唐津焼
201	調査区	Ⅰ	陶器	椀	体部～底部	−	4.4	(3.3)	−	灰白色	外面：にぶい黄褐色	灰釉	良	17C 前半	唐津焼

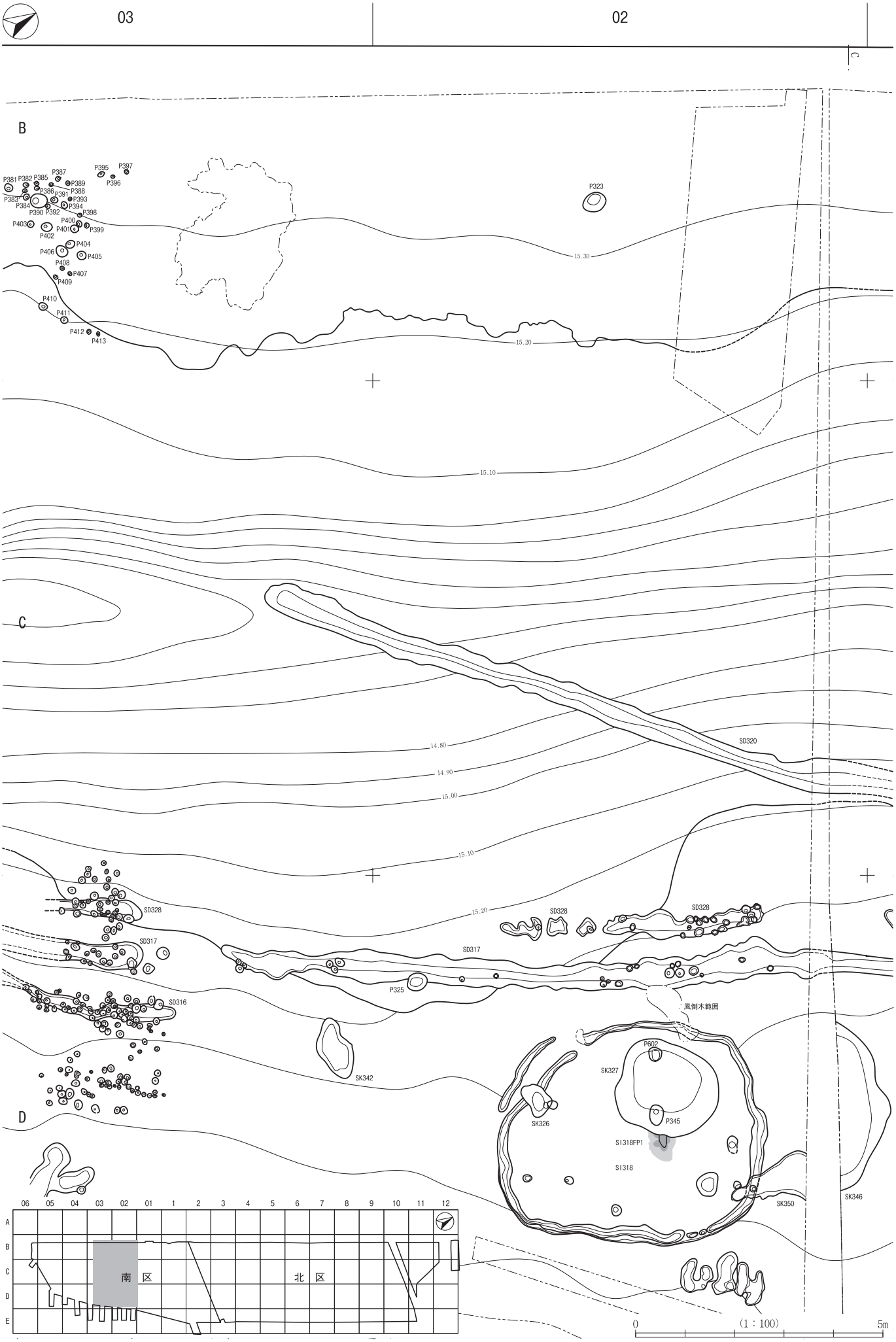
図　　版


06
05
04
03
02
01
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
A
B
C
D
E
SR1
SD339
SD317
SD328
SD320
SK341
SD16
SK301
17.0m
SD330
SD311
SD6
SD27
SD149
SR2
SD317
SK327
S1318
SR1
(1：300)
15m

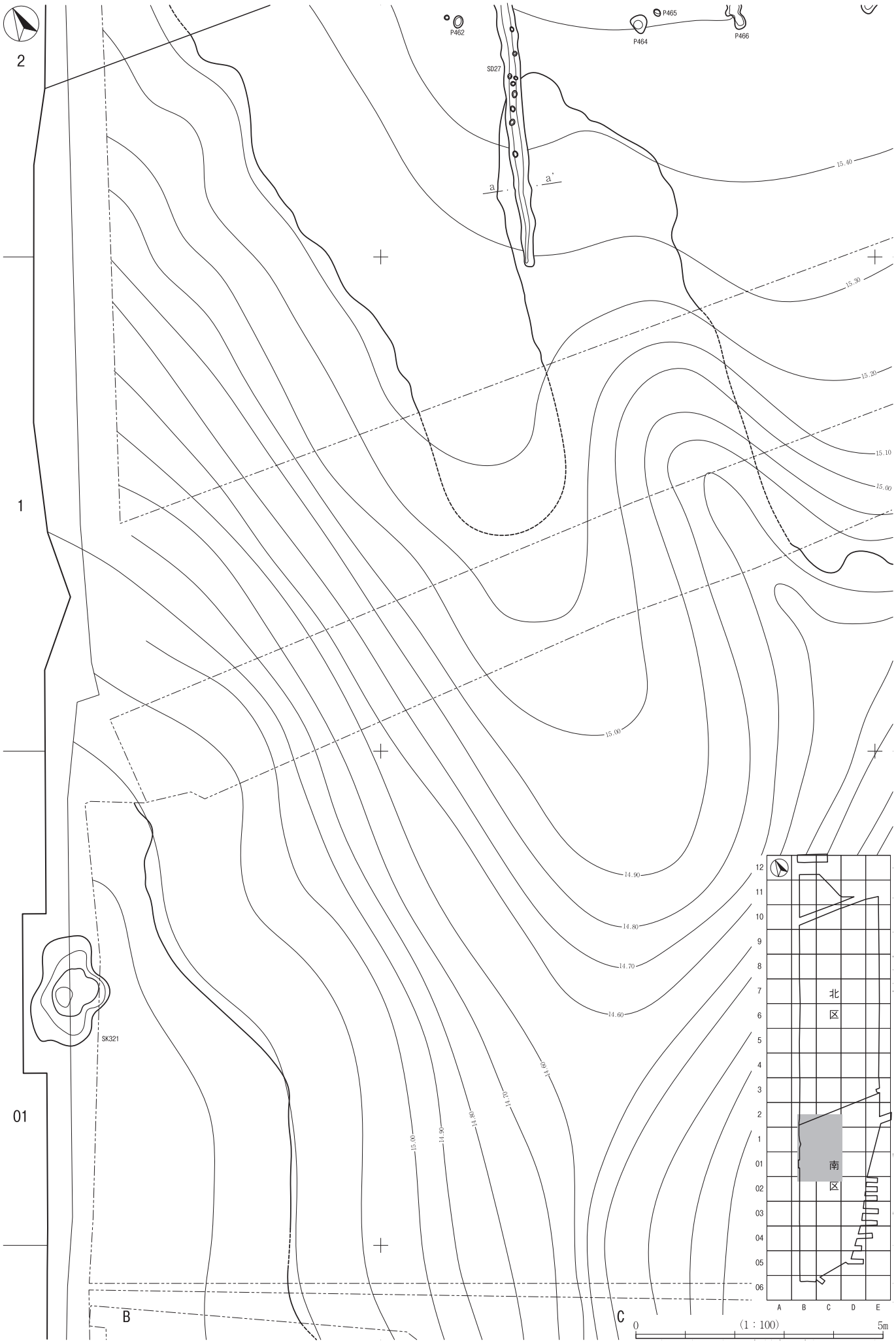
06
05
04
B
C
D
SD317
SD316
SD329
SD328
P358
P359
P360
P361
P362
SD339
SK324
P363
P364
P365
SD330
SK333
15.00
14.90
14.80
14.70
14.60
15.20
15.30
15.40
南 区
北 区
0
(1：100)
5m

遺構分割図（2）


04
03
B
C
D
P322
P381
P382
P383
P384
P385
P386
P387
P388
P389
P390
P391
P392
P393
P394
P395
P396
P397
P398
P399
P400
P401
P402
P403
P404
P405
P406
P407
P408
P409
P410
P411
P412
P413
15.00
14.90
14.50
14.60
14.70
14.80
14.90
15.00
15.10
15.50
SD348
SD347
SD328
SK337
SD317
SK338
SD316
SK333
SD334
SD330
P366
P367
P368
P369
P370
P371
P372
P373
P374
P375
P376
P377
P378
P379
P380
P332
06 05 04 03 02 01 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
A
B
C
D
E
南 区
北 区
0
(1：100)
5m

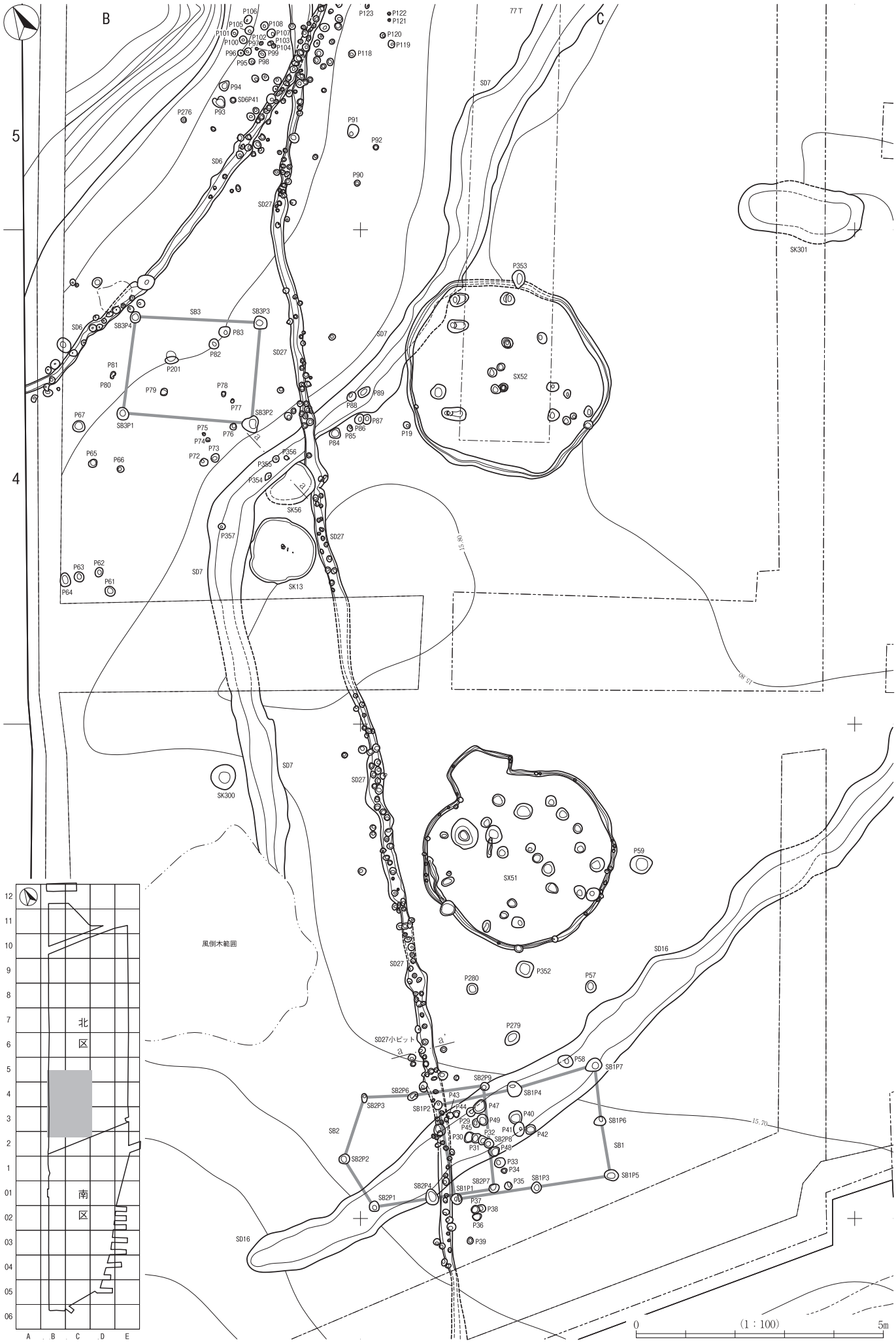

03
02
B
C
D
P381 P382 P385 P387 P389 P395 P397 P396 P386 P391 P388 P383 P384 P393 P394 P390 P392 P398 P400 P401 P399 P403 P402 P404 P406 P405 P408 P407 P409 P410 P411 P412 P413
P323
15.30
15.20
15.10
14.80
14.90
15.00
15.10
15.20
SD320
SD328
SD317
SD316
P325
SK342
風倒木範囲
P602
SK327
P345
SK326
SI318FP1
SI318
SK350
SK346
06 05 04 03 02 01 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
A B C D E
南 区
北 区
0
(1：100)
5m

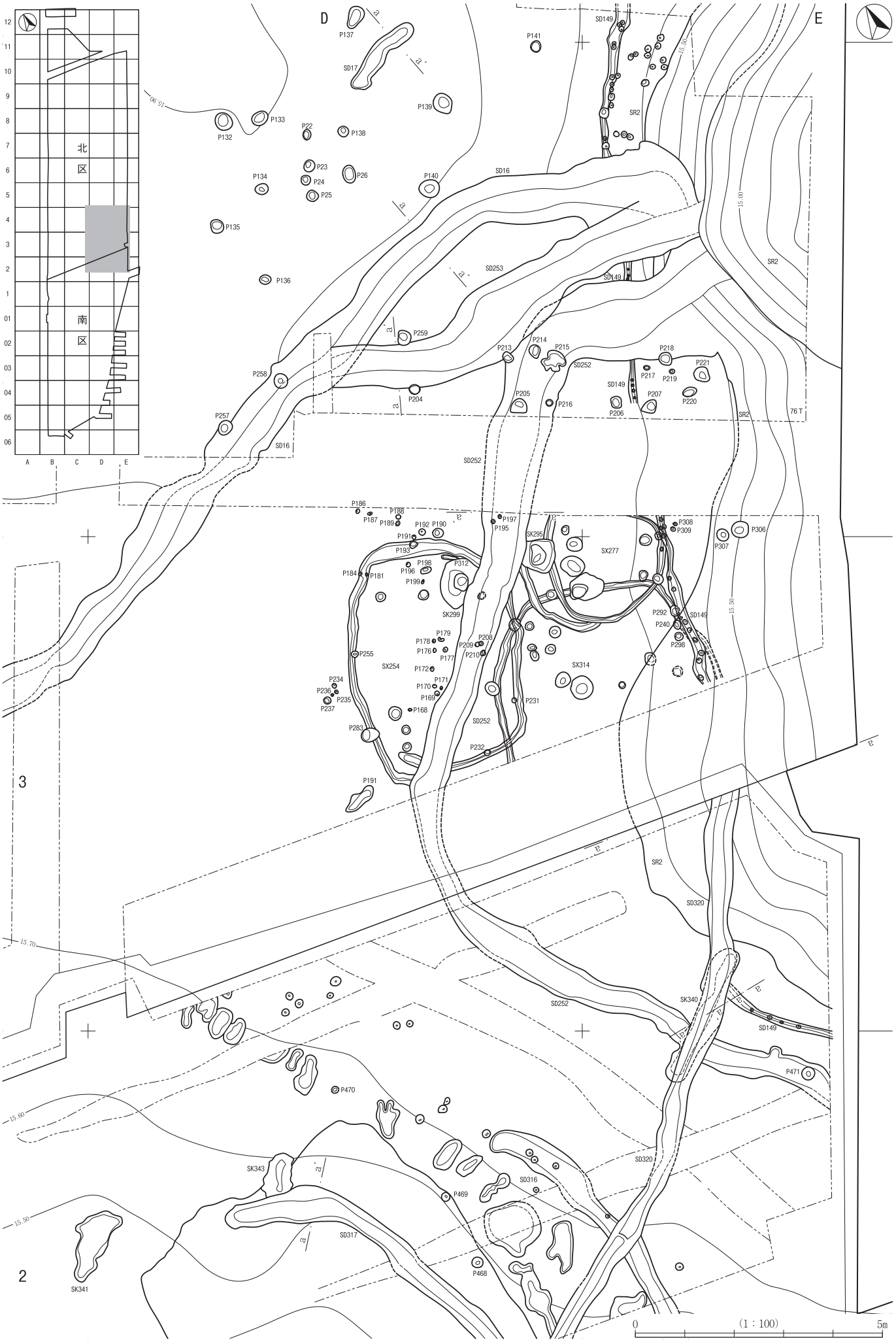
遺構分割図（4）


2
1
01
B
C
P462
P464
P465
P466
SD27
SK321
a
a'
15.40
15.30
15.20
15.10
15.00
15.00
14.90
14.80
14.70
14.60
15.00
14.90
14.80
14.70
14.60
北
区
南
区
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
01
02
03
04
05
06
A
B
C
D
E
0
(1：100)
5m

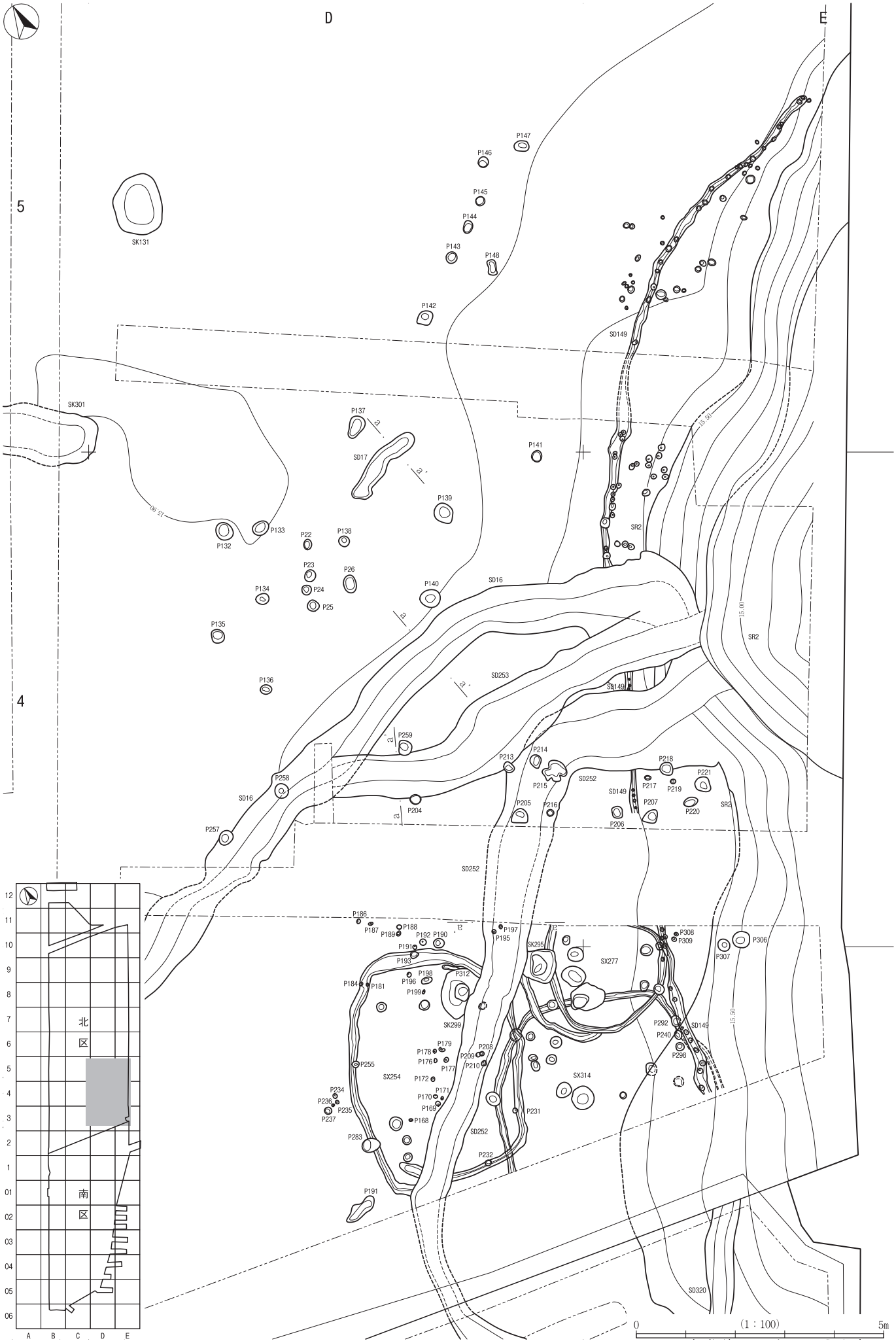
D
E
a
a'
2
1
01
15.40
15.30
15.20
15.10
15.00
15.50
SD317
SD316
SK351
SK335
P461
P460
P459
P458
P457
P455
P454
P456
SD320
SD328
P449
P453
P452
P450
P451
P448
P447
SK336
P445
P444
P443
P441
P442
P440
P437
P439
P438
P435
P434
P436
P446
P421
P423
P422
P433
P432
P420
P425
P429
P431
P424
P426
P430
P428
P427
P419
P415
P418
P417
P416
P414
SK346
SK350
C'
北区
南区
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
01
02
03
04
05
06
A
B
C
D
E
0
(1：100)
5m

遺構分割図（6）


B
C
77T
SD7
SD6
SD27
SD16
SK301
SK56
SK13
SK300
SX52
SX51
SB3
SB3P1
SB3P2
SB3P3
SB3P4
SB1
SB1P1
SB1P2
SB1P3
SB1P4
SB1P5
SB1P6
SB1P7
SB2
SB2P1
SB2P2
SB2P3
SB2P4
SB2P6
SB2P7
SB2P9
SD27小ピット
風倒木範囲
北区
南区
15.51
15.80
15.70
0
(1：100)
5m


北区
南区
D
E
SD149
SR2
SD16
SD253
SD252
SX277
SX314
SX254
SK299
SK295
SK340
SK343
SK341
SD320
SD316
SD317
P470
P471
P469
P468
76 T
15.90
15.80
15.70
15.60
15.50
15.00
0
(1：100)
5m

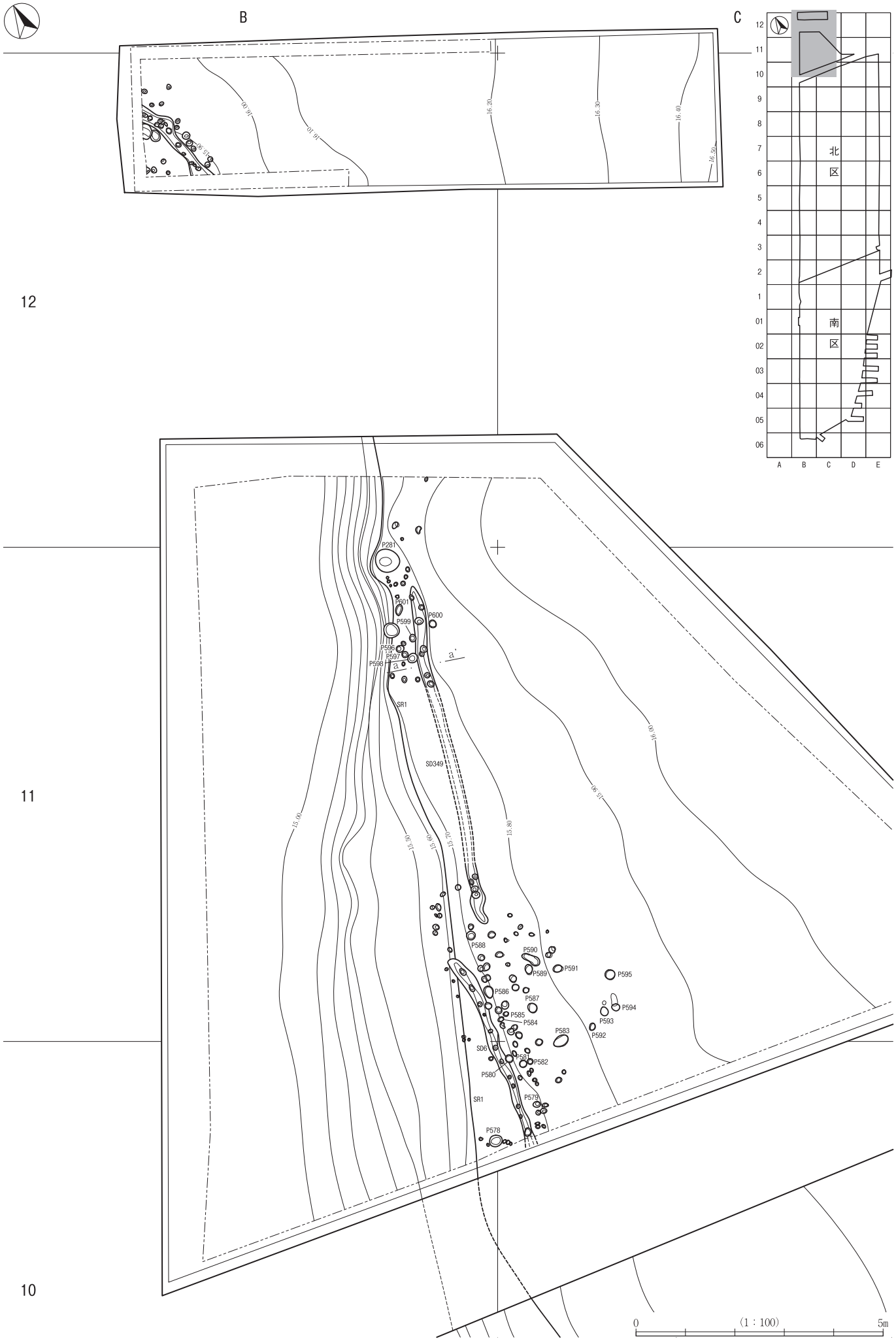
遺構分割図（8）


D
E
5
4
SK131
SK301
P147
P146
P145
P144
P143
P148
P142
SD149
P137
SD17
P141
P139
P133
P132
P22
P138
P23
P26
P134
P24
P25
P140
SD16
P135
P136
SD253
SR2
P259
P213
P214
P218
P221
P258
P215
SD252
P217
P219
P205
P216
P207
P220
P204
P206
P257
P186
P187
P188
P189
P192
P190
P197
P195
SK295
P308
P309
P306
P307
P191
P193
P198
P196
P312
P184
P181
P199
SX277
SK299
P292
P240
P298
P179
P178
P176
P177
P208
P209
P210
P255
SX254
P172
SX314
P234
P236
P235
P237
P170
P171
P169
P168
P231
P283
P232
P191
SD320
北
区
南
区
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
01
02
03
04
05
06
A
B
C
D
E
0
(1：100)
5m

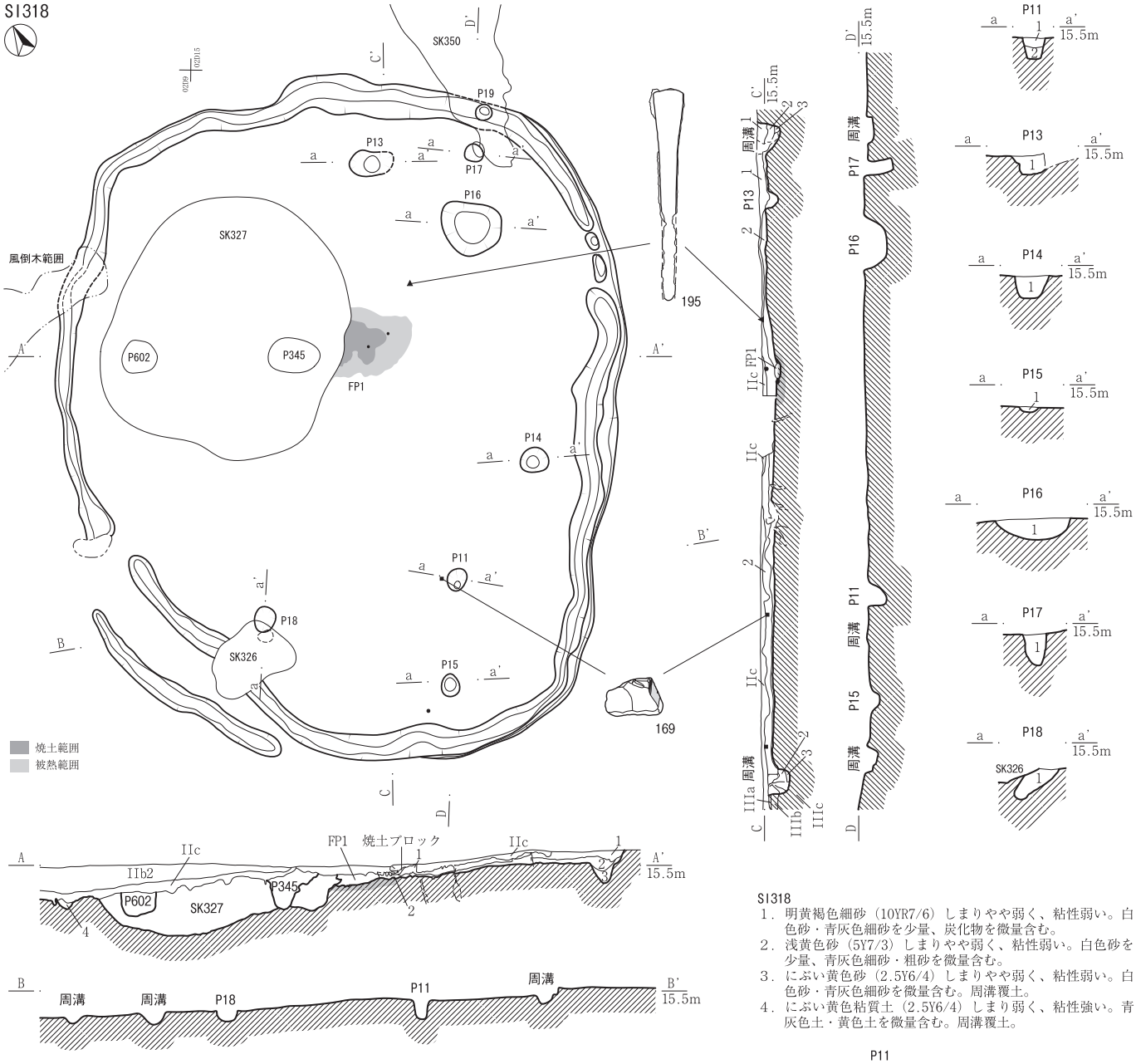
B
C
P492
P491
P493
P503
P496
P495
P494
SR1
SD6
15.00
15.50
15.60
15.70
15.80
15.90
74T
7
SD6小ピット
a
a'
P489
P490
P475
P486
P487
P488
P485
P474
P476
P9
P473
P484
P472
P481
P482
P483
P477
P505
P504
P10
P480
P479
P478
SD7
B
B'
P603
75T
P14
77T
6
SK18
SK19
SK20
SD7
P15
SD6
SD27
24
SD27
北
区
SK50
SX53
SD27
SD6
SK54
P112
P111
P115
P117
P110
P109
P113
P114
P116
5
b
b'
P123
P122
P121
P106
P105
P108
P101
P102
P107
P103
P100
P104
P97
P99
P96
P98
P95
P120
P119
P118
南
区
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
01
02
03
04
05
06
A
B
C
D
E
0
(1：100)
5m

遺構分割図（10）

B
C
10
9
8
北区
南区
A
B
C
D
E
P577
P575
P576
P567
P572
P573
P574
P571
P569
P566
P570
P568
P564
P560
P563
P130
P561
P562
P559
SD6
SR1
P556
P557
P555
P558
P554
P553
P551
P550
P549
P548
P547
P546
P552
P544
P545
SD27
P542
P541
P543
P540
P535
P534
P536
P539
P538
P537
P533
P532
P527
P528
P529
P531
P530
15.00
15.60
15.70
15.80
P515
P525
P526
P125
P523
P522
P524
P124
SD128
P514
P516
P518
P517
P519
P520
P521
P511
P512
P513
P510
P509
SD126
P508
P507
P506
69T
P501
P502
P499
P500
P498
0
(1：100)
5m


B
C
12
11
10
16.00
16.10
16.20
16.30
16.40
16.50
北
区
南
区
A
B
C
D
E
P281
P601
P600
P599
P596
P597
P598
a
a'
SR1
SD349
15.00
15.10
15.20
15.30
15.40
15.50
15.60
15.70
15.80
15.90
16.00
P588
P590
P589
P591
P595
P586
P587
P594
P585
P584
P593
P592
P583
SD6
P581
P582
P580
SR1
P579
P578
0
(1：100)
5m

SI318



SI318

1．明黄褐色細砂（10YR7/6）しまりやや弱く、粘性弱い。白色砂・青灰色細砂を少量、炭化物を微量含む。
2．浅黄色砂（5Y7/3）しまりやや弱く、粘性弱い。白色砂を少量、青灰色細砂・粗砂を微量含む。
3．にぶい黄色砂（2.5Y6/4）しまりやや弱く、粘性弱い。白色砂・青灰色細砂を微量含む。周溝覆土。
4．にぶい黄色粘質土（2.5Y6/4）しまり弱く、粘性強い。青灰色土・黄色土を微量含む。周溝覆土。

P11

1．浅黄色砂（2.5Y7/4）しまり普通、粘性やや強い。黄褐色粘質土ブロック・青灰色細砂を中量含む。
2．浅黄色砂（2.5Y7/4）しまり・粘性普通。黄褐色粘質土ブロックを少量、青灰色砂を微量含む。

P13・17

1．浅黄色砂（2.5Y7/4）しまり普通、粘性やや強い。青灰色粘質土ブロックを少量含む。

P14

1．灰黄色砂（2.5Y7/2）しまり強く、粘性やや強い。青灰色粘質土ブロックを微量含む。

P15

1．オリーブ褐色砂（2.5Y4/3）しまりやや弱く、粘性弱い。砂を中量、黄褐色粘質土ブロックを少量、炭化物を微量含む。酸化鉄の沈着が多い。

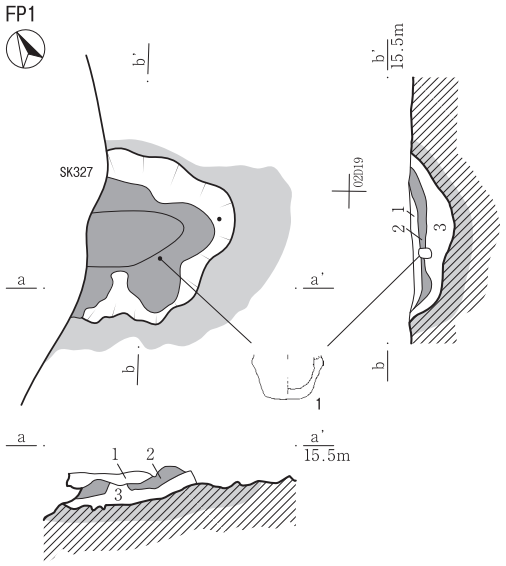
P16

1．オリーブ褐色砂（2.5Y4/3）しまり・粘性弱い。砂を中量、黄褐色粘質土ブロックを少量含む。酸化鉄の沈着が多い。

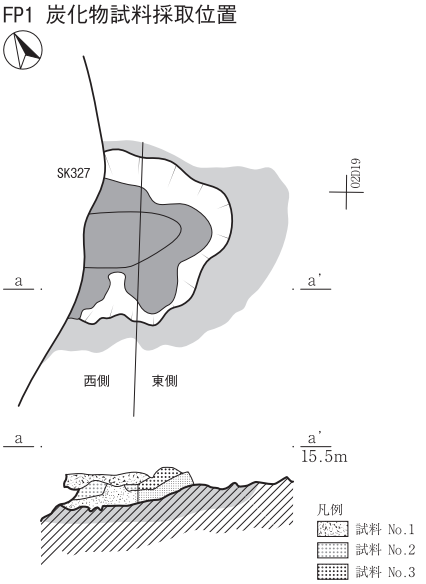
P18

1．浅黄色砂（2.5Y7/4）しまり普通、粘性やや強い。黄褐色粘質土ブロック・青灰色細砂を中量含む。

FP1



FP1 炭化物試料採取位置

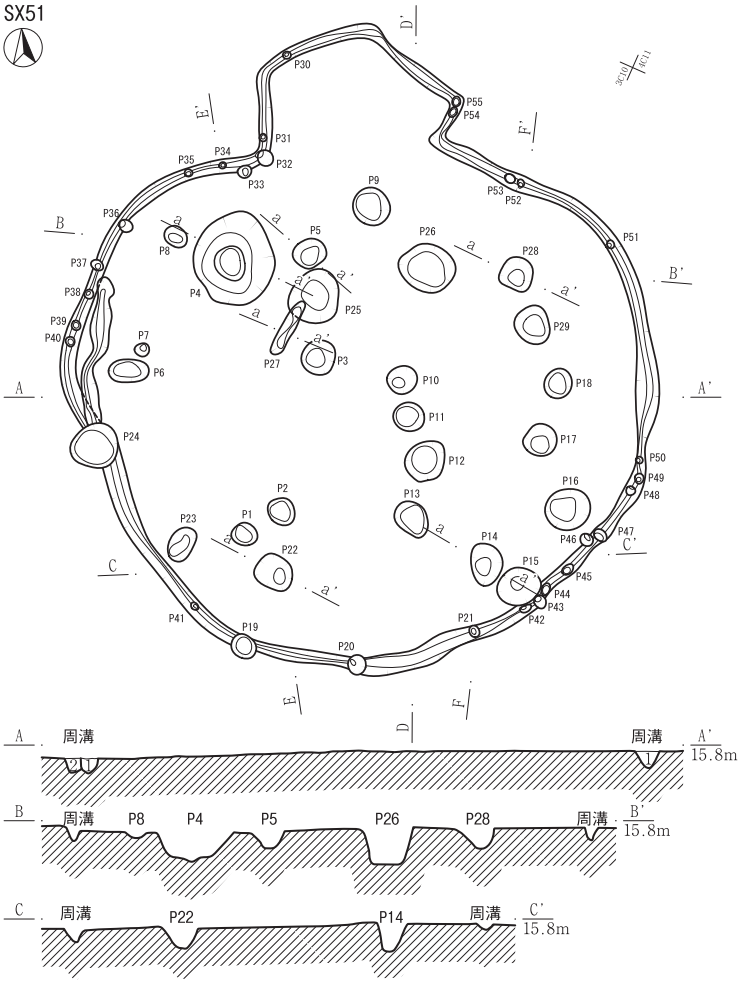


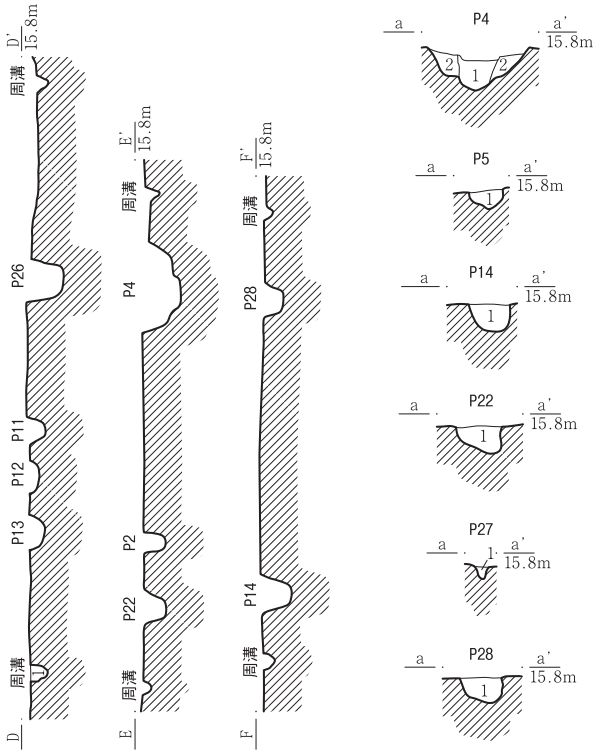
FP1

1．青灰色細砂（5B6/1）しまり強く、粘性普通。炭化物を中量、焼土ブロックを少量含む。
2．灰赤色土（2.5YR5/2）しまり普通、粘性やや強い。焼土ブロックを多量含む。
3．灰白色粘土（5Y7/1）しまり・粘性強い。

● 土器 ■ 石器 ▲ 金属製品　FP1 0 (1：20) 50cm　ピット断面図 0 (1：40) 1m　平面図・エレベーション・断面図 0 (1：50) 1m

SX51



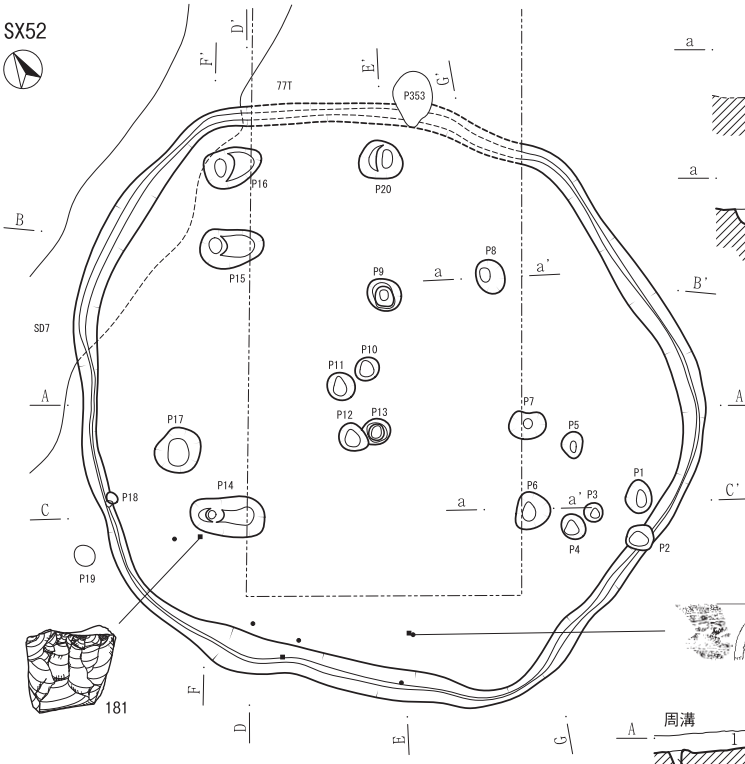


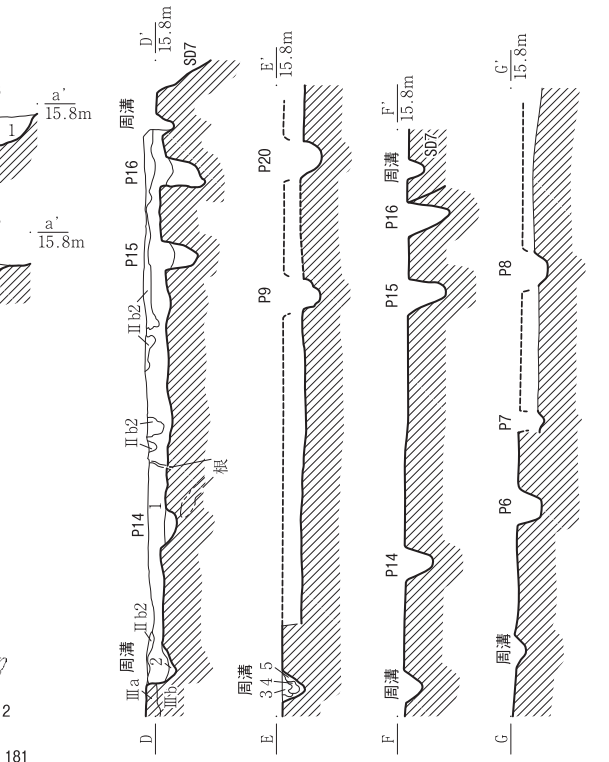
SX51　1．灰黄色砂質シルト(2.5Y6/2) しまり・粘性やや弱い。周溝覆土。
　　2．灰黄色砂質シルト(2.5Y6/2) しまり・粘性普通。周溝覆土。

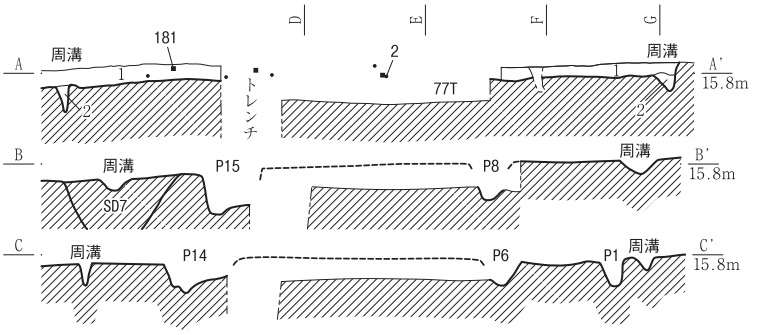
P4　1．灰黄色シルト(2.5Y6/2) しまりやや弱く、粘性普通。
　　2．灰黄色シルト(2.5Y6/2) しまりやや弱く、粘性やや弱い。

P5・14・22・27・28
　　1．灰黄色シルト(2.5Y6/2) しまりやや弱く、粘性普通。

SX52



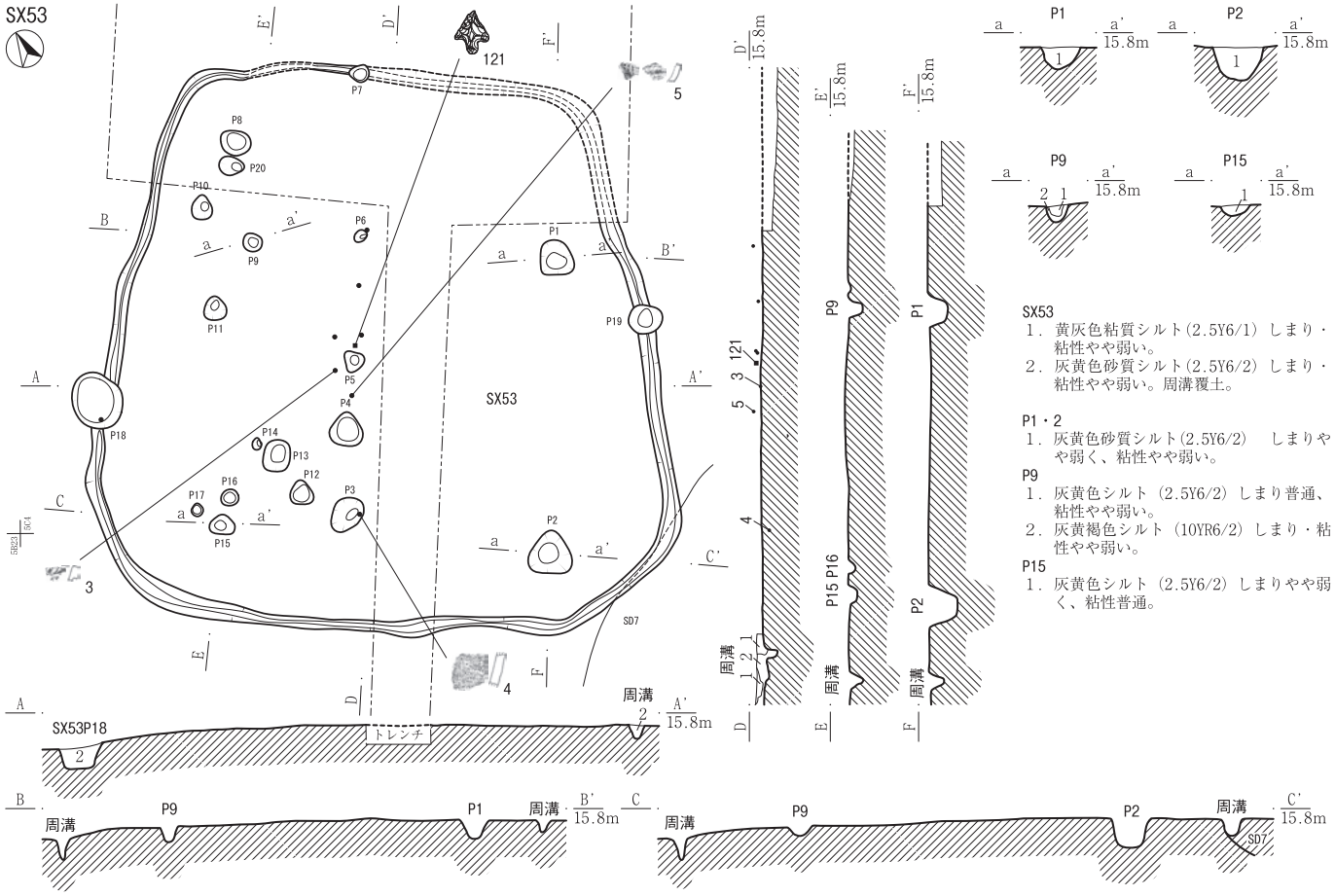


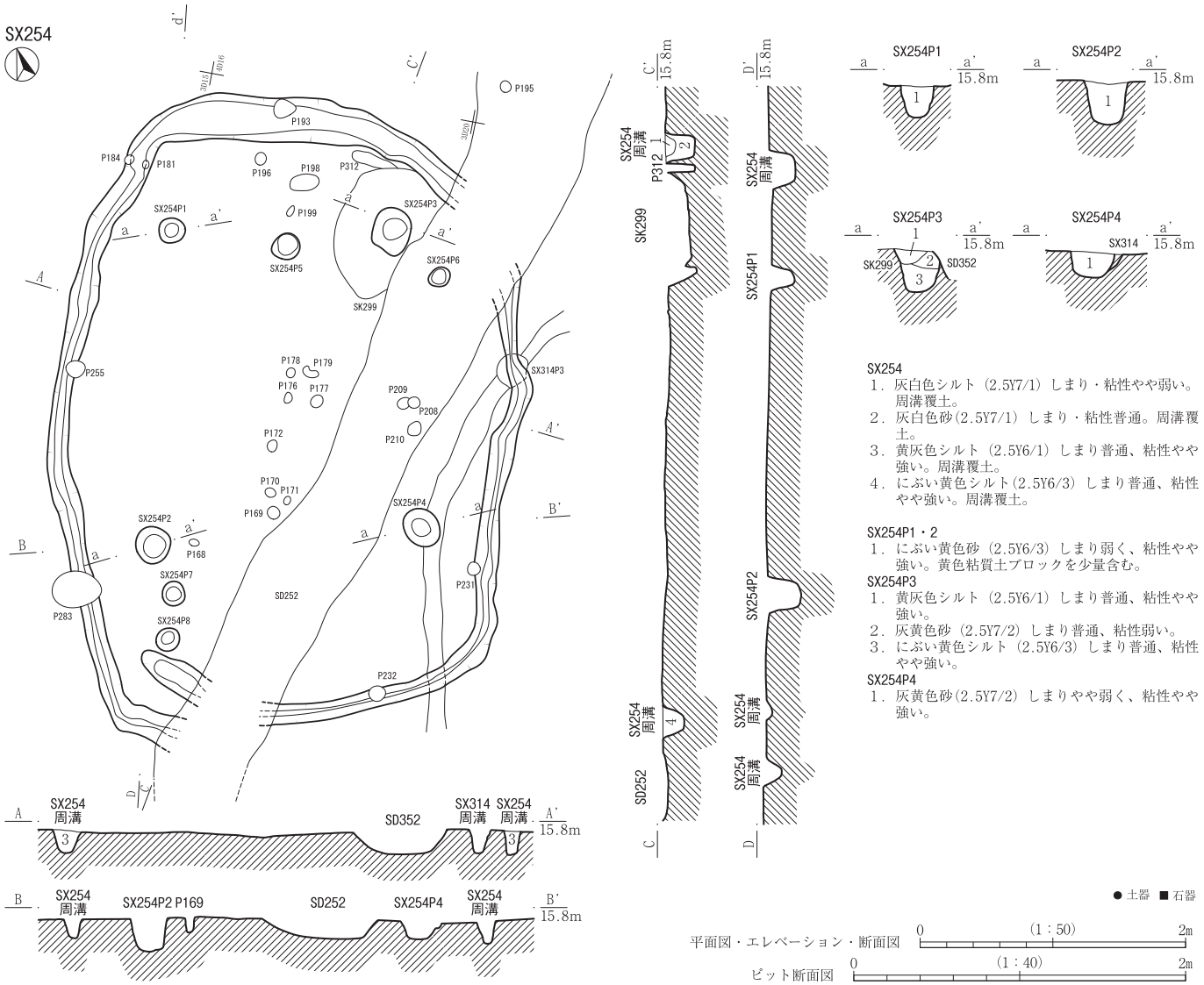


SX52
1．明黄褐色土（10YR7/6）しまり強く、粘性普通。酸化鉄を中量・炭化物(6mm以下）を微量含む。
2．明黄褐色土（10YR7/6）しまりやや強く、粘性普通。暗青灰色・青灰色シルトを中量含む。周溝覆土。
3．にぶい黄色粘質シルト(2.5Y6/4) しまりやや弱く、粘性普通。周溝覆土。
4．にぶい黄色砂質シルト(2.5Y6/4) しまりやや弱く、粘性普通。周溝覆土。3層よりもしまる。
5．浅黄色シルト（2.5Y7/4）しまり普通、粘性弱い。砂・炭化物を少量含む。周溝覆土。

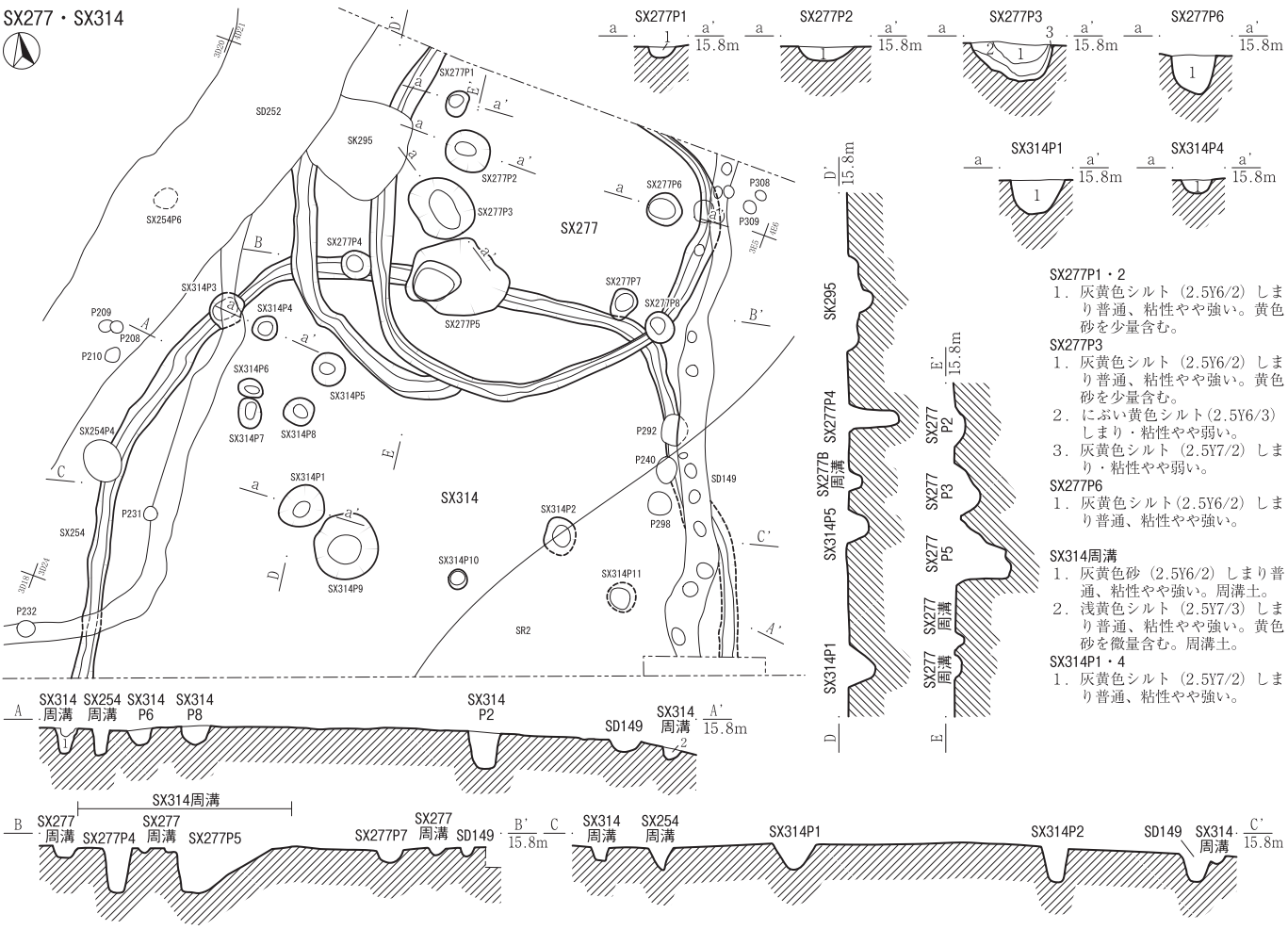
P6　1．灰黄褐色シルト（10YR6/2）しまりやや弱く、粘性やや強い。
P8　1．灰黄褐色シルト（10YR6/2）しまり普通、粘性やや弱い。

● 土器　■ 石器　　平面図・エレベーション・断面図　0　(1：50)　2m　　ピット断面図　0　(1：40)　2m


SX53
SX53
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
P14
P15
P16
P17
P18
P19
P20
121
5
3
4
SD7
SX53P18
トレンチ
周溝
15.8m
SX53
1．黄灰色粘質シルト(2.5Y6/1) しまり・粘性やや弱い。
2．灰黄色砂質シルト(2.5Y6/2) しまり・粘性やや弱い。周溝覆土。
P1・2
1．灰黄色砂質シルト(2.5Y6/2) しまりやや弱く、粘性やや弱い。
P9
1．灰黄色シルト（2.5Y6/2）しまり普通、粘性やや弱い。
2．灰黄褐色シルト（10YR6/2）しまり・粘性やや弱い。
P15
1．灰黄色シルト（2.5Y6/2）しまりやや弱く、粘性普通。


SX254
SX254P1
SX254P2
SX254P3
SX254P4
SX254P5
SX254P6
SX254P7
SX254P8
SK299
SD252
SD352
SX314P3
SX314
P312
P195
P193
P184
P181
P196
P198
P199
P255
P178
P179
P176
P177
P209
P208
P210
P172
P170
P171
P169
P168
P283
P231
P232
SX254
周溝
SX314
周溝
SX254
周溝
SX254P1
SX254P2
SX254P3
SX254P4
SK299
SD352
SX314
SD252
SX254P2 P169
15.8m
SX254
1．灰白色シルト（2.5Y7/1）しまり・粘性やや弱い。周溝覆土。
2．灰白色砂(2.5Y7/1) しまり・粘性普通。周溝覆土。
3．黄灰色シルト（2.5Y6/1）しまり普通、粘性やや強い。周溝覆土。
4．にぶい黄色シルト(2.5Y6/3) しまり普通、粘性やや強い。周溝覆土。
SX254P1・2
1．にぶい黄色砂（2.5Y6/3）しまり弱く、粘性やや強い。黄色粘質土ブロックを少量含む。
SX254P3
1．黄灰色シルト（2.5Y6/1）しまり普通、粘性やや強い。
2．灰黄色砂（2.5Y7/2）しまり普通、粘性弱い。
3．にぶい黄色シルト（2.5Y6/3）しまり普通、粘性やや強い。
SX254P4
1．灰黄色砂(2.5Y7/2) しまりやや弱く、粘性やや強い。
● 土器　■ 石器
平面図・エレベーション・断面図　0　(1：50)　2m
ピット断面図　0　(1：40)　2m

SX277・SX314



SX277P1・2
1．灰黄色シルト（2.5Y6/2）しまり普通、粘性やや強い。黄色砂を少量含む。

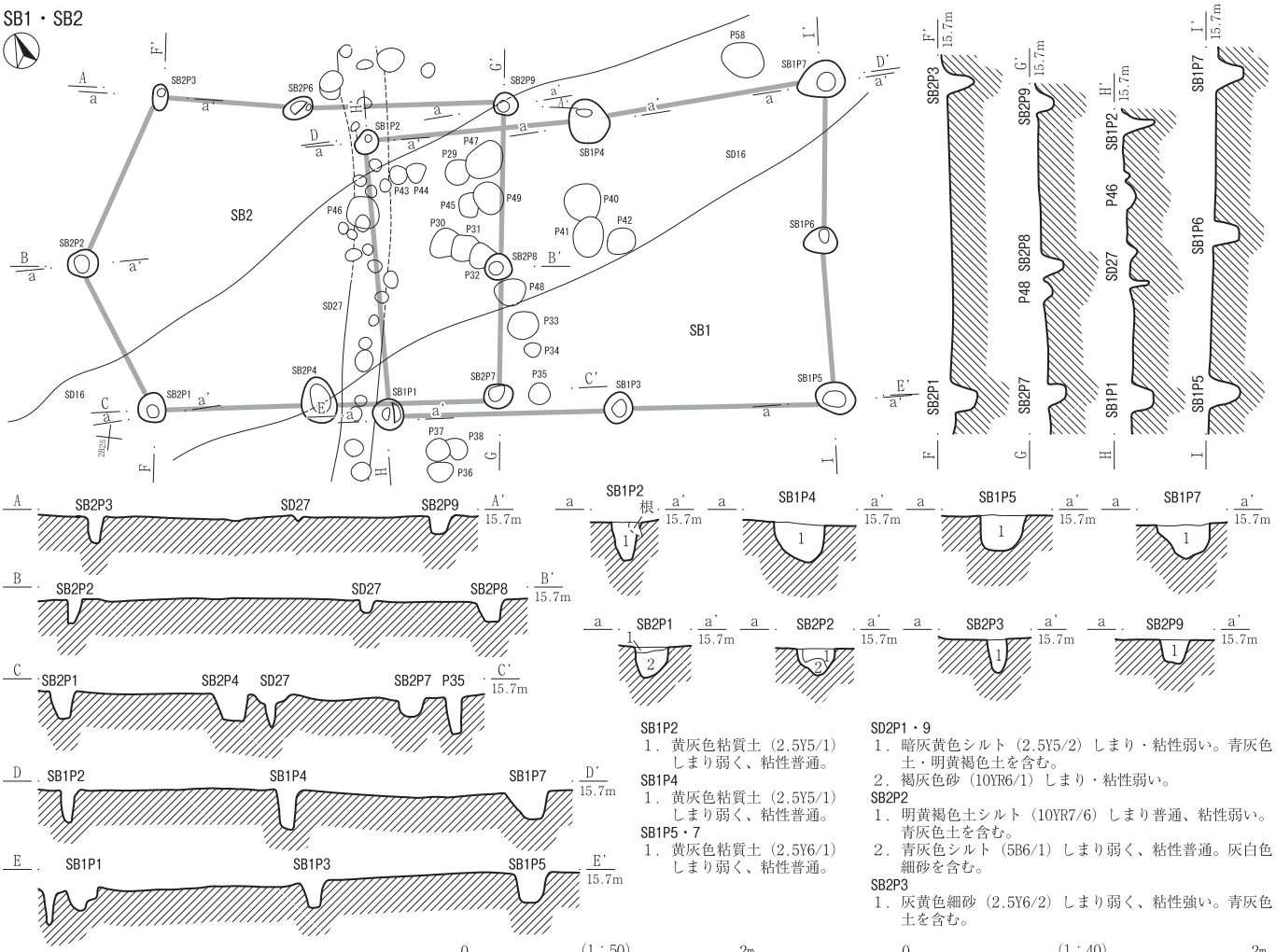
SX277P3
1．灰黄色シルト（2.5Y6/2）しまり普通、粘性やや強い。黄色砂を少量含む。
2．にぶい黄色シルト(2.5Y6/3)しまり・粘性やや弱い。
3．灰黄色シルト（2.5Y7/2）しまり・粘性やや弱い。

SX277P6
1．灰黄色シルト(2.5Y6/2）しまり普通、粘性やや強い。

SX314周溝
1．灰黄色砂（2.5Y6/2）しまり普通、粘性やや強い。周溝土。
2．浅黄色シルト（2.5Y7/3）しまり普通、粘性やや強い。黄色砂を微量含む。周溝土。

SX314P1・4
1．灰黄色シルト（2.5Y7/2）しまり普通、粘性やや強い。

SB1・SB2



SB1P2
1．黄灰色粘質土（2.5Y5/1）しまり弱く、粘性普通。

SB1P4
1．黄灰色粘質土（2.5Y5/1）しまり弱く、粘性普通。

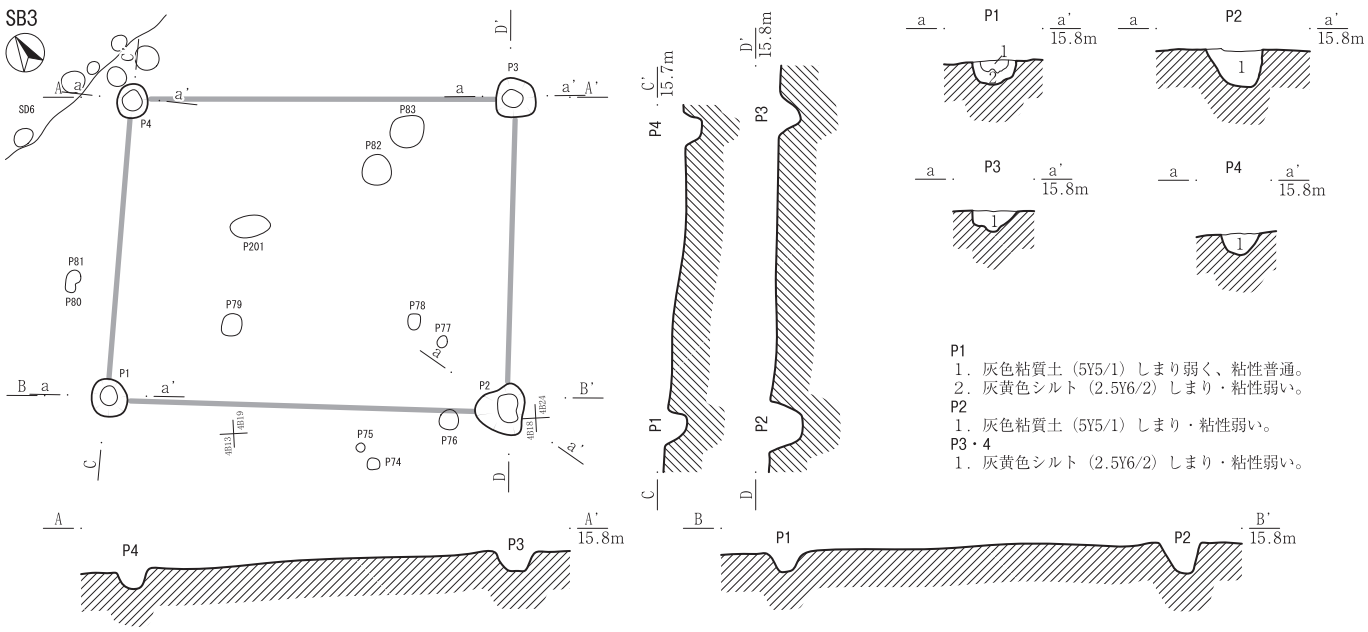
SB1P5・7
1．黄灰色粘質土（2.5Y6/1）しまり弱く、粘性普通。

SD2P1・9
1．暗灰黄色シルト（2.5Y5/2）しまり・粘性弱い。青灰色土・明黄褐色土を含む。
2．褐灰色砂（10YR6/1）しまり・粘性弱い。

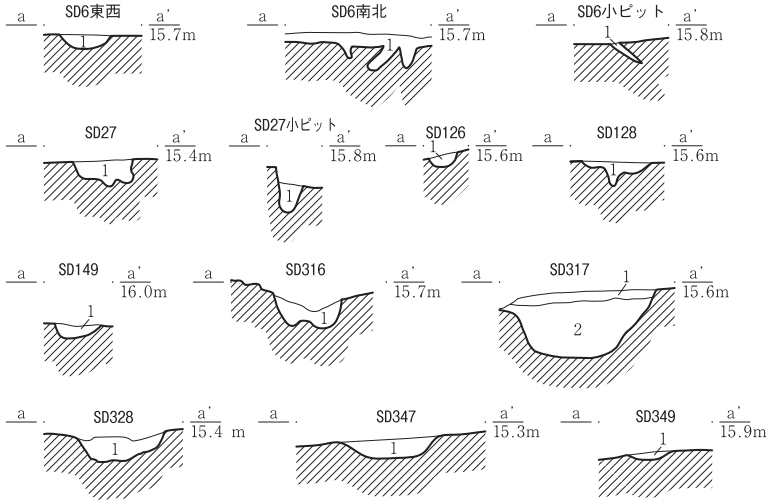
SB2P2
1．明黄褐色土シルト（10YR7/6）しまり普通、粘性弱い。青灰色土を含む。
2．青灰色シルト（5B6/1）しまり弱く、粘性普通。灰白色細砂を含む。

SB2P3
1．灰黄色細砂（2.5Y6/2）しまり弱く、粘性強い。青灰色土を含む。

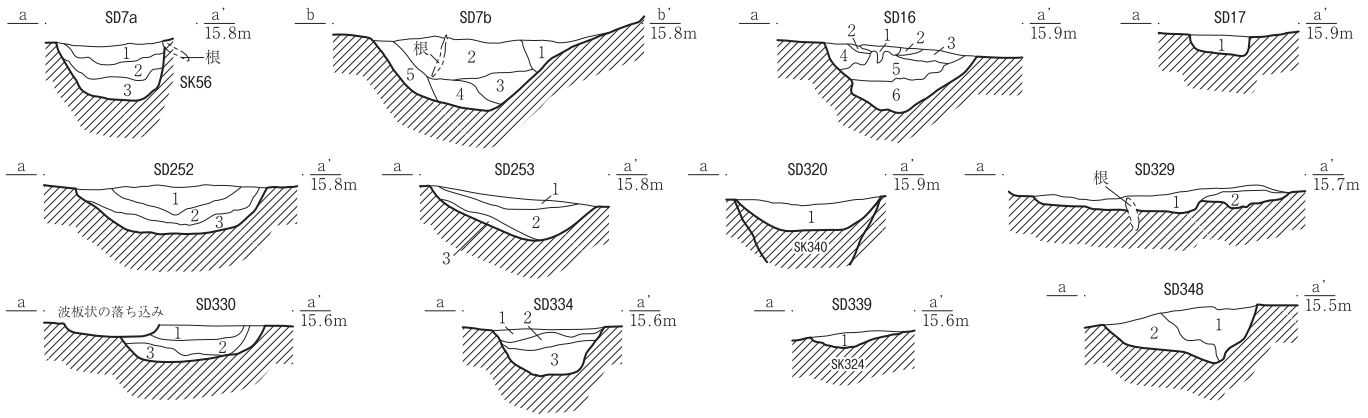
平面図・エレベーション・断面図　0　(1：50)　2m　　ピット断面図　0　(1：40)　2m



P1
1．灰色粘質土（5Y5/1）しまり弱く、粘性普通。
2．灰黄色シルト（2.5Y6/2）しまり・粘性弱い。
P2
1．灰色粘質土（5Y5/1）しまり・粘性弱い。
P3・4
1．灰黄色シルト（2.5Y6/2）しまり・粘性弱い。



SD6東西　1．灰黄色シルト（2.5Y6/2）しまりやや強く、粘性普通。浅黄色シルトブロック（10mm以下）砂を少量、炭化物（3mm以下）を微量含む。
SD6南北　1．青灰色シルト（5B5/1）しまり普通、粘性やや強い。青灰色砂を少量、酸化鉄を微量含む。
SD6小ピット　1．青灰色シルト（5B5/1）しまり・粘性弱い。砂を多量含む。
SD27　1．青灰色シルト（5B5/1）しまりやや強く、粘性強い。黄褐色粘質ブロック（10mm以下）、酸化鉄を少量、炭化物（3mm以下）を微量含む。
SD27小ピット　1．青灰色シルト（5B5/1）しまり・粘性弱い。砂を多量含む。
SD126　1．青灰色シルト（5B5/1）しまり普通、粘性やや強い。明黄褐色シルトを少量、酸化鉄を微量含む。
SD128　1．青灰色シルト（5B5/1）しまり普通、粘性やや強い。明黄褐色シルトを多量、酸化鉄を少量、青灰色砂を微量含む。
SD149　1．にぶい黄色シルト（2.5Y6/3）しまりやや強く、粘性やや弱い。黄色土を微量含む。
SD316　1．にぶい黄色シルト（2.5Y6/4）しまり・粘性やや弱い。灰色シルトブロック（10mm）・黄色砂を少量含む。
SD317　1．青灰色シルト（5B6/1）しまり普通、粘性やや強い。青灰色砂、明黄褐色土を少量含む。
　　2．青灰色シルト（5B6/1）しまりやや強く、粘性強い。青灰色砂を中量、酸化鉄を少量含む。
SD328　1．灰白色シルト（2.5Y7/1）しまり弱く、粘性強い。黄色シルトブロック（20mm）を中量含む。
SD347　1．青灰色シルト（5B5/1）しまり普通、粘性強い。
SD349　1．青灰色シルト（5B5/1）しまり・粘性普通。



SD7
1．にぶい黄橙色シルト（10YR6/4）しまり・粘性普通。白色細砂を微量含む。
2．灰黄褐色シルト（10YR6/2）しまり・粘性やや弱い。明黄褐色土ブロック（20～30mm）を少量含む。
3．灰黄褐色シルト（10YR6/2）しまり・粘性やや弱い。
4．にぶい黄褐色シルト（10YR5/4）しまり・粘性普通。酸化鉄を多量含む。
5．灰黄褐色シルト（10YR5/2）しまり普通、粘性やや強い。酸化鉄を中量含む。

SD16
1．褐灰色砂（10YR6/1）しまり普通、粘性やや強い。白色細砂を少量含む。
2．褐灰色シルト（10YR6/1）しまりやや弱く、粘性やや強い。
3．褐灰色シルト（10YR6/1）しまり普通、粘性やや強い。
4．にぶい黄橙色シルト（10YR7/2）しまりやや弱く、粘性普通。白色シルトブロック（20mm）を微量含む。
5．灰黄褐色シルト（10YR6/2）しまりやや弱く、粘性普通。粗砂を少量含む。
6．にぶい黄橙色シルト（10YR7/3）しまり弱く、粘性やや強い。

SD17
1．浅黄色シルト（5Y7/3）しまり・粘性やや強い。

SD252
1．浅黄色シルト（2.5Y7/4）しまり・粘性やや強い。
2．灰黄色砂（2.5Y7/2）しまり弱く、粘性やや強い。
3．黄灰色シルト（2.5Y6/1）しまり弱く、粘性やや弱い。白色砂を少量含む。

SD253
1．灰白色シルト（2.5Y7/1）しまりやや強く 粘性強い。黄色土ブロック（20mm）を少量含む。
2．灰白色砂（2.5Y7/1）しまりやや弱く 粘性普通。灰色シルトを少量含む。
3．黄灰色シルト（2.5Y6/1）しまり・粘性やや強い。黄色シルトブロック（10mm）・黄色砂を少量含む。

SD320
1．明黄褐色シルト（2.5Y6/6）しまり・粘性普通。灰色シルトブロック（10mm）を少量含む。

SD329
1．灰黄色シルト（2.5Y6/2）しまり・粘性普通。黄色砂を少量含む。
2．灰黄色シルト（2.5Y7/2）しまり弱く、粘性普通。粗砂を多量含む。

SD330
1．青灰色シルト（5B5/1）しまり強く、粘性普通。炭化物（20mm）を微量含む。
2．黄灰色シルト（2.5Y6/1）しまり・粘性普通。灰色砂を微量含む。
3．灰黄色シルト（2.5Y6/2）しまり・粘性普通。灰色砂を微量含む。

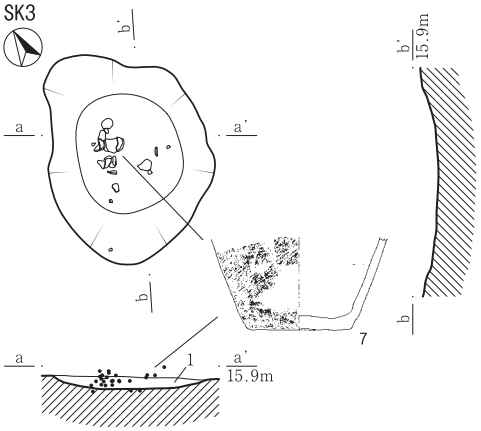
SD334
1．黄灰色シルト（2.5Y5/1）しまり・粘性普通。黄色シルトブロック（20mm）を多量含む。
2．灰黄色シルト（2.5Y6/2）しまり・粘性普通。黄色シルトブロック（20mm）を多量含む。
3．黄灰色シルト（2.5Y6/1）しまり普通、粘性やや強い。黄色シルトブロック（20mm）を多量含む。

SD339
1．灰黄色シルト（2.5Y6/2）しまりやや弱く、粘性普通。黄色土を少量含む。

SD348
1．灰黄色シルト（2.5Y7/2）しまり・粘性普通。
2．灰黄色シルト（2.5Y6/2）しまり・粘性普通。灰色シルトブロック（20mm）を多量含む。

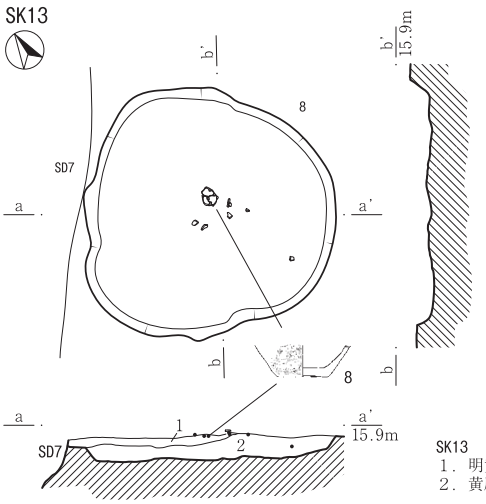
SB平面図・エレベーション・断面図　0　（1：50）　2m
SD・SBピット断面図　0　（1：40）　2m

SK3



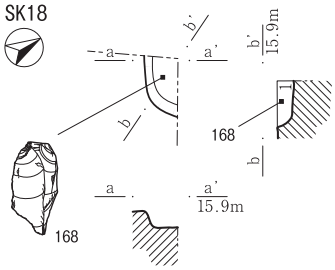
1．青灰色シルト（10BG6/1）しまり強く、粘性普通。白色細砂ブロックを少量含む。酸化鉄の沈着が目立つ。

SK13



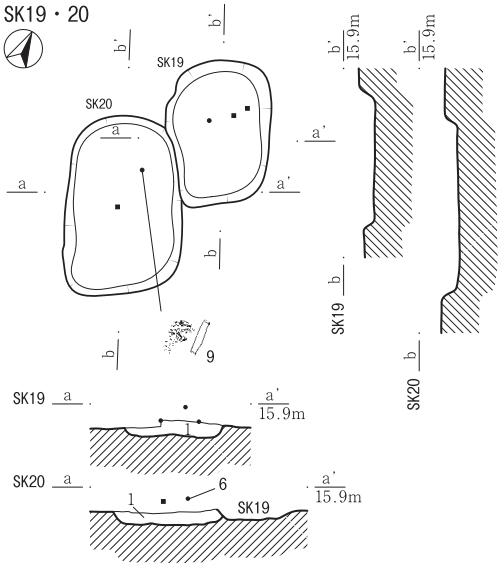
SK13
1．明黄褐色シルト（10YR6/6）しまり普通、粘性弱い。
2．黄灰色粘質シルト（2.5Y5/1）しまり・粘性弱い。

SK18



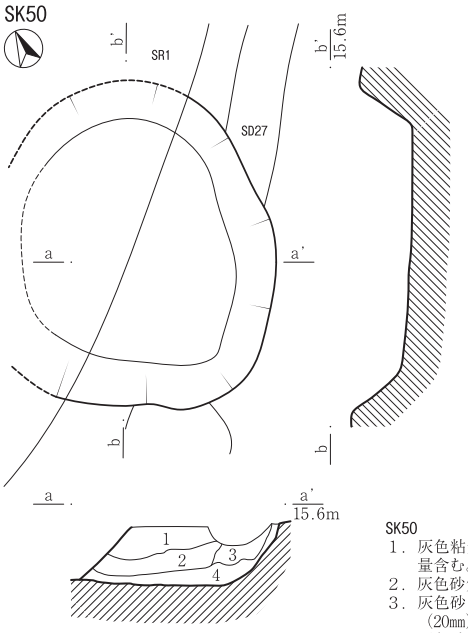
1．灰黄色シルト（2.5Y7/2）しまり、粘性やや強い。明黄褐色土を中量、酸化鉄を少量含む。

SK19・20



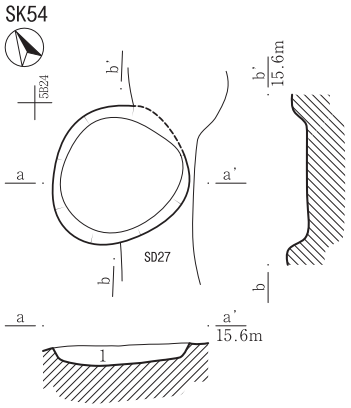
SK19
1．灰黄色シルト（2.5Y7/2）しまり、粘性やや強い。明黄褐色土を中量、酸化鉄を少量含む。
SK20
1．灰黄色シルト（2.5Y7/2）しまり、粘性やや強い。明黄褐色土を中量、酸化鉄を少量含む。

SK50



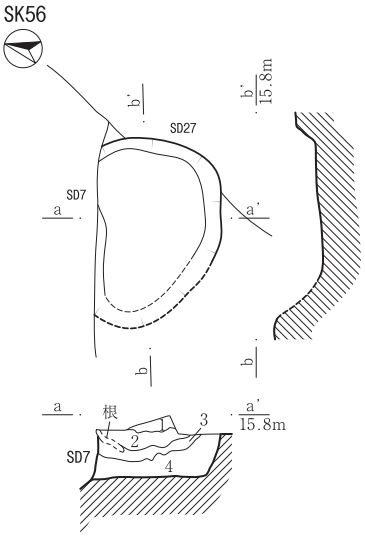
SK50
1．灰色粘質シルト（5Y6/1）しまり・粘性普通。炭化物を少量含む。
2．灰色砂質シルト（5Y6/1）しまり・粘性弱い。
3．灰色砂（5Y6/1）しまり・粘性弱い。明黄褐色土ブロック（20mm）を少量含む。
4．灰色砂（5Y6/1）しまり・粘性弱い。明黄褐色土ブロック（10mm）を微量含む。

SK54



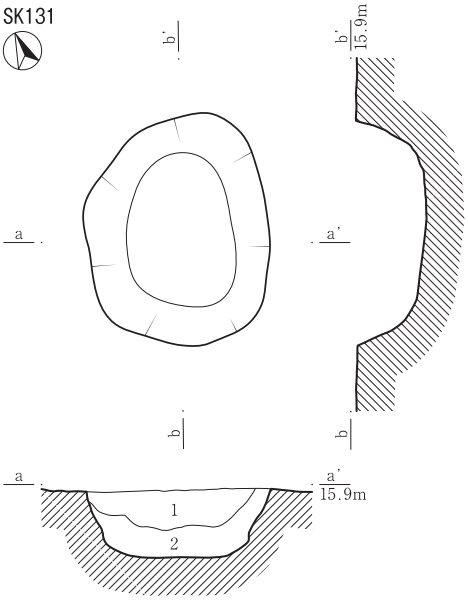
1．灰色砂（5Y6/1）しまり・粘性弱い。明黄褐色土ブロック（10mm）を微量含む。

SK56



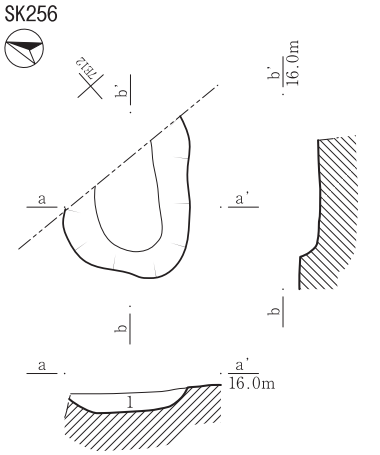
1．青灰色シルト（5PB6/1）しまり・粘性普通。
2．灰黄褐色粘質土（10YR6/2）しまり・粘性普通。
3．灰黄褐色砂質土（10YR6/2）しまり・粘性弱い。
4．灰黄褐色砂質土（10YR6/2）しまり・粘性弱い。3層よりもややしまる。

SK131



1．青灰色シルト（10BG6/1）しまり強く、粘性やや弱い。青灰色粘土ブロック（2～5mm）を中量、斑文状に含む。
2．青灰色粘質土（10BG5/1）しまり・粘性強い。灰黄色シルトを多量、炭化物（～2mm）を少量含む。

SK256

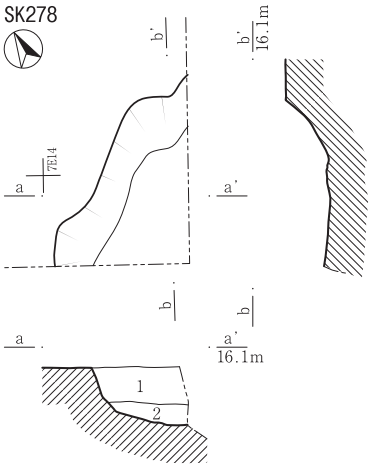


1．青灰色シルト（5B6/1）しまり強く、粘性やや弱い。灰褐色粘土ブロック（1～3mm）・酸化鉄を少量含む。

● 土器　■ 石器

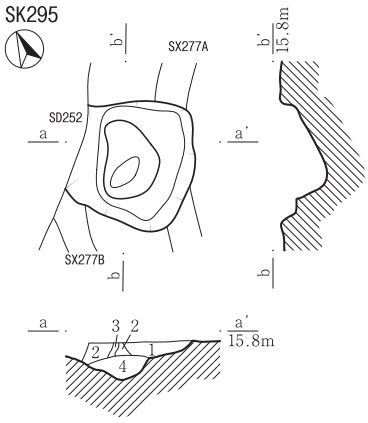
0　（1：40）　2m

SK278



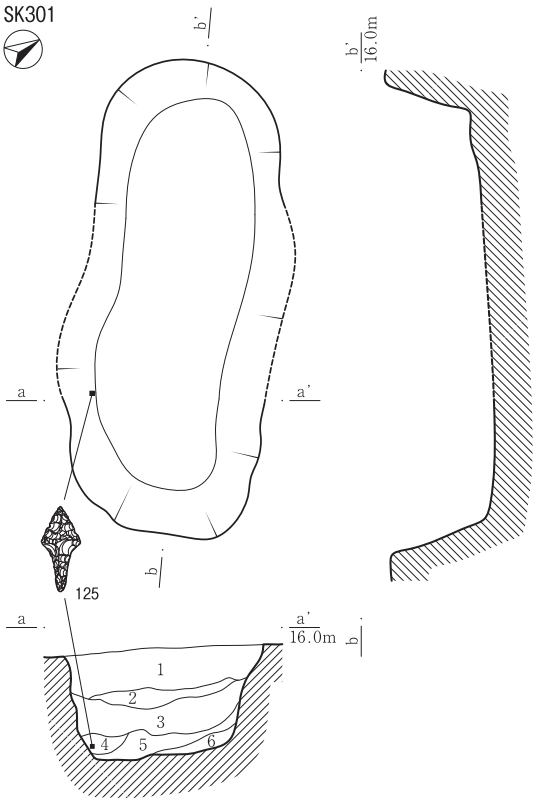
1．明青灰色シルト（5B7/1）しまり強く、粘性弱い。青灰色シルトブロック（3～5mm）を多量、酸化鉄を中量含む。
2．灰オリーブ色シルト（5Y6/2）しまり強く、粘性弱い。酸化鉄を多量含む。

SK295



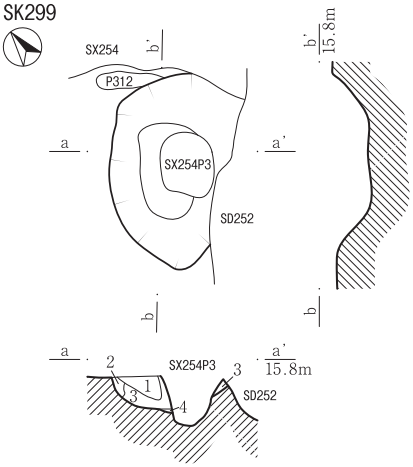
1．にぶい黄橙色シルト（10YR7/3）しまり普通、粘性やや弱い。灰色シルトを少量含む。
2．灰黄褐色シルト（10YR6/2）しまり普通、粘性やや強い。
3．灰黄色シルト（2.5Y7/2）しまり・粘性普通。
4．灰黄色シルト（2.5Y7/2）しまり普通、やや強い。灰色シルトを少量含む。

SK301



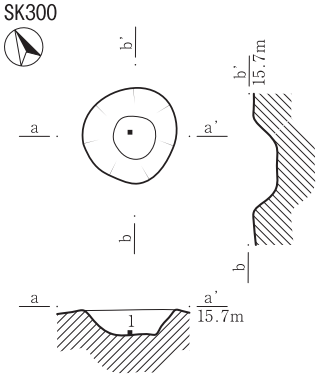
1．灰黄色粘質シルト（2.5Y6/2）しまり弱く、粘性やや強い。
2．灰黄色粘質シルト（2.5Y6/2）しまり弱く、粘性やや強い。砂を多量含む。
3．灰黄色シルト（2.5Y6/2）しまり弱く、粘性普通。砂を中量含む。
4．灰黄色シルト（2.5Y6/2）しまり・粘性弱い。砂を中量含む。
5．灰黄色砂（2.5Y6/2）しまり・粘性弱い。
6．灰黄色砂（2.5Y6/2）しまり・粘性弱い。5層よりもややしまる。

SK299



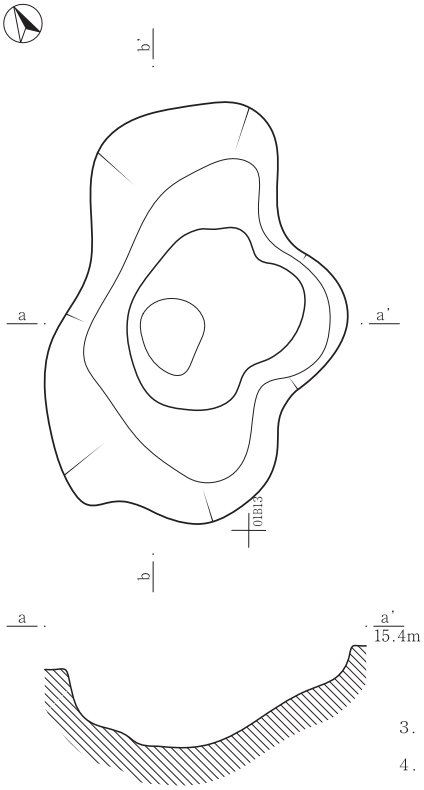
1．灰黄色砂（2.5Y6/2）しまり普通、粘性やや弱い。シルトを少量含む。
2．黄灰色砂（2.5Y5/1）しまりやや弱く、粘性弱い。
3．にぶい黄色シルト（2.5Y6/3）しまり・粘性やや強い。
4．灰黄色砂（2.5Y6/2）しまり普通、粘性弱い。

SK300



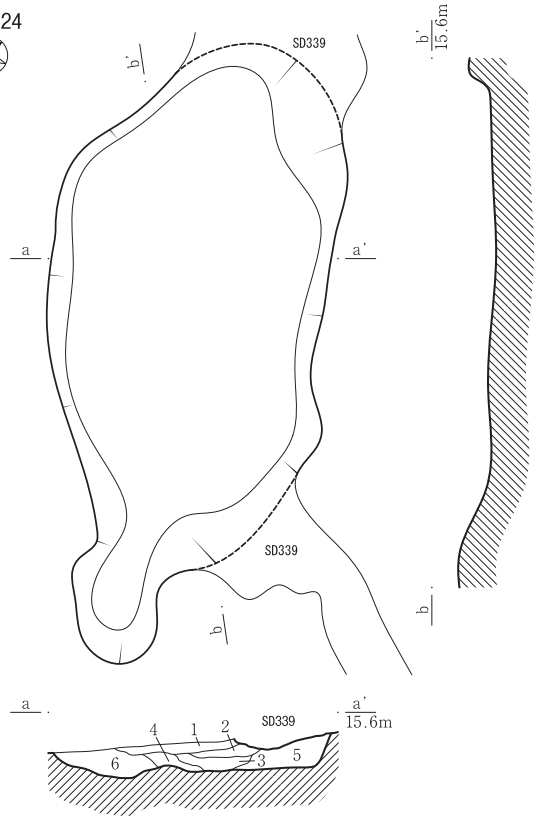
1．灰黄色シルト（2.5Y7/2）しまりやや強く、粘性普通。明黄褐色土・黄色砂を少量含む。

SK321



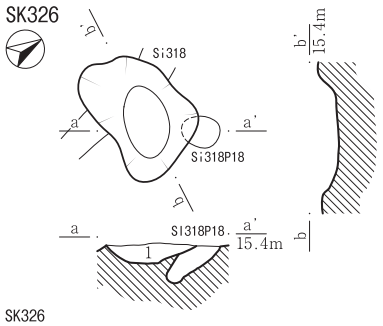
1．青灰色シルト（5B5/1）しまり普通、粘性強い。酸化鉄を少量、黄褐色ブロック（5mm以下）・炭化物（2mm以下）を微量含む。
2．青灰色粘質土（5B5/1）しまり普通、粘性強い。酸化鉄・黄褐色土を少量含む。
3．青灰色粘質土（5B6/1）しまり普通、粘性強い。酸化鉄を少量、黄褐色土を微量含む。
4．にぶい黄褐色土（10YR5/3）しまり普通、粘性やや強い。酸化鉄、青灰色シルトを少量、炭化物（3mm以下）を微量含む。

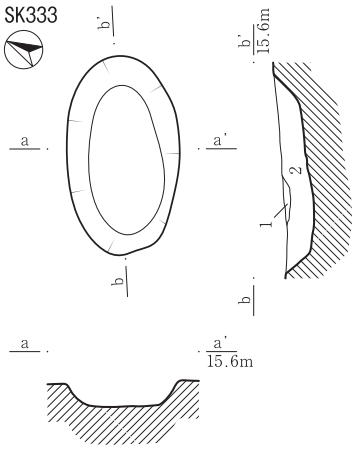
SK324

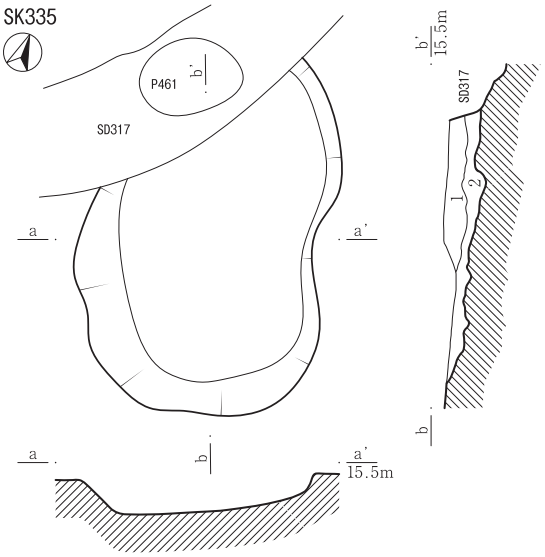


1．黄灰色シルト（2.5Y6/1）しまり・粘性普通。黄色土を微量含む。
2．にぶい黄色シルト（2.5Y6/3）しまりやや強く、粘性普通。淡茶褐色砂を微量含む。
3．暗灰黄色シルト（2.5Y5/2）しまりやや強く、粘性普通。
4．灰黄色シルト（2.5Y6/2）しまり強く、粘性普通。
5．灰黄色シルト（2.5Y7/2）しまり・粘性やや強い。
6．にぶい黄色シルト（2.5Y6/3）しまり・粘性普通。淡茶褐色砂を多量含む。

● 土器　■ 石器　　0　（1：40）　2m



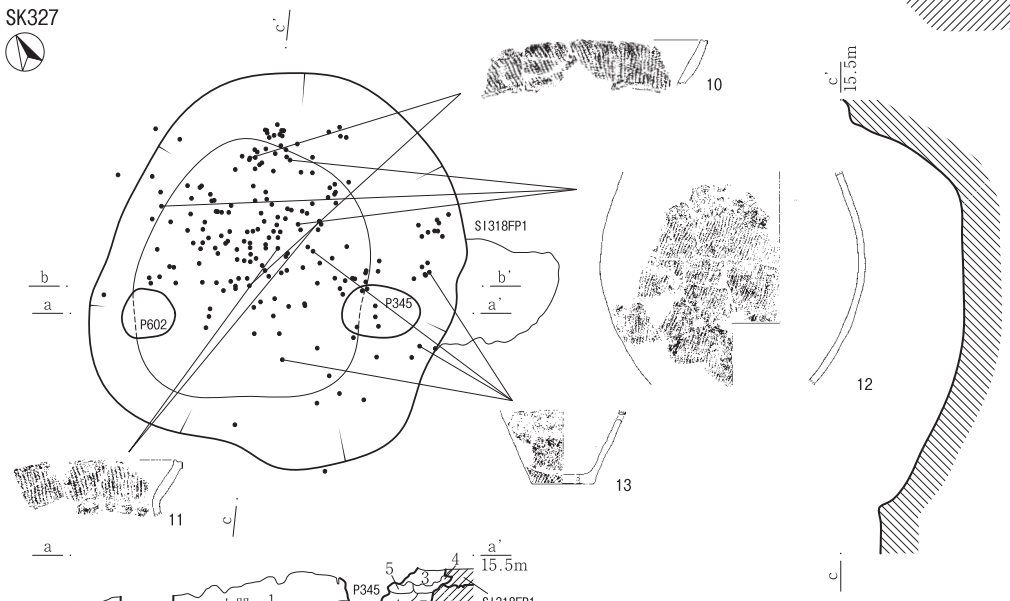




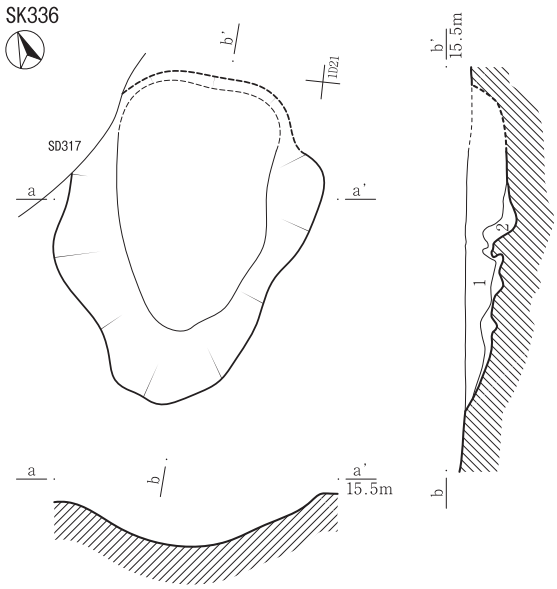
SK326
1．青灰色粘質土（5B5/1）しまりやや弱く、粘性やや強い。黄褐色土ブロックを少量含む。

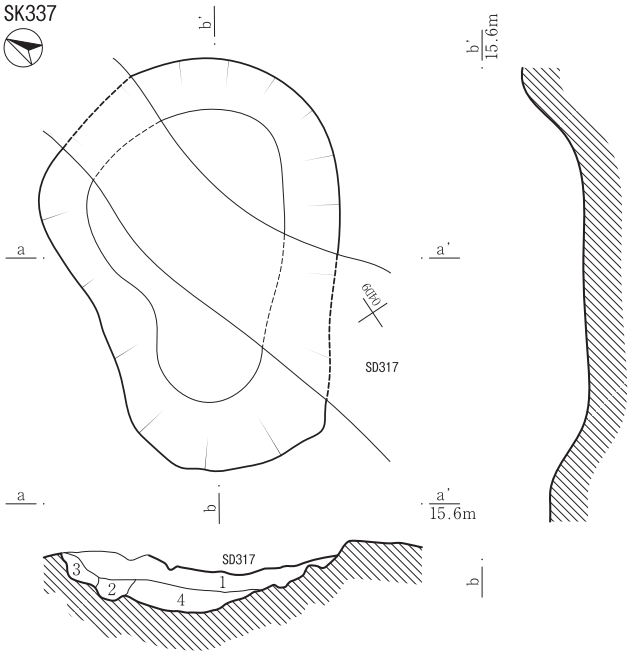
SK333
1．灰黄色シルト（2.5Y6/2）しまり普通、粘性やや強い。黄色土を少量含む。
2．黄灰色シルト（2.5Y5/1）しまり普通、粘性やや強い。黄色ブロックを少量含む。

SK335
1．青灰色粘質土（5B5/1）しまり普通、粘性強い。酸化鉄、砂粒を少量含む。
2．青灰色粘質土（5B5/1）しまりやや弱く、粘性やや強い。砂粒を中量、酸化鉄を少量含む。



SK327
1．暗灰黄色シルト（2.5Y5/2）しまり強く、粘性普通。焼土ブロックを多量、青灰色土・炭化物を微量含む。
2．暗灰黄色シルト（2.5Y4/2）しまり弱く、粘性やや強い。焼土ブロックを多量、黄色土を少量、青灰色土を微量含む。
3．暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2）しまり弱く、粘性やや強い。焼土ブロックを多量、青灰色土を中量、黄色土・炭化物を微量含む。
4．橙色シルト～粘質土（7.5YR7/6）しまり普通、粘性やや強い。青灰色土ブロックを中量含む。
5．橙色粘質土（7.5YR7/6）しまり普通、粘性やや強い。青灰色土ブロックを少量含む。
6．褐灰色砂（10YR6/1）しまり強く、粘性やや弱い。白色砂・青灰色土を少量含む。
7．灰黄褐色粘質土（10YR6/2）しまり弱く、粘性強い。青灰色土ブロックを多量、酸化鉄を少量含む。



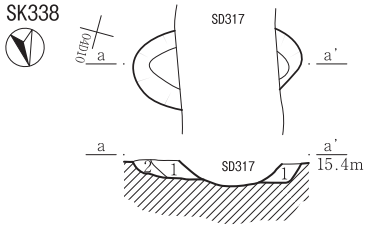


SK337　1．青灰色シルト（5PB5/1）しまり普通、粘性強い。黄色シルトブロックを少量含む。
2．灰オリーブ色シルト（5Y6/2）しまり普通、粘性強い。青灰色シルトブロックを少量含む。
3．灰白色シルト（5Y7/2）しまり普通、粘性やや強い。青灰色シルトブロックを微量含む。
4．暗青灰色シルト（5PB4/1）しまり普通、粘性強い。黄色シルトブロックを微量含む。

SK336　1．青灰色粘質土（5B5/1）しまり普通、粘性強い。酸化鉄・砂粒を少量含む。
2．青灰色粘質土（5B5/1）しまりやや弱く、粘性やや強い。砂粒を中量、酸化鉄を少量含む。

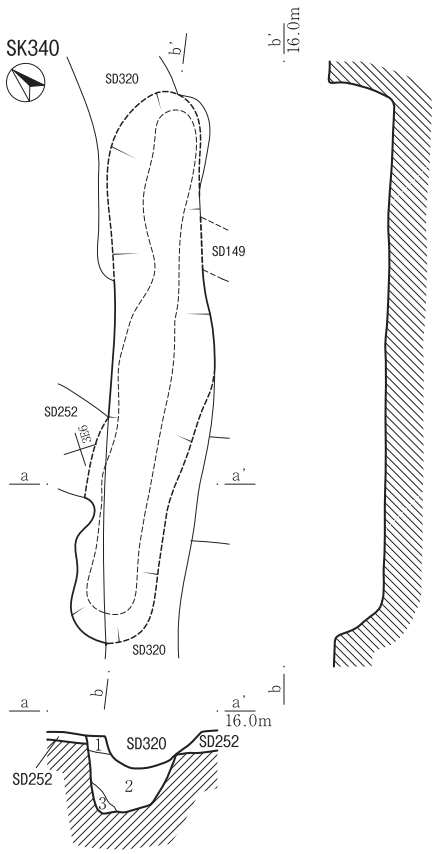
● 土器　0　(1：40)　2m

SK338



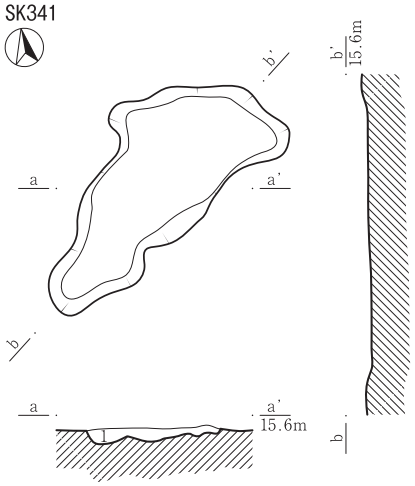
1．黄灰色シルト（2.5Y6/1）しまり普通、粘性やや強い。
2．黄灰色シルト（2.5Y6/1）しまり弱く、粘性やや強い。白色砂を微量含む。

SK340



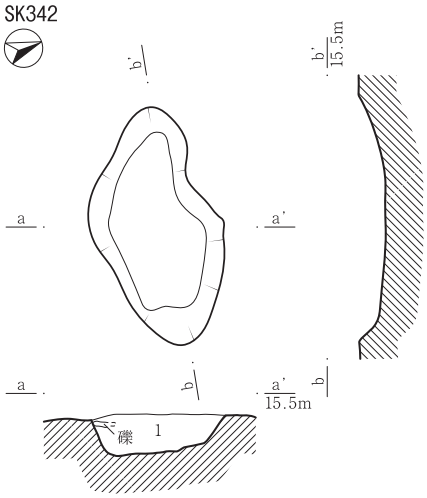
1．灰黄色シルト（2.5Y6/2）しまりやや弱く、粘性やや強い。黄色シルトを多量含む。
2．黄灰色シルト（2.5Y6/1）しまりやや弱く、粘性強い。褐色ブロック（10mm）を少量含む。
3．にぶい黄色シルト（2.5Y6/3）しまりやや弱く、粘性やや強い。黄色ブロック（10mm）を少量含む。

SK341



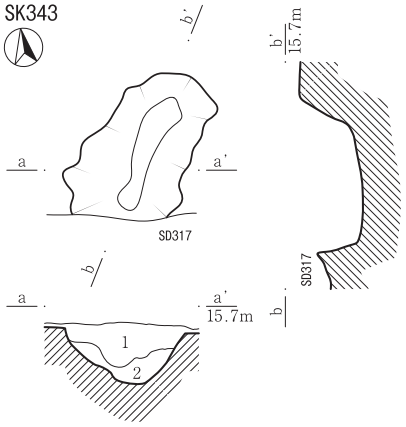
1．青灰色シルト（5B6/1）しまり普通、粘性やや強い。青灰色砂を少量、黄褐色粘質土ブロック（5mm以下）を微量含む。

SK342



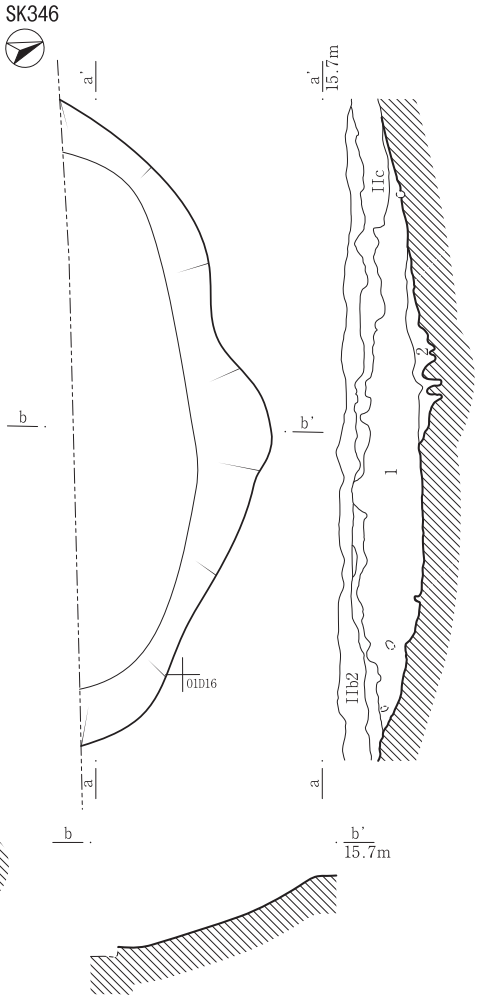
1．青灰色粘質土（5B5/1）しまり普通、粘性強い。黄褐色土ブロックを少量含む。

SK343



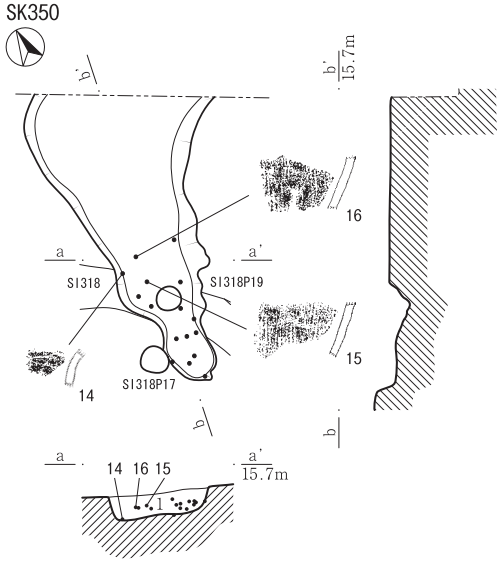
1．青灰色粘質土（5B5/1）しまり普通、粘性やや強い。青灰色砂を中量、黄褐色粘質土ブロック（10mm以下）・酸化鉄を少量含む。
2．青灰色砂（5B6/1）しまりやや強く、粘性弱い。青灰色粘質土・酸化鉄を少量含む。

SK346



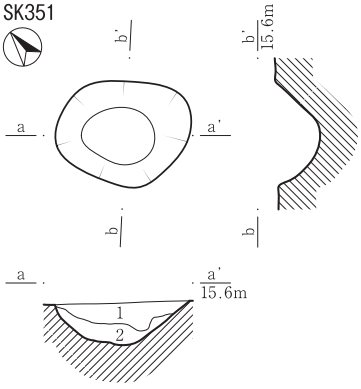
1．青灰色粘質土（5B6/1）しまりやや強く、粘性強い。青灰色砂を多量含む。
2．青灰色砂（5B5/1）しまりやや強く、粘性弱い。小礫（50mm以下）を多量含む。

SK350



1．明黄褐色粘質土（2.5YR7/6）しまり普通、粘性やや強い。明黄褐色砂を少量含む。

SK351

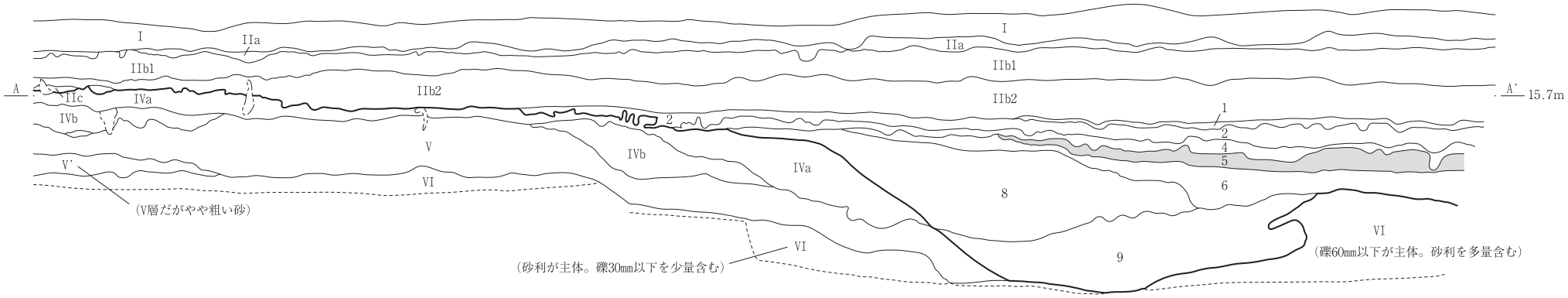


1．青灰色粘質土（5B5/1）しまり普通、粘性強い。酸化鉄・砂粒を少量含む。
2．青灰色粘質土（5B5/1）しまりやや弱く、粘性やや強い。砂粒を中量、酸化鉄を少量含む。

● 土器

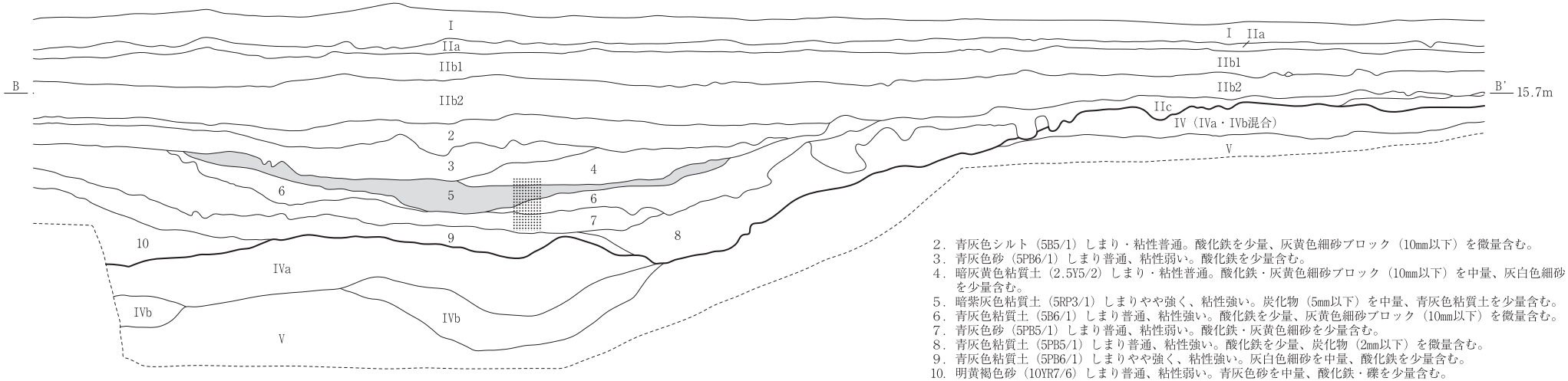
0　(1：40)　2m

SR1 土層断面A（9B・C区）



1．青灰色シルト（5B6/1）しまり普通、粘性やや弱い。灰黄色細砂ブロック（10mm以下）・酸化鉄を中量、炭化物（2mm以下） を微量含む。
2．青灰色シルト（5B5/1）しまり・粘性普通。酸化鉄を少量、灰黄色細砂ブロック（5mm以下）を微量含む。
4．暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2）しまり・粘性普通。酸化鉄・灰黄色細砂ブロック（10mm以下）を中量、灰白色細砂を少量含む。
5．暗紫灰色粘質土（5RP3/1）しまりやや強く、粘性強い。炭化物（5mm以下）を中量、青灰色粘質土を少量含む。
6．青灰色粘質土（5B6/1）しまりやや強く、粘性強い。酸化鉄を少量、灰黄色細砂ブロック（10mm以下）を微量含む。
8．青灰色粘質土（5PB5/1）しまり普通、粘性強い。酸化鉄を少量、炭化物（2mm以下）を微量含む。
9．青灰色粘質土（5PB6/1）しまりやや強く、粘性強い。灰白色細砂を中量、酸化鉄を少量含む。

SR1 土層断面B（6B・C区）

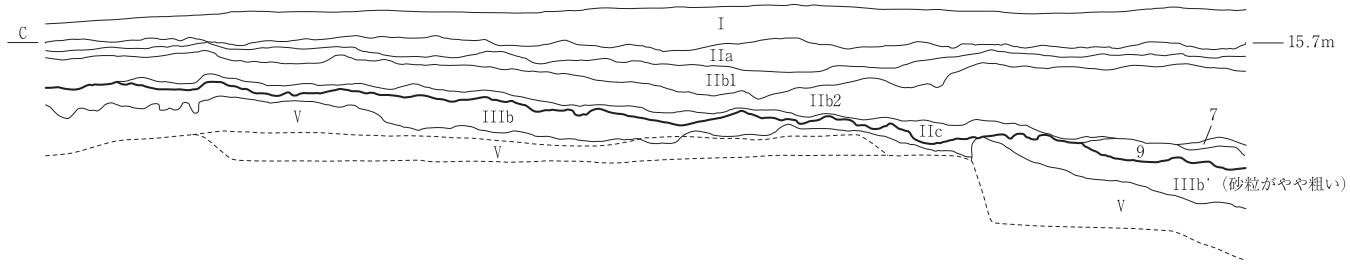


2．青灰色シルト（5B5/1）しまり・粘性普通。酸化鉄を少量、灰黄色細砂ブロック（10mm以下）を微量含む。
3．青灰色砂（5PB6/1）しまり普通、粘性弱い。酸化鉄を少量含む。
4．暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2）しまり・粘性普通。酸化鉄・灰黄色細砂ブロック（10mm以下）を中量、灰白色細砂を少量含む。
5．暗紫灰色粘質土（5RP3/1）しまりやや強く、粘性強い。炭化物（5mm以下）を中量、青灰色粘質土を少量含む。
6．青灰色粘質土（5B6/1）しまり普通、粘性強い。酸化鉄を少量、灰黄色細砂ブロック（10mm以下）を微量含む。
7．青灰色砂（5PB5/1）しまり普通、粘性弱い。酸化鉄・灰黄色細砂を少量含む。
8．青灰色粘質土（5PB5/1）しまり普通、粘性強い。酸化鉄を少量、炭化物（2mm以下）を微量含む。
9．青灰色粘質土（5PB6/1）しまりやや強く、粘性強い。灰白色細砂を中量、酸化鉄を少量含む。
10．明黄褐色砂（10YR7/6）しまり普通、粘性弱い。青灰色砂を中量、酸化鉄・礫を少量含む。

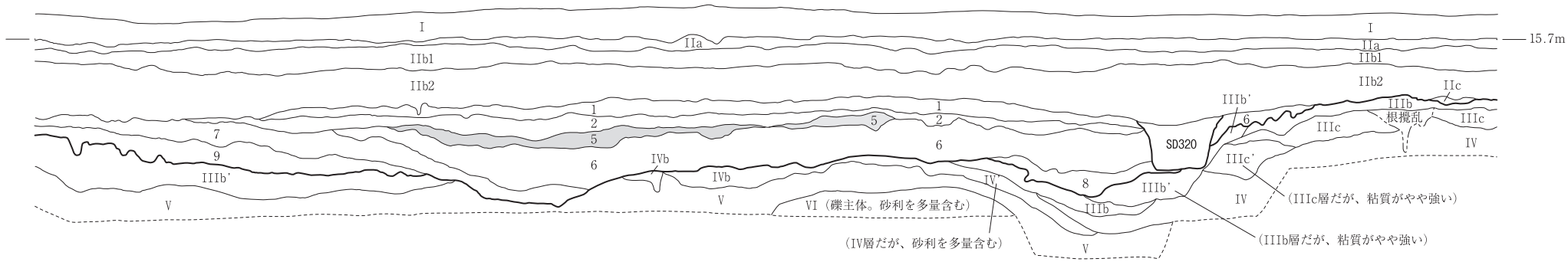
鍵層

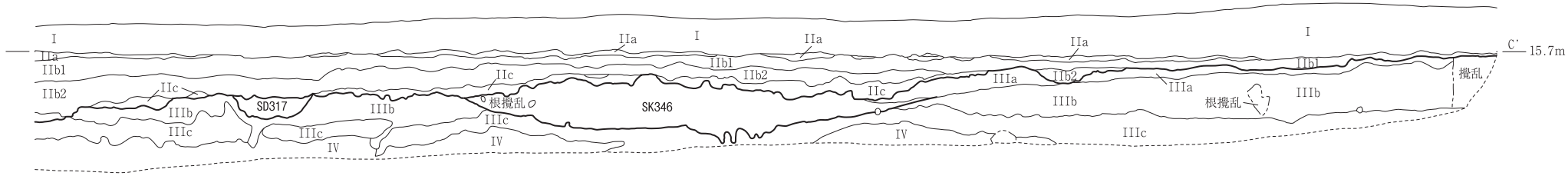
0　（1：40）　2m

SR1 土層断面C（02B～E区）

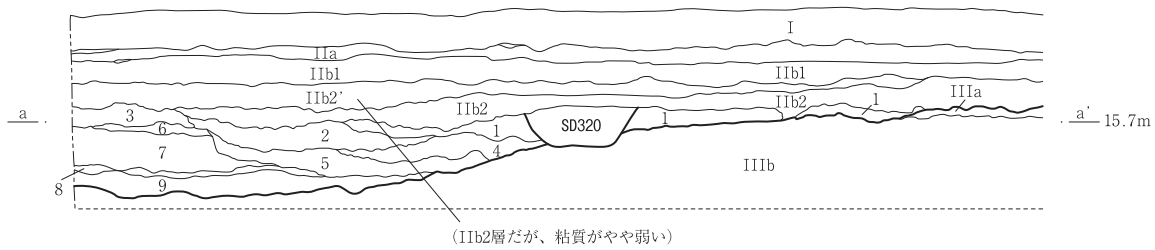


1．青灰色シルト（5PB6/1）しまり・粘性やや強い。酸化鉄を少量、炭化物（3mm以下）を微量含む。
2．青灰色シルト（5PB5/1）しまり・粘性やや強い。酸化鉄を少量、炭化物（3mm以下）を微量含む。
5．青灰色シルト（5PB5/1）しまりやや強く、粘性強い。暗紫灰色土を中量、酸化鉄を少量、炭化物（2mm以下）を微量含む。
6．青灰色粘質土（5B5/1）しまり普通、粘性強い。酸化鉄を中量含む。
7．青灰色砂（5PB6/1）しまりやや強く、粘性普通。青灰色粘質土・酸化鉄を中量含む。
8．青灰色粘質土（5B5/1）しまり普通、粘性強い。青灰色細砂を多量、酸化鉄・黄褐色土を少量含む。
9．青灰色粘質土（5PB6/1）しまりやや強く、粘性強い。青灰色砂・酸化鉄を中量含む。



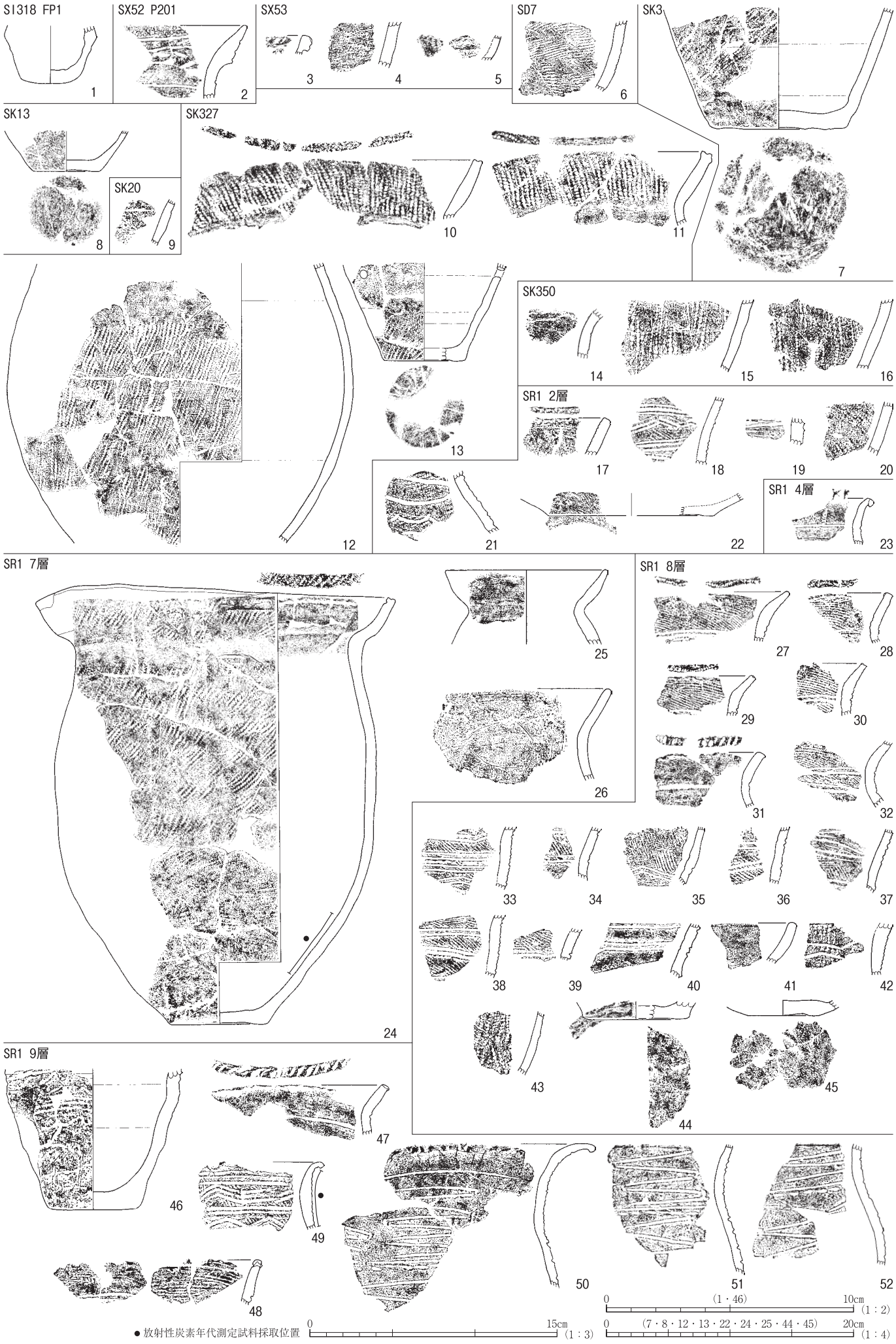


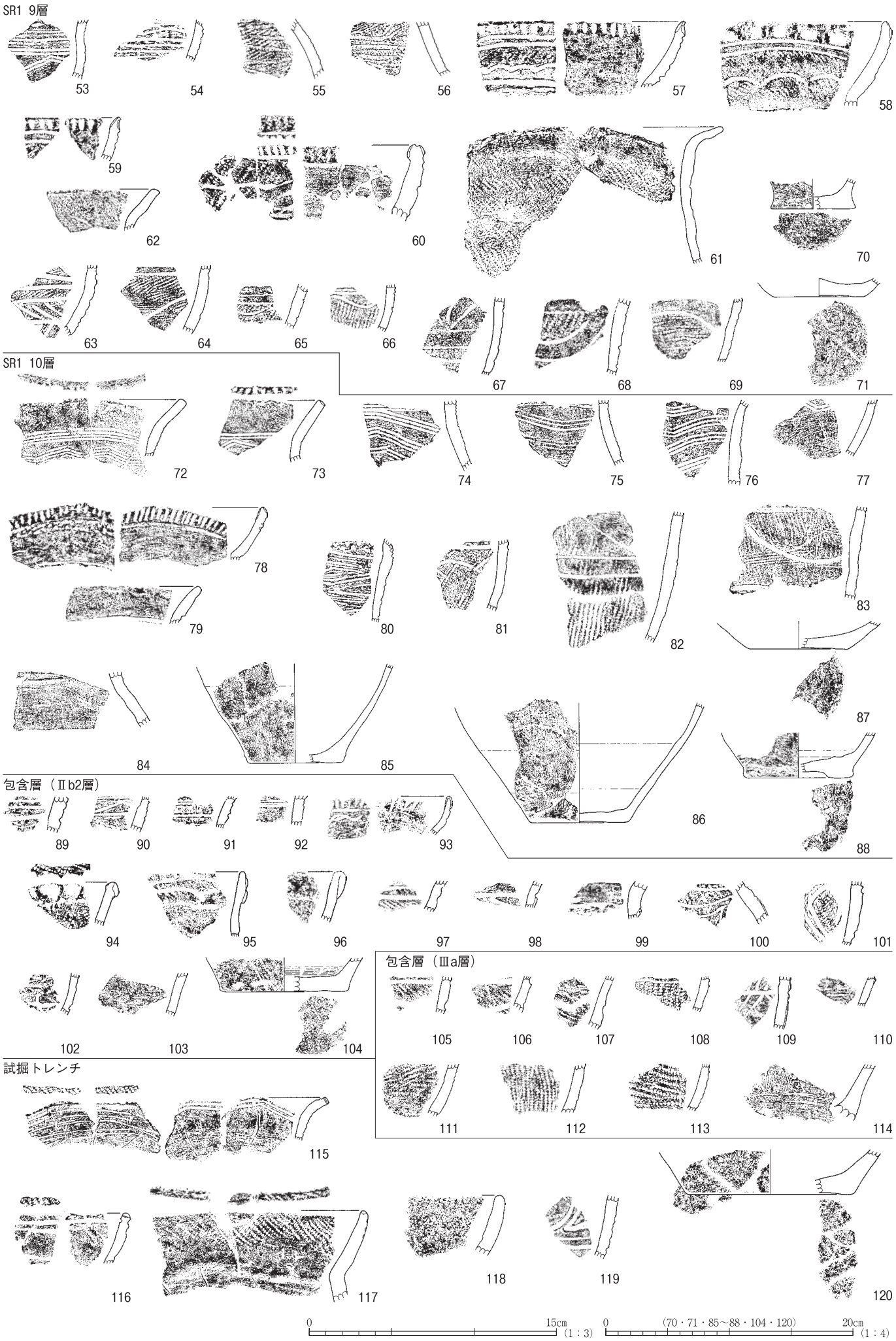
SR2 土層断面（3D・E区）

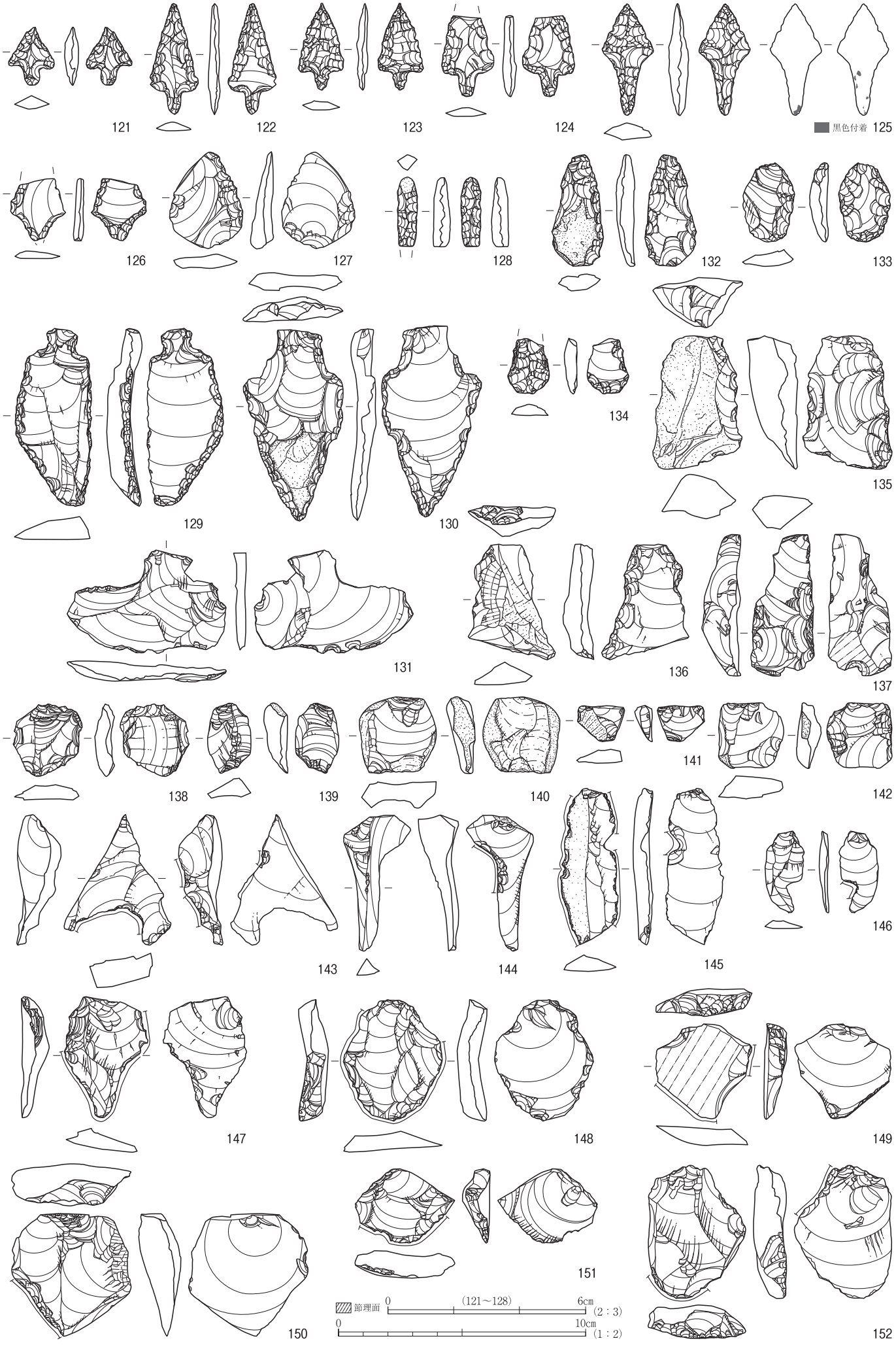


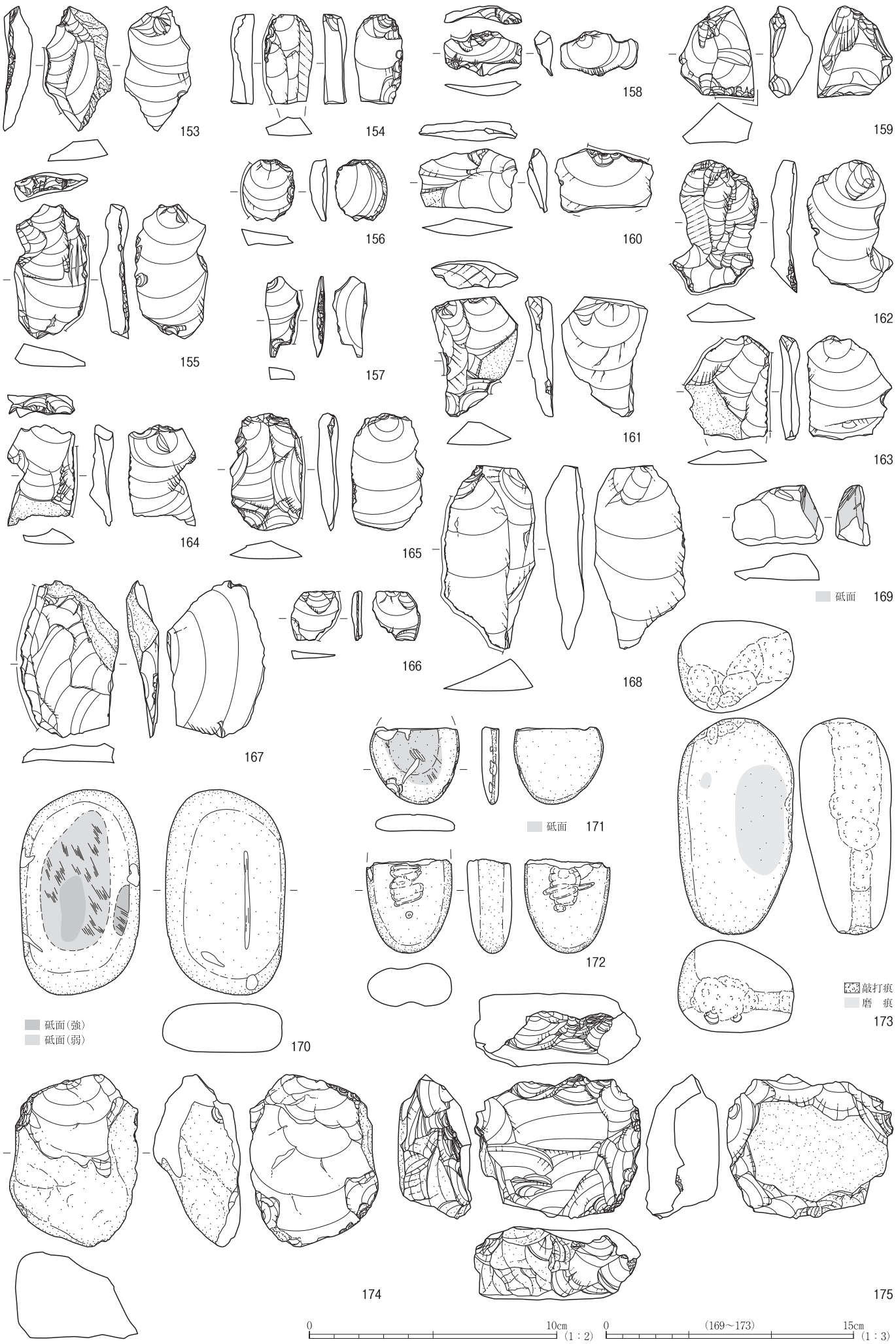
1．浅黄色シルト（2.5Y7/3）しまり・粘性普通。黄灰色シルトを少量含む。
2．灰白色粘質土（2.5Y7/1）しまり普通、粘性やや強い。炭化物（20mm以下）を少量含む。
3．にぶい黄橙色土（10YR7/3）しまりやや強く、粘性普通。
4．浅黄色土（2.5Y7/3）しまり・粘性普通。炭化物（5mm以下）を微量含む。
5．灰黄色土（2.5Y7/2）しまり・粘性普通。炭化物（5mm以下）を微量含む。
6．にぶい黄橙色粘質土（10YR7/2）しまり普通、粘性やや強い。灰色シルトを少量含む。
7．黄橙色粘質土（10YR7/8）しまり・粘性やや強い。
8．灰黄色粘質土（2.5Y7/2）しまり普通、粘性やや強い。礫・炭化物（10mm以下）を微量含む。
9．にぶい黄橙色粘質土（10YR7/2）しまり・粘性やや強い。

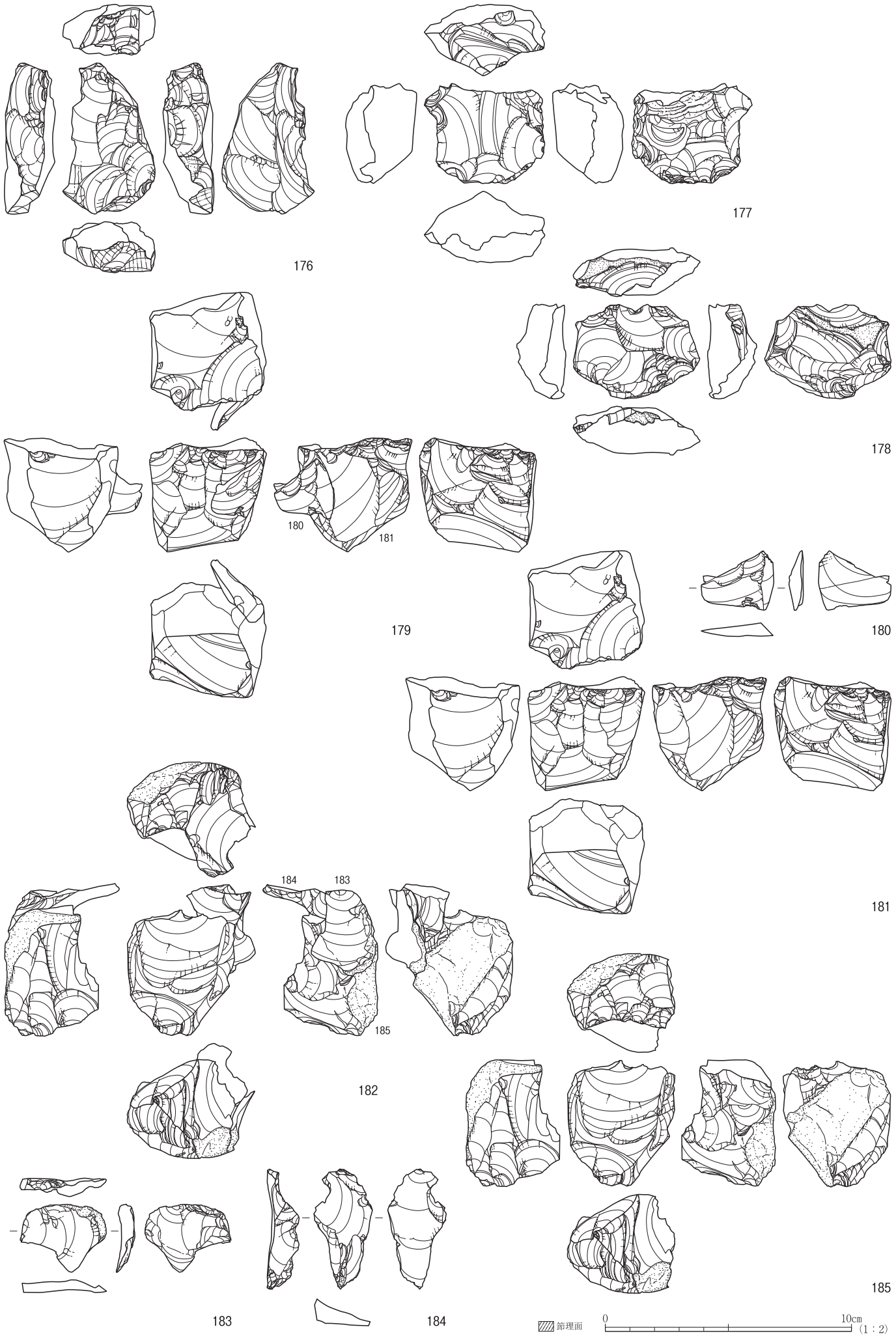
鍵層　0　（1：40）　2m


SI318 FP1
SX52 P201
SX53
SD7
SK3
SK13
SK20
SK327
SK350
SR1 2層
SR1 4層
SR1 7層
SR1 8層
SR1 9層
● 放射性炭素年代測定試料採取位置
0 15cm (1：3)
0 (1・46) 10cm (1：2)
0 (7・8・12・13・22・24・25・44・45) 20cm (1：4)

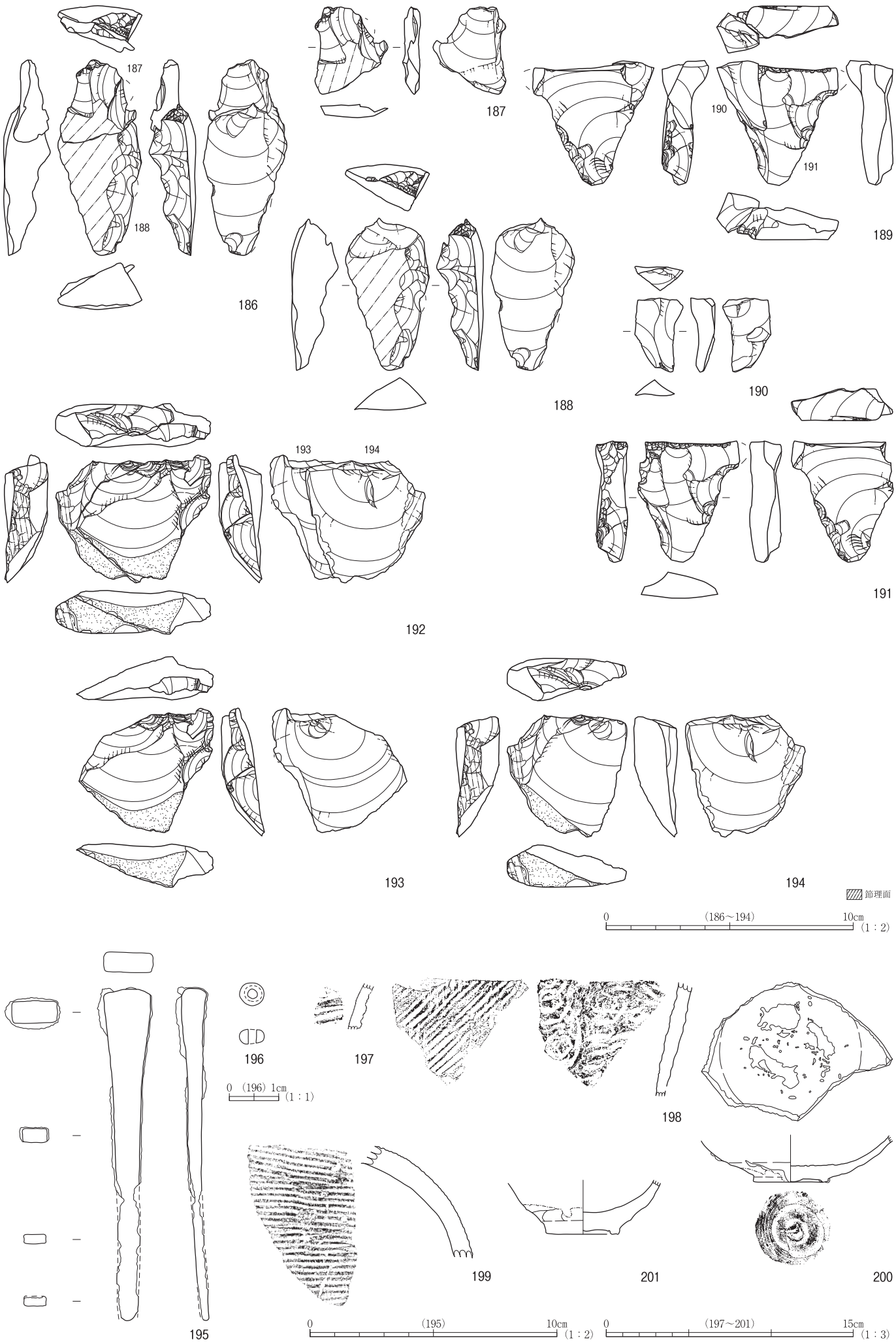

SR1 9層
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
SR1 10層
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
包含層（Ⅱb2層）
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
包含層（Ⅲa層）
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
試掘トレンチ
115
116
117
118
119
120
0
15cm
（1：3）
0
（70・71・85～88・104・120）
20cm
（1：4）


121
122
123
124
黒色付着 125
126
127
128
132
133
129
130
134
135
131
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
節理面
0
(121～128)
6cm
(2：3)
0
10cm
(1：2)


153
154
158
159
156
160
155
157
162
161
163
164
165
砥面
169
166
168
167
砥面
171
砥面（強）
砥面（弱）
170
172
敲打痕
磨　痕
173
174
175
0
10cm
（1：2）
0
（169～173）
15cm
（1：3）


176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
184
183
185
飾理面
0
10cm
（1：2）

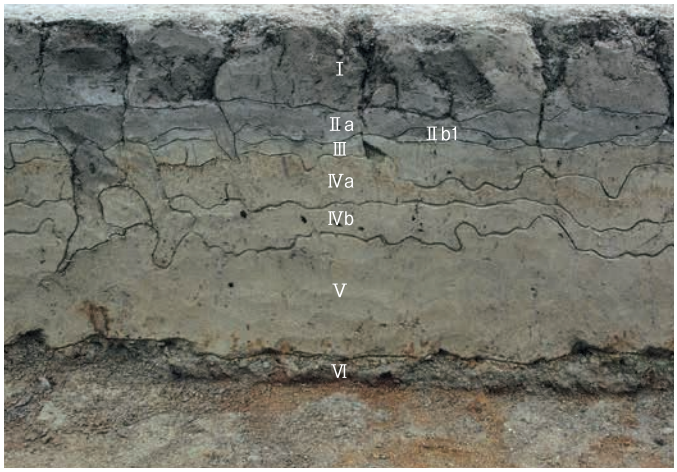
遺物実測図（6）石器 4、金属製品、ガラス小玉、そのほかの遺物



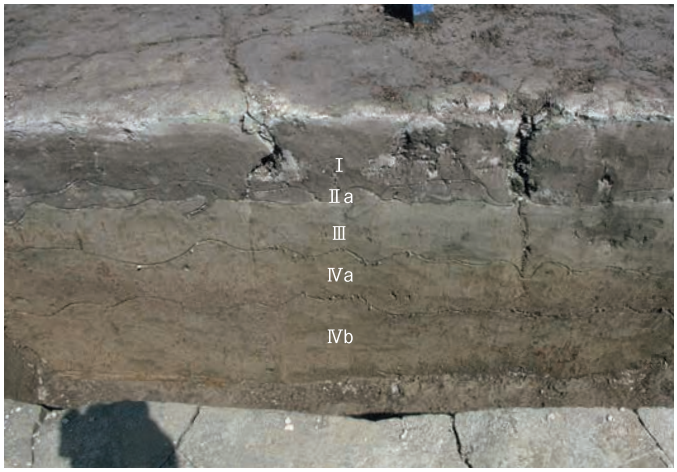
遺跡遠景（東から）

遺跡遠景（北から）

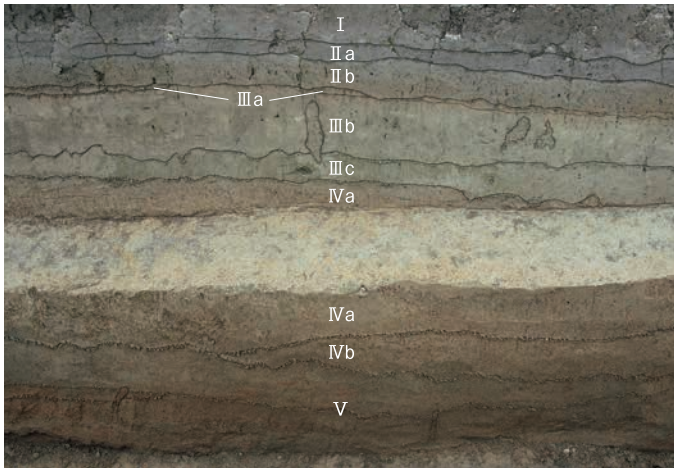
調査区全景



基本層序6（西から）



基本層序10（東から）



4D区基本層序（北から）

04・05C・D区全景

3～7区遺構集中部全景

南区全景

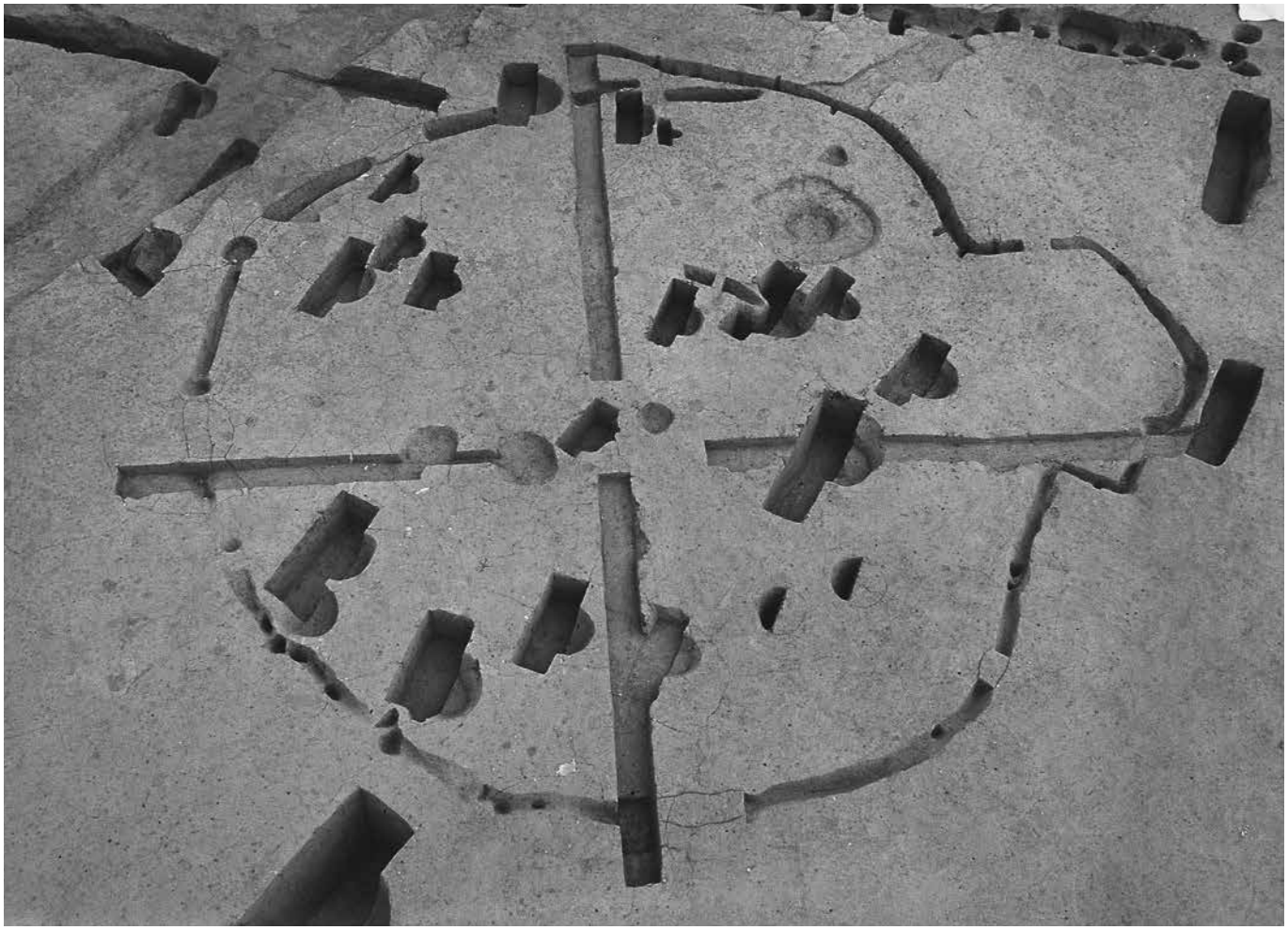
SI318 完掘状況（西から）

SI318 FP1 土層断面（南から）

SI318 FP1 土層断面・ミニチュア土器（1）出土状況（東から）

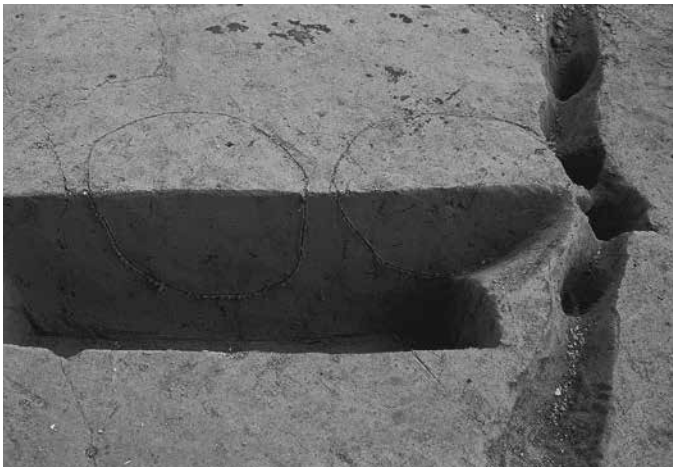
SI318 金属製品（195）出土状況（北西から）

SI318 P17 土層断面（南から）

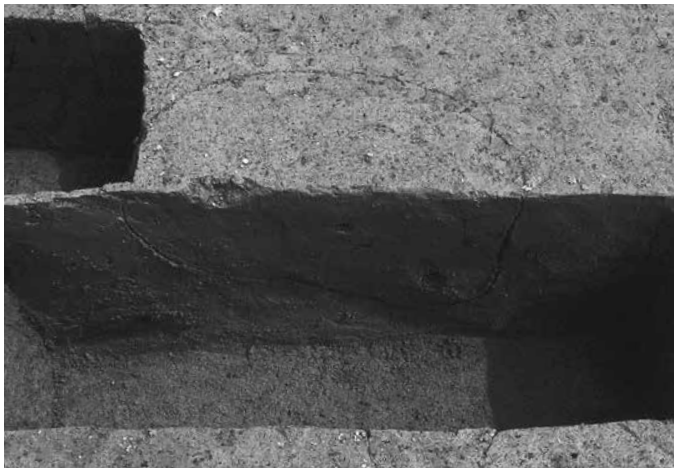


SX51 完掘状況（東から）

SX51 東側土層断面（南から）

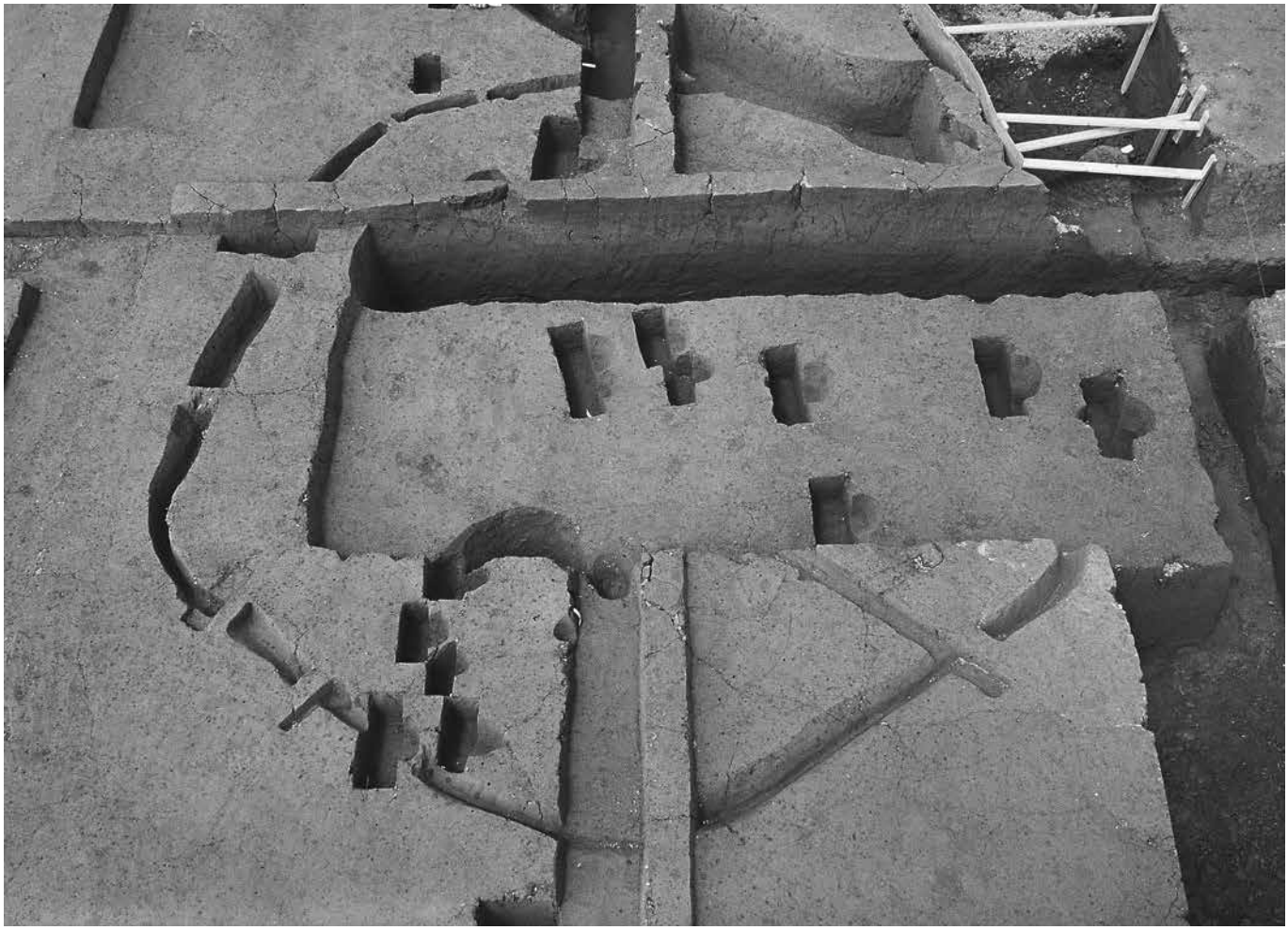


SX51 P14・15 土層断面（南から）



SX51 P22 土層断面（南から）

SX51 P27 土層断面（南から）

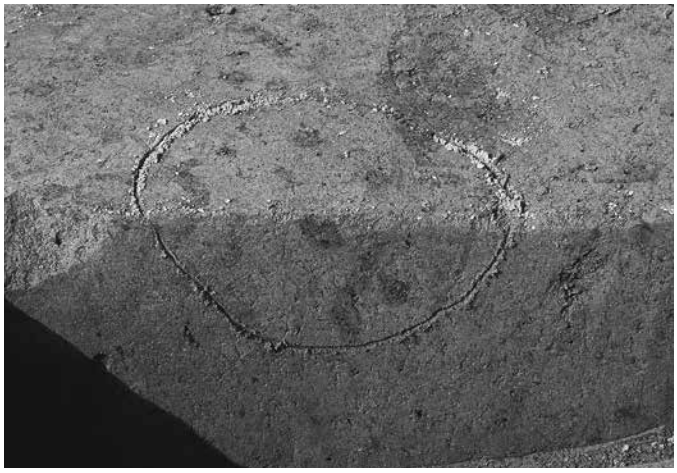


SX52 完掘状況（東から）

SX52 土層断面（東から）

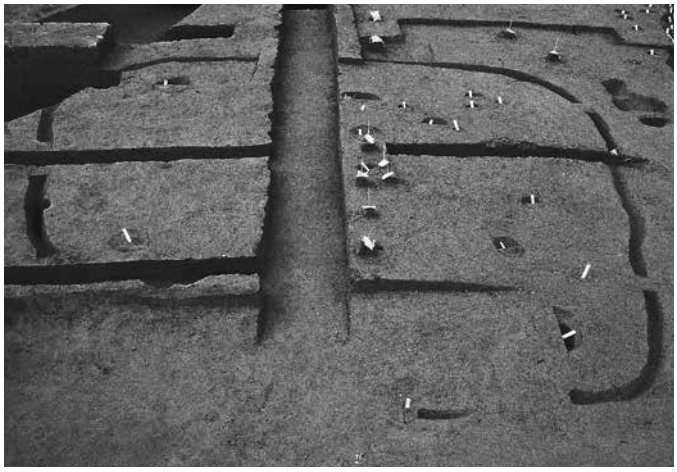
SX52 南側遺物出土状況（南から）

SX52 P1～4・6 土層断面（南から）

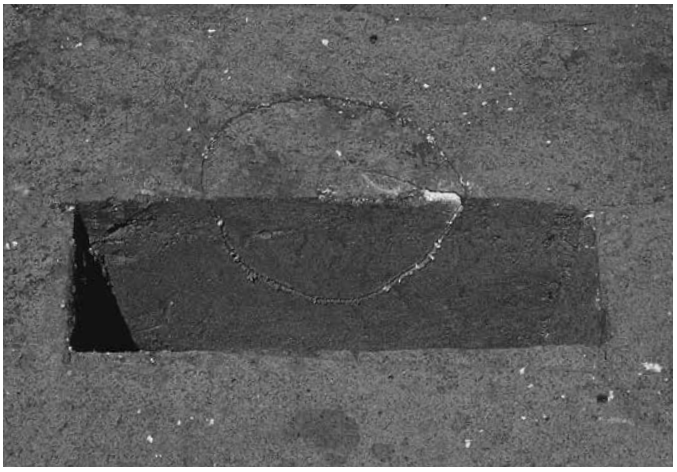


SX52 P8 土層断面（南から）

SX53 完掘状況（東から）

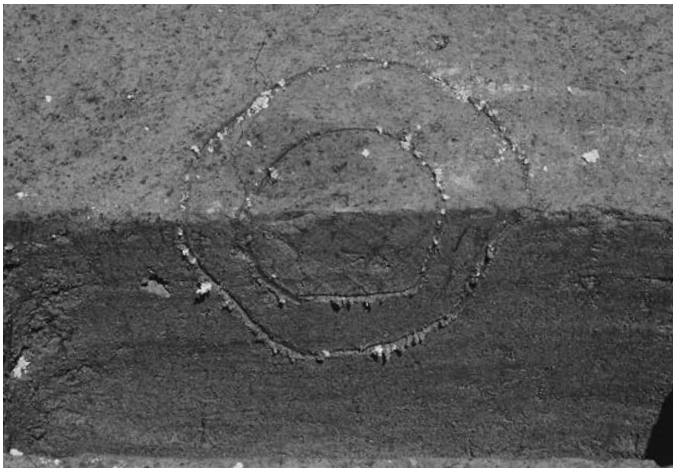


SX53 遺物出土状況（北から）



SX53 P1 土層断面（南から）

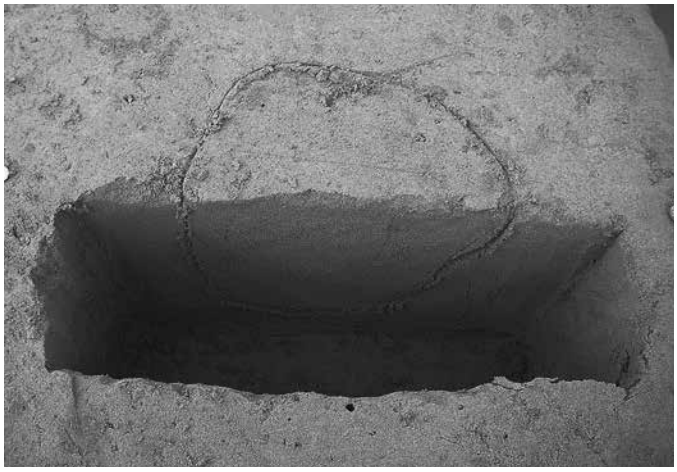
SX53 P2 土層断面（南から）



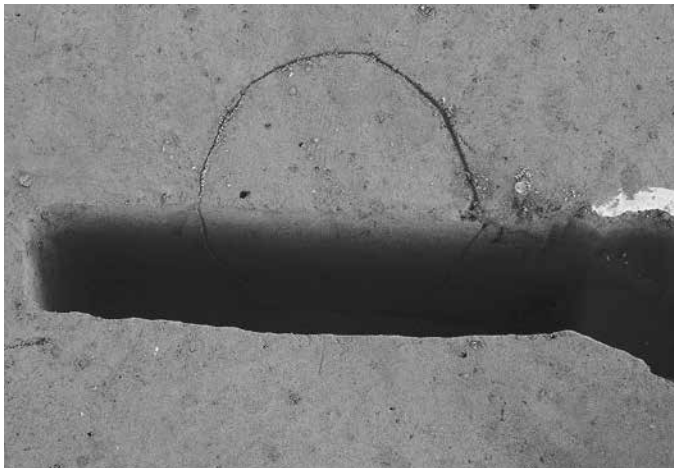
SX53 P9 土層断面（南から）

SX254 完掘状況（南から）

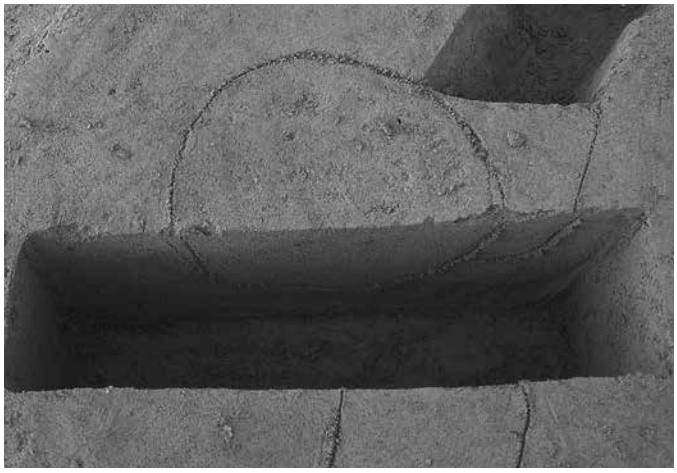
SX254 北西側周溝土層断面（東から）



SX254 P1 土層断面（南から）

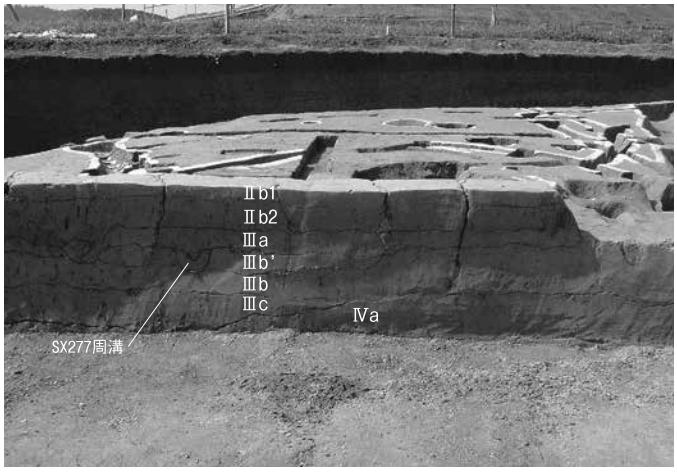


SX254 P2 土層断面（南から）

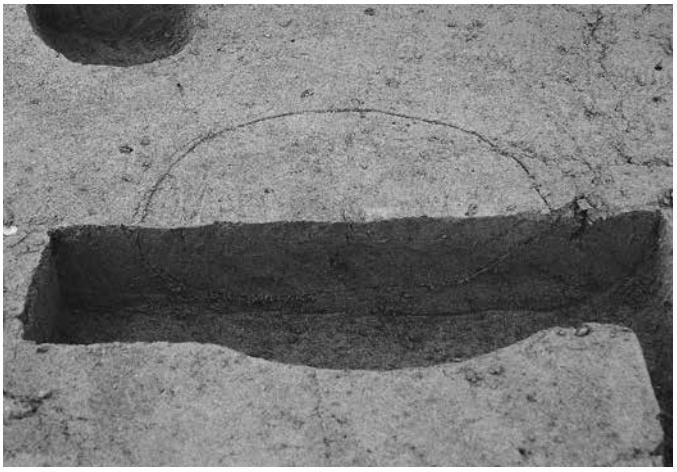


SX254 P4 土層断面（南から）

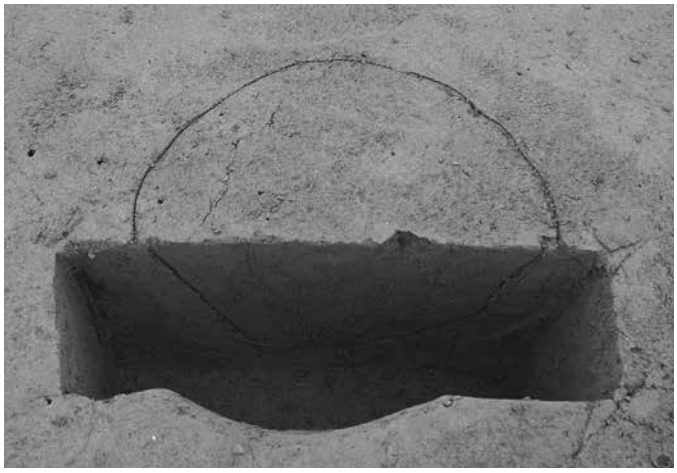
SX277・314 完掘状況（南から）



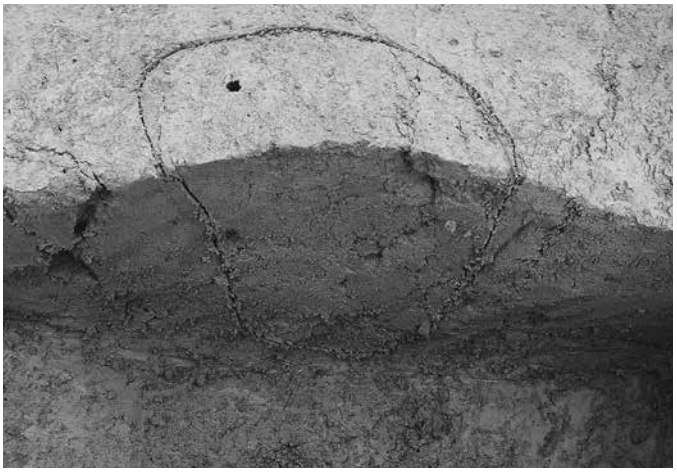
SX277 土層断面（北から）



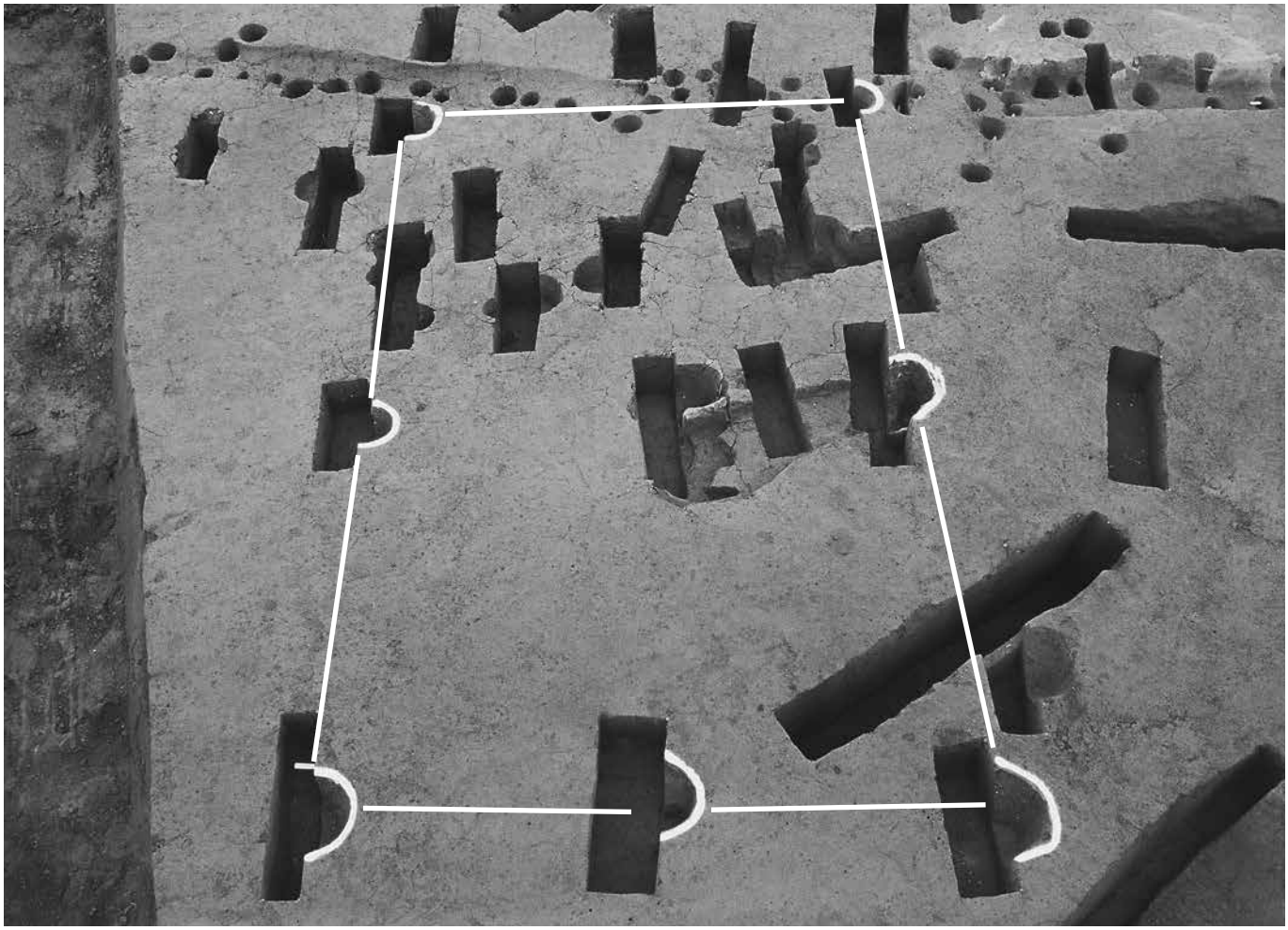
SX277 P2 土層断面（南から）



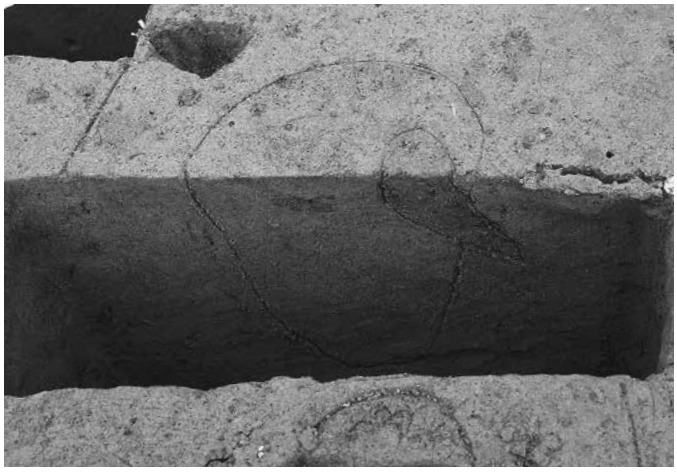
SX314 P1 土層断面（南から）



SX314 P2 土層断面（南から）

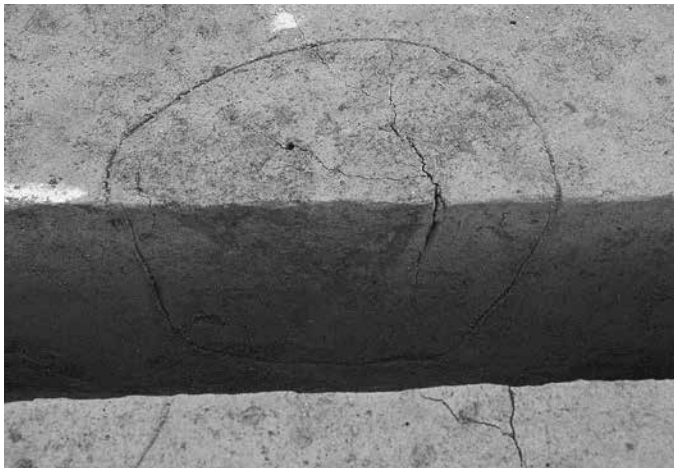


SB1 全景（東から）

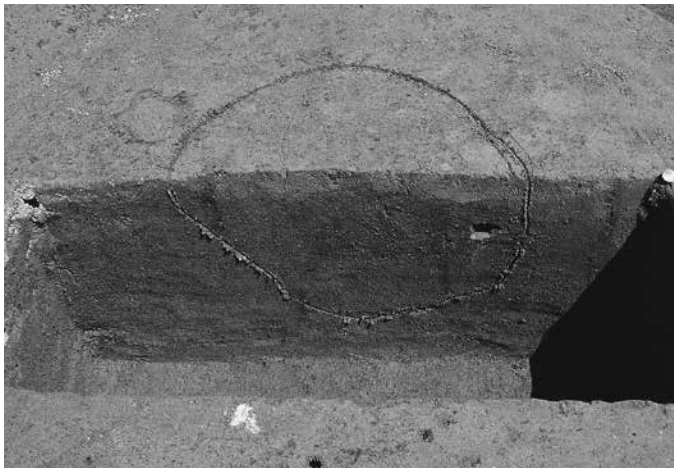


SB1 P2 土層断面（南から）

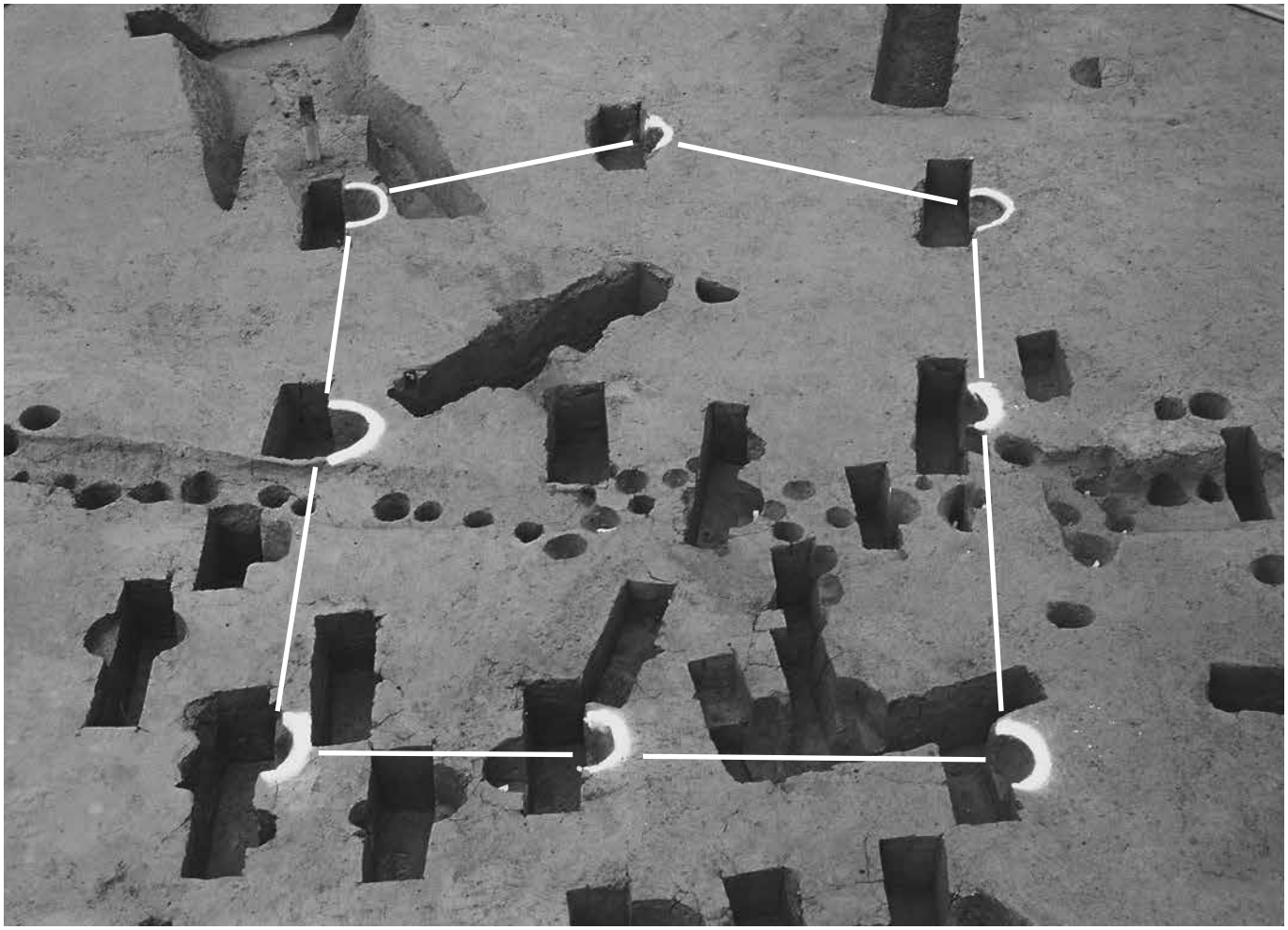
SB1 P4 土層断面（南から）



SB1 P5 土層断面（南から）

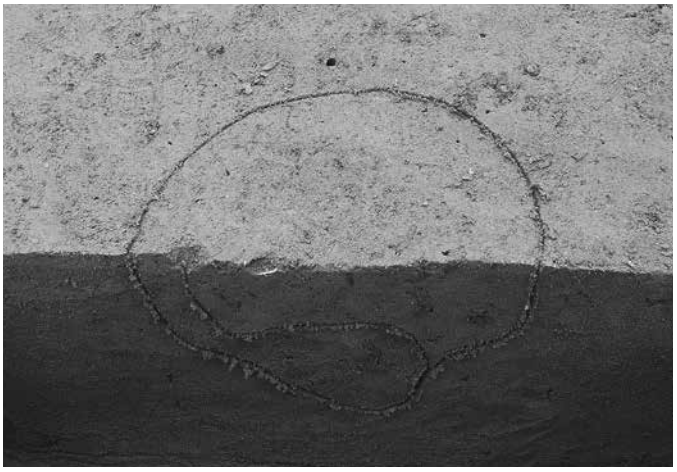


SB1 P7 土層断面（南から）

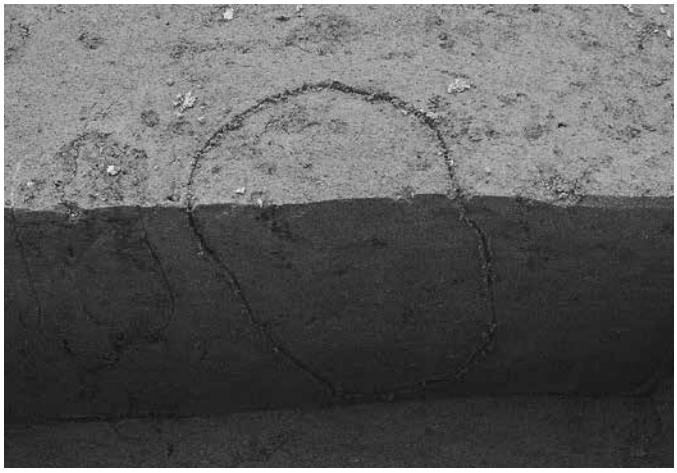


SB2 全景（東から）

SB2 P1 土層断面（南から）



SB2 P2 土層断面（南から）



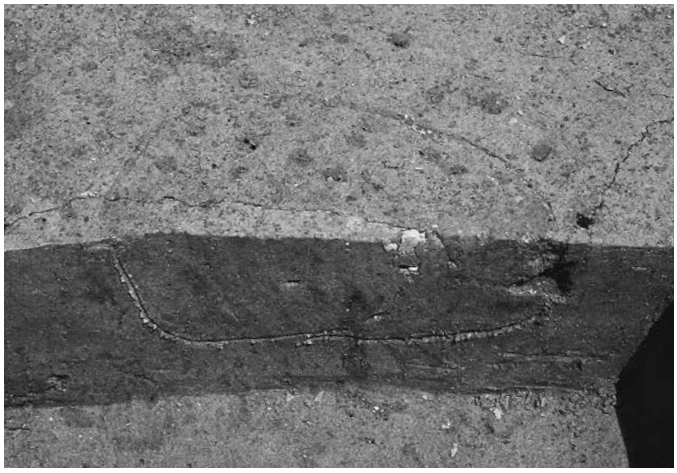
SB2 P3 土層断面（南から）

SB2 P9 土層断面（南から）

SB3 全景（西から）

SB3 P1 土層断面（南から）

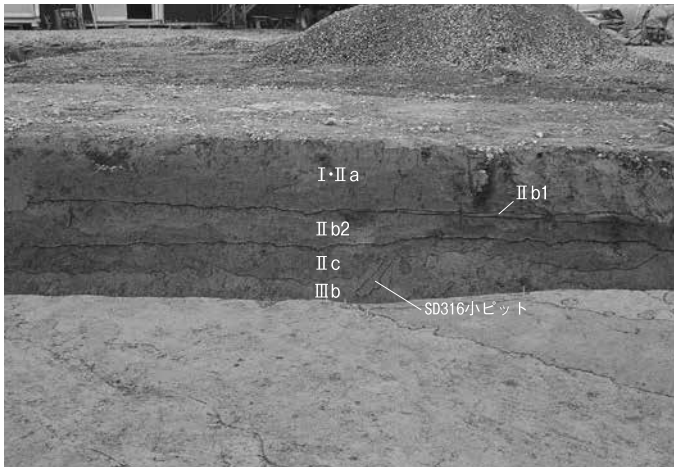
SB3 P2 土層断面（南から）



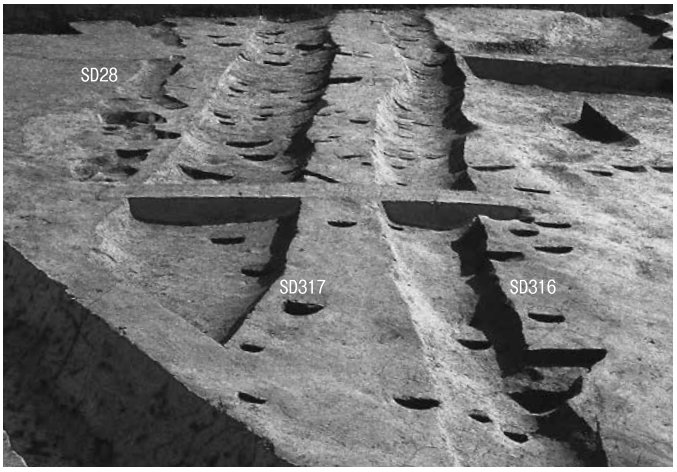
SB3 P3 土層断面（南から）

SB3 P4 土層断面（南から）

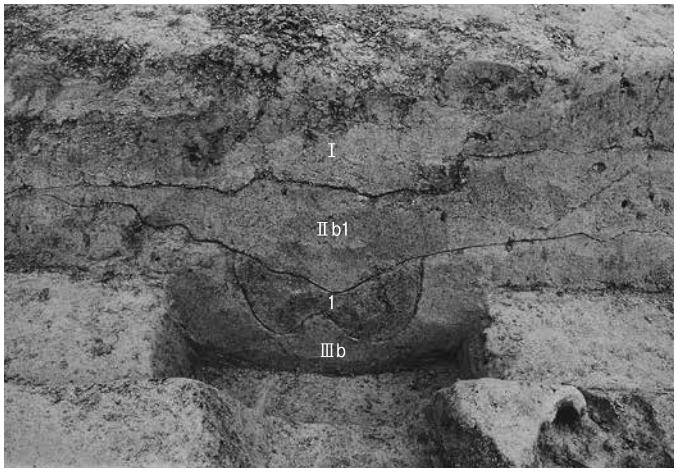
05C区 SD316・317 検出状況（南東から）



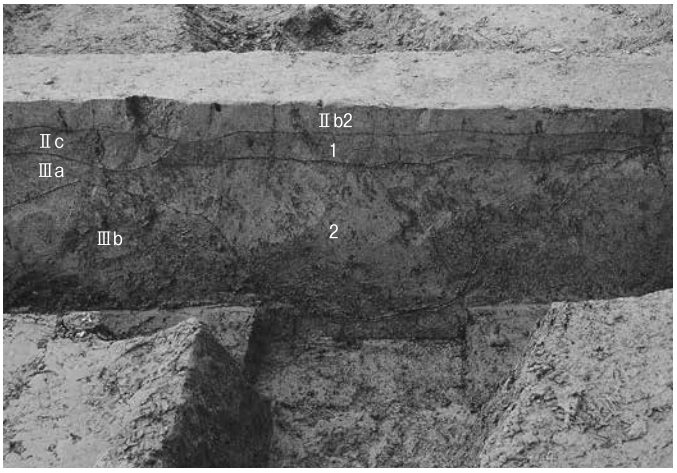
05C区 SD316・317・小ピット 土層断面（北西から）



05C区 SD316・317・小ピット 土層断面（南西から）



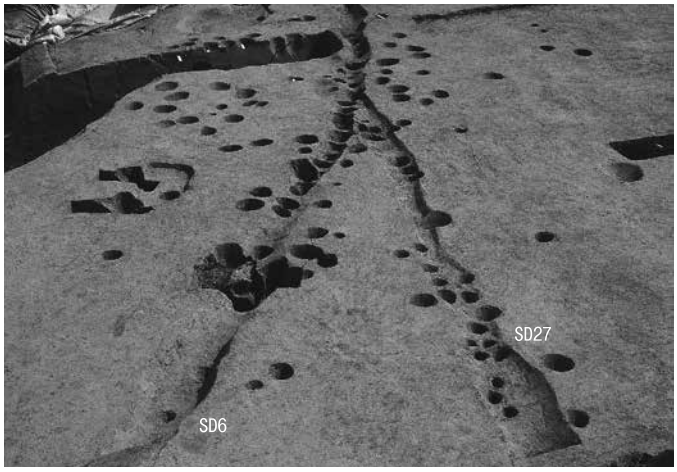
2E区 SD316 土層断面（北から）



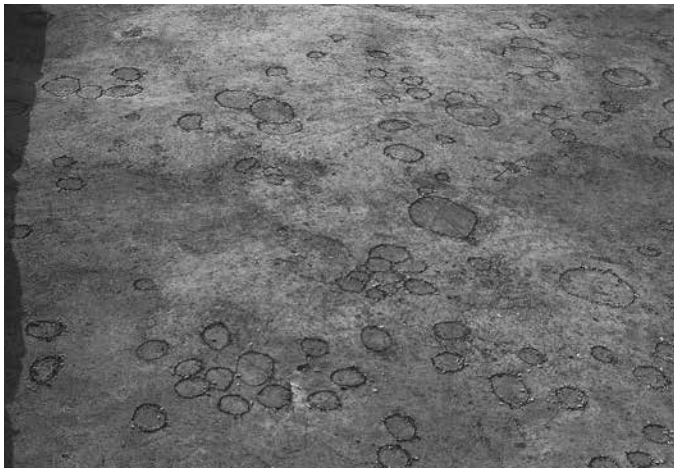
2D区 SD317 土層断面（東から）

05C区 遺構完掘状況（南東から）

3～7区 遺構完掘状況（北から）

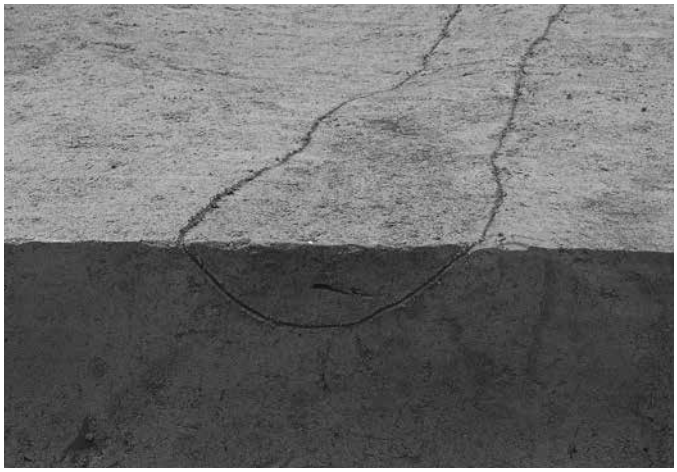


5B区 SD6・27 交差部分完掘状況（南から）



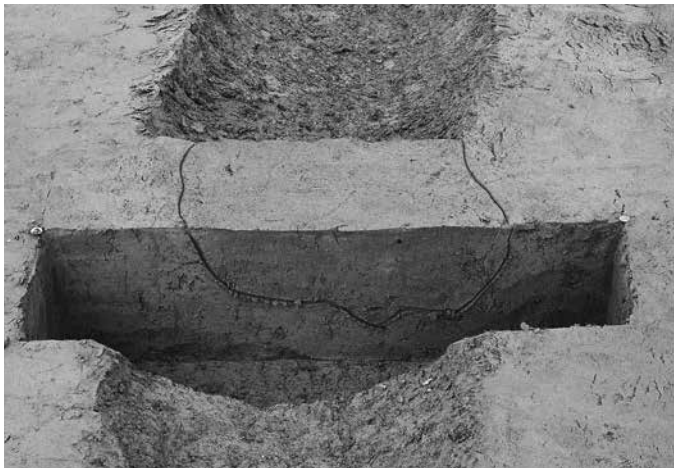
7C区 SD6 小ピット検出状況（東から）

7C区 SD6 小ピット土層断面（南から）



7C区 SD6 土層横断面（北から）

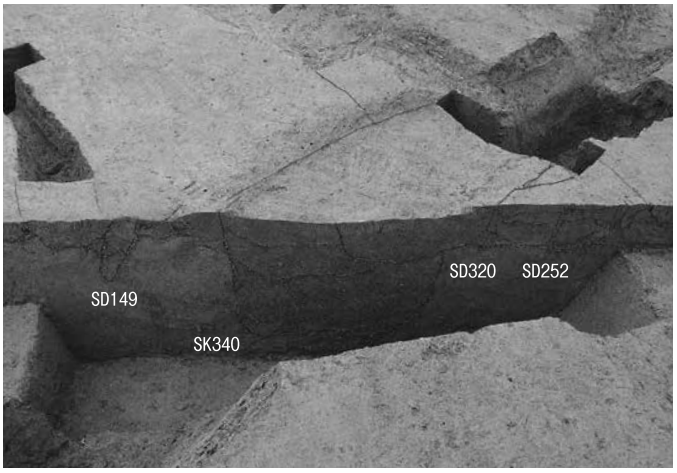
9C区 SD6 土層縦断面（西から）



2C区 SD27 土層断面（南から）

3C区 SD27 小ピット土層断面（南から）

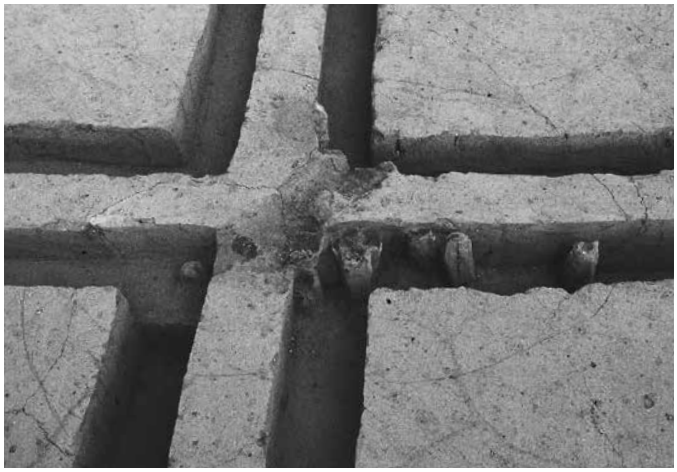
4D区 SD16 土層断面（西から）



2・3区 SD149・252・320、SK340 土層断面（北から）

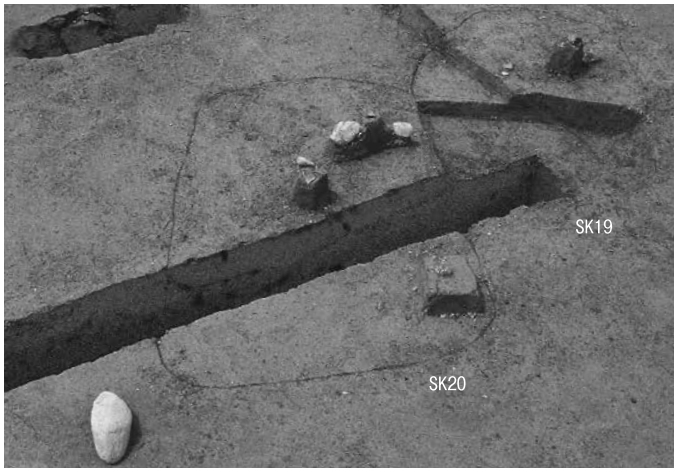
4D区 SD252 土層断面（西から）

04区 SD334 土層断面（南から）



SK3 土層断面・遺物検出状況（西から）

SK13 土層断面（南から）



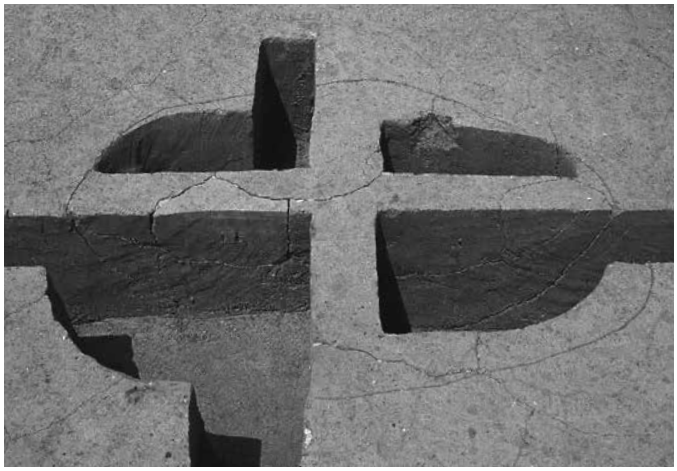
SK19・20 遺物出土状況（東から）

SK19 完掘状況（東から）

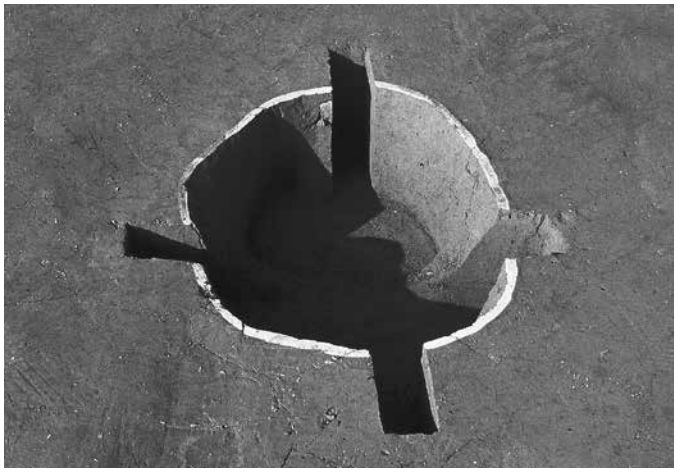
SK20 完掘状況（東から）

SK50 土層断面（南から）

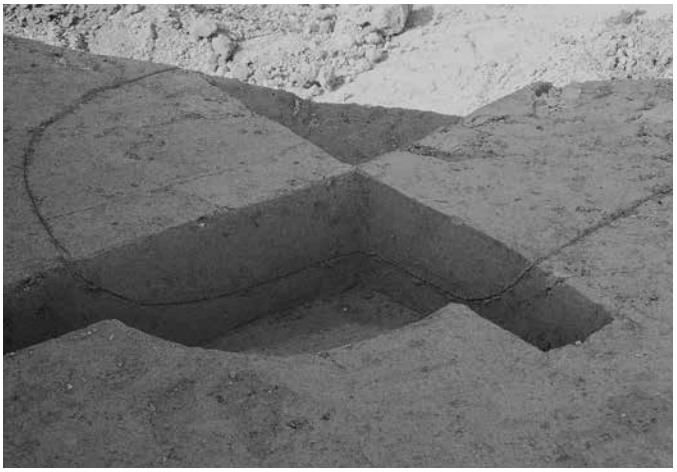
SK54 土層断面（南から）



SK131 土層断面（東から）



SK131 完掘状況（南から）



SK256 土層断面（南から）

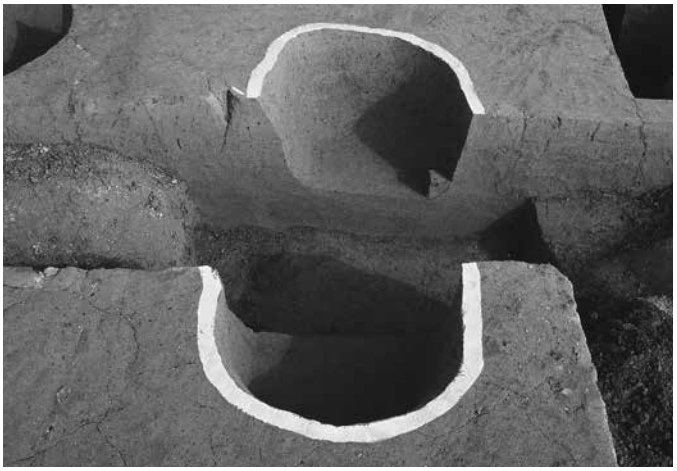
SK278 土層断面（北から）

SK295 土層断面（南から）

SK299 土層断面（南から）

SK300 完掘状況（南西から）

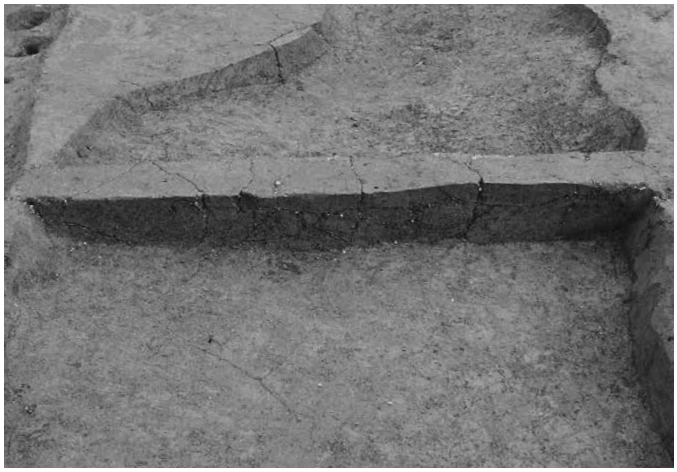
SK301 土層断面（西から）



SK301 完掘状況（西から）

SK321 土層断面（東から）

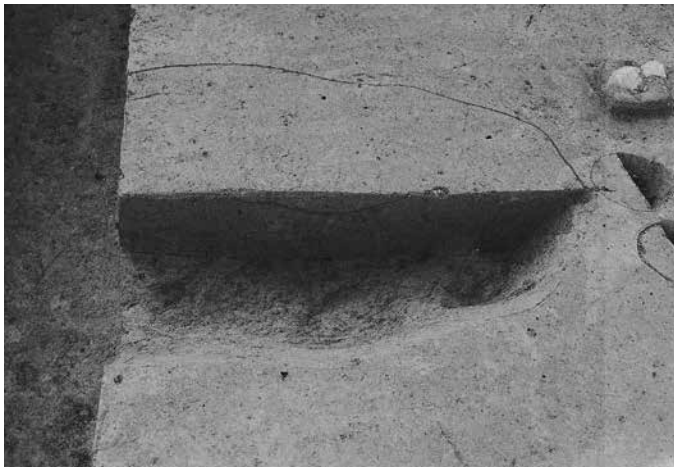
SK321 完掘状況（東から）

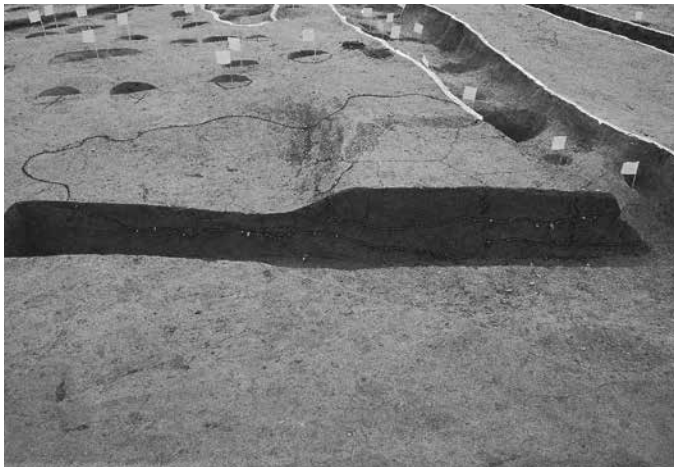

SK324 土層断面（南から）

SK326 土層断面（東から）

SK327 完掘状況（南から）

SK327 完掘状況（西から）

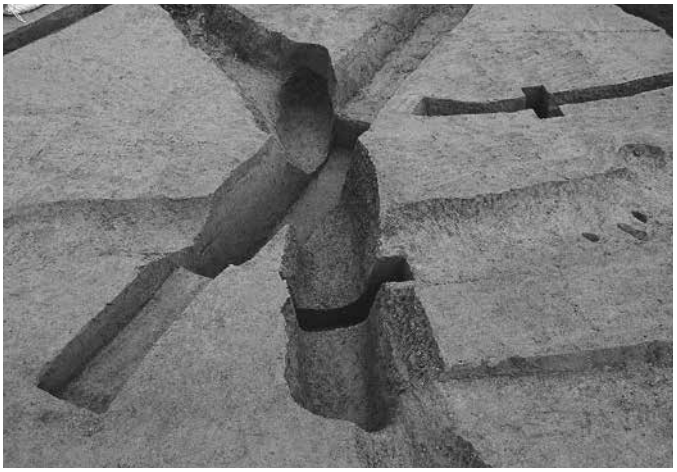

SK333 土層断面（西から）

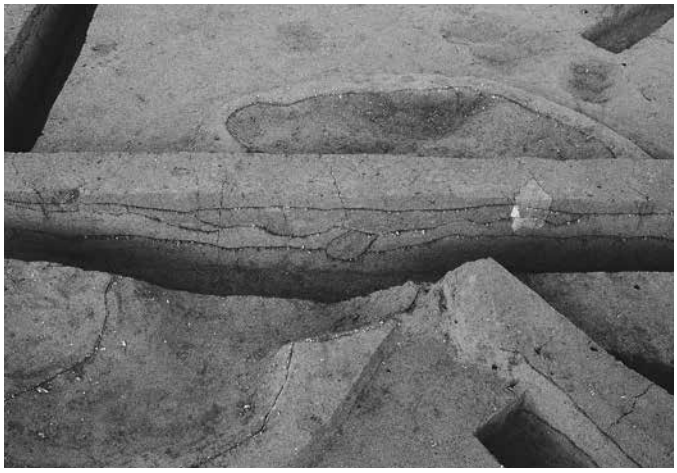

SK335 土層断面（北から）

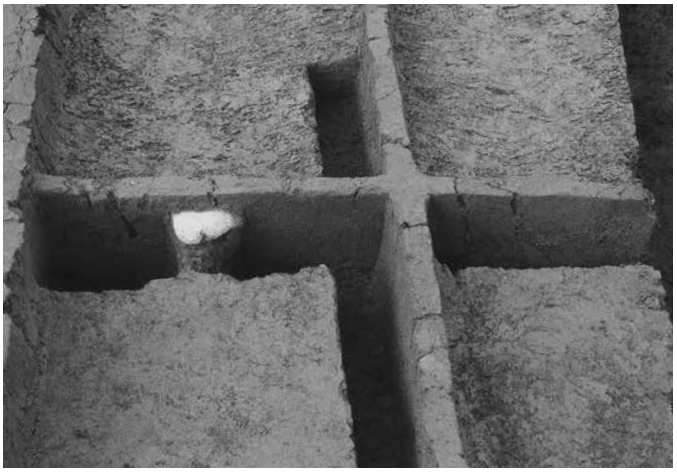
SK336 土層断面（西から）

SK337 完掘状況（南から）

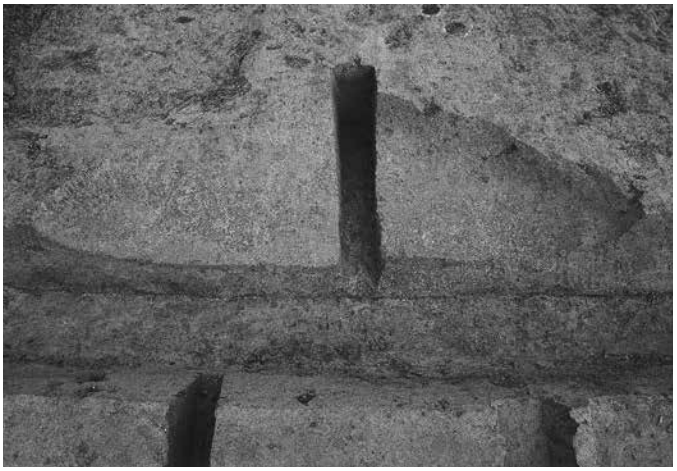
SK338 土層断面（北から）


SK340 完掘状況（南西から）


SK341 土層断面（南から）

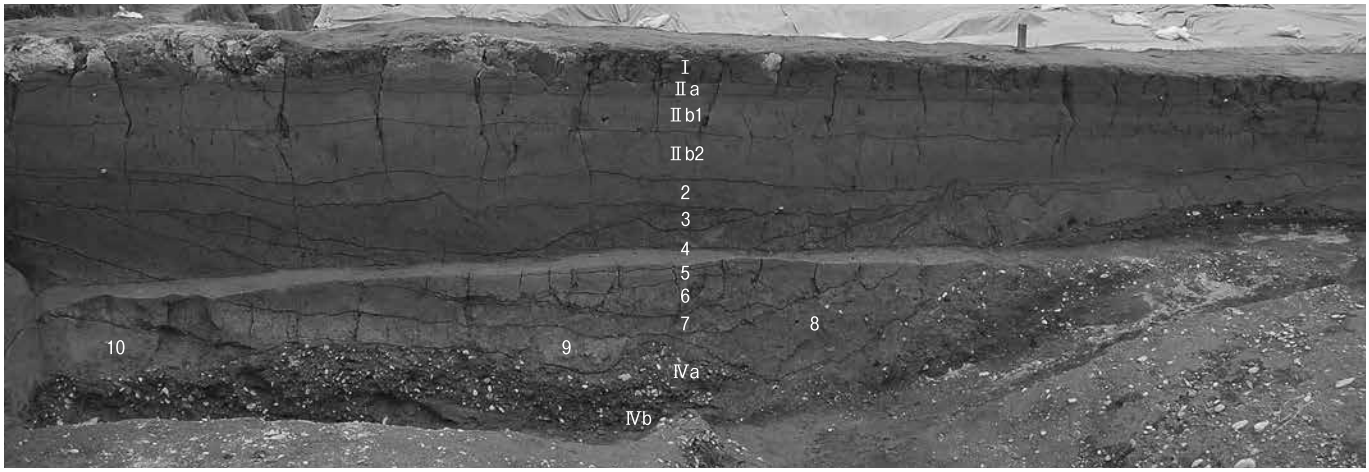

SK342 土層断面（東から）

SK343 土層断面（南から）

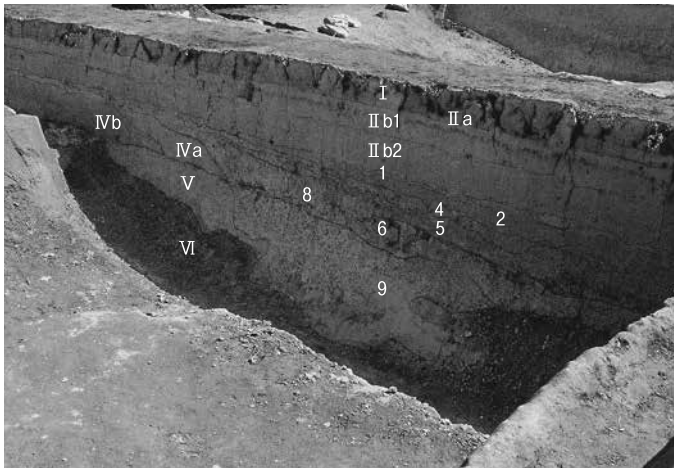

SK346 完掘状況（南東から）

SK350 遺物出土状況（南東から）

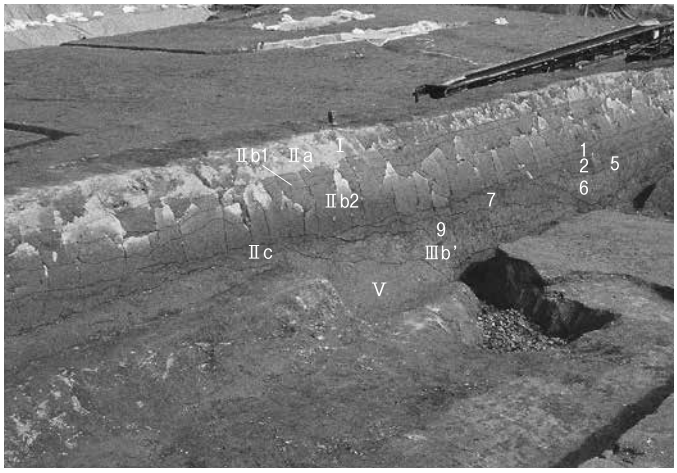
SK351 土層断面（南から）



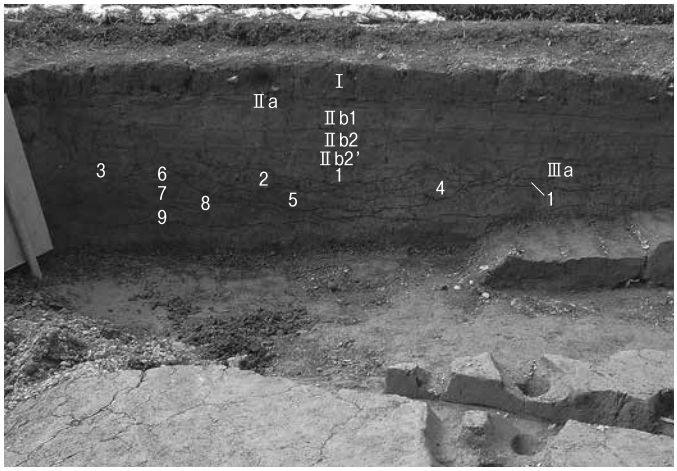
6B・C区 SR1 土層断面B（南から）



9B・C区 SR1 土層断面A（北西から）

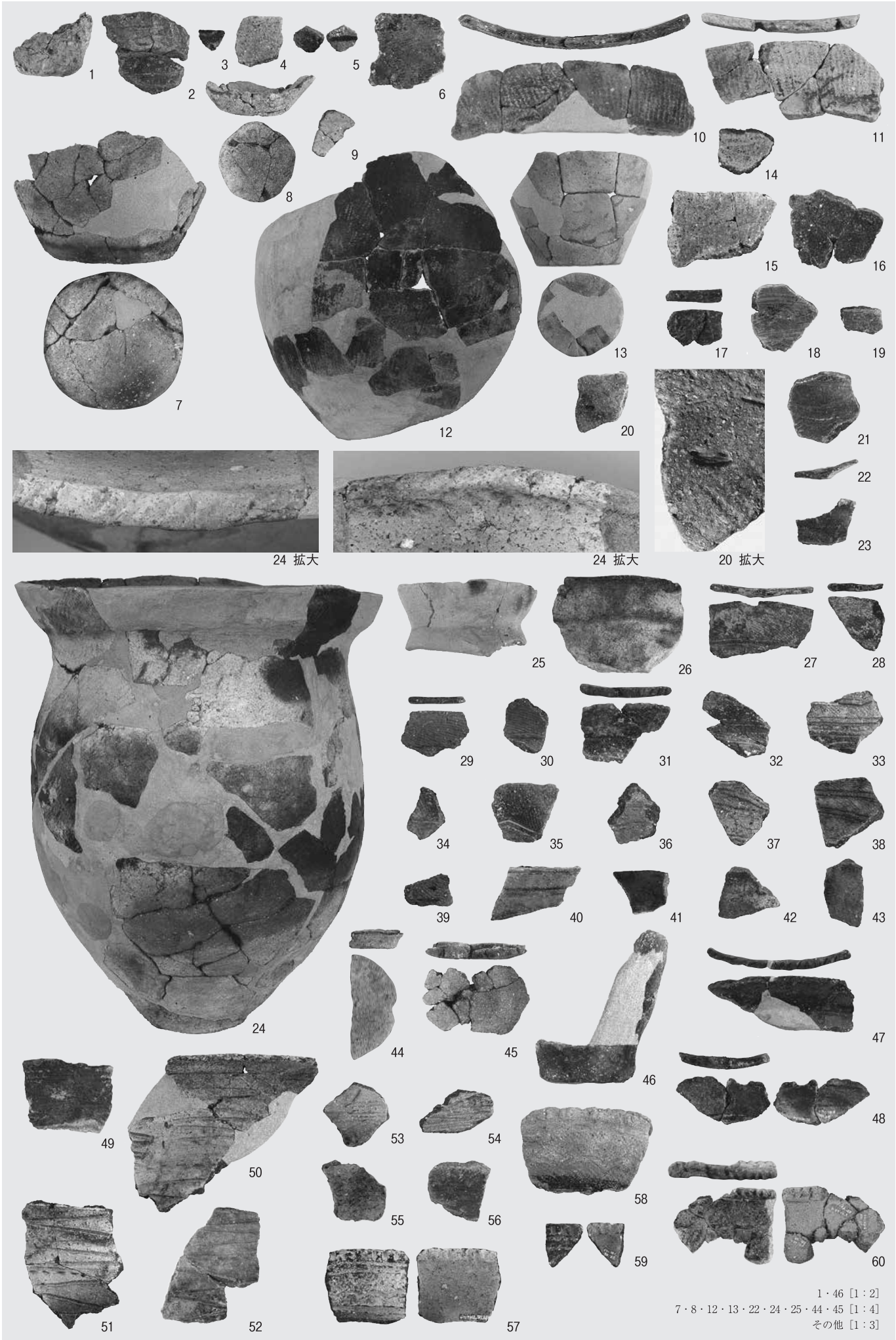


02B～E区 SR1 土層断面C（南西から）

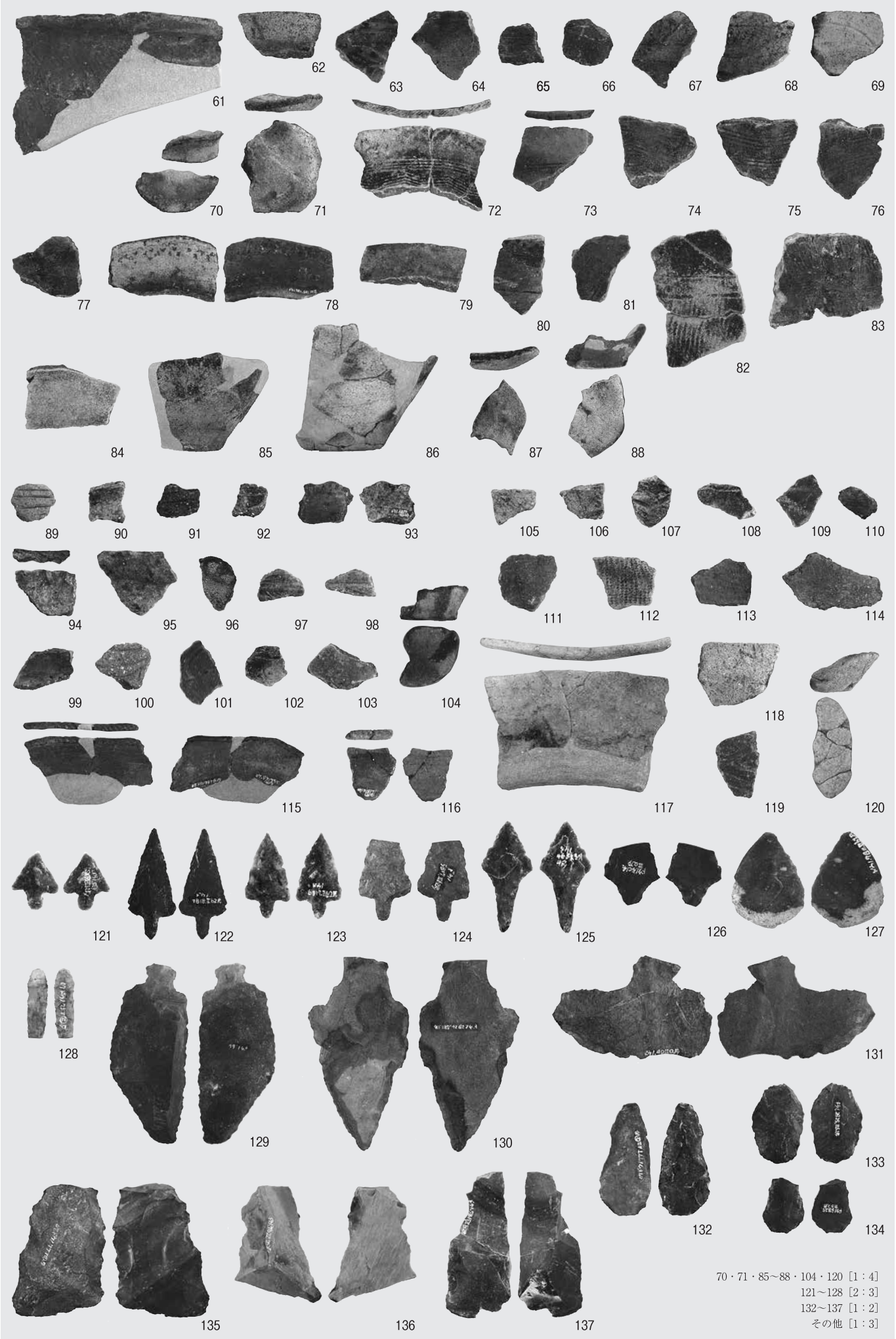


3D・E区 SR2 土層断面（北から）

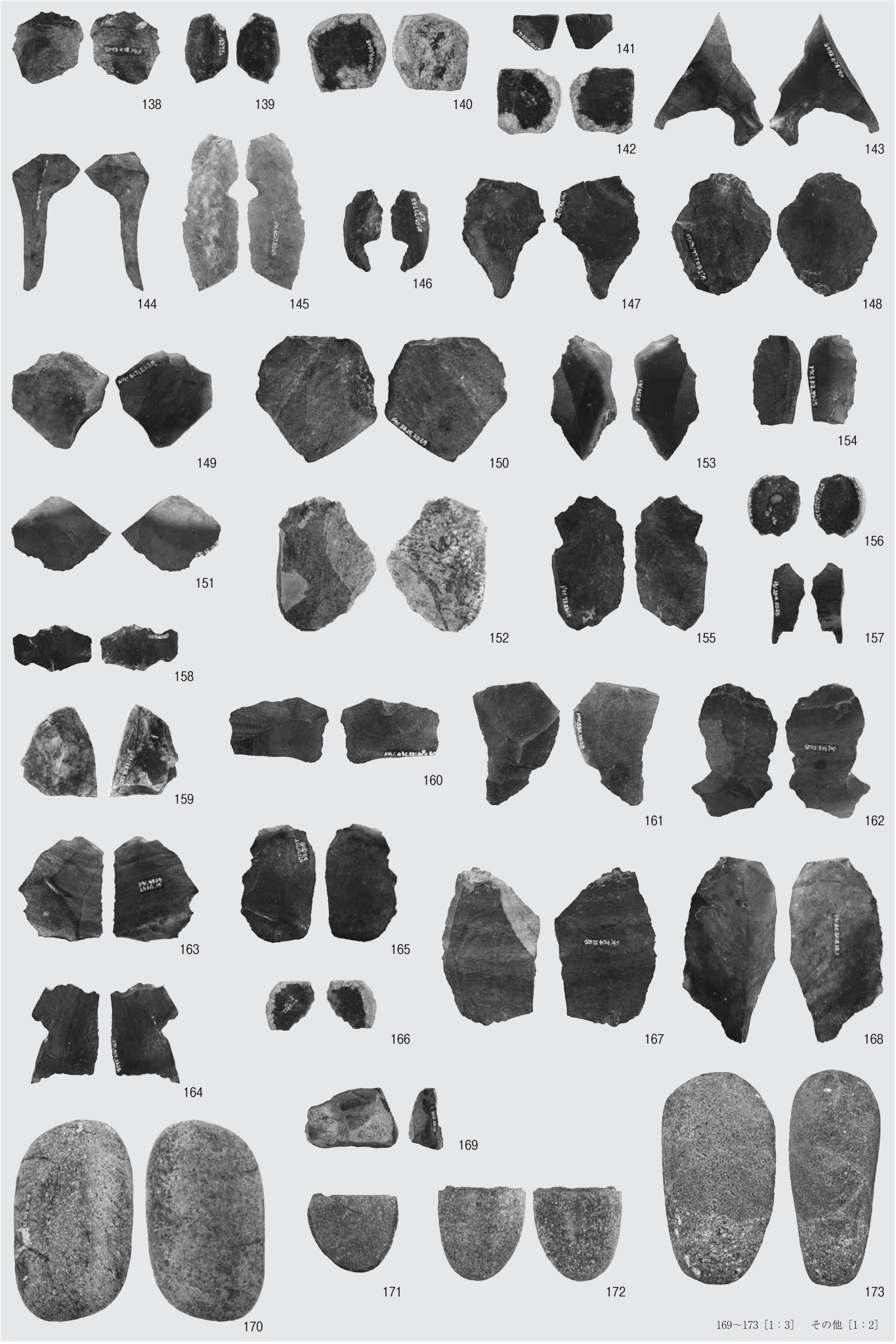
6B区 SR1 9層遺物（24）出土状況（南から）



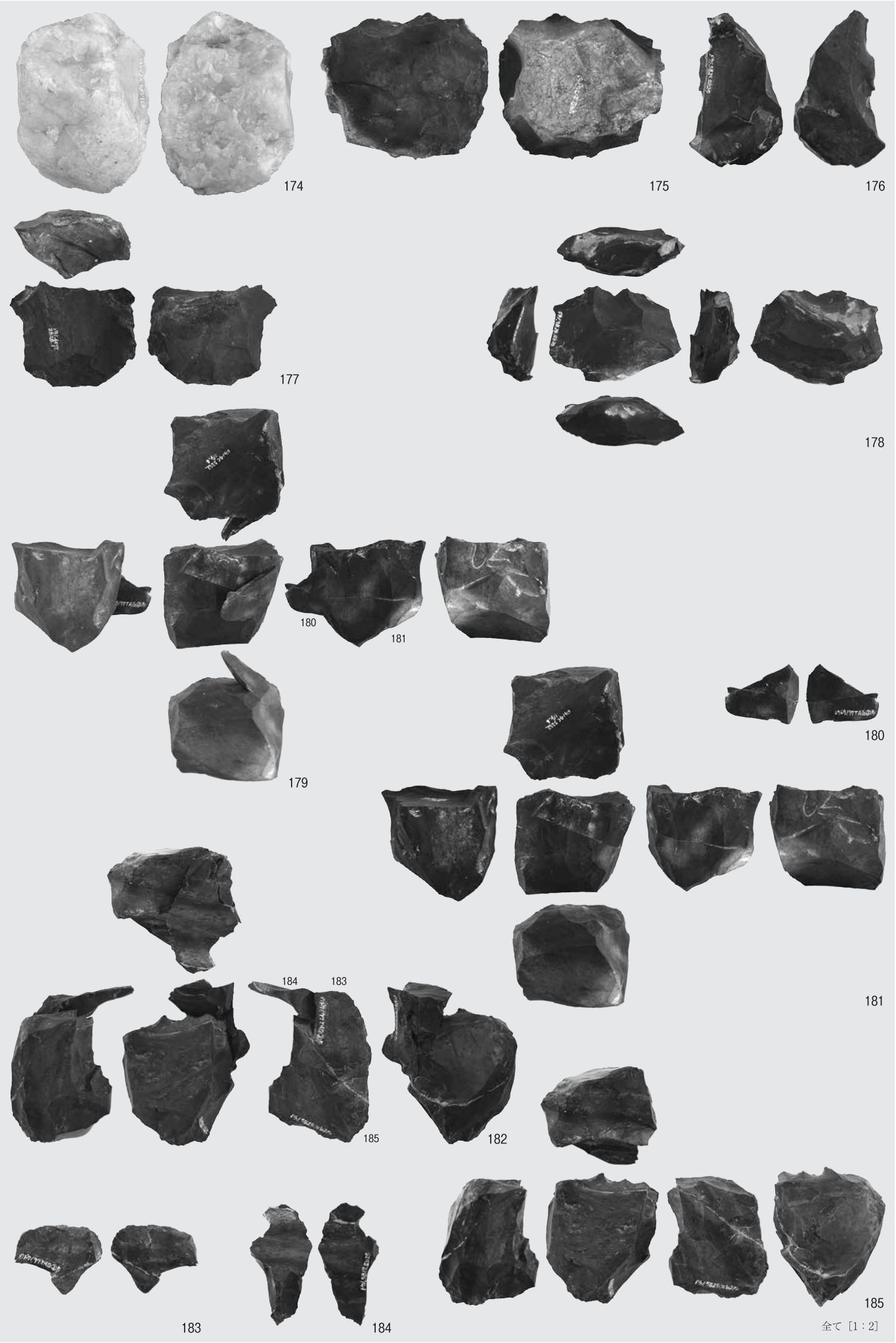
1・46［1：2］
7・8・12・13・22・24・25・44・45［1：4］
その他［1：3］

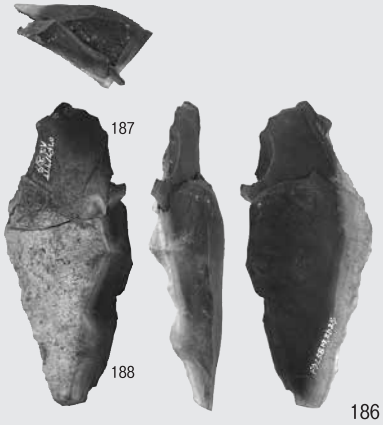


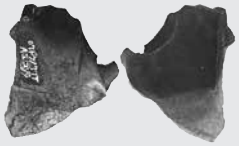
70・71・85～88・104・120［1：4］
121～128［2：3］
132～137［1：2］
その他［1：3］

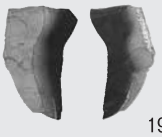


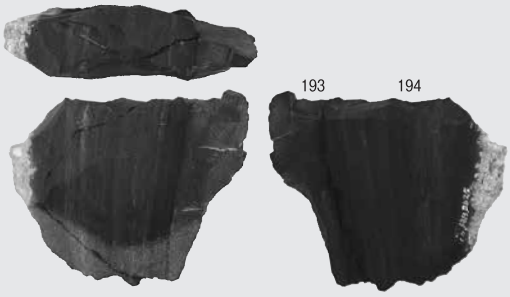
169～173［1：3］　その他［1：2］

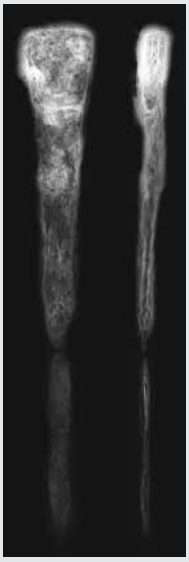

174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
全て［1：2］





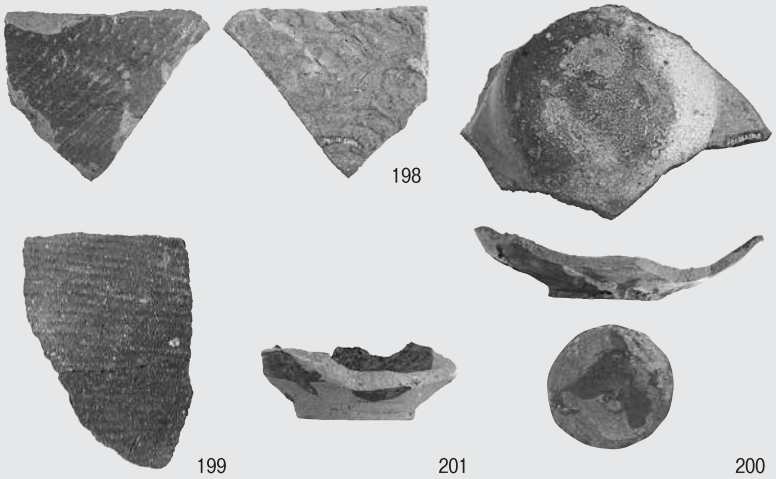






X線写真基部拡大

195　　X線写真



196［1：1］　197～201［1：3］　その他［1：2］

報告書抄録

ふりがな	どうのまえいせき
書　　名	堂の前遺跡
副 書 名	日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書
巻　　次	XXXIV
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第213集
編著者名	石川博行　北村和穂　吉田好孝（株式会社シン技術コンサル） 高橋　敦　伊藤良永（パリノ・サーヴェイ株式会社） 鈴木俊成（財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団）
編集機関	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団・株式会社シン技術コンサル
所 在 地	〒956-0845　新潟県新潟市秋葉区金津93番地1　電話0250（25）3981　財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
	〒370-1135　群馬県佐波郡玉村町板井311-1　電話0270（65）2777　株式会社シン技術コンサル
発行年月日	西暦2010（平成22）年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡	北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間	調査面積	調査原因
堂の前遺跡（どうのまえいせき）	新潟県村上市（にいがたけんむらかみし） 下新保字高田（しもしんぼあざたかだ）2351-2	152129	611	38度 14分 47秒	139度 31分 15秒	20080415～ 20081118	4,500㎡	日本海沿岸東北自動車道建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
堂の前遺跡	集落	弥生時代	竪穴住居（1軒） 性格不明遺構（6基） 掘立柱建物（3棟） 溝状遺構（10条） 溝（11条） 土坑（31基） ピット（435基） 自然流路（2条）	弥生土器 石器 金属製品 ガラス小玉	県北の平野部で弥生時代後期前半の竪穴住居を検出した。自然流路に沿った小ピットを伴う溝状遺構を検出した。

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第213集

日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XXXⅣ

堂　の　前　遺　跡

平成22年3月30日 印刷
平成22年3月31日 発行

発　　行　新潟県教育委員会
〒950-8570　新潟市中央区新光町4番地1
電話　025（285）5511

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845　新潟市秋葉区金津93番地1
電話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986

印刷・製本　株式会社　第一印刷所
〒950-8724　新潟市中央区和合町2丁目4番18号
電話　025（285）7161

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第213集『堂の前遺跡』　正誤表

頁	位置	誤	正
抄録	北緯	３８度１４分４７秒	３８度１４分５８秒
抄録	東経	１３９度３１分１５秒	１３９度３１分０４秒